

令和5年度

植物防疫事業年報

令和6年(2024年)3月

滋賀県病害虫防除所

目次

第1	病虫害防除所事務分掌表	1
第2	病虫害発生予察事業	
1	事業の目的	3
2	事業の実施概要	3
3	気象概況	6
4	普通作物病虫害発生予察事業	
(1)	イネ	7
(2)	ムギ	33
(3)	ばれいしょ	36
(4)	ダイズ	37
5	野菜（露地）病虫害発生予察事業	40
6	果樹等作物病虫害発生予察事業	
(1)	果樹	55
(2)	チャ	61
(3)	花き（キク）	70
7	病虫害防除推進員の設置	71
8	滋賀県病虫害防除所ホームページ	81
9	本年度新たに発生が確認された病虫害	82
10	病虫害の診断および生態調査	83
11	発生が目立った病虫害	87
第3	重要病虫害の特別防除等推進事業	96
第4	農薬安全使用等総合推進事業	97
第5	病虫害発生予察情報発表内容	
1	予報	98
2	注意報および警報	107
3	特殊報	114
4	防除情報	118
5	その他情報・発表・広報・研修会等	134
第6	試験成績	135

注：本文中の「平年値」とは、特に記載のない限り平成25年から令和4年の平均値を指す。
表中の「-」は、データの欠測または該当なしを示す。

第 1 病虫害防除所事務分掌表

(令和 5 年 4 月 1 日)

所 長 蓮 川 博 之
次 長 小久保 信義

分 掌 事 務	主 任	副 主 任
1. CO ₂ ネットゼロに向けた事務事業の推進に関する事	全職員	
1. 所事務の総括に関する事 2. 関係機関および団体との連絡調整に関する事 ----- 3. 植物防疫事業に関する事 4. 予察情報作成会議に関する事	小久保 次 長	金子 主 幹 沢 田 主 査 ----- 近 藤 副主幹
1. 公印の管理に関する事 2. その他庶務に関する事	松 村 主 事	沢 田 主 査
1. 予算の執行および決算に関する事 2. 文書の收受編さんに関する事 3. 諸給与・その他経理に関する事	松 村 主 事 沢 田 主 査	野 田 副主幹 村 田 主任主事
1. 農薬取締法に関する事 2. 作物の発生予察に関する事	金 子 主 幹	近 藤 副主幹 長谷部 副主幹
1. 病害の診断に関する事 2. 薬剤耐性菌検定に関する事 3. 侵入調査、予察灯およびトラップ調査等に関する事	長谷部 副主幹	金 子 主 幹 小 幡 主任技師
1. 病虫害防除推進員に関する事 2. 薬剤抵抗性害虫検定および虫害の診断に関する事 3. 総合的病虫害管理(IPM)の推進に関する事	近 藤 副主幹	金 子 主 幹 増 田 主任技師 北 野 主任技師
1. ホームページ等による情報提供に関する事 2. 病虫害発生量の調査報告に関する事	増 田 主任技師	北 野 主任技師 小 幡 主任技師
1. 病虫害発生予察の計画および情報作成に関する事 2. いもち病発生予察システムに関する事	小 幡 主任技師	長谷部 副主幹 近 藤 副主幹 増 田 主任技師
1. 気候変動に伴う病虫害の発生予察・防除対策の開発に関する事	北 野 主任技師	金 子 主 幹 増 田 主任技師 長谷部 副主幹
1. 果樹の発生予察事業および防除、侵入調査に関する事	橋 本 副主幹	増 田 主任技師
1. 茶の発生予察事業および防除、侵入調査に関する事	樋 口 技 師	近 藤 副主幹
1. 県南部地域における発生予察事業に関する事	増 田 主任技師	北 野 主任技師
1. 大津・南部地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 ----- 2. 甲賀地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	山 本 主任技師 ----- 杉 浦 技 師	増 田 主任技師 北 野 主任技師
1. 県中部地域における発生予察事業に関する事	金 子 主 幹	近 藤 副主幹
1. 東近江地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 ----- 2. 湖東地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	椎 木 主任技師 ----- 宇 野 副主幹	金 子 主 幹 近 藤 副主幹

1. 県北部地域における発生予察事業に関すること	小 幡 主任技師	長谷部 副主幹
1. 湖北地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	近 藤 主 査	小 幡 主任技師
2 高島地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	山 下 主任技師	長谷部 副主幹

第2 病害虫発生予察事業

1 事業の目的

農作物の生産安定と品質の向上を図ると同時に環境に優しい病害虫防除を推進するためには、病害虫の防除を適時かつ効率的に行う必要がある。

このため、発生予察事業は広域に発生し、急激にまん延して農作物に重大な被害を与える病害虫について、その発生動向等を調査し、防除を要する病害虫や防除対策に関する情報を農業者等に提供することにより、病害虫の防除を効果的かつ効率的に適期に行い、その被害を防止して農業生産の安定と助長を図ることを目的とする。

2 事業の実施概要

1) 事業対象作物および病害虫（指定有害動植物は交付金の対象）

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
普通作物	イネ	指定	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、もみ枯細菌病（苗腐敗病）、ばか苗病、縞葉枯病、白葉枯病、ごま葉枯病	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイガ、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ）、コブノメイガ、フタオビコヤガ
		指定外	黄萎病	イチモンジセセリ、コバネイナゴ、イネクロカメムシ
	ムギ	指定	うどんこ病、赤かび病、さび病類	-
		指定外	黒節病、縞萎縮病	-
	ダイズ	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ）、フタスジヒメハムシ、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※
		指定外	べと病、葉焼病	ハダニ類
野菜	トマト	指定	灰色かび病、疫病、葉かび病、うどんこ病、黄化葉巻病、すすかび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガ※
		指定外	-	タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ナス	指定	うどんこ病、灰色かび病、すすかび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類、タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ばれいしょ	指定	疫病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、ハスモンヨトウ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類
	キュウリ	指定	うどんこ病、灰色かび病、べと病、褐斑病、炭疽病、斑点細菌病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、ハダニ類
		指定外	-	-

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
野菜	キャベツ	指定	黒腐病、菌核病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ）、モンシロチョウ、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、カブラヤガ（ネキリムシ類）、ハイマダラノメイガ
	はくさい	指定	-	-
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、モンシロチョウ
	だいこん	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）
		指定外	-	ハイマダラノメイガ
	ブロッコリー	指定	-	ハスモンヨトウ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	黒腐病	-
	ねぎ	指定	さび病、黒斑病、べと病	アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ネギコガ、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ※、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ※
		指定外	-	-
たまねぎ	指定	べと病、白色疫病	アザミウマ類（ネギアザミウマ）	
	指定外	-	-	
サトイモ	指定	-	ハスモンヨトウ※	
	指定外	-	ハダニ類	
花き	キク	指定	白さび病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハダニ類
		指定外	-	-
果樹	ナシ	指定	黒星病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ナシミドリアブラムシ）
		指定外	-	-
	ブドウ	指定	べと病、灰色かび病、晩腐病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）
		指定外	-	-
	カキ	指定	炭疽病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、カキノヘタムシガ、アザミウマ類（カキクダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
		指定外	-	-
茶樹	チャ	指定	炭疽病	ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ）、チャトゲコナジラミ
		指定外	もち病、新梢枯死症、輪斑病	カメムシ類（ツマグロアオカスカメ）

※ 作物共通の指定有害動植物については、本県での対象作物ごとに示した。

(2) 調査ほ場の設置状況

耕種	対象作物	調査地点数		設置場所	
		区分	地点数		
普通作物	イネ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	35	大津市（2）、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市（3）、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市（6）、彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市（3）、長浜市（5）、高島市（4）	
	ムギ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	38	大津市、草津市、守山市（2）、栗東市、野洲市（2）、湖南市、甲賀市（2）、近江八幡市（4）、日野町、竜王町（2）、東近江市（6）、彦根市（2）、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市（3）、長浜市（4）、高島市（2）	
	ダイズ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	22	大津市、草津市、守山市（2）、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市（2）、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、米原市、長浜市（3）、高島市	
	野菜類	-	定点	0	-
		-	巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	花き	キク	定点	0	-
			巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	果樹	ナシ	定点	1	栗東市
			巡回	2	東近江市、彦根市
ブドウ		定点	1	栗東市	
		巡回	2	東近江市、長浜市	
カキ	定点	1	栗東市		
	巡回	2	東近江市、米原市		
茶樹	チャ	定点	1	甲賀市水口町	
		巡回	7	甲賀市土山町（3）、信楽町（3）、日野町	

(3) 予察灯およびフェロモントラップの設置

設置場所	種類	対象害虫名
大津市 里	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
守山市 矢島町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
栗東市 荒張	乾式日別予察灯 (高圧水銀灯)	果樹カメムシ類、ガ類
	フェロモントラップ	果樹カメムシ類、ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
甲賀市 水口町 水口	予察灯（水盤）	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
	フェロモントラップ	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
近江八幡市 安土町大中	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	スマート害虫モニタ リングシステム	カメムシ類
	フェロモントラップ	ニカメイガ、コナガ、カブラヤガ、タバコガ、オオタバコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	黄色水盤	アブラムシ類
長浜市 難波町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ
高島市 今津町日置前	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ

3 気象概況

(1) 年間の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：16.3℃（平年値15.1℃*、R5年15.7℃）
 - ・降水量：平年比90%
 - ・日照時間：平年比113%
 - ・年平均気温は全般に平年よりかなり高かった。特に8～9月の気温は平年より高く推移し、記録的な暑さとなった。また、降水量は全般に平年並または少なかったが、日照時間は平年よりかなり多かった。
- *平年値は1991年～2020年の平均

(2) 稲作期間(4月～10月)の概況〔彦根アメダス観測値〕 (図1)

- ・平均気温：22.2℃（平年値21.0℃*、R5年22.0℃）
 - ・降水量：平年比102%
 - ・日照時間：平年比108%
 - ・水稻の生育に影響を及ぼした特筆すべき気象としては、7～9月までの平均気温が平年より1.9～3.0℃高く推移したことが挙げられる。
 - ・梅雨入り：5月29日ごろ（平年値6月6日）、梅雨明け：7月16日ごろ（平年値7月19日）
- *平年値は1991年～2020年の平均

2023年気象表(彦根アメダス)

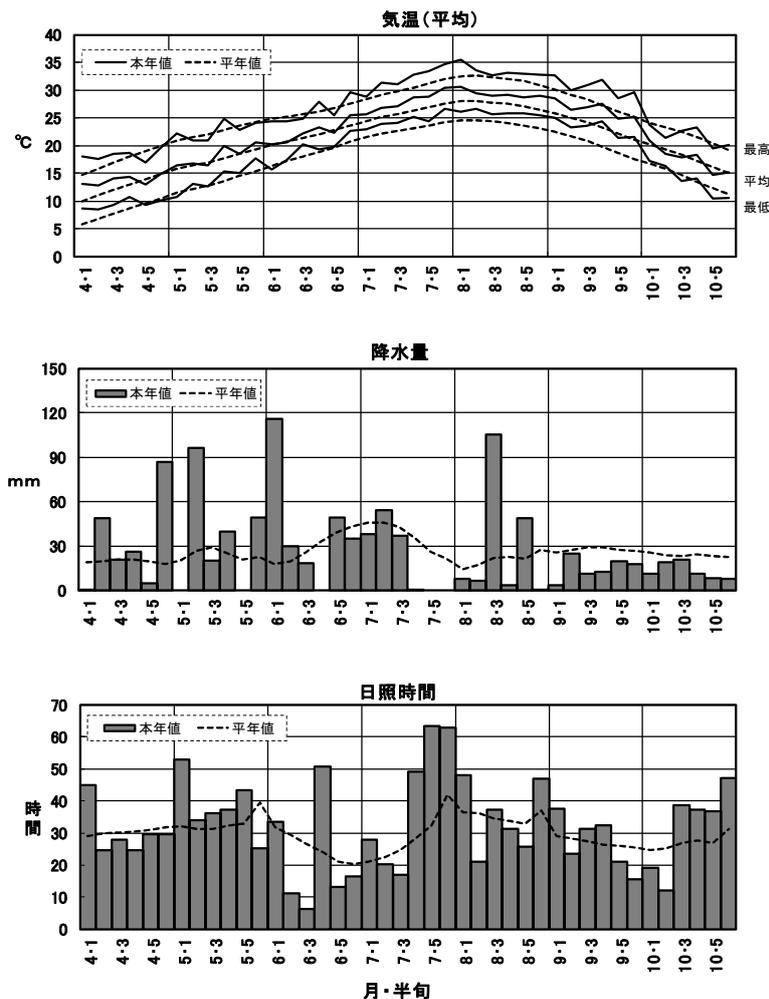


図1 2023年4～10月における彦根市の気温、降水量および日照時間

4 普通作物病虫害発生予察事業

イネ、ムギおよびダイズを対象として、主要病虫害を重点的に調査した。その結果に基づき病虫害発生予察情報として、発生予報9回、注意報3回（小麦赤かび病、イネ葉いもち・穂いもち、ダイズタバコガ類）、防除情報7回（麦類赤かび病2回、イネ葉いもち1回、ハスモンヨトウ1回、スクミリンゴガイ1回、イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）2回）を発表した。

（1）イネ

ア 概況

（1）生育の概要

- ・4月下旬以降、気温や日照時間は概ね平年並で推移し、多くのほ場の初期生育は順調であったが、一部のほ場では植え傷み等の影響で生育が遅れた。
- ・5月29日に平年より8日早く梅雨入りした。以降は曇りや雨の日が多く、生育は停滞気味となり、移植の遅いほ場を中心に分けつが抑制され、穂数が平年より少なくなった。
- ・梅雨入りした5月末～6月は日照が少なく断続的に降雨があり、多くのほ場で葉いもちが発生した。
- ・幼穂形成期は平年並～やや遅かったが、6月末～9月の気温は平年より高く推移したことから、早生品種では出穂期は平年並、成熟期は平年よりやや早くなった。中生品種では出穂期・成熟期ともに平年より早まった。
- ・7月16日の梅雨明け後は8月上旬にかけて高温、多照、少雨で経過し、穂いもちの発生は平年並に抑えられた。

（2）収量および品質

- ・滋賀県の作況指数は、97の「やや不良」（12月12日現在）であるが、生産者やほ場によるばらつきが大きかった。
- ・穂数が平年より少なく籾数が十分に確保できなかったほ場で収量が減少した。
- ・6月末～9月の高温の影響によって稲体の窒素代謝が増加したことや、施肥窒素や地力の溶出が早まったことによる登熟後期の栄養凋落により登熟不良となり、白未熟粒が多く発生して玄米品質が低下するとともに収量が減少した。
- ・7月末から8月上旬にかけて、受粉障害の発生が多くなるとされる35℃を超える日が続いたことでほ場によっては不稔籾が増加し、収量減少の要因となったと考えられる。
- ・台風7号の接近によって強風が吹いた8月15日に出穂期前後であったほ場の一部では風害による不稔籾が発生し、収量減少の要因となったと考えられる。
- ・一部地域では、縞葉枯病やごま葉枯病、穂いもちが多発したほ場が見られ収量減少を助長したと考えられる。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	早	やや多	ほ場での初発確認は6月15日で、発生時期が早かった。また、7月上旬の発生ほ場率が過去10年で最も高かった。その後、高温、少雨が続き、7月中旬の発生ほ場率は40%と、過去10年で2番目の多さであった。	前年度の穂いもちの発生量はやや多く、伝染源は多かったと考えられる。葉いもちの感染好適条件は6月3半旬と6月6半旬から7月1半旬にかけて、県内広域で確認された。7月中旬以降の降水量は少なく、高温で推移したため、感染は抑制された。	移植時の育苗箱施薬が普及している。6月上旬以降感染好適条件が断続的に出現し、葉いもちの発生時期が早かったことから、6月20日に防除情報を発表した。さらに、7月上旬の発生ほ場率が過去10年で最も高く、その後の天候による感染拡大が見込まれたため、7月12日に穂いもちを対象に注意報を発表した。葉いもち多発ほ場では防除が実施された。
穂いもち	やや遅	並	ほ場での初発確認は8月3日で、発生時期はやや遅かった。発生ほ場率は50.6%と平年並であったが、葉いもちが多発したほ場や降水量が多かった8月中旬ごろに出穂期を迎えたほ場では、発病率が高い傾向にあった。	水稻早生品種の出穂時期は平年並であったが、この時期に高温、少雨が続き、穂いもちの初発時期はやや遅くなった。伝染源となる葉いもちの発生量は多かったが、県内の主要な早生品種の出穂期前後である7月下旬～8月上旬の降水量が少なく、気温は高く推移したため、穂いもちの発生は抑制された。一方で、伝染源である葉いもちの多発ほ場や出穂期に降水量が多かったほ場では、発病程度が高くなったと考えられる。	出穂期前後に、地域一斉防除や無人ヘリなどによる防除の実施。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。注意報（7月12日）発表後、葉いもち多発ほ場や穂いもち発生ほ場では穂いもち防除が実施された。
紋枯病	やや早	やや少	ほ場での初発確認は6月14日で、発生時期はやや早かった。7月上旬～中旬の発生ほ場率はやや少～平年並で推移した。特に、7月中旬の発病率はやや少なかった。成熟期の発生ほ場率は73.9%と、やや少なく、発病程度もやや少なかった。	5月から6月にかけて、低温な時期が断続的にあり、茎数はやや少なくなると推測されたことから、7月中旬までの発生（水平伸展）は抑制気味であった。7月以降、高温が続いたため、多発生ほ場も認められたが、7月までの発生量が少なかったことから、成熟期の発生量はやや少なくなったと考えられる。	移植時の箱粒剤による防除及び本田防除が常発地を中心に導入されている。
白葉枯病	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は8月23日で、発生時期はやや遅かった。発生は常発地に限られていたため、発生量はやや少なかった。	台風7号が8月15日ごろに近畿地方に接近したが、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度が低かったことから、発生量はやや少なくなった。	本病に効果のある育苗箱施薬剤が一部地域で導入。
ばか苗病	早	並	ほ場での初発確認は5月11日で、発生時期は早かった。一部の常発地を中心に発生が認められた。	温湯消毒を中心に生物農薬、化学農薬による種子消毒が普及しているため、常発地では中発生ほ場が認められた。	種子消毒による防除の実施。
もみ枯細菌病	やや早	やや多	ほ場での初発確認は8月17日であった。発生地は一部に限られた。	台風7号が8月15日ごろに近畿地方に接近した。発生年が少なく、平年値が低いと推測されたため、平年比はやや多となった。	種子消毒と移植時の箱粒剤による防除の実施。
ごま葉枯病	早	多	ほ場での初発確認は7月7日と、発生時期は早かった。8月上旬には発生はほとんど認められなかったが、成熟期の発生ほ場率は24.4%と過去10年で最も高く、平年（5.7%）の約4倍であった。一部ほ場で穂枯れに至るほ場が確認された。例年は発生が認められない地域でも発生があった。	前年の発生量は多く、伝染源が多いと考えられる。また、出穂期以降の気温が高く推移し、8月以降には適度な降雨があったことから、感染が助長された。特に、出穂期以降の高温による生育後期の栄養凋落の影響が強いと考えられる。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
稲こうじ病	並	並	ほ場での初発確認は8月17日で、発生時期は平年並であった。発生量は平年並で、過去に発生していた地域で発生が認められた。	前年の発生量は多く、6月下旬～7月上旬にかけては適度な降雨があったが、出穂直前の7月中旬から8月上旬の降水量が少なかったため、感染は抑制された。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
縞葉枯病	早	やや多	ほ場での初発確認は6月14日で、発生時期は早かった。発生量はやや多く、一部ほ場では広範囲での発病が目立った。なお、刈株再生芽での発生は全域で見られ、10月の調査の発生量は多かった。	ヒメトビウンカの越冬世代の発生量は平年並であったが、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）保毒虫率も高い傾向にあったことから、8月上旬以降、立毛中の本病の発生量はやや多い傾向となった。また、8月以降ヒメトビウンカの発生量が多くなったことから、10月の刈株再生芽での発生量が多くなった。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除、秋季の耕起の徹底により、媒介虫のヒメトビウンカの発生が抑制されている。刈株再生芽での発生量が多かったことから、10月4日に防除情報を発出した。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ニカメイガ 第1世代	やや遅	やや少	温量により推定した越冬世代成虫の発ガ最盛期は平年並であったが、予察灯での誘殺時期は早かった。ほ場での発生時期はやや遅く、発生量はやや少なかった。	前年の第2世代幼虫の発生は少なかった。越冬世代成虫の予察灯への初飛来は4月第3半旬で早かったが、発ガ最盛期は平年並であった。育苗箱施薬剤の使用の有無により、ほ場での発生量には差が見られるが、全体での発生量はやや少なかった。	移植時の育苗箱施薬剤が普及している。
ニカメイガ 第2世代	並	並	ほ場での初発確認は7月25日で、発生時期、量ともに平年並であった。	第1世代幼虫の発生時期はやや遅く、第1世代成虫の発ガ最盛期は7月第5半旬と平年並であった。第1世代成虫の発生量は平年並であり、第2世代幼虫の発生量も平年並であった。	第1世代幼虫が多発したほ場では、主に粒剤を用いた防除がされている。近年、被害ほ場は減少しており、防除面積も減少している。
セジロウンカ	やや早	少	予察灯への初飛来は6月9日で、平年より早かった。ほ場での発生量は7月上中旬、8月中下旬ともに少なかった。	予察灯への飛来状況から、大陸からの飛来回数、飛来量とともに少なかったと思われる。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
トビロウンカ	-	少	予察灯では誘殺されなかった。7月下旬～9月にかけて複数回、本田すくい取り・払い落とし調査を実施したが、本種は捕獲されず、本種による坪枯れ症状の発生も確認されなかった。	近隣府県で6月に飛来が確認されていたことから、本県でも警戒していたが、本県へは多数の飛来は無く、ほ場内増殖も起こらなかったと判断された。	出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ヒメトビウンカ	並	やや多	予察灯への初飛来は4月8日で平年並であった。越冬世代の発生量は平年並、ほ場での7月上中旬の発生量は平年並、8月中下旬ではやや多かった。	越冬量は平年並で、予察灯への初飛来時期も平年並であった。7月5半旬から8月2半旬の高温寡雨により、ほ場内での増殖に好適な条件となったため、発生量がやや多くなったと思われる。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
ツماغロヨコバイ	並	やや少	予察灯への初飛来は4月6日で、平年並であった。越冬世代の発生量は多かったが、ほ場での7月上旬、8月中下旬の発生量はやや少なかった。	昨年の発生量は平年並で、越冬量は多かった。地域・ほ場間差は、育苗箱施薬剤の使用および出穂期防除の有無によるところが大きい。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制される。また、出穂期の防除により、斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。
コブノメイガ	平年並	やや少	ほ場での初発確認は7月24日で、発生時期は平年並、発生量はやや少なかった。	予察灯では誘殺が認められず、飛来量が少なかったと考えられる。	多発した年のみ、本田での防除が実施されている。
イネミズゾウムシ	遅	やや少	本田への飛び込み時期は遅かった。5月下旬の食害程度はやや少なかったが、ほ場間差が大きかった。	田植と同時に本田に侵入する。育苗箱施薬剤の施用有無により、被害のほ場間差が顕著である。多発生ほ場では、効果のある育苗箱施薬剤が使用されていない。	育苗箱施薬剤による防除が実施されている。
イネドロオウムシ	遅	やや多	ほ場での初発確認は6月13日で、発生時期は遅かった。6月下旬の食害程度はやや多く、中山間地域など、一部で多発生ほ場も見られた。	前年の発生量はやや多かった。6月上～中旬に、本種の増殖に好適な曇りや雨の日が多かったことから、中山間地等を中心に食害が目立つほ場が見られた。	育苗箱施薬剤による防除が実施されている。発生が多いほ場では本田施用の粒剤による防除が実施されている。
イチモンジセセリ	平年並	少	ほ場での初発確認は6月14日で、発生時期は平年並、発生量は少なかった。	前年の発生がやや少なく、ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤の導入により同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
フタオビコヤガ	早	少	ほ場での初発確認は6月5日で、発生時期は早く、発生量は少なかった。	昨年の発生量は少なく、ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤が導入により同時に防除され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤が使用されているほ場では、同時防除されている。
斑点米カメムシ類	並	やや少	越冬世代の発生時期は平年並であった。6月下旬の畦畔のすくい取り調査では、発生量は平年並で、7月に入り、一部地域ではアサジカスミカメが多くなった。出穂期以降の本田での発生量は、大型のホソハリカメムシ、クモヘリカメムシおよびトゲシラホシカメムシ、小型のカスミカメムシ類のいずれもやや少～少であり、全体の発生量はやや少なかった。	5月から6月下旬までの気温はやや高く、7月の気温は高かったが、同期間および梅雨期間に強い降雨が複数回あり降水量が多く、発生量はやや少なくなった。その影響から、年間を通しての発生量はやや少なくなり、出穂期以降の本田への飛び込みも増えなかった。出穂期の薬剤防除は実施されたが、その後飛来する大型カメムシも少なかったと思われる。	畦畔のイネ科雑草が出穂しないよう、多くのほ場で適正に除草作業が実施され、本田への侵入抑制が図られている。また、出穂後に一斉防除がされている。使用薬剤は液剤や粉剤が主であるが、ドリフト対策として粒剤が使用されている地域もある。また本田では、山間地域を中心とした一部ほ場で、早生水稻出穂期前の7月中旬にイネカメムシが多くみられた。
コバネイナゴ	早	並	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は早かった。ほ場での発生量は平年並であった。	前年の発生量は平年並であった。出穂期のカメムシ類対象の薬剤散布で、同時防除されたと考えられる。	斑点米カメムシ類と併せて防除されることが多い。

ウ 定点における調査
(ア) いもち病発生予察システム

a 判定結果 (JPP-NET版BLASTAMの判定結果)

令和5年(2023年)		BLASTAM 結果								
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	水	○1	○4	-	○1	●	-	●	○4	○4
6月8日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	金	-	-	-	-	-	○1	-	?	-
6月10日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	日	●	-	-	●	●	○4	●	○1	-
6月12日	月	-	●	-	-	○4	-	-	-	-
6月13日	火	-	-	●	-	-	-	-	○4	●
6月14日	水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	木	-	-	-	-	●	●	-	●	-
6月16日	金	-	-	○4	-	-	-	●	-	-
6月17日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	金	●	●	-	-	-	○4	-	-	-
6月24日	土	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	火	●	●	●	●	●	-	?	-	-
6月28日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	木	●	●	●	●	-	-	●	-	●
6月30日	金	-	-	●	●	●	●	-	-	-
7月1日	土	-	●	-	●	-	○2	-	●	-
7月2日	日	●	●	●	-	-	○2	○2	●	●
7月3日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	●
7月7日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	土	○3	-	-	○3	-	○3	○3	-	-
7月9日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	火	-	-	○2	-	-	-	-	-	-
7月12日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月13日	木	○2	-	-	○2	○3	-	-	-	○2
7月14日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月16日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月17日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月19日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	木	-	-	○2	○3	-	-	-	-	○2

[判定結果の指標]

●=感染好適条件

湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めた前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。

○=準好適条件

- 1：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満。
- 2：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上。
- 3：湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外。
- 4：湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。
- ：好適条件なし。
- ?：判定不能。

b 情報提供

病害虫防除所のホームページ上にて、感染好適条件の出現状況（上記）を随時公開した。

(イ) 予察灯による調査

ニカメイガ発生型一覧

事項		大津市里			守山市矢島町			近江八幡市安土町大中		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/27	5/13	+14	4/27	5/4	-7	4/11	4/28	-17
	最盛日 (月日)	5/25	5/20	+5	5/20	5/23	-3	5/28	5/20	+8
	50%誘殺日 (月日)	5/27	5/22	+5	5/22	5/24	-2	5/18	5/21	-3
	終息日 (月日)	7/1	6/8	+23	6/21	6/27	-6	7/5	6/25	+10
	誘殺日数 (日)	2	4	-2	39	26	+13	19	23	-4
	誘殺数 (頭)	2	5	-3	251	161	+90	30	63	-33
	性比 (♂/♀, %)	0	125	-125	61	99	-38	67	72	-5
第1世代	初飛来日 (月日)	7/7	7/22	-15	7/6	7/13	-7	7/10	7/12	-2
	最盛日 (月日)	7/20	8/4	-15	7/24	7/26	-2	7/24	7/28	-4
	50%誘殺日 (月日)	8/13	8/4	+9	7/24	7/29	-5	8/8	7/31	+8
	終息日 (月日)	9/10	8/24	+17	9/19	9/9	+10	9/26	9/9	+17
	誘殺日数 (日)	10	5	+5	55	34	+21	38	27	+11
	誘殺数 (頭)	11	7	+4	691	206	+485	80	71	+9
	性比 (♂/♀, %)	38	62	-25	99	106	-7	90	94	-4
総誘殺日数 (日)		12	10	+2	94	61	+33	57	50	+7
総誘殺数 (頭)		13	12	+1	942	366	+576	110	133	-23
性比 (♂/♀, %)		30	70	-40	87	100	-13	83	80	+3
第1世代/越冬世代 (%)		550	235	+315	275	789	-514	267	129	+138

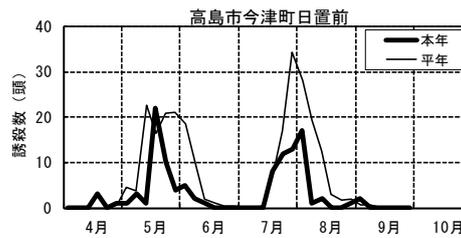
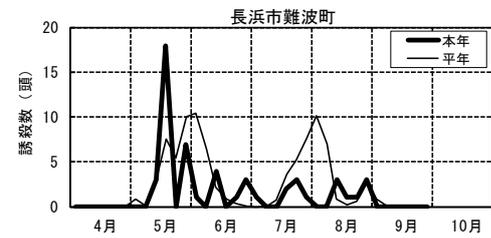
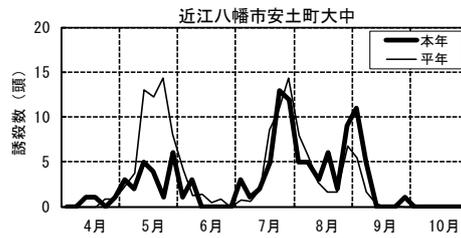
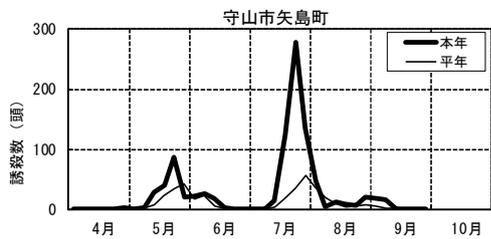
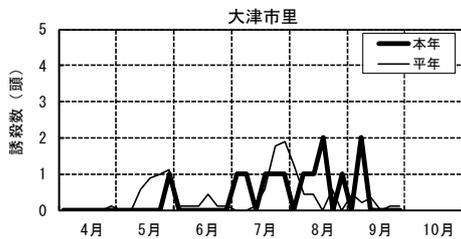
事項		長浜市難波町			高島市今津町日置前		
		本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/15	5/9	+6	4/19	5/8	-19
	最盛日 (月日)	5/17	5/28	-11	5/19	5/23	-4
	50%誘殺日 (月日)	5/19	5/28	-9	5/18	5/23	-5
	終息日 (月日)	7/1	6/15	+16	6/12	6/22	-10
	誘殺日数 (日)	17	16	+1	20	22	-2
	誘殺数 (頭)	38	48	-10	53	113	-60
	性比 (♂/♀, %)	81	78	+3	104	146	-42
第1世代	初飛来日 (月日)	7/20	7/17	+3	7/18	7/15	+3
	最盛日 (月日)	7/22	7/29	-7	7/26	7/31	-5
	50%誘殺日 (月日)	8/11	7/29	+13	7/27	7/31	-4
	終息日 (月日)	8/27	8/19	+8	9/3	9/11	-8
	誘殺日数 (日)	11	14	-3	22	26	-4
	誘殺数 (頭)	14	40	-26	57	129	-72
	性比 (♂/♀, %)	133	112	+21	73	83	-10
総誘殺日数 (日)		28	30	-2	42	48	-6
総誘殺数 (頭)		52	88	-36	110	242	-132
性比 (♂/♀, %)		93	81	+12	86	97	-11
第1世代/越冬世代 (%)		37	113	-76	108	180	-72

ニカメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

月 半旬		大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.8	0.8	0	0	0	0	0	0	3	0
4	6	0	0	0.1	0.1	3	3	0.4	0.7	1	3	0.9	1.7	0	0	0	0	1	4	0.7	0.7
5	1	0	0	0	0.1	0	3	1.5	2.2	3	6	2.2	3.9	0	0	0.8	1.0	1	5	4.4	5.1
5	2	0	0	0	0.1	3	6	1.6	3.8	2	8	3.7	7.6	0	0	0.1	1.1	3	8	3.8	8.9
5	3	0	0	0.6	0.7	28	34	6.8	10.6	5	13	13.1	20.7	3	3	2.7	3.8	1	9	22.6	31.4
5	4	0	0	0.9	1.6	39	73	23.4	34.0	4	17	12.2	32.9	18	21	7.5	11.3	22	31	16.3	47.8
5	5	0	0	1.0	2.6	86	159	34.1	68.1	1	18	14.3	47.2	0	21	5.4	16.7	10	41	20.8	68.6
5	6	1	1	1.1	3.7	21	180	43.2	111.3	6	24	8.1	55.3	7	28	10.0	26.7	4	45	21.0	89.6
6	1	0	1	0.1	3.8	23	203	17.4	128.7	1	25	4.2	59.5	1	29	10.4	37.1	5	50	18.6	108.1
6	2	0	1	0.1	3.9	26	229	23.2	151.9	3	28	1.2	60.7	0	29	6.5	43.6	2	52	10.2	118.3
6	3	0	1	0.1	4.0	19	248	5.1	157.0	0	28	1.4	62.1	4	33	2.2	45.8	1	53	2.0	120.3
6	4	0	1	0.4	4.5	2	250	2.0	159.0	0	28	0.5	62.6	0	33	0.8	46.6	0	53	1.1	121.4
6	5	0	1	0.1	4.6	1	251	0.5	159.5	0	28	0.9	63.5	1	34	0.3	46.9	0	53	0.4	121.8
6	6	0	1	0.1	4.7	0	251	0.6	160.1	0	28	0	63.5	3	37	0.1	47.0	0	53	0.4	122.2
7	1	1	2	0.0	4.7	0	251	0.4	160.5	3	31	0.7	64.2	1	38	0.0	47.0	0	53	0.2	122.4
7	2	1	1	0.0	0.0	1	1	0.7	0.7	1	1	0.6	0.6	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1
7	3	0	1	0.0	0.1	15	16	3.3	4.0	2	3	1.9	2.5	0	0	0.7	0.8	0	0	0.3	0.4
7	4	1	2	0.6	0.7	123	139	19.0	23.0	5	8	8.6	11.1	2	2	3.6	4.4	8	8	7.4	7.8
7	5	1	3	1.8	2.4	279	418	34.7	57.7	13	21	10.8	21.9	3	5	5.2	9.6	12	20	16.9	24.7
7	6	1	4	1.9	4.3	136	554	57.0	114.7	12	33	14.4	36.3	1	6	7.7	17.3	13	33	34.4	59.1
8	1	0	4	1.2	5.6	48	602	36.9	151.6	5	38	7.9	44.2	0	6	10.2	27.5	17	50	28.2	87.3
8	2	1	5	0.4	6.0	4	606	19.9	171.5	5	43	5.6	49.8	0	6	7.0	34.5	1	51	19.2	106.5
8	3	1	6	0.4	6.4	12	618	8.9	180.4	3	46	2.7	52.5	3	9	0.9	35.4	2	53	12.6	119.1
8	4	2	8	0.0	6.4	9	627	3.0	183.4	6	52	1.7	54.2	1	10	0.2	35.6	0	53	3.1	122.2
8	5	0	8	0.6	7.0	6	633	5.5	188.9	2	54	1.7	55.9	1	11	0.6	36.2	0	53	1.7	123.9
8	6	1	9	0	7.0	21	654	8.0	196.9	9	63	6.7	62.6	3	14	2.7	38.9	1	54	2.0	125.9
9	1	0	9	0.4	7.4	19	673	6.1	203.0	11	74	5.5	68.1	0	14	0.8	39.7	2	56	0.7	126.6
9	2	2	11	0.2	7.7	17	690	1.5	204.5	5	79	1.7	69.8	0	14	0	39.8	0	56	0.7	127.3
9	3	0	11	0.3	8.0	1	691	1.4	205.9	0	79	0.3	70.1	0	14	0	39.9	0	56	0.2	127.5
9	4	0	11	0	8.0	1	692	0.1	206.1	0	79	0	70.1	0	14	0	39.9	0	56	0.1	127.6
9	5	0	11	0.1	8.1	0	692	0	206.1	0	79	0.1	70.2	0	14	0	39.9	0	56	0	127.6
9	6	0	11	0.1	8.2	0	692	0.1	206.2	1	80	0	70.2	0	14	0	39.9	0	56	0	127.7
10	1									0	80	0	70.2								
10	2									0	80	0	70.2								
10	3									0	80	0	70.2								
10	4									0	80	0	70.2								
10	5									0	80	0	70.2								
10	6									0	80	0	70.2								

越冬世代

第1世代

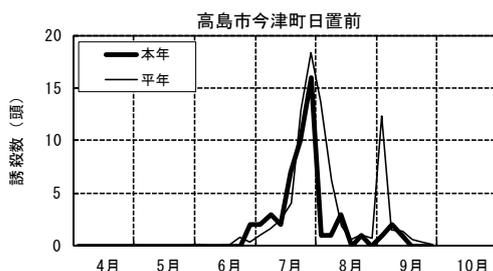
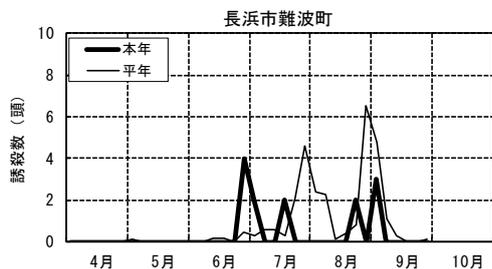
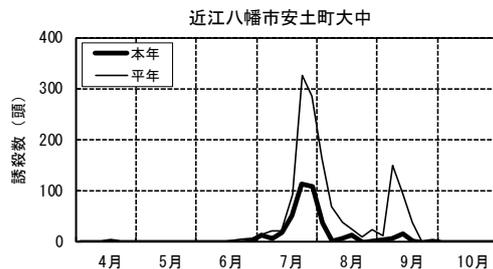
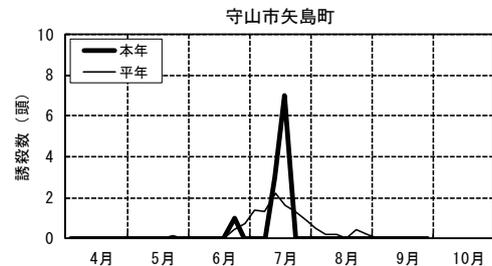
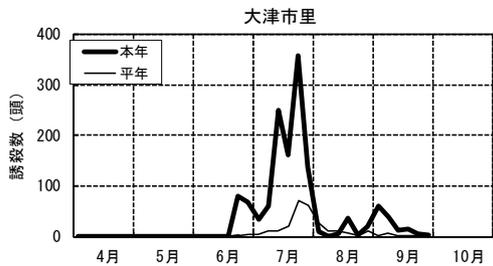


○表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

ツマグロコバイ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

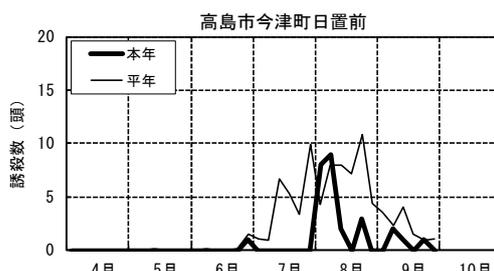
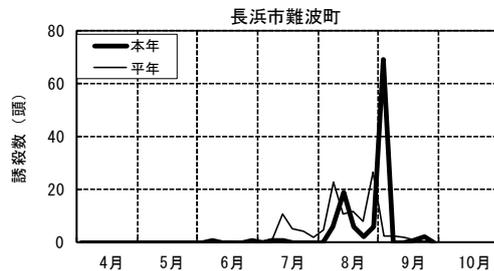
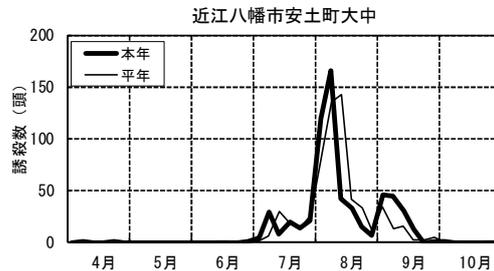
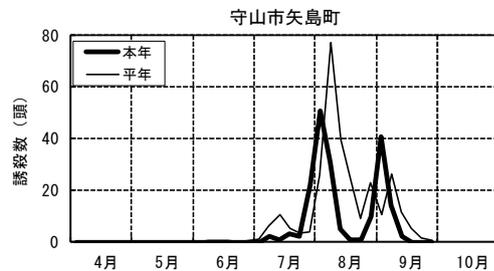
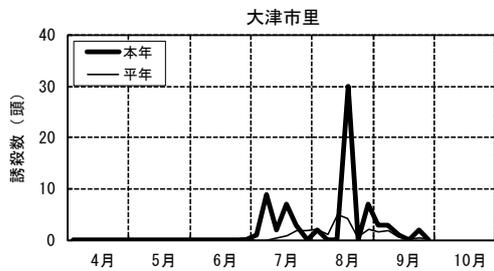
月	半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	1	1	0	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	1	1	0.1	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	3	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	4	0	0	0	0.2	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	5	0	0	0.0	0.2	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	6	0	0	0	0.2	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0.2	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0.1
6	2	0	0	0	0.5	0	0	0	0	1	1	0.1	0.3	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1
6	3	1	1	0	0.5	0	0	0	0	1	1.1	1.4	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0	0.1
6	4	0	1	0.3	0.8	0	0	0	0	1	1.8	3.2	0	0	0.2	0.5	0	0	0	0.1	0.2
6	5	79	80	2.0	2.8	1	1	0.4	0.5	0	1	5.0	8.2	0	0	0.0	0.5	0	0	0.8	1.0
6	6	68	148	3.0	5.8	0	1	0.7	1.2	2	3	6.7	14.9	4	4	0.5	1.0	2	2	0.4	1.4
7	1	35	183	3.3	9.1	0	1	1.4	2.6	13	16	15.2	30.1	2	6	0.3	1.3	2	4	1.1	2.5
7	2	61	244	10.1	19.2	0	1	1.3	3.9	5	21	22.0	52.1	6	6	0.6	1.9	3	7	1.6	4.1
7	3	249	493	10.7	29.8	3	4	2.2	6.1	17	38	20.5	72.6	6	6	0.6	2.5	2	9	2.4	6.5
7	4	162	655	20.7	50.5	7	11	1.6	7.7	52	90	92.0	164.6	2	8	0.3	2.8	7	16	4.1	10.6
7	5	359	1014	71.4	122.0	0	11	1.3	9.0	112	202	324.9	489.5	0	8	2.1	4.9	10	26	12.9	23.5
7	6	138	1152	62.2	184.2	0	11	0.9	9.9	109	311	284.0	773.5	0	8	4.6	9.5	16	42	18.3	41.8
8	1	10	1162	28.1	212.3	0	11	0.5	10.4	37	348	163.5	937.0	0	8	2.4	11.9	1	43	13.7	55.5
8	2	1	1163	11.9	224.2	0	11	0	10.6	2	350	68.6	1005.6	0	8	2.3	14.2	1	44	6.2	61.7
8	3	6	1169	10.7	234.8	0	11	0	10.8	7	357	38.4	1044.0	0	8	0.1	14.3	3	47	1.9	63.6
8	4	36	1205	5.4	240.3	0	11	0.0	10.8	13	370	24.4	1068.4	0	8	0.4	14.7	0	47	0.6	64.2
8	5	3	1208	1.9	242.2	0	11	0.4	11.2	0	370	9.7	1078.1	2	10	0.8	15.5	1	48	1.1	65.3
8	6	19	1227	10.6	252.7	0	11	0.2	11.4	1	371	23.2	1101.3	0	10	6.5	22.0	0	48	0.7	66.0
9	1	61	1288	2.6	255.3	0	11	0	11.4	4	375	12.1	1113.4	3	13	4.8	26.8	1	49	12.4	78.4
9	2	39	1327	5.1	260.4	0	11	0	11.4	5	380	149.0	1262.4	0	13	1.1	27.9	2	51	1.5	79.9
9	3	13	1340	2.1	262.5	0	11	0	11.4	15	395	94.7	1357.1	0	13	0.3	28.2	1	52	1.4	81.3
9	4	14	1354	1.2	263.7	0	11	0	11.4	2	397	37.5	1394.6	0	13	0.0	28.2	0	52	0.6	81.9
9	5	4	1358	0.7	264.4	0	11	0	11.4	0	397	0.7	1395.3	0	13	0	28.2	0	52	0.4	82.3
9	6	3	1361	2.2	266.6	0	11	0	11.4	1	398	0.6	1395.9	0	13	0.1	28.3	0	52	0.1	82.4
10	1									0	398	0.3	1396.2								
10	2									0	398	0.5	1396.7								
10	3									0	398	0	1396.7								
10	4									0	398	0	1396.7								
10	5									0	398	0.1	1396.8								
10	6									0	398	0	1396.8								



ヒメビウナ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

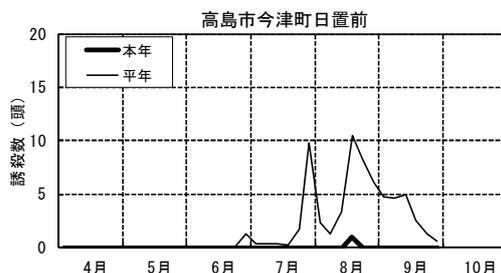
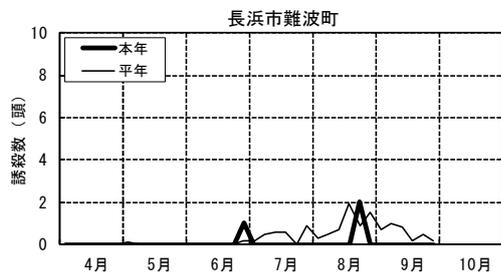
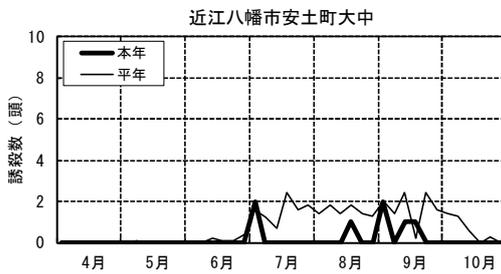
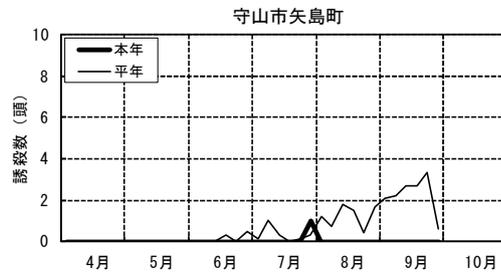
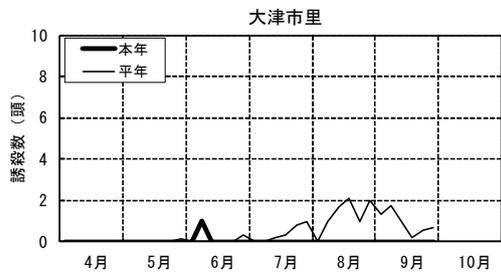
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0.9	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	2	0	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0	0	2	0.2	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0
5 2	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	2	0.1	1.7	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	2	0	1.7	0	0	0	0	0	0	0	0
5 4	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	2	0	1.7	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	2	0	1.7	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5 6	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.1	0	2	0	1.7	0	0	0	0.3	0	0	0	0
6 1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0	2	0.2	1.9	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0
6 2	0	0	0	0.3	0	0	0.4	0.5	0	2	0.2	2.1	1	0	0.4	0	0	0	0	0
6 3	0	0	0	0.3	0	0	0.4	0.9	0	2	1.4	3.5	0	1	0.5	0.9	0	0	0	0
6 4	0	0	0.0	0.3	0	0	0.6	1.5	0	2	0.7	4.2	0	1	0.4	1.3	0	0	0.0	0.2
6 5	0	0	0.2	0.6	0	0	0.2	1.7	0	2	0.5	4.7	0	1	0.1	1.4	0	0	0.1	0.3
6 6	0	0	0.3	0.9	0	0	0.4	2.1	1	3	0.8	5.5	1	2	0.6	2.0	1	1	1.5	1.8
7 1	1	1	0.0	0.9	0	0	0.8	2.9	4	7	1.1	6.6	0	2	0.6	2.6	0	1	1.0	2.8
7 2	9	10	0	0.9	2	2	6.4	9.3	29	36	5.9	12.5	1	3	1.6	4.2	0	1	0.9	3.7
7 3	2	12	0.3	1.2	1	3	10.4	19.7	8	44	29.3	41.8	1	4	10.9	15.1	0	1	6.7	10.4
7 4	7	19	0.9	2.1	3	6	5.3	25.0	20	64	18.8	60.6	0	4	5.1	20.2	0	1	5.3	15.7
7 5	3	22	1.8	3.9	2	8	3.4	28.4	14	78	14.3	74.9	0	4	4.4	24.6	0	1	3.4	19.1
7 6	0	22	1.8	5.7	22	30	4.0	32.4	21	99	25.8	100.7	0	4	2.0	26.6	0	1	9.9	29.0
8 1	2	24	2.1	7.8	51	81	25.7	58.1	119	218	75.5	176.2	0	4	4.9	31.5	8	9	4.3	33.3
8 2	0	24	1.2	9.0	31	112	77.3	135.4	166	384	135.8	312.0	6	10	23.1	54.6	9	18	8.0	41.3
8 3	0	24	5.0	14.0	5	117	39.7	175.1	42	426	142.6	454.6	19	29	10.8	65.4	2	20	8.0	49.3
8 4	30	54	4.2	18.2	1	118	24.3	199.4	33	459	41.3	495.9	6	35	11.6	77.0	0	20	7.1	56.4
8 5	0	54	0.7	18.9	1	119	9.1	208.5	15	474	33.9	529.8	2	37	8.2	85.2	3	23	10.9	67.3
8 6	7	61	2.0	20.9	10	129	23.0	231.5	7	481	10.4	540.2	6	43	26.7	111.9	0	23	4.4	71.7
9 1	3	64	1.6	22.4	41	170	10.4	241.9	46	527	34.3	574.5	69	112	2.6	114.5	0	23	3.6	75.3
9 2	3	67	1.9	24.3	14	184	26.4	268.3	45	572	12.7	587.2	0	112	2.5	117.0	2	25	2.3	77.6
9 3	1	68	0.7	25.0	2	186	11.3	279.6	30	602	15.8	603.0	0	112	1.8	118.8	1	26	4.1	81.7
9 4	0	68	0.1	25.1	0	186	5.3	285.0	12	614	2.3	605.3	1	113	0.8	119.6	0	26	1.5	83.2
9 5	2	70	0.4	25.6	0	186	1.7	286.6	0	614	2.9	608.2	2	115	0.7	120.3	1	27	0.9	84.1
9 6	0	70	0.1	25.7	0	186	0.5	287.1	1	615	5.3	613.5	0	115	0.6	120.9	0	27	1.0	85.1
10 1									1	616	0.6	614.1								
10 2									0	616	1.1	615.2								
10 3									0	616	0.3	615.5								
10 4									0	616	0.3	615.8								
10 5									0	616	1.0	616.8								
10 6									0	616	1.4	618.2								



セジロウシカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

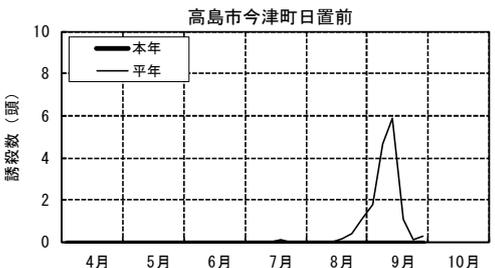
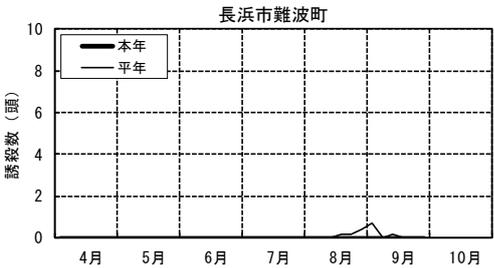
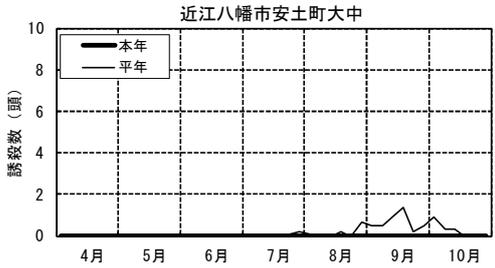
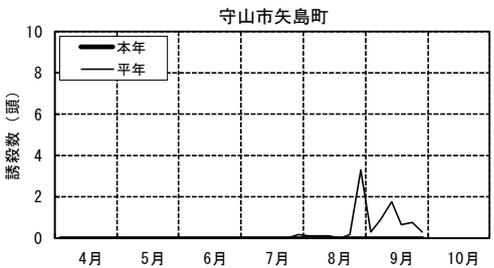
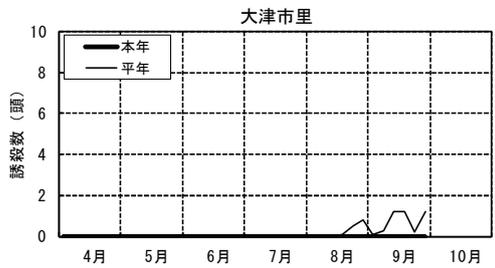
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
5 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 4	0	1	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 5	0	1	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.5	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 6	0	1	0.3	0.4	0	0	0.5	0.8	0	0	0.4	0.9	1	1	0.2	0.3	0	0	1.3	1.3
7 1	0	1	0	0.4	0	0	0.1	0.9	2	2	1.6	2.5	0	1	0.2	0.5	0	0	0.4	1.7
7 2	0	1	0.0	0.4	0	0	1.0	1.9	0	2	1.2	3.7	0	1	0.5	1.0	0	0	0.4	2.1
7 3	0	1	0.2	0.7	0	0	0.3	2.2	0	2	0.7	4.4	0	1	0.6	1.6	0	0	0.4	2.5
7 4	0	1	0.3	1.0	0	0	0	2.2	0	2	2.4	6.8	0	1	0.6	2.2	0	0	0.2	2.7
7 5	0	1	0.8	1.8	0	0	0.1	2.3	0	2	1.6	8.4	0	1	0	2.2	0	0	1.7	4.4
7 6	0	1	1.0	2.8	1	1	0.3	2.6	0	2	1.8	10.2	0	1	0.9	3.1	0	0	9.8	14.2
8 1	0	1	0	2.8	0	1	1.2	3.8	0	2	1.4	11.6	0	1	0.3	3.4	0	0	2.3	16.5
8 2	0	1	1.0	3.8	0	1	0.7	4.5	0	2	1.8	13.4	0	1	0.5	3.9	0	0	1.3	17.8
8 3	0	1	1.7	5.4	0	1	1.8	6.3	0	2	1.4	14.8	0	1	0.7	4.6	0	0	3.3	21.1
8 4	0	1	2.1	7.6	0	1	1.5	7.8	1	3	1.8	16.6	0	1	1.9	6.5	1	1	10.5	31.6
8 5	0	1	1.0	8.6	0	1	0.4	8.2	0	3	1.4	18.0	2	3	0.9	7.4	0	1	8.3	39.9
8 6	0	1	2.0	10.6	0	1	1.7	9.9	0	3	1.3	19.3	0	3	1.5	8.9	0	1	6.1	46.0
9 1	0	1	1.3	11.9	0	1	2.1	12.0	2	5	2.0	21.3	0	3	0.7	9.6	0	1	4.7	50.7
9 2	0	1	1.8	13.7	0	1	2.2	14.2	0	5	1.4	22.7	0	3	1.0	10.6	0	1	4.6	55.3
9 3	0	1	0.9	14.6	0	1	2.7	16.9	1	6	2.4	25.1	0	3	0.8	11.4	0	1	5.0	60.3
9 4	0	1	0.2	14.8	0	1	2.7	19.5	1	7	0.2	25.3	0	3	0.2	11.6	0	1	2.5	62.8
9 5	0	1	0.6	15.3	0	1	3.3	22.9	0	7	2.4	27.7	0	3	0.5	12.1	0	1	1.3	64.1
9 6	0	1	0.7	16.0	0	1	0.6	23.5	0	7	1.6	29.3	0	3	0.2	12.3	0	1	0.6	64.7
10 1									0	7	1.4	30.7								
10 2									0	7	1.3	32.0								
10 3									0	7	0.6	32.6								
10 4									0	7	0	32.6								
10 5									0	7	0.3	32.9								
10 6									0	7	0	32.9								



トビイロウカ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	6	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0.2	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	1	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	2	0	0	0	0	0	0	0.4	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	3	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	4	0	0	0.1	0.1	0	0	0.5	0	0.2	0.6	0	0.2	0.2	0.2	0	0	0.2	0.3	0.3
8	5	0	0	0.5	0.6	0	0	0.7	0	0	0.6	0	0.2	0.4	0	0	0.4	0.7	0.7	0.7
8	6	0	0	0.8	1.4	0	0	3.3	4.0	0	0.7	1.3	0	0.4	0.8	0	0	1.1	1.8	1.8
9	1	0	0	0.1	1.5	0	0	0.3	4.3	0	0.5	1.8	0	0.7	1.5	0	0	1.8	3.6	3.6
9	2	0	0	0.3	1.8	0	0	0.9	5.2	0	0.5	2.3	0	0	1.5	0	0	4.7	8.3	8.3
9	3	0	0	1.2	3.0	0	0	1.8	7.0	0	0.9	3.2	0	0.2	1.7	0	0	5.9	14.2	14.2
9	4	0	0	1.2	4.2	0	0	0.7	7.6	0	1.4	4.6	0	0	1.7	0	0	1.1	15.3	15.3
9	5	0	0	0.2	4.4	0	0	0.8	8.4	0	0.2	4.8	0	0	1.7	0	0	0.1	15.4	15.4
9	6	0	0	1.2	5.6	0	0	0.3	8.7	0	0.5	5.3	0	0	1.7	0	0	0.3	15.7	15.7
10	1									0.9	6.2									
10	2									0	0.3									
10	3									0	0.3									
10	4									0	0									
10	5									0	0.1									
10	6									0	0									

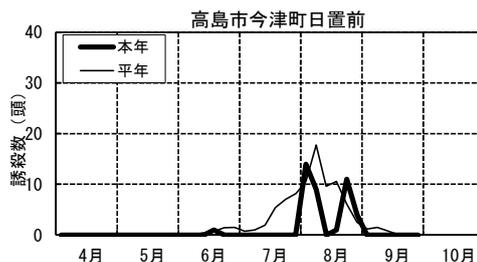
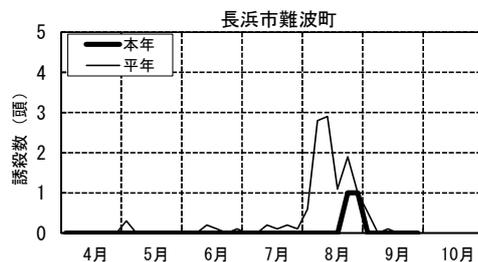
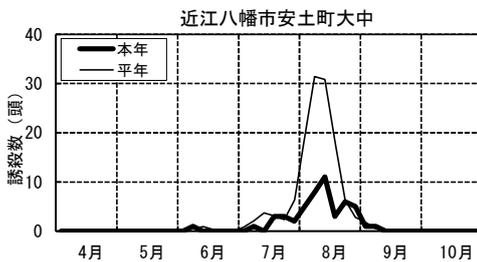
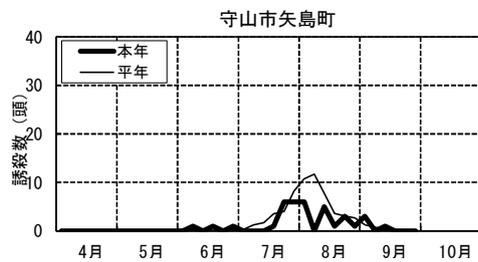
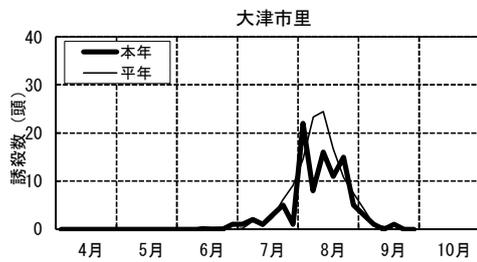


注：令和5年度は誘殺されなかった。

フタオビコヤガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

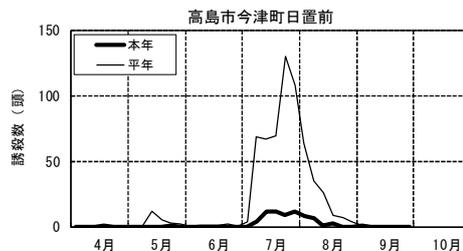
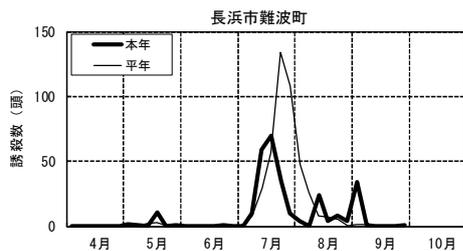
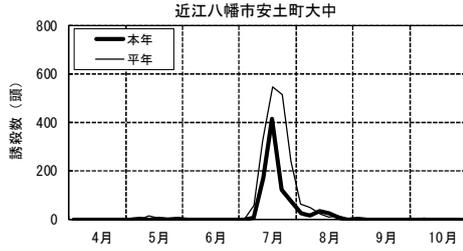
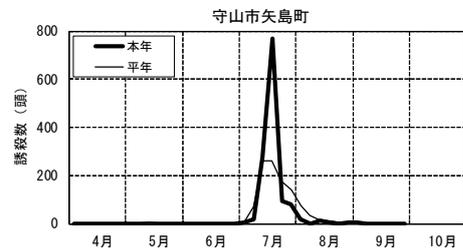
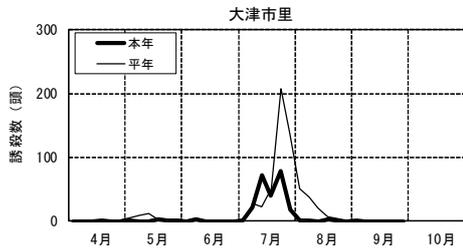
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.0
5 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.1
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.1
5 4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.1
5 5	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.2	0.2
5 6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.3	0.3
6 1	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0.3
6 2	0	0	0	0.1	1	1	0.3	0.6	1	0	0.5	0.8	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0.3
6 3	0	0	0.5	0.6	0	1	0.2	0.8	0	1	0.9	1.7	0	0	0.2	0.5	0	0	0	0.4	0.7
6 4	0	0	0.3	0.9	1	2	0.4	1.2	0	0	0.3	2.0	0	0	0	0.6	1	1	0	0.7	1.4
6 5	0	0	0.4	1.4	0	2	0	1.2	0	0	0.1	2.1	0	0	0	0.6	0	1	1.4	2.8	2.8
6 6	1	1	0.0	1.4	1	3	0.2	1.4	0	0	0.1	2.2	0	0	0.1	0.7	0	1	1.5	4.3	4.3
7 1	1	2	0.1	1.5	0	3	0.3	1.7	0	1	0.8	3.0	0	0	0	0.7	0	1	0.7	5.0	5.0
7 2	2	4	1.6	3.1	0	3	1.2	2.9	1	2	2.1	5.1	0	0	0	0.7	0	1	1.0	6.0	6.0
7 3	1	5	0.7	3.8	0	3	1.7	4.6	0	3	3.7	8.8	0	0	0.2	0.9	0	1	1.9	7.9	7.9
7 4	3	8	2.4	6.3	1	4	3.5	8.1	3	3	3.1	11.9	0	0	0.1	1.0	0	1	5.4	13.3	13.3
7 5	5	13	6.1	12.4	6	10	4.0	12.1	3	2	2.3	14.2	0	0	0.2	1.2	0	1	7.0	20.3	20.3
7 6	1	14	9.1	21.5	6	16	8.2	20.3	2	5	6.4	20.6	0	0	0.1	1.3	0	1	8.2	28.5	28.5
8 1	22	36	14.6	36.0	6	22	10.7	31.0	5	16	19.0	39.6	0	0	0.6	1.9	14	15	10.6	39.1	39.1
8 2	8	44	23.3	59.4	0	22	11.7	42.7	8	28	31.4	71.0	0	0	2.8	4.7	9	24	17.7	56.8	56.8
8 3	16	60	24.4	83.8	5	27	7.6	50.3	11	28	30.8	101.8	0	0	2.9	7.6	0	24	9.6	66.4	66.4
8 4	11	71	16.7	100.5	1	28	3.6	53.9	3	19	18.0	119.8	0	0	1.1	8.7	1	25	10.6	77.0	77.0
8 5	15	86	10.8	111.3	3	31	3.1	57.0	6	7	6.3	126.1	1	1	1.9	10.6	11	36	6.1	83.1	83.1
8 6	5	91	7.4	118.7	1	32	2.7	59.7	5	3	2.8	128.9	1	2	1.0	11.6	4	40	2.5	85.6	85.6
9 1	3	94	4.2	122.9	3	35	1.2	60.9	1	1	1.8	130.7	0	2	0.5	12.1	0	40	1.2	86.8	86.8
9 2	1	95	0.9	123.8	0	35	0.8	61.7	1	0	0.5	131.2	0	2	0	12.1	0	40	1.5	88.3	88.3
9 3	0	95	0.6	124.4	1	36	0	61.9	0	0	0.1	131.3	0	2	0	12.2	0	40	0.8	89.1	89.1
9 4	1	96	0	124.4	0	36	0	62.0	0	0	0.1	131.4	0	2	0	12.2	0	40	0.1	89.2	89.2
9 5	0	96	0.1	124.5	0	36	0	62.0	0	0	0	131.4	0	2	0	12.2	0	40	0	89.3	89.3
9 6	0	96	0	124.5	0	36	0	62.0	0	0	0	131.4	0	2	0	12.2	0	40	0.2	89.5	89.5
10 1									0	0	0	131.4									131.4
10 2									0	0	0	131.4									131.4
10 3									0	0	0	131.4									131.4
10 4									0	0	0	131.4									131.4
10 5									0	0	0	131.4									131.4
10 6									0	0	0	131.4									131.4



イネミズソウムシ半月別勝殺状況(予察灯)

(頭)

月	半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	1	1	0	0
4	5	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	1	0.2	0.4
4	6	0	2	1.6	1.7	1	2	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	1	0.3	0.8	
5	1	1	3	5.9	7.6	0	2	0	0	0	2.6	2.9	2	2	0.9	0.9	0	1	0.2	1.0	
5	2	0	3	8.4	16.0	0	2	0.1	0.2	2	0.3	3.2	1	3	0.2	1.1	0	1	0.3	1.3	
5	3	0	3	11.7	27.7	0	2	5.0	5.2	0	2	14.8	18.0	0	3	2.3	3.4	0	1	12.1	13.4
5	4	4	7	2.0	29.7	0	2	0.7	5.9	2	4	4.5	22.5	0	14	3.1	6.5	0	1	5.2	18.7
5	5	1	8	2.2	31.9	0	2	0.2	6.1	0	4	6.9	29.4	0	14	0.4	6.9	1	2	3.0	21.7
5	6	2	10	0.8	32.7	0	2	0.0	6.1	6	10	4.4	33.8	1	15	0.4	7.3	0	2	2.0	23.7
6	1	0	10	0.8	33.4	0	2	0	6.1	0	10	3.4	37.2	0	15	0.5	7.8	0	2	0.9	24.6
6	2	3	13	0.3	33.7	0	2	0.2	6.3	0	10	0.2	37.4	0	15	0.7	8.5	0	2	1.1	25.7
6	3	0	13	0.1	33.8	0	2	0	6.3	1	11	1.0	38.4	0	15	0.1	8.6	0	2	1.4	27.1
6	4	0	13	0.3	34.2	0	2	0.1	6.4	0	11	0.2	38.6	0	15	0	8.8	0	2	1.5	28.6
6	5	0	13	0.3	34.5	0	2	0	6.4	0	11	0.6	39.2	1	16	0.1	8.9	0	2	2.1	30.7
6	6	0	13	0.3	34.8	0	2	0.3	6.7	0	11	0.8	40.0	0	16	0.7	9.6	0	2	1.0	31.7
7	1	1	14	0.6	35.4	6	8	3.5	10.2	0	11	3.1	43.1	0	16	0.4	10.0	0	2	4.2	35.9
7	2	21	35	27.6	63.1	18	26	71.5	81.7	9	20	59.1	102.2	10	26	7.6	17.6	4	6	68.5	104.4
7	3	73	108	22.2	85.3	276	302	263.9	345.6	171	191	326.7	428.9	59	85	29.2	46.8	12	18	67.5	171.9
7	4	41	149	51.6	136.8	771	1073	261.7	607.3	418	609	548.4	977.3	70	155	56.5	103.3	12	30	69.3	241.2
7	5	79	228	207.8	344.6	94	1167	178.1	785.4	125	734	518.2	1495.5	35	190	134.0	237.3	9	39	130.5	371.7
7	6	19	247	138.3	483.0	79	1246	141.6	927.0	76	810	241.6	1737.1	10	200	108.5	345.8	12	51	108.0	479.7
8	1	2	249	51.0	534.0	20	1266	74.1	1001.1	25	835	62.0	1799.1	4	204	47.9	393.7	8	59	63.9	543.6
8	2	1	250	38.6	572.5	0	1266	34.9	1036.0	19	854	51.0	1850.1	0	204	25.8	419.5	7	66	35.1	578.7
8	3	0	250	21.1	593.6	13	1279	15.1	1051.1	37	891	23.2	1873.3	24	228	7.7	427.2	1	67	26.2	604.9
8	4	4	254	6.9	600.5	3	1282	9.3	1060.4	28	919	12.6	1885.9	4	232	7.2	434.4	3	70	9.2	614.1
8	5	2	256	3.2	603.7	1	1283	5.3	1065.7	8	927	14.8	1900.7	8	240	5.3	439.7	0	70	7.3	621.4
8	6	0	256	1.2	605.0	3	1286	5.0	1070.7	0	927	3.3	1904.0	4	244	0.6	440.3	0	70	3.8	625.2
9	1	2	258	0.3	605.3	3	1289	0.5	1071.2	2	929	2.2	1906.2	34	278	1.2	441.5	1	71	1.8	627.0
9	2	0	258	0.1	605.4	0	1289	0.5	1071.7	0	929	1.7	1907.9	1	279	1.3	442.8	0	71	0.8	627.8
9	3	0	258	0.8	606.2	0	1289	0.2	1071.9	1	930	1.5	1909.4	0	279	0.4	443.2	0	71	0.5	628.3
9	4	0	258	0.0	606.2	2	1291	0.9	1072.8	0	930	0.8	1910.2	0	279	0.3	443.5	0	71	0.3	628.6
9	5	0	258	0.3	606.5	2	1293	0	1072.8	0	930	0.9	1911.1	0	279	0.4	443.9	0	71	0.4	629.0
9	6	0	258	0.4	607.0	0	1293	0	1072.8	0	930	1.0	1912.1	1	280	0	444.1	0	71	0.6	629.6
10	1									0	930	0.3	1912.4								
10	2									0	930	7.3	1919.7								
10	3									0	930	0	1919.7								
10	4									0	930	0.0	1919.7								
10	5									0	930	0.5	1920.2								
10	6									0	930	0	1920.2								



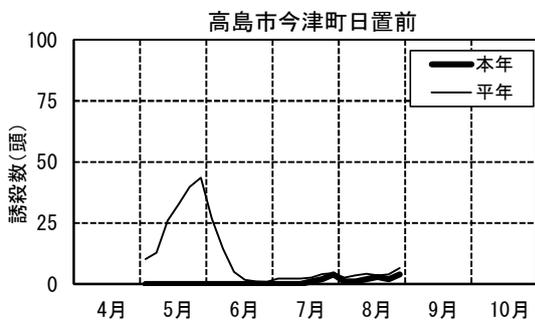
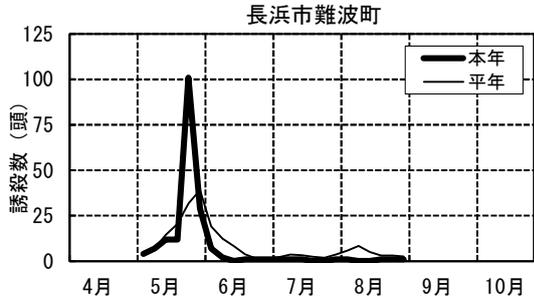
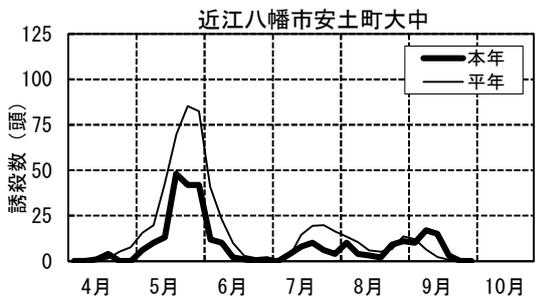
(ウ) フェロモントラップによる調査

ニカメイガ半旬別誘殺数 (フェロモントラップ)

月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	0	0	0	0.2								
	3	1	1	0.2	0.4								
	4	4	5	1.5	1.9								
	5	0	5	5.2	7.1								
	6	0	5	7.7	14.8								
5	1	6	11	15.5	30.3	4	4	4.4	4.4	0	0	10.2	10.2
	2	10	21	19.7	50.0	7	11	7.2	11.6	0	0	12.9	23.1
	3	13	34	42.8	92.8	12	23	14.6	26.2	0	0	26.0	49.1
	4	48	82	69.9	162.7	12	35	20.2	46.4	0	0	32.8	81.9
	5	42	124	85.3	248.0	101	136	31.9	78.3	0	0	39.8	121.7
	6	42	166	82.6	330.6	29	165	39.1	117.4	0	0	43.5	165.2
6	1	12	178	40.9	371.5	7	172	19.0	136.4	0	0	26.8	192.0
	2	10	188	23.0	394.5	2	174	12.4	148.8	0	0	14.5	206.5
	3	2	190	10.0	404.5	0	174	8.1	156.9	0	0	5.0	211.5
	4	1	191	2.8	407.3	1	175	3.8	160.7	0	0	1.8	213.3
	5	0	191	1.8	409.1	1	176	1.4	162.1	0	0	1.1	214.4
	6	0	191	2.3	411.4	1	177	1.3	163.4	0	0	1.0	215.4
7	1	0	191	0.6	412.0	1	178	2.2	165.6	0	0	2.2	217.6
	2	4	195	2.7	414.7	1	179	3.6	169.2	0	0	2.3	219.9
	3	8	203	14.5	429.2	1	180	3.2	172.4	0	0	2.2	222.1
	4	10	213	19.4	448.6	0	180	2.4	174.8	1	1	2.6	224.7
	5	6	219	19.7	468.3	0	180	1.9	176.7	2	3	4.1	228.8
	6	4	223	16.3	484.6	1	181	3.7	180.4	4	7	4.5	233.3
8	1	10	233	13.5	498.1	1	182	5.8	186.2	1	8	2.7	236.0
	2	4	237	10.6	508.7	0	182	8.4	194.6	1	9	3.6	239.6
	3	3	240	5.9	514.6	0	182	5.0	200.6	2	11	4.2	243.8
	4	2	242	5.3	520.0	1	183	3.1	203.7	3	14	3.5	247.3
	5	9	251	6.6	526.6	1	184	3.1	206.8	2	16	3.9	251.2
	6	11	262	13.6	540.2	1	185	2.6	209.4	4	20	6.5	257.7
9	1	10	272	12.0	552.2								
	2	17	289	6.3	558.5								
	3	15	304	2.1	560.6								
	4	3	307	0.8	561.4								
	5	0	307	0.7	562.1								
	6	0	307	0.2	562.3								

越冬世代

第1世代



・表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

エ 一般ほ場における調査

(ア) すくい取りおよび払い落とし調査

a ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ (越冬量調査)

(頭)

調査地点名	害虫名	ツマグロヨコバイ			ヒメトビウンカ		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
	月日	3/31~4/5					
大津市	関津	0	1	1	5	1	6
	和邇南浜	3	0	3	1	0	1
草津市	下笠町	6	2	8	0	0	0
守山市	赤野井町	1	0	1	3	0	3
栗東市	上砥山	7	0	7	0	1	1
野洲市	辻町	1	0	1	0	0	0
湖南市	正福寺	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	1	0	1
	甲賀町滝	0	0	0	1	0	1
	信楽町黄瀬	0	0	0	1	0	1
近江八幡市	水荃町	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	80	4	84	5	0	5
日野町	日田	20	2	22	13	0	13
竜王町	鵜川	1	2	3	3	2	5
東近江市	林田町	0	0	0	1	2	3
	川合町	3	0	3	7	0	7
	石谷町	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	4	4	8	9	6	15
	きぬがさ町	13	2	15	11	0	11
	鯉江町	83	4	87	2	0	2
彦根市	日夏町	1	1	2	2	0	2
愛荘町	東円堂	1	1	2	1	0	1
甲良町	池寺	0	0	0	2	0	2
多賀町	多賀	0	0	0	1	0	1
米原市	入江	0	0	0	1	0	1
	西円寺	0	0	0	0	0	0
	本市場	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	1	0	1
	湯次町	0	0	0	0	1	1
	早崎町	0	0	0	1	0	1
	高月町柳野中	0	0	0	1	0	1
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0
	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0
高島市	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	2	0	2	1	0	1
	安曇川町北船木	0	0	0	17	1	18

すくい取り：1地点 50回振 合計虫数

b セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

(頭)

調査地点名	害虫名 調査方法 調査月日	セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ		ツマグロヨコバイ		フタオビコヤガ
		すくい取り		払落	すくい取り		払落	すくい取り		すくい取り		払落
		7/7~11	8/7~8/8	8/7~8/8	7/7~11	8/7~8/8	8/7~8/8	7/7~11	8/7~8/8	7/7~11	8/7~8/8	6/26
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	113	27	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	1	142	1	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	19	224	0	276	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	7	99	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	20	235	1	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	9	415	3	10	0
湖南市	岩根	1	0	0	0	0	0	6	6	0	1	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	3	210	0	0	0
	甲賀町滝	1	1	0	0	0	0	2	410	0	0	0
	信楽町黄瀬	4	0	0	0	0	0	4	489	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	7	403	0	0	0
	安土町大中	3	0	0	0	0	0	43	590	1	51	0
日野町	十禅師	0	2	0	0	0	0	0	19	2	33	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	4	315	0	0	0
東近江市	林田町	0	4	0	0	0	0	2	1317	0	4	0
	川合町	1	0	0	0	0	0	1	391	0	0	0
	石谷町	3	0	0	0	0	0	7	36	1	1	0
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0	3	304	1	0	0
	栗見新田町	3	5	0	0	0	0	158	1962	8	301	0
	鯉江町	0	0	0	0	0	0	6	408	0	0	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	872	0	3	0	
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	8	1775	0	40	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	13	474	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	7	185	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	26	721	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	57	0	1	0
	西円寺	1	0	0	0	0	0	3	99	0	5	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	71	0	17	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	19	0	0	35	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	6	102	0	38	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	22	97	0	0	0
	余呉町坂口	0	3	0	0	0	0	2	21	0	2	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	11	126	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	1	187	0	3	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	337	2	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	3	130	0	13	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

払い落とし：1地点 1筆5株 5筆25株 合計虫数（成幼合計）

c 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査）

(頭)

調査月日 調査場所		7/6~8											
		本田						畦畔					
		害虫名	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ
大津市	関津	0	0	0	1	1	0	1	0	1	5	0	2
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	1	0	0	50	4	0
草津市	下笠町	0	0	3	0	0	1	6	5	4	13	11	1
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	2	77	1	4
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	5	11
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	15	2	4	3	1	30
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	4	2
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	甲賀町滝	0	0	0	0	0	0	3	1	0	20	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	1	1	0	9	0	1
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	15	1	0	13	9	15
	安土町大中	0	0	0	0	0	0	13	0	1	79	43	14
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	0	0	3	101	37	3
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	6	18
	川合町	0	0	0	0	0	1	1	0	3	11	2	2
	石谷町	0	0	0	0	0	0	13	0	2	4	2	3
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0	2	0	2	9	35	1
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	5	3	0	21	15	19
	鯉江町	0	0	0	0	0	0	10	0	0	12	11	5
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	4	0	0	23	9	12
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	7	0	1	221	16	8
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9	4	4
多賀町	土田	0	0	1	0	0	0	5	0	1	33	14	7
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	12	2	2	12	10	7
	入江	1	0	0	0	0	0	12	0	0	15	2	1
	西円寺	0	0	0	0	0	0	4	0	0	62	17	2
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	1	0	0	0	0	0	4	0	7	7	3	3
	早崎町	1	0	0	0	0	1	10	0	0	3	0	10
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	4	0	0	8	1	6
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	6	0	0	9	0	7
高島市	マキノ町知内	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	156	0	1

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数

d 斑点米カメムシ類（糊熟期調査）

(頭)

調査地点名	調査月日 イネの生育ステージ	8/7~8					
		糊熟期					
		ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソミ ドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津	0	0	0	0	0	1
	和邇南浜	0	0	0	1	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	4	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	1	0	0	0
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	0	1	0	2	0	0
	信楽町黄瀬	0	1	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	1	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	1	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	0	0	1	0	0	0
	川合町	0	0	0	0	0	0
	石谷町	1	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	1	0	0	0
	栗見新田町	2	0	1	0	0	0
	鯉江町	2	0	0	1	0	0
彦根市	新海町	0	0	1	0	0	1
愛荘町	東円堂	0	0	2	11	0	1
甲良町	法養寺	1	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	1	0	0
	入江	2	0	0	1	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	1
長浜市	永久寺町	1	0	0	3	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	1
	早崎町	1	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	1	0	0	1	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	1	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	2	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	1	0	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数

e コバネイナゴ、クサキリ、ササキリ

(頭)

調査地点名	調査月日 調査場所 害虫名	7/6~8						8/7~8
		本田			畦畔			本田
		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ
大津市	関津	0	0	0	1	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	2	0
草津市	下笠町	14	0	0	0	0	4	2
守山市	赤野井町	1	0	1	0	0	0	0
栗東市	上砥山	4	0	0	1	0	2	0
野洲市	上屋	8	0	1	1	1	2	0
湖南市	岩根	0	0	0	1	0	3	3
甲賀市	水口町山	9	0	0	2	0	0	2
	甲賀町滝	31	0	1	0	0	0	15
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	1
近江八幡市	野村町	0	0	1	0	0	1	0
	安土町大中	1	0	0	0	0	1	0
日野町	十禅師	6	0	0	6	2	0	18
竜王町	小口	0	0	0	0	0	1	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	1
	川合町	5	0	0	4	0	1	1
	石谷町	17	0	2	12	0	9	5
	五個荘平阪町	0	0	0	1	0	3	2
	栗見新田町	8	0	0	3	0	0	3
鯉江町	3	0	1	3	0	1	2	
彦根市	新海町	0	0	0	3	0	7	0
愛荘町	東円堂	8	0	3	10	2	5	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	1	0	0	0	0	3	0
米原市	本市場	3	0	0	3	0	0	0
	入江	2	0	1	0	0	3	1
	西円寺	3	0	0	1	1	1	0
長浜市	永久寺町	1	0	1	1	0	1	0
	湯次町	18	0	0	4	0	0	0
	早崎町	1	0	0	1	0	0	0
	高月町柳野中	23	0	0	2	0	2	2
	余呉町坂口	5	0	0	0	0	2	8
高島市	マキノ町知内	13	0	0	1	0	3	0
	今津町上弘部	3	0	1	0	1	1	1
	安曇川町北船木	1	0	0	0	0	0	1
	新旭町北畑	3	0	1	0	0	0	0

1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数(成幼虫数)

(イ) 発生量調査

a 地点別調査結果

調査地点名		葉いもち		穂いもち		紋 枯 病		もみ枯細菌病		白葉枯病	
		発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病穂率	発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 発病度
大 津 市	関 津	0	0	0	0	60	0.8	0	0	0	0
	和 邇 南 浜	80	2.0	60	0.12	80	1.0	0	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	0	0	20	0.02	40	0.6	0	0	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	60	0.6	80	0.25	100	9.8	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	0	0	40	0.16	60	2.4	0	0	0	0
野 洲 市	上 屋	40	0.4	40	0.28	100	12.2	0	0	0	0
湖 南 市	岩 根	80	0.8	100	0.60	100	15.8	0	0	0	0
甲 賀 市	水 口 町 山	80	0.8	60	0.11	80	0.8	0	0	0	0
	甲 賀 町 滝	0	0	40	0.13	40	0.8	0	0	0	0
	信 楽 町 黄 瀬	40	0.4	80	0.22	100	8.2	0	0	0	0
近 江 八 幡 市	野 村 町	0	0	0	0	80	3.0	0	0	0	0
	安 土 町 大 中	20	6.0	60	1.59	80	24.8	0	0	0	0
日 野 町	十 禅 師	100	15.6	80	5.00	100	7.8	0	0	0	0
竜 王 町	小 口	60	0.6	60	0.46	80	8.8	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	0	0	40	0.29	100	15.4	0	0	20	0.4
	川 合 町	80	5.2	60	0.22	100	23.6	0	0	0	0
	石 谷 町	0	0	40	0.07	80	3.4	20	0.8	0	0
	五 個 荘 平 阪 町	40	0	40	0.12	40	0.6	20	0.8	0	0
	栗 見 新 田 町	100	29.0	100	10.49	80	4.6	0	0	0	0
	鯉 江 町	80	2.8	80	1.58	80	3.2	0	0	0	0
彦 根 市	新 海 町	0	0	20	0.13	100	4.0	0	0	0	0
愛 荘 町	東 円 堂	0	0	20	0.04	80	3.6	0	0	0	0
甲 良 町	法 養 寺	20	0.4	40	0.15	80	10.2	20	0.8	0	0
多 賀 町	土 田	40	0.4	60	0.11	80	6.4	0	0	0	0
米 原 市	本 市 場	20	0.2	20	0.04	40	0.4	0	0	0	0
	入 江	0	0	20	0.03	20	0.2	0	0	0	0
	西 円 寺	20	0.2	40	0.19	40	2.2	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	60	0.6	60	0.31	20	0.6	0	0	0	0
	湯 次 町	40	0.6	20	0.06	80	1.6	0	0	0	0
	早 崎 町	20	0.2	60	0.26	100	9.4	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	80	1.8	80	0.22	80	12.8	0	0	0	0
	余 呉 町 坂 口	40	0.4	40	0.31	80	6.0	0	0	0	0
高 島 市	マキノ町知内	0	0	80	0.59	60	1.2	0	0	0	0
	今津町上弘部	100	1.2	40	0.09	40	0.6	0	0	0	0
	安曇川町北船木	100	8.2	60	0.33	100	3.6	0	0	0	0
	新旭町北畑	40	0.4	80	0.61	80	1.2	0	0	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1筆あたり25株の発病度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

平均発病穂(株)率(%)は、1筆あたり25株を調査して発病穂(株)率を求め、5筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名	病害虫名	ごま葉枯病		稲こうじ病		ばか苗病		黄萎病（立毛中）		黄萎病（再生芽）	
		発生ほ場率	平均発病度	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率
大津市	関津	80	3.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	20	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	100	7.2	40	1.6	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	60	12.6	0	0	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	40	5.4	0	0	20	1.6	0	0	0	0
東近江市	林田町	40	6.4	0	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	40	9.4	0	0	0	0	0	0	0	0
	石谷町	100	9.4	0	0	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	40	4.6	20	1.6	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	40	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	80	3.4	60	1.2	0	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺	20	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	60	3.6	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	20	0.8	0	0	0	0
	高月町柳野中	100	8.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	20	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中对象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1筆あたり25株の発病度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

平均発病株率（％）は、1筆あたり稲こうじ病で50株、ばか苗病で100株、黄萎病（立毛中）で25株、黄萎病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（平成28年農林水産省生産局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		縞葉枯病(立毛中)		縞葉枯病(再生芽)		イネミズゾウムシ		イネドロオイムシ	
		発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均被害度	発生ほ場率	平均被害度		
大津市	関津	80	0.8	100	2.4	100	5.6	20	0.2		
	和邇南浜	0	0	60	0.4	100	14.0	100	3.4		
草津市	下笠町	0	0	100	5.9	100	3.4	0	0		
守山市	赤野井町	20	0.2	80	6.1	60	2.2	20	0.2		
栗東市	上砥山	0	0	100	7.5	100	6.8	100	2.8		
野洲市	上屋	80	0.8	100	24.1	80	1.6	0	0		
湖南市	岩根	100	2.2	100	23.7	100	6.4	40	0.4		
甲賀市	水口町山	0	0	100	1.9	20	0.2	100	2.0		
	甲賀町滝	40	0.4	80	0.8	100	6.2	100	2.4		
	信楽町黄瀬	0	0.0	100	9.5	40	0.4	100	4.0		
近江八幡市	野村町	0	0.0	100	19.3	100	3.8	0	0		
	安土町大中	60	1.0	100	28.7	20	2.0	0	0		
日野町	十禅師	40	0.6	100	5.9	100	26.0	0	0		
竜王町	小口	60	1.0	100	29.2	60	4.0	0	0		
東近江市	林田町	60	0.6	100	37.0	100	15.0	0	0		
	川合町	80	1.6	100	58.8	80	4.2	0	0		
	石谷町	0	0	80	0.5	100	9.8	0	0		
	五個荘平阪町	0	0	100	15.0	100	5.2	0	0		
	栗見新田町	80	1.2	100	14.5	80	12.8	0	0		
	鯉江町	60	0.6	100	27.3	100	19.0	0	0		
彦根市	新海町	80	1.0	100	28.0	100	9.6	0	0		
愛荘町	東円堂	60	0.6	100	19.7	100	8.8	0	0		
甲良町	法養寺	100	1.4	100	47.3	80	7.0	0	0		
多賀町	土田	80	2.2	100	18.4	80	5.0	0	0		
米原市	本市場	20	0.2	100	0.4	60	4.2	0	0		
	入江	0	0	40	0.2	20	0.2	60	0.6		
	西円寺	0	0	80	1.7	40	0.4	0	0		
長浜市	永久寺町	20	0.2	100	1.1	60	0.6	0	0		
	湯次町	0	0	60	0.5	100	2.6	0	0		
	早崎町	0	0	100	1.8	20	0.2	0	0		
	高月町柳野中	0	0	100	1.4	60	2	0	0		
	余呉町坂口	0	0	20	0.1	0	0	0	0		
高島市	マキノ町知内	0	0	40	0.1	100	5.0	20	0.2		
	今津町上弘部	0	0	20	0.1	100	3.2	0	0		
	安曇川町北船木	0	0	60	0.2	60	4.6	0	0		
	新旭町北畑	0	0	80	0.4	80	1.6	0	0		

1地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象病害虫が発生した筆数より算出。

平均発病株率(%)は、1筆あたり縞葉枯病(立毛中)で25株、縞葉枯病(再生芽)で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

平均被害度は、1筆あたり25株の被害度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		ニカメイガ(1)		ニカメイガ(2)		イチモンジセセリ	コブノメイガ		イネクロカメムシ
		発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率		
大津市	関津	40	1.6	0	0	0	0	0	0	0	
	和邇南浜	40	1.6	20	0.8	0	0	0	0	0	
草津市	下笠町	100	4.8	60	2.4	0	0	0	0	0	
守山市	赤野井町	60	4.0	100	7.2	0	0	0	0	0	
栗東市	上砥山	80	3.2	40	1.6	0	0	0	0	0	
野洲市	上屋	80	4.0	80	5.6	0	0	0	0	0	
湖南市	岩根	40	1.6	20	0.8	0	0	0	0	0	
甲賀市	水口町山	0	0	60	2.4	0	0	0	0	0	
	甲賀町滝	100	4.0	60	3.2	0	0	0	0	0	
	信楽町黄瀬	0	0	80	3.2	0	20	0.2	0	0	
近江八幡市	野村町	40	1.6	40	1.6	0	0	0	0	0	
	安土町大中	20	0.8	80	3.2	20	20	0.8	0	0	
日野町	十禅師	0	0	60	3.2	0	40	2.4	0	0	
竜王町	小口	60	2.4	80	4.0	0	0	0	0	0	
東近江市	林田町	100	6.4	80	5.6	0	0	0	0	0	
	川合町	60	7.2	80	4.0	0	0	0	0	20	
	石谷町	20	0.8	80	3.2	0	0	0	0	0	
	五個荘平阪町	20	0.8	60	3.2	0	0	0	0	0	
	栗見新田町	40	1.6	100	5.6	20	0	0	0	0	
鯉江町	100	8.0	100	4.0	0	0	0	0	0		
彦根市	新海町	100	25.6	80	3.2	0	0	0	0	0	
愛荘町	東円堂	60	2.4	100	4.8	0	0	0	0	0	
甲良町	法養寺	40	2.4	60	2.4	0	0	0	0	0	
多賀町	土田	80	3.2	20	1.6	0	20	0.8	0	0	
米原市	本市場	20	0.8	60	2.4	0	0	0	0	0	
	入江	0	0	40	1.6	0	0	0	0	0	
	西円寺	0	0	20	0.8	0	0	0	0	0	
長浜市	永久寺町	20	0.8	0	0	0	0	0	0	0	
	湯次町	100	5.6	0	0	0	0	0	0	0	
	早崎町	60	2.4	0	0	0	0	0	0	0	
	高月町柳野中	60	2.4	100	5.6	0	0	0	0	0	
	余呉町坂口	20	0.8	40	1.6	0	0	0	0	0	
高島市	マキノ町知内	80	3.2	40	1.6	0	20	0.2	0	0	
	今津町上弘部	40	1.6	40	1.6	0	0	0	0	0	
	安曇川町北船木	60	2.4	40	1.6	0	0	0	0	0	
	新旭町北畑	60	2.4	20	0.8	0	0	0	0	0	

1地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象害虫が発生した筆数より算出。

平均被害株率(%)は、1筆あたり25株を調査して被害株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

b 地域別集計表

病害虫名	葉いもち				穂いもち				紋枯病			
	発病度		ほ場率(%)		発病率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0.5	1.7	30.0	36.6	0.1	0.4	40.0	63.1	4.5	10.7	73.3	88.1
甲賀	0.5	1.2	50.0	25.9	0.3	1.0	70.0	68.0	6.4	6.7	80.0	80.8
東近江	6.0	1.2	48.0	22.6	2.0	0.7	56.0	63.4	9.5	13.0	82.0	89.2
湖東	0.2	0.7	15.0	14.2	0.1	0.2	35.0	48.5	6.1	10.7	85.0	85.5
湖北	0.5	0.3	35.0	11.6	0.2	0.4	42.5	50.5	4.2	7.4	57.5	76.6
高島	2.5	0.3	60.0	28.5	0.4	0.6	65.0	67.5	1.7	7.2	70.0	79.0
全県	2.2	1.0	40.0	22.6	0.7	0.5	50.6	59.9	5.9	9.7	73.9	83.7

病害虫名	もみ枯細菌病				白葉枯病				ごま葉枯病			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	—	0	—	0	0.0	0	2.4	0.7	0.1	16.7	4.7
甲賀	0	—	0	—	0	1.3	0	9.0	1.9	0.3	30.0	9.3
東近江	0.2	—	4.0	—	0.0	0.1	2.0	4.2	5.2	0.5	46.0	12.8
湖東	0.2	—	5.0	—	0	0.0	0	0.8	1.2	0.0	20.0	1.8
湖北	0	—	0	—	0	0.0	0	0.7	1.0	0.0	12.5	0.4
高島	0	—	0	—	0	0	0	0	0.7	0	5.0	0
全県	0	—	1.7	—	0.0	0.0	0.6	2.8	2.2	0.2	24.4	5.7

病害虫名	稲こうじ病				ばか苗病				黄萎病(立毛中)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0.0	0	0.3	0	—	0	—	0	0	0	0
甲賀	0.4	0.1	10.0	2.4	0	—	0	—	0	0	0	0
東近江	0.3	0.4	8.0	5.4	0.2	—	2.0	—	0	0	0	0
湖東	0	0.0	0	0.4	0	—	0	—	0	0	0	0
湖北	0	0.4	0	4.6	0.1	—	2.5	—	0	0	0	0
高島	0	0.0	0	1.0	0	—	0	—	0	0	0	0
全県	0.1	0.2	3.3	3.0	0.1	—	1.1	—	0	0	0	0

病害虫名	黄萎病(再生芽)				縞葉枯病(立毛中)				縞葉枯病(再生芽)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0	0	0	1.2	—	30.0	—	7.7	3.9	90.0	73.5
甲賀	0	0.0	0	1.2	2.6	—	35.0	—	8.9	2.1	95.0	65.1
東近江	0	0.0	0	0.4	2.4	—	44.0	—	23.6	3.2	98.0	70.8
湖東	0	0	0	0	4.8	—	80.0	—	28.3	1.5	100.0	75.9
湖北	0	0.0	0	0.9	0.2	—	5.0	—	0.9	0.5	75.0	49.8
高島	0	0.0	0	0.5	0	—	0	—	0.2	0.2	50.0	29.0
全県	0	0.0	0	0.5	1.7	—	31.1	—	12.2	2.1	86.1	62.0

病害虫名	イネミズゾウムシ				イネドロオイムシ				ニカメイガ第1世代			
	被害度		ほ場率(%)		被害度		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	5.6	11.1	90.0	84.3	1.1	0.3	40.0	15.4	3.2	7.6	66.7	80.4
甲賀	3.3	7.2	65.0	68.6	2.2	1.1	85.0	42.0	1.4	2.8	35.0	56.0
東近江	10.2	10.6	84.0	75.0	0	0.1	0	4.4	3.0	6.4	46.0	74.8
湖東	7.6	5.9	90.0	80.3	0	0.0	0	0.9	8.4	6.2	70.0	68.3
湖北	1.2	10.2	45.0	72.0	0.1	0.2	7.5	12.5	1.6	7.1	35.0	64.7
高島	3.6	22.6	85.0	96.5	0.1	0.1	5.0	5.0	2.4	5.6	60.0	64.0
全県	5.6	10.8	75.0	78.1	0.5	0.3	18.3	12.0	3.1	6.2	50.0	69.4

病害虫名	ニカメイガ第2世代				イチモンジセセリ		コブノメイガ				イネクロカメムシ	
	被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	2.9	2.9	50.0	56.3	0	11.2	0	0.7	0	15.2	0	1.2
甲賀	2.4	1.9	55.0	45.2	0	7.6	0.1	0.5	5.0	12.2	0	0.5
東近江	3.8	3.5	76.0	66.4	4.0	10.8	0.3	0.6	6.0	14.0	2.0	1.0
湖東	3.0	3.0	65.0	67.4	0	7.2	0.2	0.8	5	20.2	0	0
湖北	1.5	3.5	32.5	81.0	0	11.1	0	1.8	0	32.4	0	0.2
高島	1.4	2.8	35.0	68.0	0	9.0	0.1	3.6	5.0	36.5	0	0
全県	2.6	3.1	53.9	65.7	1.1	9.9	0.1	1.2	3.3	21.1	0.6	0.5

発病度および被害度の算出は、発生子察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。

もみ枯細菌病、ばか苗病、縞葉枯病(立毛中)は平成28年度から調査開始のため平年値なし。

c 精密調査ほ調査結果

調査地点名		害虫名	斑点米カメムシ類 (頭)		斑点米被害率 (%)				
			畦畔発生量	本田発生量	標準斑点米	黒触粒	尻黒粒	基部加害型	合計
			7月7~11日	8月7~8日					
大津市	関津		9	1	0.02	0.03	0.13	0.52	0.71
	和邇南浜		55	1	0.01	0.02	0.07	0	0.11
草津市	下笠町		40	0	0.09	0.10	0.14	0.01	0.34
守山市	赤野井町		84	4	0.01	0	0.03	0	0.05
栗東市	上砥山		23	0	0	0.01	0.04	0.03	0.08
野洲市	上屋		55	1	0.05	0.05	0.02	0.07	0.19
湖南市	岩根		19	0	0.09	0.07	0.06	0.12	0.34
甲賀市	水口町山		2	0	0.03	0.03	0	0.03	0.08
	甲賀町滝		24	3	0.08	0.04	0	0.01	0.13
	信楽町黄瀬		12	1	0.04	0.02	0	0.04	0.11
近江八幡市	野村町		53	0	0.16	0.12	0.10	0.03	0.40
	安土町大中		150	1	0.16	1.48	0.43	0.05	2.12
日野町	十禅師		1	0	0.11	0.40	0.02	0.04	0.57
竜王町	小口		144	1	0.05	0.02	0.05	0.05	0.17
東近江市	林田町		33	1	0.03	0.01	0.04	0.01	0.10
	川合町		19	0	0.02	0.33	0.04	0.18	0.56
	石谷町		24	1	0.02	0.11	0.07	0.09	0.29
	五個荘平阪町		49	1	0.07	0.13	0.11	0	0.31
	栗見新田町		63	3	0	0.07	0.07	0	0.13
	鯉江町		38	3	0.03	0.03	0	0.03	0.08
彦根市	新海町		48	2	0.04	0	0.04	0	0.09
愛荘町	東円堂		253	14	0.03	9.27	1.19	0.06	10.54
甲良町	法養寺		18	1	0	0.12	0.06	0.44	0.62
多賀町	土田		60	0	0.37	0.15	0.06	0	0.57
米原市	本市場		45	1	0.01	0.13	0.04	0.05	0.23
	入江		30	3	0.11	0.32	0.26	0.02	0.71
	西円寺		85	1	0.02	0.23	0.03	0	0.28
長浜市	永久寺町		0	4	0.12	0.06	0.03	0.02	0.23
	湯次町		24	1	0	0.04	0.02	0.03	0.10
	早崎町		23	1	0.10	0.07	0.24	0.10	0.51
	高月町柳野中		19	2	0	0.09	0.05	0.01	0.15
	余呉町坂口		22	0	0	0.06	0.16	0.03	0.25
高島市	マキノ町知内		2	1	0.03	0.01	0.02	0	0.06
	今津町上弘部		2	2	0.02	0.02	0	0.03	0.07
	安曇川町北船木		6	0	0	0.03	0	0	0.03
	新旭町北畑		157	1	0.02	0.03	0.04	0.03	0.13

調査は捕虫網50回振り、本田発生量の - は出穂していなかったことを示す。
 斑点米被害率はランダムにサンプリングした100穂の全粒から求めた値。なお各斑点米被害率の値は四捨五入をしているため、それらの合計が、合計欄の値と合致しない場合がある。

d 水稻病虫害発生量調査定点配置図（36か所）



オ 初発見月日と初発見場所

病害名	初発見月日	初発見場所	害虫名	初発見月日	初発見場所
葉いもち(置苗)	6/1	近江八幡市島町	ニカメイガ	4/11	近江八幡市安土町大中 (A)
葉いもち	6/15	近江八幡市島町		6/12	近江八幡市安土町大中 (L)
穂いもち	8/3	東近江市きぬがさ町	セジロウンカ	6/9	大津市里 (A)
紋枯病	6/14	甲良町法養寺	トビイロウンカ	—	—
白葉枯病	8/23	東近江市石谷町	ヒメトビウンカ	4/8	近江八幡市安土町大中 (A)
ばか苗病	5/11	長浜市下八木町	ツマグロヨコバイ	4/16	近江八幡市安土町大中 (A)
もみ枯細菌病	8/17	甲良町法養寺	イネドロオイムシ	6/13	甲賀市信楽町黄瀬 (L)
ごま葉枯病	7/7	竜王町小口	イネクロカメムシ	6/14	東近江市川合 (A)
縞葉枯病	6/14	竜王町小口	ホソハリカメムシ	4/27	愛荘町東円堂 (A)
黄萎病	—	—	クモヘリカメムシ	6/26	米原市本市場 (A)
稲こうじ病	8/17	東近江市鯉江町	トゲシラホシカメムシ	4/27	愛荘町東円堂 (A)
注:「—」は発生が認められなかった。					
			アカスジカスミカメ	5/9	愛荘町東円堂 (A・L)
			アカヒゲホソミドリカスミカメ	4/27	愛荘町東円堂 (A)
			イネカメムシ	7/5	甲賀市信楽町黄瀬 (A)
			イチモンジセセリ	6/14	東近江市鯉江 (L)
			フタオビコヤガ	6/5	甲賀市信楽町黄瀬 (L)
			コブノメイガ	7/24	余呉町坂口 (L)
			イネミズゾウムシ	5/8	高島市安曇川町北船木 (A)
			コバネイナゴ	5/10	東近江市鯉江 (L)
			スクミリンゴガイ	5/11	野洲市安治

注:初発見場所()内 A:成虫、L:幼虫
注:「—」は発生が認められなかった。

カ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
イネ	30,600	葉いもち	0	0	1050	11550	12600	27.4	3.4	17000	17000
		穂いもち	0	150	350	15500	16000	52.3	1.6	9000	9000
		紋枯病	0	500	1600	21000	23100	75.5	6.9	4000	4000
		白葉枯病	0	0	0	200	200	0.7	0	6000	6000
		ばか苗病	0	0	150	150	300	1.0	0.5	9000	9000
		もみ枯細菌病	0	0	0	500	500	1.6	0	5000	5000
		ごま葉枯病	0	150	350	7200	7700	25.2	1.6	3000	3000
		縞葉枯病	0	0	100	10000	10100	33.0	0.3	22000	27000
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		稲こうじ病	0	0	150	800	950	3.1	0.5	1000	1000
		ニカメイガ I	0	0	180	15000	15180	49.6	0.6	13000	13000
		ニカメイガ II	0	0	0	15000	15000	49.0	0	4000	4000
		セジロウンカ	0	0	0	4400	4400	14.4	0	22000	22000
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0	0	0	22000	22000
		ヒメトビウンカ	0	2500	4000	23000	29500	96.4	21.2	22000	27000
		ツマグロヨコバイ	0	0	1500	13700	15200	49.7	4.9	22000	22000
		イネドロオイムシ	0	0	0	5700	5700	18.6	0	16000	16000
		斑点米カメムシ類	0	50	800	10000	10850	35.5	2.8	22000	22000
		イネクロカメムシ	0	0	0	200	200	0.7	0	500	500
イチモンジセセリ	0	0	0	500	500	1.6	0	6000	6000		
フタオビコヤガ	0	0	0	300	300	1.0	0	12000	12000		
コブノメイガ	0	0	150	830	980	3.2	0.5	0	0		
イネミズゾウムシ	0	0	1000	22600	23600	77.1	3.3	15000	15000		
コバネイナゴ	0	0	2000	15500	17500	57.2	6.5	10000	10000		
スクミリンゴガイ	0	0	1.5	55.1	56.6	0.2	0.0	27	27		

ニカメイガ I、IIは第1世代、第2世代を指す

被害面積率=甚~中発生面積/栽培面積×100

(2) ムギ (令和4年秋播き)

ア 生育概況

播種時期にあたる10月中旬から11月中旬は天気恵まれ、ほ場準備や播種作業は順調に進み、出芽・苗立ちは良好であった。12月中～下旬は低温となり、初期生育は緩慢となった。1月下旬～2月上旬は気温が平年より低く推移し、全体的に茎数が少なくなった。

その後、3月の気温は平年より高く推移したため出穂期、開花期は大麦では5～6日程度、小麦では7～10日程度と平年より早くなった。

5月の気温が平年並～やや低く推移したことから、早まっていた出穂期は平年に近づき、登熟が遅くなったことから、成熟期は平年との差が2～3日程度に縮まり、やや早い成熟期となった。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コムギ	うどんこ病	早	やや多	ほ場での初発確認は4月11日で、発生時期は早かった。また、発生ほ場率はやや高かった。	播種時期の11月の気温が高く、初期生育が旺盛であったため、発生時期が早まった。また、3月から5月の気温が高く、4月から5月の降水量が多かったことから、感染しやすい条件であった。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	早	多	ほ場での初発確認は5月1日で、発生時期は早かった。全県的に発生が見られ(発生ほ場率86%)、発生量は多かった。	前年の発生量は多く、伝染源が多かったと考えられる。また、コムギの開花期ごろである4月中旬以降、長くても5～6日間隔で降雨があり、感染のタイミングが複数回あったと考えられる。さらに、新導入品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量が多くなった。	開花期頃から1～2回の薬剤防除。抵抗性弱品種については、2～3回の薬剤防除。麦類の開花期に気温が高く、降水量は平年並または多い気象予報だったことから、4月27日に注意報を発表した。開花期に曇雨天が続いたほ場では、追加防除が実施された。
	黒節病	やや早	やや少	ほ場での初発確認は3月9日で、発生時期はやや早かった。発生ほ場率はやや低かった。	播種以降の年内生育は旺盛であったが、年明け以降3月ごろまでの降水量は少なく、感染に抑制的であった。また、前年の麦類黒節病の発生量が少なく、伝染源も少なかったと考えられる。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種防除。
オオムギ	うどんこ病	早	やや多	ほ場での初発確認は3月14日で、平年より1か月程度早かった。過去10年で4回しか発生を確認していないので、平年と比較すると、発生はやや多くなった。	播種時期の11月の気温が高く、初期生育が旺盛であったため、発生時期が早まった。また、3月から5月の気温が高く、4月から5月の降水量が多かったことから、感染しやすい条件であった。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	早	多	ほ場での初発確認は5月1日で、発生時期は早かった。全県的に発生が見られ(発生ほ場率71.1%)、発生量は多かった。	前年の発生量は多く、伝染源が多かったと考えられる。また、コムギの開花期ごろである4月中旬以降、長くても5～6日間隔で降雨があり、感染のタイミングが複数回あったと考えられる。さらに、新導入品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量が多くなった。	開花期ごろから2回の薬剤防除。麦類の開花期に気温が高く、降水量は平年並または多い気象予報だったことから、4月27日に注意報を発表した。開花期に曇雨天が続いたほ場では、追加防除が実施された。
	黒節病	早	やや少	ほ場での初発確認は3月10日で、発生時期は早く、発生量はやや少なかった。	播種以降の年内生育は旺盛であったが、年明け以降3月ごろまでの降水量は少なく、感染に抑制的であった。また、前年の麦類黒節病の発生量が少なく、伝染源も少なかったと考えられる。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種防除。

ウ 発生量調査

(ア) オオムギ

病害虫名 調査地点名	小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
湖南省 菩提寺	0	0	0	0	100	1.3	20	0.2	0
近江八幡市 長田町	0	0	0	0	0	0	100	3.6	0
竜王町 岡屋	0	0	0	0	60	0.4	0	0	0
東近江市 建部北町	0	0	0	0	20	0.1	20	0.2	0
長浜市 高月町柳野中	0	0	0	0	80	0.5	0	0	0
長浜市 湖北町山本	20	0.1	100	12.4	80	0.5	40	1.0	0
長浜市 口分田町	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
高島市 今津町下弘部	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
高島市 新旭町藁園	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
全県平均	2.2	0.0	11.1	1.4	71.1	0.6	20.0	0.6	0

注：調査品種 近江八幡市長田町は「ニューサチホゴールデン」、その他の地点は「ファイバースノウ」

(イ) コムギ

病害虫名 調査地点名	赤さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
大津市 関津	0	0	40	0.0	100	4.4	40	0.4	0
草津市 下笠町	0	0	0	0	100	4.7	0	0	0
守山市 赤野井町	20	0.0	0	0	80	0.5	0	0	0
守山市 矢島町	100	0.1	0	0	60	0.5	20	0.2	1
栗東市 上砥山	0	0	0	0	100	7.1	40	0.4	0
野洲市 上屋	0	0	0	0	80	0.8	0	0	0
野洲市 西河原	0	0	0	0	60	1.2	40	0.4	0
甲賀市 水口町酒人	20	0.0	0	0	100	2.7	0	0	0
甲賀市 甲南町杉谷	20	0.0	0	0	80	0.9	0	0	0
近江八幡市 野村町	0	0	0	0	80	1.1	60	0.6	0
近江八幡市 安土町上豊浦	0	0	0	0	100	3.5	20	0.4	1
近江八幡市 御所内町	0	0	0	0	100	2.0	0	0	0
近江八幡市 多賀町	0	0	0	0	80	1.6	40	0.8	1
近江八幡市 島町	0	0	0	0	100	4.0	0	0	10
日野町 十禅師	0	0	0	0	100	2.4	40	0.6	1
竜王町 小口	0	0	0	0	100	1.2	40	0.4	0
東近江市 横山町	20	0.0	20	0.0	60	0.7	20	0.2	5
東近江市 上羽田町	0	0	60	0.1	100	3.6	60	0.6	0
東近江市 福堂町	0	0	0	0	100	1.9	40	0.4	1
東近江市 高木町	0	0	20	0.0	100	2.9	20	0.2	0
東近江市 長町	0	0	0	0	100	2.3	0	0	0
彦根市 甘呂町	0	0	0	0	100	0.7	20	0.2	0
彦根市 普光寺	0	0	0	0	100	1.2	20	0.2	0
愛荘町 東円堂	0	0	20	0.1	60	0.9	20	0.2	0
甲良町 法養寺	0	0	40	0.0	0	0	60	0.8	0
多賀町 敏満寺	0	0	0	0	40	0.3	20	0.2	0
米原市 新庄	0	0	0	0	100	1.5	0	0	0
米原市 本市場	0	0	0	0	100	0.7	40	0.8	0
米原市 上多良	0	0	0	0	100	1.9	20	0.2	0
長浜市 本庄町	0	0	0	0	100	0.7	0	0	10
全県平均	8.3	0.0	5.6	0.0	85.0	2.0	21.7	0.3	0.9

注：調査品種

「びわほなみ」 大津市関津、栗東市上砥山、竜王町小口、日野町猫田、近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、島町、東近江市上羽田、高木町、福堂町、長町、米原市新庄、上多良

「農林61号」 草津市下笠町、守山市赤野井町、野洲市上屋、西河原、甲賀市水口町酒人、甲南町杉谷、本市場、本庄町

「ふくさやか」 東近江市横山、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺、彦根市普光寺町、甘呂町

「シロガネコムギ」 守山市矢島町

「ミナミノカオリ」 近江八幡市野村町

エ 初発見日と初発見場所

病害虫名	オオムギ		コムギ	
	初発見月日	初発見場所	初発見月日	初発見場所
さび病類	5/17	長浜市湖北町山本	5/8	守山市矢島町
うどんこ病	3/14	長浜市湖北町山本	4/11	守山市矢島町
赤かび病	5/1	高島市新旭町藁園	5/1	近江八幡市安土町大中
黒節病	3/10	近江八幡市長田町	3/9	甲良町法養寺
株腐病	5/10	高島市新旭町藁園	4/11	東近江市上羽田町
縞萎縮病	—	—	3/1	守山市矢島町
アブラムシ類	4/11	竜王町岡屋	4/11	甲良町法養寺
ハモグリバエ類	4/11	竜王町岡屋	4/11	竜王町岡屋
ムギダニ	—	—	—	—

注：「—」は発生を認めなかった。

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
オオムギ	1714	さび病類	0	0	0	40	40	2.3	0	0	0
		うどんこ病	0	40	50	100	190	11.1	5.3	200	400
		赤かび病	0	0	0	1200	1200	70.0	0	1720	3440
		黒節病	0	0	50	300	350	20.4	2.9	0	0
コムギ	6780	さび病類	0	0	0	400	400	5.9	0	1500	2000
		うどんこ病	0	0	0	400	400	5.9	0	1500	2000
		赤かび病	0	0	550	5000	5550	81.9	8.1	6460	14000
		黒節病	0	0	0	1500	1500	22.1	0	0	0

注：被害面積率 = (程度別発生面積の甚～中の和) / (栽培面積)

(3) ばれいしょ

ア 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ	疫病	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期、発生量はともに平年並であった。	4月以降は高温で推移したものの、4月から6月にかけて強い降雨が複数回みられたため増殖が抑制され、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	ニジュウヤホシテントウ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月9日で、発生時期、発生量はともに平年並であった。	昨年の発生量は平年並であったが、冬期に数回厳しい気温の低下があった。そのため、越冬量が抑制され、4月以降は高温で推移したものの、発生量は平年並となった。	食害が顕著になった場合のみ防除されている。

イ 発生量

調査地点	病害虫名	発生量	
		疫病 発病度	アブラムシ類 寄生度
		6月16日	6月16日
草津市	下笠町	0	2
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	25

ウ 発生状況一覧表

	病害虫名	初発見月日	初発見場所
ばれいしょ	疫病	6月6日	高島市安曇川町青柳
	アブラムシ類	5月8日	湖南市菩提寺
	ニジュウヤホシテントウ類	5月9日	野洲市小南

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ばれいしょ	30	疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	16.7	0	1	1
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	10	10	33.3	0	0	0

※被害面積率 = (程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

(4) ダイズ

ア 生育概況

6月中旬は降雨が少なく出芽・苗立ちは良好であったが、6月下旬～7月前半は断続的に降雨があり、一部では降雨による出芽不良が見られ、播種も停滞した。7月16日の梅雨明け以降は降雨が少なく、8月上旬にかけて播種が進んだが、一部のほ場は乾燥により出芽揃いが悪くなった。

6月下旬～7月前半に播種し出芽不良が見られたほ場では、湿害の影響により生育が遅れた。しかし、梅雨明け以降は高温多照となり8月に入ると周期的に降雨もあり、生育は良好となった。

7月下旬以降に播種したほ場では主茎長が短く、播種時期により生育の差が大きくなった。

降雨により中耕培土や適期の除草剤散布が不十分なほ場は、8月下旬頃から雑草が多発した。

8月中旬～11月第1半旬は、10月上旬の低温寡照を除き、期間全体の日照時間は平年並～多く推移し、降水量は平年並～少なく周期的に降雨があったことから、子実の肥大は順調に進んだ。

病害虫の発生では、一部の地域でタバコガ類やハスモンヨトウの発生が多かった。

10月中旬頃から葉の黄化が始まったが、11月上旬の気温が高く落葉が一部遅れた。台風の影響は少なく、生育は概ね良好であったことから、平年と比べ収量・品質は良好であった。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ダイズ	べと病	早	並	ほ場での初発確認は7月20日で、発生時期は早く、県内全域で発生が認められたが、発病度は平年並であった。	6月から7月中旬までの降水量が多く、初発時期は早まった。その後、全県で発生が認められたが、7月以降は高温が続き、感染には抑制的であった。	本病への薬剤防除は未実施。
	葉焼病	早	並	ほ場での初発確認は7月25日で、発生時期は早く、県内全域で発生が認められたが、発病度は平年並であった。	8月中旬の発生量は少なかったが、8月15日ごろに近畿地方に台風7号が接近後、発生が県内全域に広がった。	本病への薬剤防除は未実施。
	ハスモンヨトウ	早	やや多	7月のフェロモントラップへの飛来量がやや多かった。ほ場での初発確認は7月27日で、発生時期は早かった。ほ場での発生量は8月中旬は平年並だったが、9月は高温寡雨であったことから発生量が増加し、9月中旬にはやや多となった。	8月第6半旬以降の高温および寡雨により増殖に好適な条件となったと考えられる。	8月下旬以降、1～2回の薬剤防除が実施されている。鱗翅目害虫の常発地では3～4回防除されることもある。フェロモントラップでの発生量がやや多かったことから、8月9日に防除情報を発出した。
	タバコガ類	早	並	フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数は7月以降、タバコガは6月以降、多く推移した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は7月20日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	6月の降水量はやや多かったが、降雨のあった日数が少なく、飛来量が多くなったと考えられる。また、7月以降高温が続き、本種の増殖に好適な条件となったと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。今年、タバコガの誘殺数が6月時点で多く、露地野菜で早期から被害果も確認されたことから、6月28日にタバコガを対象とした防除情報を発出した。その後、オオタバコガを含め多発生傾向が続いたことから、7月27日にタバコガ類の注意報を発出した。
	フタスジヒメハムシ	やや早	やや少	ほ場での初発確認は6月26日で、発生時期はやや早かった。一部多発生・中発生ほ場も確認されたが、全体の発生量はやや少なかった。	種子塗抹処理剤の利用が進んでおり、発生が抑制された。発生の多いほ場は、同剤を使用していないか、本種に適用のない同剤を使用していると思われる。	種子塗抹処理剤により初期防除されている。近年、この剤の残効が切れてからの被害が一部地域で発生している。このため、結莢期にも一部防除が実施されている。
	カメムシ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は遅かった。9月の調査において、全体の発生量はやや少なかったが、県南部ではミナミアオカメムシが多発生していたほ場があり、一部ほ場での発生量は多かった。	5月から6月下旬までの気温はやや高く、7月の気温は高かったが、同期間および梅雨期間に強い降雨が複数回あり降水量が多く、発生量が抑制されたと考えられる。また、昨年多発したミナミアオカメムシの個体数が、本年は少なくなったことも、発生量がやや少となった要因の一つである。	通常、開花期以降に薬剤散布により防除されるが、近年、ハスモンヨトウの発生量が多く、鱗翅目害虫に対する防除を実施した場合、カメムシの防除が省略される場合がある。
	アブラムシ類	早	少	ほ場での初発確認は7月20日で、発生時期は早かったが、発生量は少なかった。	黄色水盤での誘殺数は、4月以降やや少く推移した。6月～8月にかけて強い降雨が複数回あったことから、発生量は少なく抑えられた。	種子塗抹処理剤による初期防除が行われている。
	ハダニ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月17日と遅かった。発生量はやや少なかった。	8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制されたと考えられる。	甚発生した場合のみ防除が実施される。

ウ 発生量調査

(8月17～18日調査、開花期)

病害虫名		べと病		葉焼病	カメムシ類	フタスジヒメハムシ	ハダニ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	発生ほ場率 (%)	発生ほ場率 (%)	虫数 (頭/a)	虫数 (頭/株)	発生株率 (%)	発生ほ場率 (%)
調査地点								
大津市	堂	50	0	0	0	0.1	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0.1	0	0
守山市	木浜町	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0.4	5	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0.1	0	0
野洲市	永原	50	0	0	0	0.0	0	0
湖南市	朝国	50	0	0	0	0.1	0	0
甲賀市	水口町植	0	0	2.0	0	0	10	0
近江八幡市	野村町	50	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	安土町大中	100	0	0	0	0	0	50
日野町	十禅寺	0	0	0	0	0.3	0	0
竜王町	岡屋	0	50	0	0	0	0	50
東近江市	市原野町	0	0	0	0	0	0	0
東近江市	福堂町	100	0	0.5	0.0	0.0	10	0
彦根市	新海町	50	0	0	0	0.1	5	50
愛荘町	東円堂	100	0	0	0	0	10	50
豊郷町	八町	0	0	0	0	0.1	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0.0	5	0
米原市	顔戸	0	0	0	0	0.0	0	0
長浜市	口分田町	0	0	0	0	0.1	0	0
長浜市	高月町西阿閉	0	0	0	0	0.2	0	0
長浜市	湖北町山本	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	50	0	0	0	0.8	0	0

(9月20日調査、若莢期)

病害虫名		べと病		葉焼病		カメムシ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	平均発病度	発生ほ場率 (%)	平均発病度	虫数 (頭/a)	白変か所数 (か所/a)
調査地点							
大津市	堂	100	1.0	100	1.0	11.0	0.5
草津市	下笠町	100	3.5	100	2.0	0	3.0
守山市	木浜町	100	4.5	100	1.5	0	3.5
守山市	赤野井町	100	4.0	0	0	1.0	5.5
栗東市	上砥山	100	10.0	100	4.0	1.0	0
野洲市	永原	100	1.0	100	5.0	0.5	0.5
湖南市	朝国	100	4.5	100	1.5	1.5	1.5
甲賀市	水口町植	100	3.5	100	2.5	0	3.5
近江八幡市	野村町	0	0.0	100	11.0	1.5	0
近江八幡市	安土町大中	100	13.0	100	14.0	0	1.0
日野町	十禅寺	100	20.0	100	22.0	1.0	1.5
竜王町	岡屋	0	0	100	12.5	0	0
東近江市	市原野町	100	11.0	100	2.5	0	3.0
東近江市	福堂町	100	20.5	100	3.5	0	1.5
彦根市	新海町	100	16.0	50	1.0	1.0	5.0
愛荘町	東円堂	100	21.5	100	19.0	0.5	1.5
豊郷町	八町	100	9.0	100	13.5	0	1.0
甲良町	法養寺	100	3	50	1.0	0	2.0
米原市	顔戸	100	5.0	100	7.0	0	0.5
長浜市	口分田町	50	1.5	100	9.5	0	0
長浜市	高月町西阿閉	50	1.5	100	29.0	0	0
長浜市	湖北町山本	100	4.0	100	27.5	0	0
高島市	マキノ町知内	100	6.0	100	14.0	0.5	0.5

エ 発生状況一覧表

病害虫名	初発見月日	初発見場所
べと病	7月20日	野洲市永原
葉焼病	7月25日	竜王町岡屋
茎疫病	8月17日	東近江市市原野町
白絹病	8月17日	豊郷町八町

病害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	7月20日	甲賀市水口町植
ハダニ類	8月17日	守山市赤野井町
ハスモンヨトウ	7月27日	近江八幡市安土町大中
タバコガ類	7月20日	竜王町岡屋
カメムシ類	8月17日	甲賀市水口町植
フタスジヒメハムシ	6月26日	草津市下笠町
コガネムシ類	7月14日	近江八幡市安土町大中
サヤムシガ類	-	-

注：「-」は発生を認めなかった。

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ダイズ	7,280	べと病	0	0	0	6,000	6,000	82.4	0	0	0
		葉焼病	0	0	700	5,600	6,300	86.5	9.6	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	500	500	6.9	0	2,600	2,600
		ハスモンヨトウ	100	100	800	2,600	3,600	49.5	13.7	2,600	2,600
		食葉性鱗翅目幼虫	0	0	0	2,250	2,250	30.9	0	2,600	2,600
		ハダニ類	0	0	0	1,000	1,000	13.7	0	10	10
		カメムシ類	0	150	0	1,650	1,800	24.7	2.1	1,300	2,600
フタスジヒメハムシ	0	0	750	2,850	3,600	49.5	10.3	2,000	2,000		

被害面積率 = (程度別発生面積・甚～中の和) / (栽培面積)

5 野菜（露地）病害虫発生予察事業

ナス科、ウリ科およびアブラナ科を中心として、露地野菜全般における主要病害虫を調査した。その結果に基づく病害虫発生予察情報として、発生予報 10 回、防除情報 5 回（カブラヤガ、タバコガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ・ハスモンヨトウ、タマネギベと病）、注意報 2 回（タバコガ、タマネギベと病）および特殊報 1 回（トマトキバガ）を発表した。

(1) 野菜

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	うどんこ病 (夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ)	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は6月15日で、発生時期はやや遅かった。初発以降の発生はやや少なく推移した。	7月以降の気温が高く、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	灰色かび病 (夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ハスモンヨトウ	早	やや多	7月のフェロモントラップへの飛来量がやや多かった。ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は早かった。ほ場での発生量は8月中旬は平年並だったが、9月は高温寡雨であったことから発生量が増加し、9月中旬にはやや多となった。	8月第6半旬以降の高温および寡雨により増殖に好適な条件となったと考えられる。	主産地では定期的な薬剤防除がされている。アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用が実施されている。フェロモントラップでの発生量がやや多かったことから、8月9日に防除情報を発出した。
	オオタバコガ	早	やや多	フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数は7月以降、タバコガは6月以降、多く推移した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は6月26日で、発生時期は早く、発生量はやや多かった。	6月の降水量はやや多かったが、降雨のあった日数が少なく、飛来量が多くなったと考えられる。また、7月以降高温が続き、本種の増殖に好適な条件となったと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。今年は、タバコガの誘殺数が6月時点で多く、早期から被害果も確認されたことから、6月28日にタバコガを対象とした防除情報を発出した。その後、オオタバコガを含め多発生傾向が続いたことから、7月27日にタバコガ類の注意報を発出した。
	ヨトウガ	平年並	少	フェロモントラップへの誘殺数は少なく推移したが、ほ場では発生を確認していない。	フェロモントラップでの誘殺数は少なかった。ほ場では発生密度が低いため、確認できなかった。	主産地では定期的な薬剤防除が実施されている。また、アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用による防除が実施されている。
	アザミウマ類	遅	平年並	ほ場での初発は4月11日で、発生時期は遅かった。全体の密度は期間を通し平年並であった。	6月上旬から7月中旬の降雨により一旦密度が抑制されたが、7月下旬から8月中旬までの降雨が少なく、増殖が助長され、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	コナジラミ類 (夏秋トマト、夏秋キュウリ)	早	平年並	ほ場での初発確認は6月15日で、発生時期は早かった。発生量は平年並であった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされる。微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	アブラムシ類	早	やや少	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期は早かった。ほ場での発生量はやや少なかった。	例年は5月下旬から6月上旬にかけて発生ピークが現れる。本年は発生量が少なく、同時期に明確なピークが現れなかった。4月から6月にかけて強い降雨が複数回みられたため増殖が抑制され、栽培期間を通して発生量が抑制されたと考えられる。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除が実施されている。
	ハダニ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月30日で、発生時期、発生量ともに平年並であった。	7月以降、気温が高く推移したが、7月の降水量は多く、増殖に抑制が効き、発生量は平年並であった。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
ナス科野菜	疫病 (夏秋トマト)	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	葉かび病 (夏秋トマト)	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	すすかび病 (夏秋トマト、夏秋ナス)	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	黄化葉巻病 (夏秋トマト)	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	媒介虫であるコナジラミ類の防除。
	ニジュウヤホシテントウ類	早	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	4月の気温が高く、本年は移植後早期から初発が認められた。昨年の発生量は平年並であったが、冬期に数回厳しい気温の低下があった。そのため、越冬量が抑制され、4月以降は高温で推移したものの、発生量は平年並となった。	被害が顕著になった場合のみ防除されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
アブラナ科 野菜	軟腐病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	定植後9月後半まで台風などの襲来がなかったことから、発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	黒腐病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	定植後9月後半まで台風などの襲来がなかったことから、発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	菌核病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生は少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	ネキリムシ類	-	-	フェロモントラップでの誘殺時期と発生量は平年並であった。	4月の誘殺数は多かったが、6月以降の強い降雨により増殖が抑制され、発生量は平年並であった。	播種または定植時の粒剤等の防除が実施されている。4月の誘殺数が多かったことから、5月1日に防除情報を発出した。
	ハイマダラノメイガ	やや遅	やや多	ほ場での初発確認は9月19日で、発生時期はやや遅く、発生量はやや多かった。	8月中旬の台風の接近はあったものの、7月以降、高温で推移したため、発生量はやや多かった。防除したほ場と、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。
	コナガ	早	少	ほ場での初発確認は8月17日で、発生時期は早かったが、発生量は少なかった。また、フェロモントラップでの誘殺数は、期間を通じて少なく推移した。	昨年の発生量はやや少なく、また本種の発生量が増加する5～6月にかけて強い降雨が複数回みられたため増殖が抑制されたと考えられる。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	モンシロチョウ	平年並	やや少	ほ場での初発確認は9月20日で、発生時期は平年並、発生量はやや少なかった。	定植前にセルトレイ灌注や粒剤施用されている場合も多く、無防除のほ場との被害の差は顕著である。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。
キュウリ	べと病	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月30日で、発生時期は平年並、発生量はやや少なかった。	7月以降の気温が高く、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	褐斑病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	炭疽病	-	-	ほ場での初発確認は6月15日であった。	初発以降、6月中旬～7月中旬までの降水量は平年並であった。	発生初期に防除の実施。
	斑点細菌病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
タマネギ	べと病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は3月9日で、平年並であった。少発生ほ場が散見された。令和6年産は、令和6年3月中旬の発生はやや多くなった。	発生初期である2月から3月の降水量はやや少なく、感染に抑制的であった。一方で、4月から5月の降水量は多く、二次伝染が認められた。	2月の予防防除と発生初期から定期的な薬剤防除が実施されている。令和6年3月26日に注意報を発出した。
	白色疫病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
ネギ	さび病	遅	平年並	ほ場での初発確認は6月20日で遅く、一部ほ場で発生が認められた。	4月～6月の降水量は多かったが、気温が高く、発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	黒斑病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生はほとんど認められず、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	べと病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月20日で、一部ほ場で発生が認められた。	4月～6月の降水量は多かったが、気温が高く、発生量は平年並となった。	発生初期に防除の実施。
	ネギコガ	-	-	ほ場での初発確認は7月3日であった。	育苗時もしくは定植時の防除の有無によって発生量の差が大きく、無防除ほ場で発生がみられた。	育苗時の灌注処理や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は、ネギアザミウマと同時防除されている。
	ネギハモグリバエ	-	-	ほ場での初発確認は9月20日であった。	育苗時もしくは定植時の防除の有無によって発生量の差が大きく、無防除ほ場で発生がみられた。	育苗時の灌注処理や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は、ネギアザミウマと同時防除されている。
	シロイチモジヨトウ	-	少	ほ場での発生を認めなかった。	フェロモントラップには誘殺されるが、本県でのほ場での発生は通常ほとんど見られない。さらに、ハスモンヨトウなど他害虫と同時防除されている。	発生時に薬剤散布が実施されている。

イ 予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤による調査

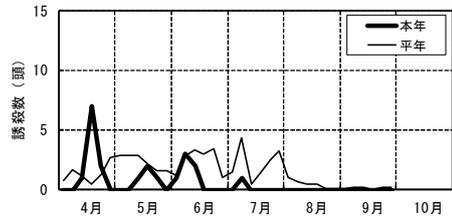
(ア) 予察灯による調査

コナガ半旬別誘殺状況(予察灯)

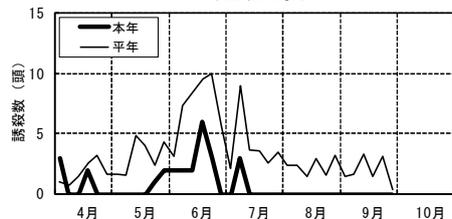
(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.8	0.8	3	3	1.0	1.0	1	1.9	1.9	0	0	0	0	1	1	0	0	
2	0	0	1.7	2.4	2.4	0	3	0.7	1.7	2	3	2.0	3.9	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.4
3	1	1	1.1	3.6	3.6	0	3	1.5	3.2	4	7	2.4	6.3	0	0	0.2	0.4	0	0	0.1	0.6
4	7	8	0.4	4.0	4.0	2	5	2.6	5.8	12	19	3.2	9.5	0	0	0.5	0.9	0	0	0.7	1.2
5	2	10	1.3	5.3	5.3	0	5	3.2	9.0	1	20	4.7	14.2	1	1	0.9	1.8	0	0	1.9	3.1
6	0	10	2.7	8.0	8.0	0	5	1.7	10.7	4	24	4.4	18.6	0	1	0.3	2.1	0	0	0.6	3.7
5	1	0	10	2.9	10.9	0	5	1.7	12.4	3	27	5.0	23.6	0	1	0.6	2.7	0	0	1.2	4.9
2	0	10	2.9	13.8	13.8	0	5	1.6	14.0	4	31	8.1	31.7	0	1	0.4	3.1	0	0	0.6	5.4
3	1	11	2.9	16.7	16.7	0	5	4.9	18.9	2	33	10.1	41.8	0	1	0.4	3.5	0	0	3.0	8.4
4	2	13	2.1	18.8	18.8	0	5	4.0	22.9	0	33	5.6	47.4	2	3	0.4	3.9	0	0	1.9	10.3
5	1	14	1.6	20.3	20.3	1	6	2.4	25.3	0	33	6.1	53.5	0	3	0.8	4.7	1	1	1.6	11.9
6	0	14	1.6	21.9	21.9	2	8	4.3	29.6	1	34	4.5	58.0	0	3	0.3	5.0	0	1	1.0	12.9
6	1	15	1.2	23.1	23.1	2	10	3.1	32.7	10	44	3.7	61.7	0	3	0.3	5.3	0	1	1.0	13.9
2	3	18	2.9	26.0	26.0	2	12	7.3	40.0	5	49	4.8	66.5	0	3	0.8	6.1	1	2	0.9	14.8
3	2	20	3.4	29.4	29.4	2	14	8.4	48.4	5	54	5.9	72.4	0	3	0.4	6.5	0	2	2.2	17.0
4	0	20	3.0	32.4	32.4	6	20	9.5	57.9	5	59	7.7	80.1	0	3	1.3	7.8	0	2	3.7	20.7
5	0	20	3.4	35.8	35.8	3	23	10.0	67.9	1	60	9.7	89.8	0	3	1.5	9.3	0	2	4.0	24.7
6	0	20	1.0	36.8	36.8	0	23	5.6	73.5	7	67	9.0	98.8	0	3	1.9	11.2	0	2	4.5	29.2
7	1	0	20	1.5	38.3	0	23	2.1	75.6	8	75	6.0	104.8	0	3	0.8	12.0	0	2	2.7	31.9
2	1	21	4.4	42.7	42.7	3	26	9.0	84.6	9	84	8.7	113.5	0	3	0.6	12.6	0	2	2.9	34.8
3	0	21	0.5	43.2	43.2	0	26	3.7	88.3	2	86	7.3	120.8	0	3	0.2	12.8	0	2	1.0	35.8
4	0	21	1.4	44.6	44.6	0	26	3.6	91.9	2	88	8.3	129.1	0	3	0.4	13.2	0	2	2.5	38.3
5	0	21	2.6	47.1	47.1	0	26	2.6	94.5	1	89	11.6	140.7	0	3	0.2	13.4	0	2	1.9	40.2
6	0	21	3.2	50.3	50.3	0	26	3.5	98.0	0	89	8.3	149.0	1	4	0.6	14.0	0	2	1.2	41.4
8	1	0	21	1.0	51.3	0	26	2.4	100.4	0	89	5.0	154.0	0	4	0.2	14.2	0	2	1.1	42.5
2	0	21	0.7	52.0	52.0	0	26	2.4	102.8	0	89	3.2	157.2	0	4	0.2	14.4	0	2	1.9	44.4
3	0	21	0.5	52.5	52.5	0	26	1.5	104.3	0	89	3.5	160.7	0	4	0.5	14.9	0	2	1.6	46.0
4	0	21	0.4	52.9	52.9	0	26	2.9	107.2	0	89	3.0	163.7	0	4	0.1	15.0	0	2	0.2	46.2
5	0	21	0.1	53.1	53.1	0	26	1.6	108.8	0	89	2.6	166.3	0	4	0.3	15.3	0	2	0.4	46.6
6	0	21	0.1	53.2	53.2	0	26	3.2	112.0	0	89	1.2	167.5	0	4	0.1	15.4	0	2	0.8	47.4
9	1	0	21	0.1	53.3	0	26	1.5	113.5	0	89	1.0	168.5	0	4	0.1	15.5	0	2	0.4	47.8
2	0	21	0.2	53.5	53.5	0	26	1.7	115.2	1	90	1.0	169.5	0	4	0.2	15.7	0	2	0.1	47.9
3	0	21	0.2	53.7	53.7	0	26	3.3	118.6	0	90	1.7	171.2	0	4	0	15.7	0	2	0.8	48.7
4	0	21	0	53.7	53.7	0	26	1.4	120.0	1	91	0.9	172.1	0	4	0	15.7	0	2	0.5	49.2
5	0	21	0.2	53.9	53.9	0	26	3.1	123.1	0	91	1.4	173.5	0	4	0	15.7	0	2	0.3	49.5
6	0	21	0.2	54.2	54.2	0	26	0.4	123.5	0	91	1.1	174.6	0	4	0	15.7	0	2	0.3	49.8
10	1									8	99	0.4	175.0								
2										3	102	1.0	176.0								
3										2	104	0.5	176.5								
4										1	105	0.6	177.1								
5										2	107	1.0	178.1								
6										2	109	2.0	180.1								

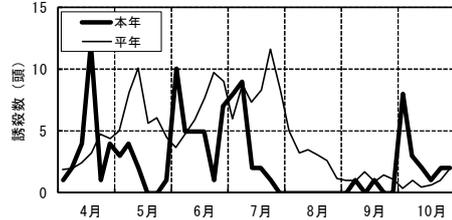
大津市里



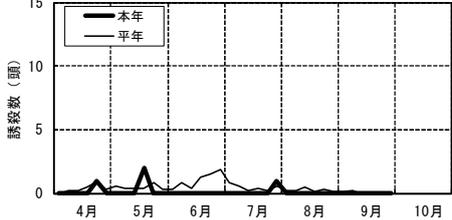
守山市矢島町



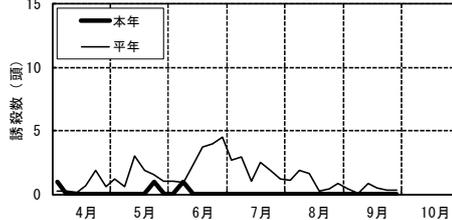
近江八幡市安土町大中



長浜市難波町



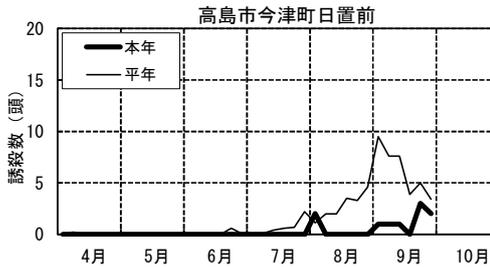
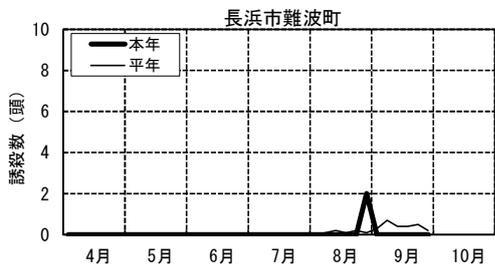
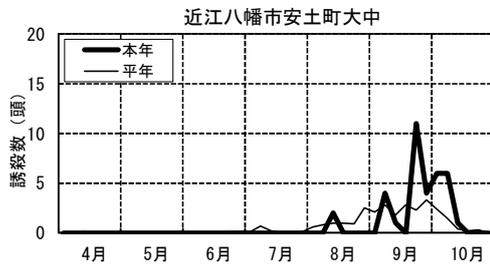
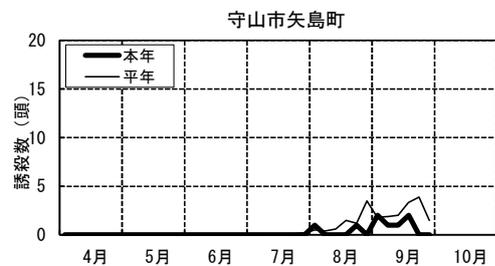
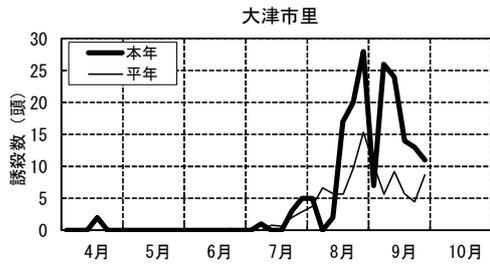
高島市今津町日置前



シロオビノメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

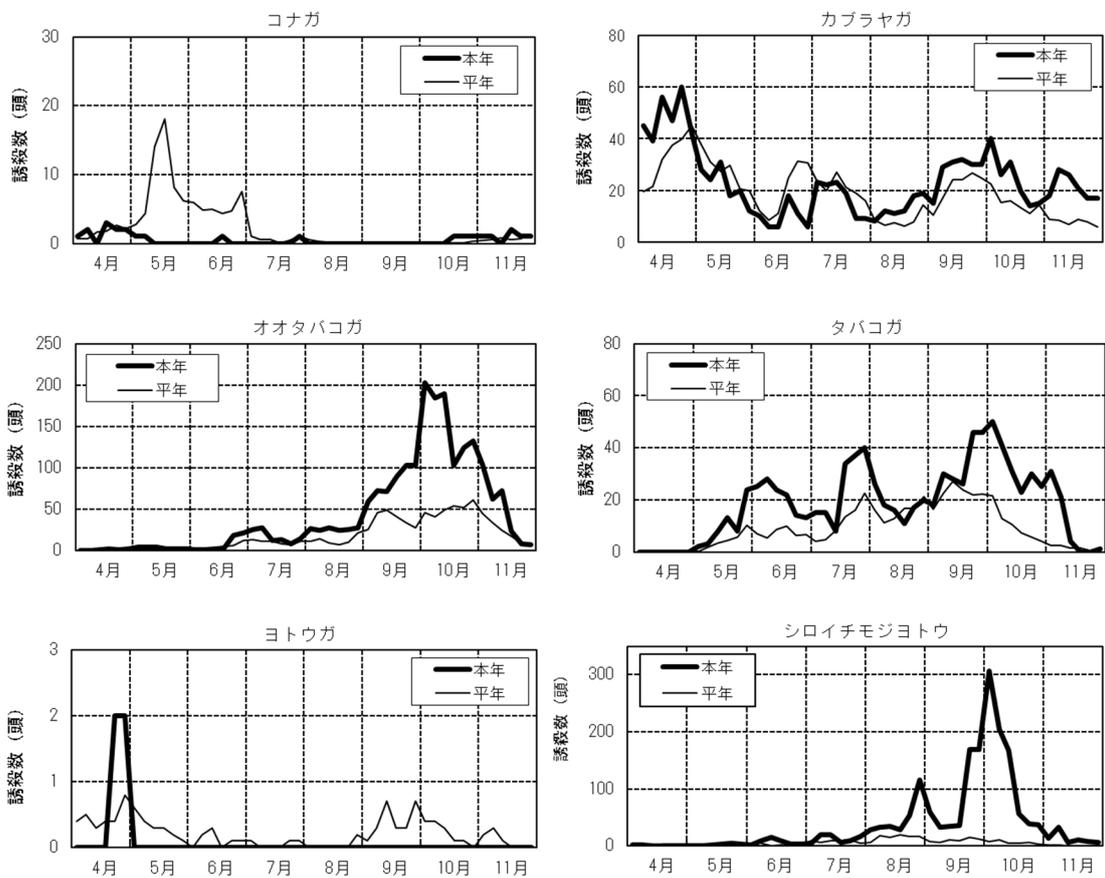
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
4 4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
4 5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
4 6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5 1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5 2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5 3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5 4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5 5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
5 6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
6 1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
6 2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
6 3	0	2	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
6 4	0	2	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
6 5	0	2	0.2	0.6	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0.6	0.9
6 6	0	2	0	0.7	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0.1	1.0
7 1	0	2	0.0	0.7	0	0	0	0	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0.1	1.1
7 2	1	3	0	0.7	0	0	0.1	0.1	0	0	0.7	1.1	0	0	0	0	0	0	0.1	1.2
7 3	0	3	0.8	1.5	0	0	0	0.1	0	0	0.2	1.3	0	0	0	0	0	0	0.4	1.6
7 4	0	3	0.7	2.1	0	0	0	0.1	0	0	0.0	1.3	0	0	0	0	0	0	0.6	2.2
7 5	3	6	2.0	4.1	0	0	0.1	0.2	0	0	0	1.3	0	0	0	0	0	0	0.7	2.9
7 6	5	11	2.9	7.0	0	0	0.2	0.4	0	0	0.1	1.4	0	0	0	0	0	0	2.2	5.1
8 1	5	16	3.8	10.8	1	1	0.5	0.9	0	0	0.6	2.0	0	0	0	2	2	1.1	6.2	
8 2	0	16	6.7	17.5	0	1	0.4	1.3	0	0	0.8	2.8	0	0	0.1	0.1	0	2	2.0	8.2
8 3	2	18	5.8	23.2	0	1	0.6	1.9	2	2	1.0	3.8	0	0	0.2	0.3	0	2	2.0	10.2
8 4	17	35	5.7	28.9	0	1	1.5	3.4	0	2	1.0	4.8	0	0	0.1	0.4	0	2	3.5	13.7
8 5	20	55	9.7	38.6	1	2	1.2	4.6	0	2	0.9	5.7	0	0	0.2	0.6	0	2	3.3	17.0
8 6	28	83	15.3	53.9	0	2	3.5	8.1	0	2	2.5	8.2	2	2	0.1	0.7	0	2	4.6	21.6
9 1	7	90	10.2	64.1	2	4	1.8	9.9	0	2	2.1	10.3	0	2	0.3	1.0	1	3	9.5	31.1
9 2	26	116	5.7	69.8	1	5	1.9	11.8	4	6	2.8	13.1	0	2	0.7	1.7	1	4	7.6	38.7
9 3	24	140	9.2	79.0	1	6	2.0	13.8	1	7	1.8	14.9	0	2	0.4	2.1	1	5	7.6	46.3
9 4	14	154	5.8	84.8	2	8	3.3	17.1	0	7	2.8	17.7	0	2	0.4	2.5	0	5	3.9	50.2
9 5	13	167	4.4	89.2	0	8	3.9	21.0	11	18	2.3	20.0	0	2	0.5	3.0	3	8	5.0	55.2
9 6	11	178	8.7	97.9	0	8	1.5	22.5	4	22	3.3	23.3	0	2	0.2	3.2	2	10	3.4	58.6
10 1									6	28	2.4	25.7								
10 2									6	34	1.5	27.2								
10 3									1	35	0.4	27.6								
10 4									0	35	0.2	27.8								
10 5									0	35	0.3	28.1								
10 6									0	35	0	28.1								



(イ) フェロモントラップによる調査
 野菜主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

月	半旬	コナガ		カブラヤガ		タバコガ		オオタバコガ		ヨトウガ		シロイチモジヨトウ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	1	0.7	45	19.7	0	0	0	0.2	0	0.4	1	0
	2	2	0.7	39	21.6	0	0	0	0.2	0	0.5	1	0
	3	0	1.6	56	32.1	0	0.1	1	0.3	0	0.3	0	0
	4	3	1.8	47	37.6	0	0.1	2	0.3	0	0.4	0	0.7
	5	2	2.6	60	39.9	0	0.3	1	0.1	2	0.4	0	1.0
	6	2	2.1	42	44.9	0	0.3	2	0.6	2	0.8	0	1.0
5	1	1	2.7	28	37.8	2	0.1	4	1.6	0	0.6	0	1.3
	2	1	4.4	24	31.1	3	1.7	4	2.3	0	0.4	0	1.3
	3	0	14.0	31	27.5	8	3.3	4	3.2	0	0.3	1	1.3
	4	0	18.1	18	29.7	13	4.5	2	3.7	0	0.3	3	1.7
	5	0	8.1	20	20.4	8	5.8	2	3.5	0	0.2	4	2.7
	6	0	6.2	12	19.8	24	10.2	2	4.0	0	0.1	3	4.3
6	1	0	6.0	10	11.9	25	7.0	1	3.4	0	0.0	2	5.0
	2	0	4.9	6	8.5	28	5.3	1	3.0	0	0.2	9	4.7
	3	0	5.0	6	11.1	24	8.7	2	2.1	0	0.3	15	0.3
	4	1	4.3	18	24.8	22	9.9	3	4.7	0	0	9	1.7
	5	0	4.7	11	31.3	14	6.4	18	5.7	0	0.1	3	0.7
	6	0	7.5	6	30.5	13	6.6	21	12.3	0	0.1	3	2.3
7	1	0	1.1	23	23.6	15	4.2	25	13.1	0	0.1	4	9.0
	2	0	0.6	22	19.9	15	4.6	27	11.3	0	0	20	6.3
	3	0	0.5	23	27.0	8	8.3	12	11.5	0	0	20	8.7
	4	0	0.1	19	21.2	34	13.5	13	8.2	0	0	6	9.7
	5	0	0.4	9	18.9	37	16.0	8	7.0	0	0.1	9	11.0
	6	1	1.1	9	16.1	40	22.6	14	11.1	0	0.1	17	5.3
8	1	0	0.6	8	8.4	26	16.1	26	11.0	0	0.0	28	6.3
	2	0	0.3	12	6.6	18	11.3	24	14.0	0	0	33	17.3
	3	0	0.2	11	7.5	16	12.7	28	9.0	0	0	34	15.3
	4	0	0.1	12	6.1	11	16.7	24	7.5	0	0	28	19.7
	5	0	0.1	18	7.7	17	16.8	25	9.7	0	0	53	17.0
	6	0	0.2	19	14.4	20	21.2	28	21.4	0	0.2	116	16.0
9	1	0	0.1	15	10.4	18	16.3	59	25.7	0	0.1	59	7.3
	2	0	0.1	29	16.9	30	22.6	72	45.4	0	0.3	33	5.7
	3	0	0.1	31	24.0	28	27.2	71	48.5	0	0.7	34	11.3
	4	0	0.2	32	24.2	26	23.9	90	40.6	0	0.3	36	8.8
	5	0	0.2	30	26.6	46	22.0	103	33.9	0	0.3	169	14.3
	6	0	0.2	30	24.8	46	22.3	103	27.3	0	0.7	169	12.0
10	1	0	0.1	40	22.6	50	21.5	203	46.3	0	0.4	307	8.3
	2	0	0.1	26	15.3	41	12.7	184	41.1	0	0.4	204	11.0
	3	0	0.1	31	16.0	31	10.7	190	48.6	0	0.3	168	5.3
	4	1	0.1	20	13.2	23	7.2	103	53.6	0	0.1	57	5.0
	5	1	0	14	11.2	30	5.6	124	52.1	0	0.1	38	6.0
	6	1	0.3	15	14.2	25	4.0	132	61.4	0	0.0	37	2.8
11	1	1	0.4	18	8.7	31	2.5	104	45.1	0	0.2	14	1.3
	2	1	0.6	28	8.4	21	2.3	62	33.7	0	0.3	32	2.0
	3	0	0.8	26	6.8	4	1.5	72	24.6	0	0	6	0.8
	4	2	0.6	21	8.7	0	1.6	23	16.8	0	0	10	0.8
	5	1	0.7	17	7.9	0	0.6	8	8.8	0	0	7	0.5
	6	1	1.3	17	6.0	1	0.2	7	5.0	0	0	6	0.5

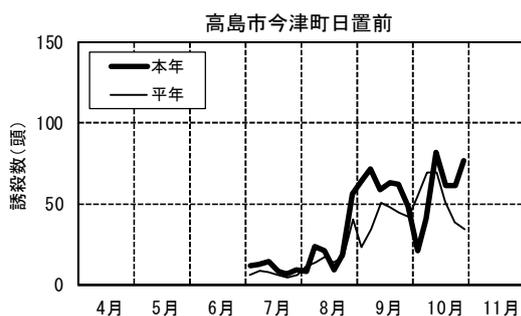
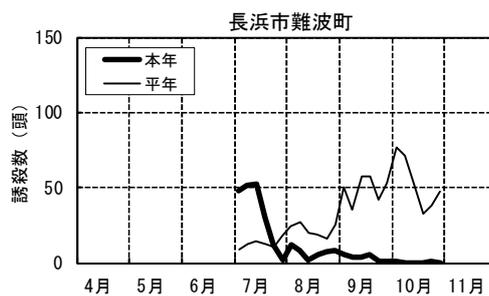
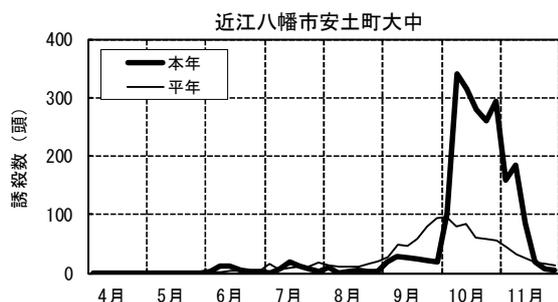


平年値は過去10年間（H25～R4）の平均値。ただし、シロイチモジヨトウのフェロモントラップはR1年度から設置したため、平年値はR1～R4の平均値である。

ハスモンヨトウ半旬別誘殺数（フェロモントラップ）

(頭)

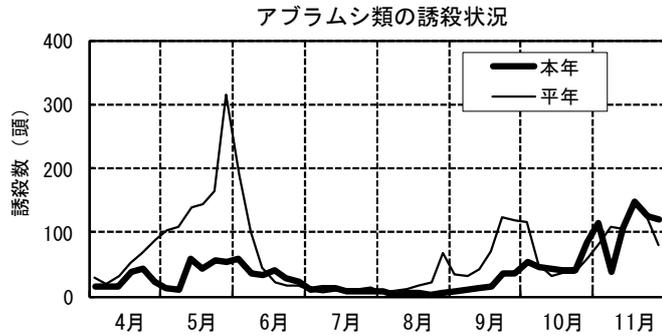
月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
4	2	0	0	0.1	0.2								
4	3	0	0	0	0.2								
4	4	0	0	0	0.2								
4	5	0	0	0.1	0.3								
4	6	0	0	0.2	0.5								
5	1	0	0	0.3	0.8								
5	2	0	0	0.7	1.5								
5	3	0	0	0.6	2.1								
5	4	0	0	0.5	2.6								
5	5	0	0	0.8	3.4								
5	6	1	1	0.7	4.1								
6	1	3	4	1.4	5.5								
6	2	12	16	2.5	8.0								
6	3	12	28	4.1	12.1								
6	4	5	33	3.4	15.5								
6	5	3	36	2.4	17.9								
6	6	2	38	3.4	21.3								
7	1	1	39	15.9	37.2	48	48	8.8	8.8	12	12	5.9	5.9
7	2	8	47	7.5	44.7	52	100	12.4	21.2	13	25	9.1	15.0
7	3	20	67	7.8	52.5	53	153	14.7	35.9	14	39	7.6	22.6
7	4	12	79	11.3	63.8	30	183	12.7	48.6	8	47	6.0	28.6
7	5	8	87	12.1	75.9	12	195	11.0	59.6	7	54	4.3	32.9
7	6	4	91	17.8	93.7	2	197	18.0	77.6	9	63	6.3	39.2
8	1	10	101	13.3	107.0	12	209	24.7	102.3	8	71	11.4	50.6
8	2	1	102	10.2	117.2	8	217	27.5	129.8	24	95	13.8	64.4
8	3	4	106	10.2	127.4	2	219	20.1	149.9	21	116	17.1	81.5
8	4	5	111	11.0	138.4	6	225	19.3	169.2	9	125	13.9	95.4
8	5	3	114	15.7	154.1	7	232	15.8	185.0	19	144	17.8	113.2
8	6	3	117	20.6	174.7	8	240	25.2	210.2	56	200	40.8	154.0
9	1	20	137	27.3	202.0	6	246	50.4	260.6	65	265	23	177.2
9	2	28	165	49.2	251.2	4	250	35.6	296.2	72	337	34.6	211.8
9	3	26	191	47.4	298.6	4	254	57.5	353.7	59	396	50.3	262.1
9	4	24	215	57.4	356.0	6	260	57.5	411.2	63	459	48.3	310.4
9	5	22	237	80.1	436.1	1	261	42.4	453.6	62	521	45.0	355.4
9	6	20	257	94.2	530.3	1	262	53.3	506.9	49	570	41.8	397.2
10	1	102	359	96.2	626.5	1	263	77.4	584.3	21	591	54.1	451.3
10	2	342	701	79.0	705.5	0	263	71.1	655.4	41	632	69.1	520.4
10	3	316	1017	85.2	790.7	0	263	53.9	709.3	82	714	69.8	590.2
10	4	280	1297	60.0	850.7	0	263	33.1	742.4	61	775	51.3	641.5
10	5	262	1559	58.6	909.3	1	264	37.9	780.3	61	836	38.5	680.0
10	6	293	1852	55.2	964.5	0	264	47.4	827.7	77	913	34.8	714.8
11	1	158	2010	43.9	1008.4								
11	2	185	2195	33.1	1041.5								
11	3	86	2281	24.8	1066.3								
11	4	20	2301	18.3	1084.6								
11	5	7	2308	14.9	1099.5								
11	6	6	2314	12.8	1112.3								



(ウ) 黄色水盤による調査

アブラムシ類半旬別誘殺数
(近江八幡市安土町大中：黄色水盤)
(頭)

月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
4	1	15	15	28.3	28.3
	2	15	30	19.4	47.7
	3	15	45	32.1	79.8
	4	38	83	51.4	131.2
	5	44	127	66.4	197.6
	6	24	151	86.7	284.3
5	1	14	165	102.9	387.2
	2	10	175	107.1	494.3
	3	58	233	137.9	632.2
	4	44	277	143.3	775.5
	5	56	333	165.6	941.1
	6	54	387	314.7	1255.8
6	1	58	445	190.8	1446.6
	2	36	481	100.9	1547.5
	3	33	514	43.5	1591.0
	4	40	554	22.6	1613.6
	5	28	582	17.2	1630.8
	6	24	606	15.9	1646.7
7	1	11	617	7.9	1654.6
	2	12	629	5.7	1660.3
	3	13	642	9.0	1669.3
	4	7	649	10.9	1680.2
	5	8	657	10.3	1690.5
	6	8	665	14.3	1704.8
8	1	7	672	7.2	1712.0
	2	3	675	8.4	1720.4
	3	4	679	10.8	1731.2
	4	4	683	17.7	1748.9
	5	3	686	22.3	1771.2
	6	5	691	67.9	1839.1
9	1	8	699	35.5	1874.6
	2	11	710	32.6	1907.2
	3	13	723	41.3	1948.5
	4	15	738	69.5	2018.0
	5	35	773	122.3	2140.3
	6	35	808	117.9	2258.2
10	1	54	862	116.0	2374.2
	2	45	907	48.9	2423.1
	3	43	950	31.3	2454.4
	4	42	992	37.5	2491.9
	5	41	1033	36.9	2528.8
	6	85	1118	58.7	2587.5
11	1	115	1233	82.5	2670.0
	2	37	1270	107.4	2777.4
	3	107	1377	106.2	2883.6
	4	147	1524	140.4	3024.0
	5	126	1650	122.6	3146.6
	6	120	1770	81.3	3227.9

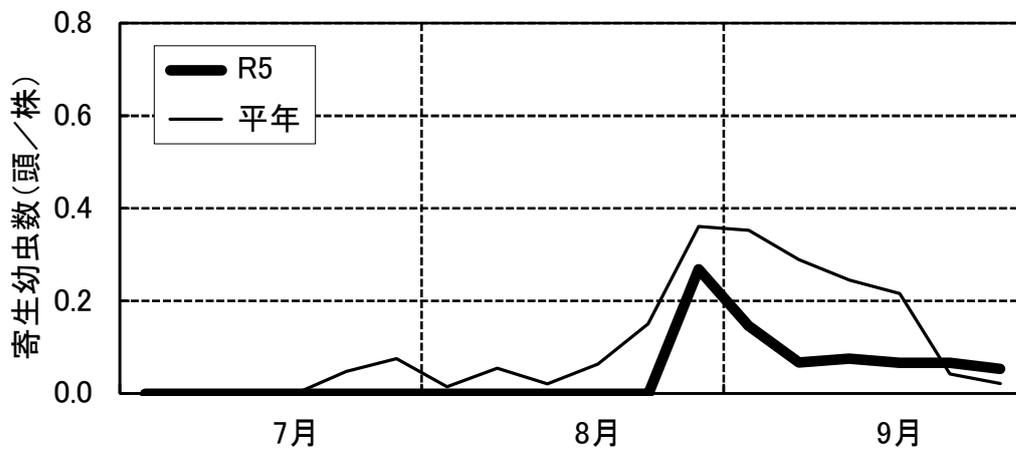


・平年値はH25～R4の10年間の平均値。

(エ) クレオメによる調査

クレオメ 1 株当たりのハイマダラノメイガ寄生幼虫数 (近江八幡市安土町大中)

月	半旬	R5		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1	0.00	0.00	0.00	0.00
	2	0.00	0.00	0.00	0.00
	3	0.00	0.00	0.00	0.00
	4	0.00	0.00	0.00	0.00
	5	0.00	0.00	0.05	0.05
	6	0.00	0.00	0.08	0.12
8	1	0.00	0.00	0.01	0.14
	2	0.00	0.00	0.05	0.19
	3	0.00	0.00	0.02	0.21
	4	0.00	0.00	0.06	0.28
	5	0.00	0.00	0.15	0.43
	6	0.54	0.54	0.36	0.79
9	1	0.27	0.80	0.35	1.14
	2	0.15	0.95	0.29	1.43
	3	0.07	1.02	0.25	1.68
	4	0.08	1.09	0.22	1.89
	5	0.07	1.16	0.04	1.93
	6	0.07	1.23	0.02	1.96



・平年値は10年間(H25~R4)の平均値

ウ 発生量調査（最終調査結果のみを記載）

(ア) トマト

調査地点	病害虫名	灰色かび病	疫病	葉かび病	うどんこ病
		発病度	発病度	発病度	発病度
調査地点		6/26	6/26	6/26	6/26
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	1.0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	1.0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	すすかび病	黄化葉巻病	アブラムシ類	コナジラミ類
		発病度	発病株率	寄生株率 (%)	寄生葉率 (%)
調査地点		6/26	6/26	7/24~7/25	7/24~7/25
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	10.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0.5
彦根市	松原町	0	0	10.0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	20.0	0
高島市今津町	深清水	0	0	4.0	0

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	アザミウマ類
		寄生株率 (%)	寄生花率 (%)
調査地点		7/24~7/25	6/26
草津市	下笠町	0	10.0
野洲市	小南	0	40.0
湖南市	菩提寺	0	50.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	20.0

(イ) ナス

調査地点	病害虫名	うどんこ病	灰色かび病	すすかび病	アブラムシ類
		発病度	発病株率 (%)	発病葉率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)
調査地点		6/26	6/26	6/26	7/24~7/25
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0.05
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類
		寄生葉率 (%)	被害果率 (%)	被害面積率 (%)	寄生葉率 (%)
調査地点		7/24~7/25	7/24~7/25	8/17	8/17
草津市	下笠町	0	1	0	0
野洲市	小南	0	1	0	0
湖南市	菩提寺	0	1	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0.5
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

(ウ) キュウリ

調査地点	病害虫名	べと病	うどんこ病	灰色かび病	褐斑病
		発病葉率 (%)	発病葉率 (%)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)
		7/24~7/25	6/26	6/26	6/26
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	20.0	20.0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	20.0	0	0	0
高島市今津町	深清水	10.0	10.0	0	0

調査地点	病害虫名	炭疽病	斑点細菌病	アブラムシ類	コナジラミ類
		全病葉率 (%)	発病葉率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		6/26	6/26	7/24~7/25	7/24~7/25
草津市	下笠町	0	0	0	0.5
野洲市	小南	0	0	0.5	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0.8	0	0.2	0
彦根市	松原町	0.1	0	0	0
甲良町	下之郷	0.8	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0.1	0	0	0

調査地点	病害虫名	アザミウマ類	ハダニ類
		1葉あたり寄生頭数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		7/24~7/25	7/24~7/25
草津市	下笠町	0.5	0
野洲市	小南	0.5	1.0
湖南市	菩提寺	1.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0.0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	2.0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

(エ) ダイコン

調査地点	病害虫名	アブラムシ類
		発生程度指数
		10/31~11/1
草津市	下笠町	2.0
野洲市	小南	4.0
湖南市	菩提寺	60.0
近江八幡市安土町	上豊浦	4.0
彦根市	松原町	0
甲良町	下之郷	10.0
米原市	世継	1.0
高島市今津町	深清水	1.0

(オ) 春キャベツ

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
		5/30~5/31	5/30~5/31
草津市	下笠町	0	1.0
野洲市	小南	0	2.0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	2.0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	1.0

(カ) 冬キャベツ

調査地点	病害虫名	黒腐病	菌核病	アブラムシ類	ハスモンヨトウ
		発病度	発病株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生株率 (%)
		10/31~11/1	10/31~11/1	10/31~11/1	10/31~11/1
草津市	下笠町	0	0	10	0
野洲市	小南	0	0	20.0	0
湖南市	菩提寺	0	0	10.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	10.0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	30.0	10.0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ	モンシロチョウ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)	10株あたり幼虫数
		10/31~11/1	10/31~11/1	10/31~11/1
草津市	下笠町	0	5.0	0
野洲市	小南	0	1.0	1.0
湖南市	菩提寺	0	0	1.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	1.0
彦根市	松原町	0	0	1.0
甲良町	下之郷	0	0	1.0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	30.0	0	0

(キ) タマネギ

調査地点	病害虫名	白色疫病	べと病	アザミウマ類
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
		4/11	4/11	5/8~5/10
草津市	下笠町	0	10.0	2.0
野洲市	小南	0	1.0	4.0
湖南市	菩提寺	0	0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	4.0	5.0
彦根市	松原町	0	10.0	15.0
甲良町	下之郷	0	4.0	1.0
米原市	世継	0	4.0	0.4
高島市今津町	深清水	0	6.0	2.4

(ク) ネギ

調査地点	病害虫名	黒斑病	べと病	さび病
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		9/19～9/20	9/19～9/20	9/19～9/20
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害株率 (%)
		10/31～11/1	9/19～9/20	10/31～11/1
草津市	下笠町	4.0	20.0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	30.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	シロイチモジヨトウ	ネギコガ	ネギハモグリバエ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害葉率 (%)
		10/31～11/1	9/19～9/20	9/19～9/20
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	1.0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	3.0
彦根市	松原町	0	0	1.0
甲良町	下之郷	0	0	2.0
米原市	世継	0	0	1.0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(ケ) サトイモ

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	アブラムシ類
		食害面積率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
		9/19～9/20	7/24～7/25
草津市	下笠町	10.0	0
野洲市	小南	5.0	5.0
湖南市	菩提寺	1.0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	5.0	4.0
彦根市	松原町	1.0	1.0
甲良町	下之郷	5.0	1.0
米原市	世継	5.0	1.0
高島市今津町	深清水	5.0	10.0

エ 初発見月日と初発見場所

(ア) ほ場

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
トマト	灰色かび病	-		キャベツ	菌核病	-	
	疫病	6/26	甲良町下之郷		黒腐病	-	
	葉かび病	-			軟腐病	-	
	うどんこ病	-			アブラムシ類	10/31	甲良町下之郷
	黄化葉巻病	-			ハスモンヨトウ	10/31	甲良町下之郷
	すすかび病	-			オオタバコガ	11/1	彦根市松原町
	モモアカアブラムシ	5/30	湖南市菩提寺		ヨトウガ	-	
	コナジラミ類	6/26	甲良町下之郷		コナガ	5/10	甲良町下之郷
	オオタバコガ	6/26	草津市下笠町		モンシロチョウ	5/8	草津市下笠町
	アザミウマ類	5/20	野洲市小南		ハイマダラノメイガ	9/19	高島市今津町深清水
ナス	ハスモンヨトウ	-		カブラヤガ	-		
	うどんこ病	-		黒腐病	-		
	灰色かび病	-		ハスモンヨトウ	10/31	甲良町下之郷	
	すすかび病	-		ヨトウガ	-		
	アブラムシ類	5/8	草津市下笠町	コナガ	11/1	草津市下笠町	
	ハダニ類	5/30	湖南市菩提寺	べと病	3/9	草津市下笠町	
	ミナミキイロアザミウマ	5/30	湖南市菩提寺	タマネギ	白色疫病	-	
	ハスモンヨトウ	-		ネギアザミウマ	4/11	野洲市小南	
	オオタバコガ	7/25	野洲市小南	さび病	6/20	大津市芝原	
	ニジュウヤホシテントウ類	5/8	彦根市松原町	黒斑病	-		
キュウリ	べと病	5/30	高島市今津町深清水	べと病	6/20	大津市芝原	
	うどんこ病	6/15	高島市今津町深清水	ネギアブラムシ	11/1	草津市下笠町	
	灰色かび病	-		ネギアザミウマ	4/11	高島市今津町深清水	
	褐斑病	7/25	草津市下笠町	ハスモンヨトウ	9/20	草津市下笠町	
	炭疽病	6/15	高島市今津町深清水	ネギコガ	7/6	近江八幡市安土町大中	
	斑点細菌病	-		ネギハモグリバエ	-		
	アブラムシ類	5/8	草津市下笠町	シロイチモジヨトウ	-		
	アザミウマ類	5/9	野洲市小南	サトイモ	ハスモンヨトウ	7/26	近江八幡市安土町大中
	コナジラミ類	6/15	湖南市菩提寺	ハダニ類	6/26	近江八幡市安土町下豊浦	
	ハスモンヨトウ	-					
オオタバコガ	-						
ダイコン	アブラムシ類	9/20	野洲市小南				

注：巡回調査において、複数種を調査対象としているものや種同定が困難なものは「～類」とした。なお、指定有害動植物は網掛けで示した。
注：「-」は発生が認められなかった。

(イ) 予察灯、フェロモントラップおよび黄色水盤

害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	4/6	近江八幡市安土町大中（黄色水盤）
ヨトウガ	4/25	近江八幡市安土町大中（P T）
ハスモンヨトウ	5/31	近江八幡市安土町大中（P T）
シロイチモジヨトウ	4/6	近江八幡市安土町大中（P T）
タバコガ	5/11	近江八幡市安土町大中（P T）
オオタバコガ	4/16	近江八幡市安土町大中（P T）
カブラヤガ	4/6	近江八幡市安土町大中（P T）
シロオビノメイガ	4/20	大津市里（予察灯）
コナガ	4/1	守山市洲本町（予察灯）

初発見場所（ ）内記号P T：フェロモントラップ

オ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
トマト	7	疫病	0	0	0	1	1	14.3	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		葉かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		すすかび病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		黄化葉巻病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	0	3	3	42.9	0	1	1
		オオタバコガ	0	0	1	1	2	28.6	14.3	2	4
		コナジラミ類	0	0	0	1	1	14.3	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	42.9	0	1	1
ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
ナス	21	うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		すすかび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	1	15	16	76.2	4.8	14	28
		オオタバコガ	0	0	1	8	9	42.9	4.8	6	14
		ヨトウガ	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	19.0	0	6	12
		ハダニ類	0	0	0	7	7	33.3	0	12	24
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	9.5	0	5	5
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	10	10	47.6	0	7	7
キュウリ	8	べと病	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
		炭そ病	0	0	0	2	2	25.0	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	2	2	25.0	0	2	2
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		褐斑病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	0	4	4	50.0	0	5	5
		ハダニ類	0	0	0	2	2	25.0	0	2	2
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	25.0	0	5	10
		コナジラミ類	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
ダイコン	54	アブラムシ類	0	0	5	32	37	68.5	9.3	25	50
		ハイマダラノメイガ	0	0	0	13	13	24.1	0	15	25
ハクサイ	89	軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	10	10
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	4.5	0	30	60
		モンシロチョウ	0	0	0	9	9	10.1	0	60	120
春キャベツ	24	アブラムシ類	0	0	0	3	3	12.5	0	10	10
		モンシロチョウ	0	0	1	9	10	41.7	4.2	10	20
		コナガ	0	0	0	6	6	25.0	0	10	20
		ヨトウガ	0	0	0	2	2	8.3	0	10	20
冬キャベツ	252	黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		菌核病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	10	10	4.0	0	120	120
		モンシロチョウ	0	0	0	65	65	25.8	0	120	240
		コナガ	0	0	0	30	30	11.9	0	120	240
		ヨトウガ	0	0	0	10	10	4.0	0	120	240
		オオタバコガ	0	0	3	80	83	32.9	1.2	120	240
		ハスモンヨトウ	0	0	0	80	80	31.7	0	120	240
ハイマダラノメイガ	0	0	2	60	62	21.8	0.8	120	240		
ブロッコリー	90	黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		コナガ	0	0	0	12	12	13.3	0	50	100
		ハスモンヨトウ	0	0	2	30	32	35.6	2.2	50	100
タマネギ	84	白色疫病	0	0	0	0	0	0	0	84	252
		べと病	0	0	0	8	8	9.5	0	84	252
		アザミウマ類	0	0	0	50	50	59.5	0	50	50
ネギ	104	さび病	0	0	0	2	2	1.9	0	40	60
		黒斑病	0	0	0	0	0	0	0	40	60
		べと病	0	0	0	5	5	4.8	0	40	60
		シロイチモジヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	20	20
		ハスモンヨトウ	0	0	0	16	16	15.4	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	4.8	0	25	40
		ネギハモグリバエ	0	0	0	45	45	43.3	0	70	140
		ネギアザミウマ	0	0	7	35	42	40.4	6.7	70	140
		ネギコガ	0	0	0	2	2	1.9	0	70	140
サトイモ	22	アブラムシ類	0	0	0	7	7	31.8	0	3	3
		ハスモンヨトウ	0	0	0	15	15	68.2	0	8	8
		ハダニ類	0	0	0	2	2	9.1	0	3	3

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)
指定有害動植物は網掛けで示した。

6 果樹等作物病害虫発生予察事業

ナシなどの主要果樹、チャおよび花き（キク）について、主要病害虫を対象とした重点調査の結果に基づき、病害虫発生予報を10回、発生予察情報として注意報1回（タバコガ類：花き類1回）、防除情報6回（チャノコカクモンハマキ：茶2回、チャノホソガ：茶1回、カンザワハダニ：茶1回、タバコガ類：花き類2回）、特殊報1回（シタバニハゴロモ：ブドウ1回）を発表した。

（1）果樹

ア 生育概況

（ア）ナシ

3月から4月中旬にかけて気温が高く推移したことから、展葉期および開花盛期は、早かった。

開花期は、降雨が少なく温暖な日が続いたため、受精・結実は良好であった。

7月から8月にかけて気温が平年より高く、降水量が少なく推移したことから、収穫時期は早く、やや小玉傾向であった。また、高温の影響から水浸果、日焼け果等の高温障害の発生がみられた。8月中旬から下旬にかけて降水量が多かったことから、中生以降の品種の収穫期はやや早かった。

（イ）ブドウ

3月から4月中旬にかけて気温が高く推移したことから、展葉期および開花盛期は、早かった。

7月中旬から8月上旬にかけて気温が高く推移したことから、日焼け果等の高温障害がみられた。同時期、日照時間が長かったことから、着色は良好で、盆時期までに収穫される品種は収穫期が早かった。しかし、8月中旬から下旬にかけて降水量が多く、日照時間が短かったことから盆時期以降に収穫される品種の収穫期は平年並であった。

（ウ）カキ

3月から4月中旬にかけて気温が高く推移したことから、発芽期および展葉期は早かった。4月下旬の気温が平年より低く推移したことから開花盛期はやや早かった。

7月中旬から8月上旬にかけて気温が高く推移したことから、日焼け果等の高温障害がみられた。

9月から10月上旬の気温が平年より高かったことから、着色が遅れ、収穫期が平年よりやや遅くなった。また、10月の降水量が少なかったことから小玉傾向であった。

イ 発生状況

(ア) ナシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナシ	黒星病	早	並	発生時期は早く、6月下旬に発生量がやや多くなったが、気温の上昇とともに平年並に推移した。	ナシの生育が早かったことから発生時期は早かった。梅雨入り前より早かったため6月下旬に発生量がやや多くなったが、その後気温が高く推移し、病勢進展が停滞したことで適期防除の実施により発生量は平年並となった。	開花期から梅雨明けまでの薬剤防除。秋季防除の徹底、落葉、被害果の園外処分。
	ナシヒメシクイ	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	ナシの生育が早かったことから発生時期は早かった。フェロモントラップでの誘殺数は少なかったが、被害果率は平年並であった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	チャバネアオカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	越冬成虫量が少なかったことから、フェロモントラップでの誘殺時期が遅かった。フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	ツヤアオカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	クサギカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	アブラムシ類	早	やや少	発生時期は早く、発生量はやや少なかった。	ナシの生育が早かったことから発生時期は早かった。適期防除の実施により寄生新梢率はやや低く推移した。	展葉期、新梢新梢期に発生に応じて薬剤防除。
	ハダニ類	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	発生時期は平年並で、梅雨入り前より早かったことから降水量が多い中、ハダニ類の寄生密度は漸増したが、適期防除により発生量は平年並となった。しかし、適期防除が遅れた一部の園では発生量がやや多くなった。	発生初期の薬剤防除。薬剤のローテーション散布。

(イ) ブドウ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ブドウ	べと病	並	並	発生時期は平年並であった。6月下旬の発生量はやや少なかったが、7月以降平年並の発生量で推移した。	6月中旬の降水量が少なかったことから6月下旬の発生量はやや少なかった。7月に入って気温の上昇に伴い発生量が増したが適期防除の実施により発生量は平年並に推移した。しかし、適期防除が遅れた一部の園では発生量がやや多くなった。	雨除け被覆。初発時の薬剤防除。落葉の園外処分。
	灰色かび病	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	ブドウの生育が早かったことから発生時期は早かった。5月下旬の降水量が少なかったことから、開花前の発生花穂率は平年並となった。	花かす落としの励行。開花前と落花直後の薬剤防除。発病果の摘粒。新梢管理による過繁茂防止。
	晚腐病	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	ブドウの生育が早かったことから発生時期は早かった。8月前半の降水量が少なかったことから発生量は平年並となった。	巻きひげ除去。発芽前、幼果期の薬剤防除。雨よけ被覆。袋かけの実施。発病果の摘粒。
	チャバネアオカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	越冬成虫量が少なかったことから、フェロモントラップでの誘殺時期が遅かった。フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	ツヤアオカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	クサギカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	チャノキイロアザミウマ	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	ブドウの生育が早かったことから発生時期は早かった。幼果期における適期防除の実施により発生量は平年並となった。	幼果期の薬剤防除。粗皮削り。袋かけ。

(ウ) カキ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	炭疽病	並	並	新梢での発生量は平年並、9月以降果実での発生量は平年並に推移した。	梅雨入りが早かったが、適期防除の実施により新梢での発生量は平年並で、9月以降の果実での発生量は平年並となった。	新梢の過繁茂防止。発病枝や発病果の除去。薬剤防除。
	カキクダアザミウマ	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	カキの生育が早かったことから発生時期は早かった。適期防除の実施により発生量は平年並となった。	軽微な被害葉が見え始めた頃の薬剤による防除。被害葉の処分。粗皮削り。
	カキノヘタムシガ	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	カキの生育が早かったことから発生時期は早かった。成虫の発生量は平年並で、適期防除の実施により被害果率は平年並となった。	満開10日後および成虫発生盛期の薬剤防除。粗皮削り。
	フジコナカイガラムシ	早	並	発生時期は早く、発生量は平年並であった。	カキの生育が早かったことから発生時は早かった。適期防除の実施により発生量は平年並となった。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	越冬成虫量が少なかったことから、フェロモントラップでの誘殺時期が遅かった。フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	ツヤアオカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。
	クサギカメムシ	遅	少	発生時期は遅く、発生量は少なかった。	フェロモントラップおよび予察灯での累積誘殺数は少なかった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。

ウ 予察灯、フェロモントラップおよびほ場における調査

(ア) 予察灯による調査

カメムシ類半旬別誘殺状況 (栗東市荒張、100W高圧水銀灯) (頭)

月	半旬	チャバネアオカメムシ				ツヤアオカメムシ				クサギカメムシ			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	5	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	6	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
5	1	0	0	3.1	3	0	0	2.0	2	0	0	0.0	0
	2	0	0	2.9	6	0	0	1.9	4	0	0	0.1	0
	3	0	0	10.2	16	0	0	4.7	9	0	0	0.0	0
	4	0	0	48.5	65	0	0	7.4	16	0	0	0.8	1
	5	0	0	33.6	99	0	0	18.5	35	0	0	0.4	1
	6	0	0	15.9	114	0	0	13.2	48	0	0	1.0	2
6	1	0	0	27.8	142	0	0	27.5	75	0	0	1.4	4
	2	0	0	13.7	156	0	0	46.2	121	0	0	2.5	6
	3	1	1	12.9	169	1	1	33.1	155	1	1	1.3	8
	4	0	1	26.8	196	0	1	132.7	287	0	1	3.4	11
	5	0	1	58.0	254	1	2	126.8	414	1	2	5.8	17
	6	0	1	122.3	376	0	2	158.9	573	0	2	13.1	30
7	1	0	1	187.0	563	1	3	110.4	683	1	3	14.1	44
	2	0	1	158.2	721	0	3	71.1	754	1	4	13.7	58
	3	0	1	135.3	856	0	3	44.8	799	0	4	16.8	74
	4	1	2	219.0	1075	2	5	70.9	870	2	6	27.0	101
	5	1	3	138.4	1214	2	7	60.1	930	2	8	24.7	126
	6	0	3	192.9	1407	0	7	55.2	985	1	9	50.8	177
8	1	0	3	210.7	1617	8	15	65.6	1051	0	9	51.1	228
	2	0	3	195.7	1813	42	57	111.9	1163	3	12	40.7	269
	3	1	4	158.6	1972	44	101	223.9	1387	3	15	36.5	305
	4	2	6	174.8	2147	7	108	105.6	1492	10	25	41.4	347
	5	4	10	118.3	2265	10	118	39.6	1532	12	37	26.9	374
	6	23	33	169.4	2434	12	130	73.3	1605	17	54	25.4	399
9	1	12	45	130.8	2565	12	142	53.6	1659	20	74	8.8	408
	2	7	52	148.1	2713	10	152	70.0	1729	3	77	4.9	413
	3	21	73	99.0	2812	10	162	83.6	1813	5	82	3.7	416
	4	16	89	145.8	2958	10	172	117.8	1930	3	85	1.1	417
	5	4	93	85.8	3044	14	186	116.1	2046	1	86	2.1	420
	6	5	98	261.2	3305	11	197	388.3	2435	1	87	2.9	422
10	1	18	116	87.1	3392	9	206	251.8	2687	0	87	1.9	424
	2	0	116	44.4	3436	18	224	193.9	2880	0	87	2.4	427
	3	0	116	39.4	3476	10	234	202.6	3083	0	87	1.4	428
	4	0	116	20.2	3496	7	241	103.3	3186	0	87	0.3	429
	5	1	117	3.8	3500	3	244	36.0	3222	0	87	0.0	429
	6	0	117	1.0	3501	0	244	11.4	3234	0	87	0.1	429

※平年値はH25～R4の10年間の平均値。

(イ) フェロモントラップによる調査

フェロモントラップ半旬別誘殺状況 (栗東市荒張)

(頭)

月	半旬	果樹カメムシ類						ナシヒメシンクイ	
		チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		本年	平年
		本年	平年	本年	平年	本年	平年		
4	1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.4
	2	0	0.3	0	0.0	0	0.0	1	1.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5
	4	2	0.6	0	0.0	0	0.0	1	1.0
	5	1	3.8	0	0.1	1	0.0	0	1.2
	6	0	3.5	0	0.0	0	0.2	0	1.6
5	1	0	22.9	0	1.5	0	0.4	0	1.1
	2	1	19.8	0	3.0	0	0.0	0	0.6
	3	0	42.6	0	7.7	0	0.3	0	0.2
	4	1	83.9	0	5.1	0	1.4	0	0.1
	5	0	38.4	0	13.2	0	1.3	0	0.0
	6	1	54.7	0	22.0	0	2.2	0	0.1
6	1	0	105.2	0	29.1	0	5.1	1	0.1
	2	0	30.6	0	6.5	0	1.7	0	0.1
	3	1	30.8	0	0.2	0	0.7	0	0.1
	4	0	56.3	0	1.2	0	0.4	0	0.3
	5	29	101.1	0	1.3	0	0.8	0	0.2
	6	3	308.4	0	1.9	0	1.3	0	0.3
7	1	1	375.5	0	2.8	0	1.0	0	0.1
	2	0	316.8	0	1.7	0	2.2	0	0.0
	3	0	446.5	0	1.1	0	3.1	0	0.6
	4	0	474.4	0	1.2	0	3.2	0	0.9
	5	0	362.7	0	2.1	0	1.5	0	1.0
	6	0	386.1	0	1.3	0	0.6	0	0.6
8	1	0	410.4	0	3.5	0	0.6	0	0.8
	2	0	162.5	0	5.3	0	0.3	0	0.7
	3	0	155.0	0	6.2	0	0.8	0	0.7
	4	0	129.9	0	2.2	0	0.8	0	0.6
	5	0	55.4	0	1.7	0	0.2	0	0.2
	6	0	43.5	0	2.8	0	0.1	0	0.4
9	1	1	22.9	0	4.1	0	0.0	0	0.7
	2	0	24.5	0	7.9	0	0.0	0	1.0
	3	0	6.1	0	1.8	0	0.0	1	0.6
	4	3	7.9	0	4.0	0	0.0	0	0.3
	5	5	18.7	0	17.4	0	0.1	0	0.2
	6	0	17.9	0	26.8	0	0.3	0	0.1
10	1	0	16.9	0	20.5	0	0.4	-	-
	2	0	9.6	0	42.8	0	0.3	-	-
	3	0	22.6	0	54.6	0	0.7	-	-
	4	1	8.1	0	49.9	0	0.3	-	-
	5	0	2.6	0	32.7	0	0.4	-	-
	6	0	1.6	0	8.3	0	0.3	-	-

※平年値はH25～R4の10年間の平均値。ナシヒメシンクイの調査期間は4月～9月。

(ウ) 現地ほ場における発生調査

a ナシ

月	黒星病 (発病果率%)				アブラムシ類 (寄生新梢率%)				ハダニ類 (寄生葉率%)			
	東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	5.4	0.0	0.0	2.0	0.0
6	0.7	1.2	0.0	0.0	0.0	1.3	1.1	1.4	0.0	2.0	5.8	0.8
7	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	3.2	15.0	1.8
8	4.4	7.8	2.2	0.0	-	-	-	-	0.0	1.3	0.0	0.7

※平年値：H25～R4の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

b ブドウ

月	べと病 (葉の発病度)				灰色かび病 (発病房率%)				晩腐病 (発病房率%)				チャノキイロアザミウマ (果房の被害度)			
	東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
7	3.4	2.6	14.6	4.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.1	0.0	0.2
8	8.4	6.3	30.7	10.1	-	-	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H25～R4の10年間の平均値。

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

c カキ

月	炭疽病 (発病果率%)				カキクダアザミウマ (被害度)				カキノヘタムシガ (100葉あたり成虫数)				フジコナカイガラムシ (寄生新梢率%)				
	東近江市 鯉江町		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5	-	-	-	-	0.0	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	0.0	0.2	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
7	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	
8	0.0	0.5	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.3	0.0	0.0
9	0.0	1.6	0.0	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※平年値：H25～R4の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積(ha)					発生面積 率(%)	被害面積 率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ナシ	46	黒星病	0	0	3	11	14	30.4	6.5	* 46	* 414
		ナシヒメシンクイ	0	0	3	3	6	13.0	6.5	* 46	* 276
		ナミハダニ	0	0	5	9	14	30.4	10.9	* 46	* 115
		カンザワハダニ	0	0	5	8	13	28.3	10.9	* 46	* 115
		クサギカメムシ	0	0	0	0	0	0.0	0.0	* 0	* 0
		チャバネアオカメムシ	0	0	0	1	1	2.2	0.0	* 0	* 0
		ツヤアオカメムシ	0	0	0	1	1	2.2	0.0	* 0	* 0
		アブラムシ類	0	0	2	13	15	32.6	4.3	* 46	* 138
ブドウ	52	晩腐病	0	0	1	8	9	17.3	1.9	* 52	* 104
		べと病	0	0	1	8	9	17.3	1.9	* 52	* 104
		灰色かび病	0	0	1	7	8	15.4	1.9	* 52	* 104
		チャノキイロアザミウマ	0	0	2	7	9	17.3	3.8	* 52	* 104
カキ	153	炭そ病	0	0	3	20	23	15.0	2.0	* 34	* 68
		カキノヘタムシガ	0	0	3	17	20	13.1	2.0	* 34	* 136
		フジコナカイガラムシ	0	0	0	4	4	2.6	0.0	* 34	* 68
		クサギカメムシ	0	0	0	5	5	3.3	0.0	* 34	* 34
		チャバネアオカメムシ	0	0	0	13	13	8.5	0.0	* 34	* 34
		ツヤアオカメムシ	0	0	0	10	10	6.5	0.0	* 34	* 34
		カキクダアザミウマ	0	0	1	2	3	2.0	0.7	* 34	* 34

※防除面積の「*」は同時防除含む。

※被害面積率= (程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

(2) チャ

ア 生育状況

1月から2月にかけて暖冬傾向にあったことに加え、3月の平均気温が平年よりかなり高く推移したため、一番茶萌芽期は前年より8日、前5か年平均より5日早い3月31日となった。なお、4月下旬から5月上旬の平均気温が平年並みであったため、新芽の生育は早まることなく、摘採日は前5か年平均より3日早い5月4日であった。収量は、前5か年平均より減収した。

その後、二番茶芽生育期において、平均気温は平年並み～高く推移したが、二番茶摘採日は前5か年平均より1日早い6月26日となった。収量は、百芽重が重かったことから、前5か年平均より多かった。

二番茶摘採後の平均気温は平年より高く推移した。降水量は7月、9月で平年より少なくなったが、その他は平年並み～多く推移し、三番茶および秋芽の生育は順調であった。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年並	やや少	発生量はやや少～やや多で推移した。一般的に発生量はやや少なかった。	6月の降水量が多かったことから7～8月にかけての発生量が増加した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
もち病	平年並	平年並	期間を通して発生量は平年並であった。	感染源となる前年の発生量は平年並で、期間を通して気温が高かったことから、発生はほとんど認められず、発生量は平年並となった。	常発地では薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
輪斑病	平年並	多	期間を通して発生量は平年並～多で推移した。	感染源となる前年の新梢枯死症の発生量がやや少なかったが、感染が増加する7月の気温が高かったことから、7～8月の発生量が増加した。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
新梢枯死症	平年並	やや少	9月に発生が確認され、期間を通して発生量はやや少なかった。	感染源の輪斑病の発生量は多かったが、7月の降雨が少なかったことから発生量はやや少なかった。9月に入ると8月の降雨の影響で発生が認められた。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
チャノコカクモンハマキ	やや早	多	発生時期は第1世代で平年並、その他の世代で早かった。発生量は越冬世代でやや多く、第1世代で多く、第2・3世代ではやや少なくな推移した。また、11月に第4世代の発生が確認された。	前年最終世代の発生量が多かったことから、越冬世代の発生量はやや多かった。二番茶摘採後に防除が実施されたことから、第2世代以降の発生量は減少した。	越冬世代成虫の累計誘殺数が多かったため4月20日に防除情報を発表した。また、第1世代成虫の累計誘殺数が多かったことから6月28日に防除情報を発表した。薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
チャハマキ	やや早	少	期間を通じて発生量は少なかった。	チャノコカクモンハマキの発生によって防除が適宜行われたことから、発生量は少なく推移した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除が実施された。
チャノホソガ	早	やや多	発生量は越冬世代で平年並、第1・2世代は多く、第3・4世代はやや少～平年並で推移した。発生時期は、越冬世代で早く、第1～第3世代でやや早かった。	期間を通して気温が高かったため、発生時期は、早～やや早で推移した。また、3～4月にかけて気温が高かったため、越冬世代幼虫の発育が進み、発生時期が早く、発生量も増加した。その後は薬剤防除の効果により発生量は徐々に減少した。	第1世代成虫の累計誘殺数が多かったため6月9日に防除情報を発表した。その後、薬剤による防除が実施された。
チャノミドリヒメヨコバイ	やや早	やや少	6月上旬の発生量はやや多かったが、その他の時期はやや少で推移した。	6月上旬の降水量が多かったことから、発生量は減少した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
カンザワハダニ	平年並	平年並	越冬世代の発生量は平年並であったが、6月上旬にやや多くなった。7月はやや少～平年並で推移したが、8月以降は平年並～やや多で推移した。	越冬ダニの発生量が平年並であったが、6月上旬の降水量が多かったことから、発生量は減少した。7月下旬に降水がなかったため8月上旬はやや多かったが、8月の降水量が多かったため発生量は平年並となった。	発生に応じて適宜防除が実施された。6月上旬に発生量がやや多くなったため、6月9日に防除情報を発表した。
チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少	期間を通じて発生量はやや少で推移した。	6～7月中旬の降水量が多かったことから、発生量はやや少で推移した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
ツماغロアオカスミカメ	やや早	平年並	発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	一番茶の萌芽期がやや早かったことから、発生時期はやや早であった。	一番茶の萌芽期～開葉期に薬剤防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	やや早	やや少	発生量は越冬世代でやや少なく、第1・2世代はやや少～平年並で推移した。	越冬世代の発生量は平年並みであったが、4～6月降水量が多かったため、第1世代の発生量はやや少～平年並で推移した。第2世代以降の発生量は、通期防除の実施と8月の降雨の影響により、やや少～平年並で推移した。	発生園では主に第2世代幼虫ふ化期に薬剤防除が実施された。
チャトゲコナジラミ	平年並	少	発生時期は越冬世代で平年並、第1世代でやや遅く、第2世代で平年並であった。期間を通じ発生量は少なかった。	前年の発生量が、少なかったことから、本年も期間を通じて発生量が少なかった。	発生園では、防除適期である若齢幼虫期に薬剤防除が実施された。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

ウ 予察灯・フェロモントラップ・ほ場における調査

(ア) 予察灯（水盤）・フェロモントラップにおける調査

チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホソガ 半旬別誘殺状況（甲賀市水口町）

（頭）

月 半旬	チャノコカクモンハマキ						チャハマキ						チャノホソガ				
	予察灯			フェロモン トラップ			予察灯			フェロモン トラップ			予察灯		フェロモン トラップ		
	本年			平年	本年		平年	本年			平年	本年		平年	本年		平年
	♀	♂	計		♀	♂		計	♀	♂		計	♀		♂	計	
4	1	0	0	0	0	16	8	0	0	0	0	0	0	16	2	273	192
	2	0	2	2	0	64	37	0	0	0	0	1	0	25	2	761	224
	3	2	26	28	0	285	60	0	5	5	0	5	2	23	27	131	335
	4	58	257	315	1	908	230	0	4	4	0	12	6	17	12	95	126
	5	0	3	3	10	76	309	0	0	0	1	2	8	1	6	50	86
	6	0	35	35	65	1107	447	0	0	0	0	10	9	0	5	57	37
5	1	74	808	882	68	733	360	1	3	4	1	9	7	4	3	19	25
	2	23	87	110	57	90	419	0	2	2	0	0	10	0	1	3	14
	3	0	15	15	25	83	204	0	1	1	1	3	6	0	0	1	8
	4	0	18	18	10	31	95	0	3	3	1	15	7	0	0	5	3
	5	0	6	6	3	14	44	0	0	0	1	3	11	1	1	18	42
	6	0	1	1	2	7	9	0	1	1	1	5	11	394	19	3339	717
6	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	11	6	244	50	4562	1504
	2	0	0	0	2	41	15	0	0	0	0	1	3	12	79	5052	2869
	3	0	83	83	73	487	127	0	0	0	0	5	4	8	30	3851	1838
	4	9	120	129	37	1322	147	0	0	0	0	5	4	0	6	1759	811
	5	3	137	140	63	1362	261	0	0	0	0	8	4	2	2	1035	339
	6	0	145	145	50	383	250	0	1	1	0	3	5	0	3	422	171
7	1	0	11	11	29	23	162	0	0	0	0	8	5	89	2	1071	362
	2	0	0	0	29	0	57	0	2	2	0	6	5	60	13	2692	936
	3	0	0	0	5	2	18	0	0	0	1	4	6	0	18	2537	1109
	4	0	3	3	3	7	14	0	0	0	1	5	9	7	13	1302	908
	5	0	5	5	4	7	36	1	0	1	1	5	4	2	4	595	540
	6	0	11	11	25	8	46	0	0	0	1	1	5	0	2	270	354
8	1	0	5	5	29	2	64	0	1	1	0	4	2	0	2	154	273
	2	0	2	2	20	5	37	0	1	1	0	0	2	0	8	180	755
	3	0	4	4	14	10	25	0	0	0	0	0	1	0	11	109	919
	4	0	10	10	20	4	15	1	1	2	0	0	2	0	6	63	893
	5	0	5	5	10	2	9	0	0	0	0	1	2	0	5	27	453
	6	0	0	0	5	7	21	0	0	0	0	3	2	0	2	43	364
9	1	0	3	3	3	10	44	0	0	0	0	5	1	1	1	102	273
	2	0	21	21	14	14	55	0	0	0	0	2	2	0	2	161	570
	3	0	30	30	31	25	93	0	0	0	0	0	4	1	12	203	670
	4	1	8	9	36	81	121	0	1	1	0	2	4	0	4	116	627
	5	0	7	7	70	11	147	0	0	0	0	3	4	0	4	138	501
	6	0	5	5	96	34	100	0	1	1	0	2	4	0	3	294	376
10	1	0	0	0	9	12	56	0	0	0	1	1	4	0	1	116	304
	2	0	3	3	5	3	52	0	3	3	1	3	7	0	2	107	258
	3	0	0	0	1	0	27	1	0	1	1	13	9	0	2	140	144
	4	0	0	0	5	7	27	0	0	0	1	22	12	1	4	91	151
	5	0	0	0	1	3	20	0	0	0	1	8	9	0	1	69	152
	6	0	0	0	0	6	17	0	0	0	1	4	9	0	4	49	162
11	1	0	1	1	0	20	9	0	0	0	1	7	6	0	2	59	194
	2	1	2	3	1	23	13	0	0	0	0	28	4	0	1	33	136
	3	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	2	3	0	0	9	148
	4	0	0	0	1	4	20	0	0	0	0	6	1	0	1	0	114
	5	0	0	0	0	8	13	0	0	0	0	2	1	0	1	1	107
	6	0	0	0	1	16	9	0	0	0	0	2	1	0	2	2	125

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。

チャノココクモンハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	3月20日	4月18日	6月12日	6月12日	7月18日	7月24日	9月1日	9月7日
最盛日（月日）	5月3日	5月6日	6月19日	6月24日	8月16日	8月5日	9月13日	9月27日
最盛半旬（月-半旬）	5-1	5-1	6-6	6-5	7-6	8-1	9-3	9-6
50%誘殺日（月日）	5月3日	5月6日	6月22日	6月25日	8月3日	8月7日	9月13日	9月25日
終息日（月日）	6月5日	5月26日	7月5日	7月12日	8月25日	8月24日	10月8日	11月2日
誘殺日数（日）	40	22	24	20	26	23	28	22
誘殺数（頭）	1418	241	508	288	45	128	78	273
性比（♂ / ♀）	8.03	14.45	41.33	13.05	-	10.83	77.00	11.35

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。
 ※ 「-」は雌の誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	4月11日	4月28日	6月26日	7月4日	-	8月19日	9月16日	10月2日
最盛日（月日）	4月11日	5月12日	7月7日	7月11日	-	8月24日	10月10日	10月14日
最盛半旬（月-半旬）	4-3	5-3	7-2	7-1	-	8-5	10-2	10-4
50%誘殺日（月日）	5月2日	5月12日	7月24日	7月10日	-	8月24日	10月6日	10月14日
終息日（月日）	5月31日	5月27日	8月20日	7月16日	-	8月25日	10月13日	10月27日
誘殺日数（日）	15	7	8	4	-	2	5	7
誘殺数（頭）	20	8	8	4	-	2	6	8
性比（♂ / ♀）	19.00	4.25	3.00	1.00	-	2.00	5.00	3.83

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。
 ※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャノホソガ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫		第4世代成虫		第5世代成虫	
	本年	平年										
初飛来日（月日）	3月10日	4月10日	5月25日	5月29日	7月3日	7月4日	-	8月7日	9月1日	9月7日	10月16日	10月10日
最盛日（月日）	4月6日	4月22日	5月30日	6月7日	7月4日	7月13日	-	8月15日	9月1日	9月13日	10月16日	10月16日
最盛半旬（月-半旬）	4-2	4-4	5-6	6-1	7-1	7-3	-	8-3	9-1	9-3	10-4	10-3
50%誘殺日（月日）	4月10日	4月20日	5月30日	6月7日	7月4日	7月12日	-	8月15日	9月1日	9月10日	10月16日	10月17日
終息日（月日）	5月3日	5月6日	6月22日	6月21日	7月24日	7月22日	-	8月22日	9月11日	9月22日	10月16日	11月4日
誘殺日数（日）	21	11	21	17	10	11	-	9	2	8	1	9
誘殺数（頭）	96	64	661	185	158	52	-	36	2	28	1	25

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。ただし、第5世代成虫は発生が認められた2013～2016、2018、2019、2021、2022年の8年間の平均値。
 ※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

(イ) ほ場における調査

a カンザワハダニ 基準ほ場における発生調査 (甲賀市水口町)

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.4
3 上	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0	0.01	0.8
3 中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.04	0.8
3 下	0.00	1.12	0.52	1.64	2.0	0.40	1.8
4 上	0.02	0.54	0.42	0.98	2.0	0.00	0.2
4 中	0.10	1.14	0.76	2.00	6.0	0.31	1.2
4 下	0.16	0.28	2.00	2.44	8.0	0.22	1.4
5 上	0.04	0.12	1.44	1.60	24.0	0.32	1.2
5 中	0.00	0.00	0.36	0.36	2.0	0.47	1.0
5 下	0.02	0.10	0.58	0.70	16.0	0.07	0.6
6 上	0.06	0.04	0.16	0.26	6.0	0.19	2.4
6 中	0.06	0.00	0.00	0.06	4.0	0.11	0.6
6 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
7 上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.02	0.6
7 中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.8
7 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
8 上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.04	1.2
8 中	0.66	1.46	1.44	3.56	14.0	0.75	4.6
8 下	0.14	0.52	0.12	0.78	14.0	0.09	3.0
9 上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.06	0.8
9 中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.02	0.6
9 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.26	3.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.26	2.4
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.13	1.8
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.05	1.2

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。

※ 寄生葉率は成虫、幼虫、または卵が1頭(卵)以上寄生している葉の割合。

b カンザワハダニ 予察ほにおける発生調査

(a) 甲賀市土山町 市場

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.4
3	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.8
	中	0.04	0.00	1.74	1.78	0.44	1.2
4	上	0.00	0.30	0.20	0.50	1.63	3.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	1.22	3.4
5	上	0.00	0.00	0.16	0.16	0.21	1.8
	中	0.10	0.36	0.30	0.76	0.75	4.6
6	上	0.42	1.06	3.80	5.28	1.94	15.8
	中	0.20	0.54	0.32	1.06	2.30	14.0
7	上	0.02	0.26	0.82	1.10	1.99	13.0
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.6
8	上	0.02	0.00	0.16	0.18	0.05	1.0
	中	0.04	0.00	0.14	0.18	0.27	2.0
9	上	0.86	4.12	11.64	16.62	1.33	7.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	1.63	4.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.02	0.2
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.6
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。

(b) 甲賀市信楽町 奥山

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.02	0.6
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.2
3	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.45	1.0
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	1.35	2.2
5	上	0.08	0.12	0.74	0.94	0.54	1.6
	中	0.00	0.16	2.20	2.36	0.25	1.4
6	上	0.00	0.26	0.14	0.40	0.49	2.2
	中	0.02	0.02	0.00	0.04	0.08	1.0
7	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.02	0.00	0.06	0.08	0.02	0.8
8	上	0.00	0.06	0.06	0.12	0.08	1.2
	中	0.08	0.10	0.06	0.24	0.07	1.4
9	上	1.36	1.18	2.02	4.56	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.8
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.54	3.4
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.26	1.8
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.23	1.6

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。

c カンザワハダニ 現地ほ場における発生調査

(a) 甲賀市土山町 頓宮

月	本年				
	寄生数 (頭/葉)				寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.10	0.60	2.04	2.74	6.0
6	0.60	6.26	1.86	8.72	46.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.70	0.82	0.72	2.24	16.0
9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.04	0.00	0.00	0.04	4.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(b) 甲賀市土山町 布引

月	本年				
	寄生数 (頭/葉)				寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.12	0.50	0.10	0.72	2.0
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(c) 甲賀市信楽町 向山

月	本年				
	寄生数 (頭/葉)				寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.24	0.16	4.52	4.92	4.0
6	0.14	0.20	0.68	1.02	14.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0
9	0.16	0.92	1.24	2.32	10.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(d) 甲賀市信楽町 寺谷

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.12	0.04	0.16	2.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.02	0.00	0.42	0.44	2.0
4	0.00	0.22	0.46	0.68	6.0
5	0.10	0.36	0.30	0.76	12.0
6	0.06	0.02	0.08	0.16	4.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.06	0.10	0.16	2.0
9	0.06	0.62	0.56	1.24	8.0
10	0.00	0.28	0.00	0.28	4.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(e) 日野町 北山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.04	0.00	0.58	0.62	2.0
5	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.02	0.14	0.04	0.20	2.0
9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

d 炭疽病 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

月 旬	病害数 (枚/m ²)															
	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
	本年	平年	市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
1	0.0	7.4	0.0	1.1	0.0	1.9	0.0	4.6	0.0	15.4	1.6	3.4	0.0	5.6	0.0	0.0
2	0.0	5.4	0.0	1.3	0.0	0.2	0.0	4.5	0.0	2.6	0.0	0.8	0.0	1.6	0.0	0.2
上	0.0	9.1	0.0	2.1	-	-	-	-	0.0	1.4	-	-	-	-	-	-
3 中	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	3.2	0.0	1.9	0.0	1.8	0.0	5.4	0.0	0.3
下	0.0	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	0.5	0.0	0.2	-	-	-	-	0.0	1.3	-	-	-	-	-	-
4 中	0.0	7.5	0.0	0.3	0.0	2.7	0.0	2.5	0.0	1.0	0.0	0.5	0.0	2.0	0.0	0.2
下	0.0	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	1.4	0.0	0.6	-	-	-	-	0.0	1.9	-	-	-	-	-	-
5 中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
下	0.0	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	1.8	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.3	-	-	-	-	-	-
6 中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.1	0.0	0.3	3.2	1.3	0.0	0.2
下	3.2	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0.0	7.0	3.2	0.3	-	-	-	-	0.0	3.5	-	-	-	-	-	-
7 中	20.8	17.8	4.8	0.5	0.0	0.6	0.0	1.4	0.0	1.1	3.2	1.9	4.8	1.1	0.0	0.0
下	20.8	12.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	12.8	7.7	6.4	0.5	-	-	-	-	1.6	1.3	-	-	-	-	-	-
8 中	0.0	20.6	0.0	0.8	1.6	0.3	0.0	4.6	0.0	1.1	0.0	1.4	1.6	7.4	1.6	0.6
下	1.6	25.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	3.2	29.8	6.4	2.7	-	-	-	-	0.0	4.8	-	-	-	-	-	-
9 中	0.0	38.9	0.0	2.4	1.6	2.2	0.0	13.1	3.2	13.0	3.2	6.2	8.0	23.2	0.0	0.6
下	0.0	49.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	0.0	36.4	3.2	1.3	0.0	7.0	4.8	5.9	3.2	16.5	3.2	3.0	14.4	10.1	0.0	0.5
11	4.8	28.6	0.0	1.4	0.0	2.4	0.0	7.2	3.2	10.9	0.0	2.4	14.4	5.4	0.0	0.5
12	1.6	18.0	0.0	2.5	0.0	0.2	0.0	9.4	0.0	7.5	3.2	1.2	0.0	6.2	0.0	0.4

※ 平年値は2013～2022年の10年間の平均値。
 ※ 「-」は未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)		
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除	備考
チャ	545	炭疽病	0	15	40	220	275	50.5	10.1	275	550	*
		もち病	0	5	15	45	65	11.9	3.7	65	130	*
		輪斑病	0	10	35	120	165	30.3	8.3	165	165	*
		新梢枯死症	0	10	45	145	200	36.7	10.1	200	200	
		チャノココクモンハマキ	20	25	225	220	490	89.9	49.5	490	980	*
		チャハマキ	0	0	15	100	115	21.1	2.8	115	230	*
		チャノホソガ	10	20	120	260	410	75.2	27.5	410	820	
		チャノミドリヒメヨコバイ	0	10	105	215	330	60.6	21.1	330	660	*
		カンザワハダニ	0	20	115	255	390	71.6	24.8	390	780	
		チャノキイロアザミウマ	0	10	105	255	370	67.9	21.1	370	740	*
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	20	55	75	13.8	3.7	75	75	
		クワシロカイガラムシ	0	20	90	225	335	61.5	20.2	335	670	
チャトゲコナジラミ	0	5	30	120	155	28.4	6.4	155	310	*		

※防除面積の備考欄「*」は同時防除を含む
 ※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)／(栽培面積)

(3) 花き (キク)

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	-	平年並	ほ場での初発確認は6月6日で、一部地域で発生が認められた。	6月以降の高温によって発病が抑制された。	発生初期に防除が実施されている。
	アブラムシ類	やや早	平年並	ほ場での初発確認は6月26日で、発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	4～6月にかけて強い降雨が複数回みられたため増殖が抑制され、栽培期間を通して発生量が抑制されたと考えられる。	発生初期に薬剤散布が実施されている。
	アザミウマ類	遅	平年並	ほ場での初発確認は8月17日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	発生初期に適切に防除がされたため、発生量は平年並であった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。

イ 発生量調査

調査地点	病害虫名	白さび病	アブラムシ類	アザミウマ類
		発病葉率 (%)	1茎あたり寄生虫数 (頭)	被害葉率 (%)
		7/24～25	7/24～25	7/24～25
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	1.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

ウ 発生状況一覧表

病害虫名	初発見月日	初発見場所
白さび病	6月6日	甲賀市水口町新城
アブラムシ類	6月26日	草津市下笠町
アザミウマ類	8月17日	湖南市菩提寺

エ 発生および被害面積

対象作物名	栽培面積 (ha)	対象病害虫	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
キク	14	白さび病	0	0	0	2	2	14.3	0	2	4
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	28.6	0	10	20
		アザミウマ類	0	0	0	1	1	7.1	0	10	10

被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) × 100

7 病害虫防除推進員の設置

県内における病害虫発生予察精度の確保を図るため、平成31年4月に「病害虫防除推進員」を新たに設置した。

令和5年度は、9農業協同組合より54名が選出され、地域における病害虫発生状況の把握に努めるとともに、病害虫防除および農薬安全使用の指導等を行っている。

(1) 病害虫防除推進員研修会

ア 第1回

- 日 時 令和5年6月8日(木) 13時30分～16時00分
場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室
研修内容 (講師 病害虫防除所職員)
- (1) 病害虫防除推進員の業務について
 - (2) 主要病害虫の生態と調査のポイント
 - ①病害について
 - ②虫害について
 - ③侵入が警戒される病害虫について
 - (3) 農薬の適正使用について
 - (4) 病害虫防除所ホームページ・しらがメールの活用について

イ 第2回

- 日 時 令和6年2月15日(木) 13時30分～16時00分
場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室
研修内容
- ① 1kmメッシュデータを活用した病害虫防除
講師 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
病害虫防除支援技術グループ 主席研究員 芦澤 武人
 - ② 滋賀県における1kmメッシュデータを活用した病害虫防除
講師 滋賀県病害虫防除所 副主幹 近藤 篤
 - ③ 令和5年度に話題となった病害虫
講師 滋賀県病害虫防除所 主任技師 北野 大輔

(2) 病害虫防除推進員に向けた情報の提供

病害虫防除推進員の活動の支援のため、新たに病害虫防除推進員向けの情報を提供した。画像を組み合わせ、病害虫の発生動向、特に注意すべき病害虫や水稻の生育のポイントなどの情報を簡潔にとりまとめ、5～12月に5回、電子メールにて発信した。

令和5年度 防除推進員情報 No.1

令和5年5月18日
 情報作成 滋賀県病害虫防除所
 近江八幡市安土町大中 516
 TEL 0748-46-4926

○今春の麦作

- ・ 出穂期が早くなり、赤かび病防除も前倒しになりました。
- ・ 気象予報では「出穂期前後に降雨が続く」とされていたので、注意報を発表したところです。
- ・ 3回防除された地域もありますが、「びわほなみ」ではポツポツと発病が観察されています。
- ・ また、4月頃、一部地域の「びわほなみ」に縞萎縮病が発生しました。生育が進み、現在は目立たなくなっています。
- ・ 農業技術振興センターから麦生育情報 No.6 が発表されましたので、参考にしてください。



赤かび病の発生状況



矢印の部分に赤色のかびが見られる



縞萎縮病の発生状況



発病株は全体に黄色～赤色になり生育が抑えられる

○病害虫の発生予報

- ・ 5月16日に病害虫発生予報第3号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	葉いもち	平年並	平年並	果樹全般	カメムシ類	平年並	少
	ニカメイガ(I)	平年並	平年並	ナシ	ナシヒメシンクイ	やや早	やや少
	イネドロオイムシ	平年並	平年並		アブラムシ類	-	やや少
	イネミズゾウムシ	平年並	やや少	ブドウ	灰色かび病	やや早	平年並
野菜全般	アブラムシ類	-	やや少	カキ	カキクダアザミウマ	早	平年並
	ハダニ類	-	やや少		カキノヘタムシガ	早	平年並
	アザミウマ類	-	やや少	チャ	カンザワハダニ	-	平年並
	ヨトウガ	平年並	平年並		クワシロカイガラムシ(I)	早	やや少
ナス科野菜	疫病	平年並	やや少	チャトゲコナジラミ(I)	早	平年並	
	ニジュウヤホシテントウ類	やや早	平年並				
アブラナ科野菜	モンシロチョウ	平年並	平年並				
	コナガ	やや早	平年並				

- ・ 水稻の葉いもち、ニカメイガ、ドロオイは平年並。
- ・ 野菜では各種病害虫が並～やや少。
- ・ 果樹ではカメムシ類が少、茶ではハダニ、チャトゲが並、クワシロがやや少。

○今年の水稲は？

・ 昨年は出穂後半に降雨が多く、穂いもちが「やや多」発生となりました。発生予報第3号では「平年並」と予想していますが、種もみがいもち病の病原菌を持っているリスクが高く、苗いもちへの警戒が必要です。
特に、**田植え後の余り苗**は本田に放置せずに、確実に処分しましょう！

・ また、ごま葉枯病の発生も「多」でした。苗での発生が懸念されます。

（病気の苗の持ち込みが1件ありました）

・ 害虫関係では発生予報第3号ではニカメイガ（第1世代）、イネドロオイムシの発生は「平年並」、イネミズゾウムシは「やや少」と予測しています。



本田で発生したごま葉枯病
※矢印が特徴的な病斑



苗で発生したごま葉枯病



ニカメイガの食害
ーニカメイガの幼虫



イネドロオイムシ



イネミズゾウムシ

○令和4年度年報を発行しました

・ 病害虫防除所では例年、年報を作成し、ホームページへ掲載しています。昨年度の年報から一部を紹介します。

①新たに発生が確認された病害虫 (P. 82)

クロテンコナカイガラムシがトマト、ナスなどで発生し、特殊報を発表しました。

②病害虫の薬剤耐性検定 (P. 83)

令和4年度はヒメトビウンカの薬剤検定を実施しました。

③発生の目立った病害虫 (P. 87～)

・ いもち病の発生推移やBLASTAMの分析結果などを解説しています。

・ 麦赤かび病の発生状況を解析しています。

・ 斑点米カメムシ類の発生概況や発生要因の分析、近年増加しているカメムシについて解説しています。

④試験成績 (P. 124～)

紋枯病の要防除水準の検討、トマト黄化葉巻病の管理手法の検証、イネカメムシのトラップの検討などを掲載しています。

滋賀県病害虫防除所



<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

農業技術振興センター



<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

○病害虫防除所、農技センターからの情報ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

令和5年度 防除推進員情報 No.2

令和5年6月20日
 情報作成 滋賀県病害虫防除所
 近江八幡市安土町大中 516
 TEL 0748-46-4926

○今春の麦作

- ・今作は、出穂期前後に雨の日が多く、4月18日に赤かび病の防除情報を、4月27日に注意報を発表しました。
- ・各地域で防除を呼びかけていただけ、3回防除された地域もあります。
- ・防除所の発生量調査では「多」発生となりそうです。今後のDONの状況が気になるところです。
- ・その他の病害では、縞萎縮病が多かった地域があったほか、うどんこ病が少し目立ったところがあります。
- ・今作の気象は、降水量は4月では平年の160%、5月では143%と多い傾向にあり、また、強い雨も多かったようです。日照時間は平年と同程度だったようです。しかしながら、雨が降ったタイミングが感染時期とちょうど重なったこともあり、発生が増加したと考えています。



縞萎縮病の発生状況



うどんこ病の茎での発生状況



うどんこ病の葉での発生状況

○病害虫の発生予報

- ・6月20日に病害虫発生予報第5号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	葉いもち	早	やや多	ナシ	黒星病	-	平年並
	紋枯病	やや早	やや多		ハダニ類	-	平年並
	コバネイナゴ	やや早	平年並	ブドウ	チャノキイロアザミウマ	-	平年並
野菜全般	アブラムシ類	-	やや少	カキ	炭疽病	-	平年並
	ハダニ類	-	やや少		カイガラムシ類	-	平年並
	アザミウマ類	-	やや少	チャ	チャノココクモンハマキ(Ⅱ)	平年並	やや多
果樹全般	カメムシ類	-	少		チャハマキ(Ⅱ)	やや早	平年並
					カンザワハダニ	-	平年並

- ・水稻の葉いもちは発生時期早く、発生量はやや多となっています。このため、防除情報第7号を発表し、「本田での葉いもちの発生が平年より早く確認されています。早期の葉いもち対策に努めましょう!」といもち病対策の実施を呼びかけています。
- ・水稻では紋枯病がやや多、コバネイナゴが並となっています。
- ・野菜では各種病害虫がやや少となっています。
- ・果樹ではカメムシ類が少、茶ではチャノココクモンハマキがやや多となっています。



置き苗で発生したいもち病

○今年の水稲は？

- ・水稲の生育は順調で、すでに中干しに入っているほ場も見られます。
- ・いもち病は、置き苗に加え、本田での葉いもちの発生を確認しています。今後の気象予報に注意してください。
- ・イネの生育が順調なことから、気温の上昇とともに紋枯病も増加してくると思われます。
- ・イネドロオイムシは県南部で発生を確認しています。曇雨天が続くと発生が多くなる傾向にあることから、注意してください。
- ・害虫ではニカメイガの幼虫の発生が確認されており、発生の多い地域では出穂期の防除も検討が必要です。
- ・イネクロカメムシは中部地域で多い傾向にあります。今年も発生を確認しました。



中干の様子



ニカメイガによる被害



茎がオレンジ色



イネクロカメムシ成虫

○病害虫防除推進員の研修会を開催しました

- ・6月8日に第1回の病害虫防除推進員研修会を開催しました。
- ・資料についてはメールにて防除推進員の方々へ配布しました。
- ・今年度も2月頃に第2回を開催する予定ですので、ふるってご参加ください。



研修会の様子

滋賀県病害虫防除所



<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

農業技術振興センター



<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

○病害虫防除所、農技センターからの情報ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

令和5年度 防除推進員情報 No.3

令和5年7月25日
 情報作成 滋賀県病害虫防除所
 近江八幡市安土町大中 516
 TEL 0748-46-4926

○病害虫の発生予報

- ・7月19日に病害虫発生予報第7号を発表しました。
- ・6月28日にタバコガ、チャノコカクモンハマキの防除情報、7月12日にいもち病の注意報を発表しています。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	穂いもち	平年並	多	カキ	カキノヘタムシガ	-	平年並
	紋枯病	-	平年並	チャ	炭疽病	-	平年並
	白葉枯病	平年並	やや少		もち病	-	やや少
	ニカメイガ(Ⅱ)	平年並	平年並		新梢枯死症	-	やや多
	セジロウンカ	早	平年並		カンザワハダニ	-	平年並
	ヒメトビウンカ	-	平年並		チャノホソガ(Ⅲ)	やや早	やや多
	ツマグロヨコバイ	-	やや多		チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並
	斑点米カメムシ類	平年並	平年並		チャノキイロアザミウマ	-	平年並
コブノメイガ	平年並	平年並	クワシロカイガラムシ(年3回発生地域・Ⅱ)		やや早	平年並	
ダイズ	アブラムシ類	-	平年並	チャトゲコナジラミ(Ⅱ)	平年並	やや少	
	ハダニ類	-	平年並				
果樹全般	カメムシ類	-	少				
ナシ	ハダニ類	-	平年並				
ブドウ	晩腐病	平年並	平年並				

- ・水稲の葉いもちの発生ほ場率と発病株率はともに高く、注意報を発表しました。
- ・その他の病害虫ではツマグロヨコバイがやや多、それ以外は平年並を予想しています。
- ・ダイズではアブラムシ類やハダニ類が平年並を予想しています。
- ・果樹ではカメムシ類が少、茶では新梢枯死症、チャノホソガがやや多を予想しています。

○水稲の生育状況

- ・7月13日に水稲生育診断情報 No.3 を発表しています。
- ・現在の生育状況は、5月10日移植では、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、草丈は平年並、茎数は平年より少ない。葉色は「みずかがみ」では平年並、「コシヒカリ」では平年よりやや薄い。幼穂形成期は、「みずかがみ」では6月30日と平年より1日遅く、「コシヒカリ」では7月5日と平年より2日遅く、出穂期は「みずかがみ」では7月23日頃に迎える見込み。
- ・ただし、病害虫防除所で現地を巡回調査していると、いくつかの地点で「みずかがみ」が出穂を始めており、出穂の早いほ場もあると感じています。
- ・管理のポイントでは、
 - ①生育状況はほ場により異なるので、穂肥施用にあたっては、必ず幼穂を確認するとともに、生育(葉色・茎数)に応じて、適期に適量を施用する!
 - ②全量基肥(一発肥料)栽培においても、生育に応じて追肥を施用する!
 - ③出穂前後各3週間は常時湛水を行う! 深水にせず水深3cmから5cmの浅水で管理する!
 - ④中干し後は水もちの悪いほ場が多く、こまめな水管理を行う!
 - ⑤ほ場周辺のヒエ等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底し、斑点米被害の軽減を図る!
 - ⑥イネいもち病について注意報が発表されていることから適切に対応する! などが挙げられています。

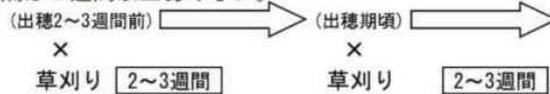
○水稲の夏の防除は？

- ・苗でのいもち病の発生が目立ち、防除所の調査でも置き苗でいもち病が発生しているのをいくつか確認しています。さらに、面的にも広がっていることから、7月12日付けで注意報を発表しました。
- ・病害虫防除所では、例年7月20日頃に調査を行っています。葉いもちの発生が広がっており、危惧していましたが、多くの地点で病斑は確認されたものの、進展型病斑は少なく、停滞型病斑が多くなっている地点が多かったように感じています。今後の天気次第ですが、雨が続くようだと追加の防除も検討が必要になってきます。
- ・斑点米カメムシ類についてはすくい取り調査でも昨年ほどの発生は無いような感じでした。ただ、イネ科雑草の多い地点ではそれなりに発生しており、これまでから出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈りを呼びかけています。

斑点米対策の草刈タイミング（滋賀県防除基準より抜粋）

畦畔における雑草管理のポイント

イネ出穂期前後にイネ科雑草が出穂しないようにするには、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃の2回連続草刈りが効果的である。この場合、1回目と2回目の間隔は3週間以上あけない。



※出穂期頃の草刈りから2～3週間後にもう一回草刈りを行うとさらに効果が高まる

- ・昨年、南部地域で発生が多かった縞葉枯病（ヒメトビウンカが媒介するウイルス病）は、昨年よりやや少ない状況です。

- ・ニカメイガは現在、第1世代の幼虫が加害しており、葉鞘がオレンジ色になっています。県全体で多いわけではありませんが、発生の多い地域が見られます。これから第2世代が発生し、被害につながることから、現在発生が多い地域では防除を検討してください。



ニカメイガの発生状況



本田の縞葉枯病の発病状況

- ・ダイズや野菜の鱗翅目害虫（タバコガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ）の発生が増加しているようです。データを見ながら情報を発表しますので、今後の動向にもご注意をお願いします。

病害虫防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>、農技センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/noujicenter/>
ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

令和5年度 防除推進員情報 No.4

令和5年8月24日

情報作成 滋賀県病害虫防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL 0748-46-4926

○病害虫の発生予報

- ・ 8月22日に病害虫発生予報第9号を発表しました。
- ・ 8月9日にハスモンヨトウの防除情報を発表しています。
- ・ 7月27日にタバコガ類の注意報を発表しています。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	トビイロウンカ	-	平年並	アブラナ科 野菜	モンシロチョウ	-	平年並
	コブノメイガ	-	平年並		コナガ	-	平年並
ダイズ	べと病	-	やや少		ヨトウガ	-	平年並
	葉焼病	-	やや少	ハイマダラノメイガ	-	やや多	
	アブラムシ類	-	平年並	果樹全般	カメムシ類	-	少
	ハダニ類	-	平年並	カキ	炭疽病	-	平年並
	吸索性カメムシ類	-	平年並	ナシ	ナシメシクイ	-	やや少
	ハスモンヨトウ	-	やや多	チャ	炭疽病	-	やや少
	フタスジヒメハムシ	-	平年並		カンザワハダニ	-	平年並
野菜全般	アブラムシ類	-	やや多		チャノホソガ(Ⅳ)	やや早	平年並
	ハスモンヨトウ	-	やや多	クワシロカイガラムシ(Ⅲ)	やや早	やや少	
	タバコガ類	-	やや多				
	ネキリムシ類	-	平年並				

- ・ 水稲ではトビイロウンカ、コブノメイガは平年並（被害がほとんど出ないのが平年並）を予想しています。
- ・ ダイズではハスモンヨトウがやや多、それ以外はやや少～平年並を予想しています。
- ・ 野菜全般ではアブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類がやや多を予想しています。
- ・ 果樹ではカメムシ類が少、茶ではカンザワハダニが平年並を予想しています。

◎主なダイズの病害虫



タバコガ類



ハダニの被害



葉焼病



ミナミアオカメムシ

○水稲の生育状況

- ・ 8月22日に水稲生育診断情報 No.5 を発表しています。
- ・ 7月4半旬以降、気温は平年並～高く、日照時間は概ね平年並～多く推移しており、作況調査の「みずかがみ」、「コシヒカリ」の登熟は順調に進んでいる。「みずかがみ」、「コシヒカリ」の成熟期は、平年よりやや早い見込み。
- ・ 県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、成熟期を迎えており、中生品種の成熟期は平年より早まるとみられる。

・ 管理のポイントとして以下の3点をあげています。

- ①葉色に惑わされず、必ず穂（籾）色を手にとって確認し、籾黄化率 85～90%の時期に収穫する！（刈り遅れによる品質低下に注意！！）
- ②根や葉の活力維持のため、収穫5日前まで湛水を保つ！
- ③中生・晩生品種では今後も十分な水が必要なので、こまめな水管理を行う！

○病害虫の発生状況

- ・今年、苗でのいもち病の発生が目立ち、その後、面的に広がったため、7月12日付けで注意報を発表しました。その後、梅雨が明け、降雨が少なく、非常に高温になったことから発生は終息しました。ただ、盆明け後の調査では、葉いもちが多かったほ場などでは穂いもちがぼつぼつと発生していました。
- ・斑点米カメムシ類については、すくい取り調査では昨年よりは少ない感じですが、ホソハリカメムシをよく目にします。ただ、今年、本田での雑草の発生が多いように感じます。斑点米の発生が気になる場所です。
- ・昨年、南部地域で発生が多かった縞葉枯病（ヒメトビウンカが媒介するウイルス病）は、湖東地域や東近江、甲賀地域での発生が多く、全体的には、やや多くなりました。このため、来年度に向けて水稲収穫後の早期の耕うん（発病した黄色い刈り株再生芽を減らすため）などを検討してください。



刈り株再生芽での縞葉枯病
(赤の○のところ)

- ・ダイズや野菜に発生するハスモンヨトウは8月9日に防除情報を発表しています。現地では、例年ダイズの株の最も高い位置の葉っぱに白変葉が目立つのですが、気温が高すぎるためか、肩ぐらの位置に白変葉が観察されるケースが多かったです。ほ場を観察するときは注意が必要です。今後の動向にご注意をお願いします。



ダイズ上部の白変葉



ダイズ群落内の白変葉
(赤の○のところ)

- ・これから定植時期のアブラナ科野菜では、ハイマダラノメイガの発生に注意が必要です。夏が暑い年は発生が多くなるように感じています。被害に気づいてからでは手遅れですので事前の対策が必要です！



ハイマダラノメイガの被害 →
中心部が食害され、芯どまりになる



ハイマダラノメイガの幼虫

○外来カミキリムシに注意！

- ・8月15日に兵庫県でクビアカツヤカミキリの特殊報が発表されました。令和4年6月に街路樹などでは発生していましたが、今回、果樹園のスモモなどで発生が確認されたようです。
- ・近畿では兵庫に加え、大阪、奈良、和歌山で発生が確認されています。
- ・クビアカツヤカミキリに加え、ツヤハダゴマダラカミキリ、サビイロクワカミキリの発生も懸念されています。果樹から大量のフラス（糞と木くずが混ざったもの）が出ているなど、疑わしいカミキリムシの情報があれば当所まで連絡してください。

病害虫防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/> 農技センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>
 ~~~ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。~~~

## 令和5年度 防除推進員情報 No.5

令和5年12月26日

情報作成 滋賀県病虫害防除所  
近江八幡市安土町大中 516  
TEL 0748-46-4926

### ○新しく発生した害虫

#### ○“特殊報”を発表しました！

- ・県内で初めての発生となる海外原産の害虫を確認しましたので「特殊報」を発表しました。
- ・第1号は「トマトキバガ」で、令和5年10月27日に発表しました。
- ・第2号は「シタバニハゴロモ」で、令和5年12月26日に発表しました。
- ・来春以降、発生する可能性があるため、ほ場の状況に注意しましょう。

#### ○特殊報第1号 トマトキバガ

- ・その名前のおり、トマトへの加害に注意が必要です。トマトで茎葉や果実に見たことのない被害があれば確認が必要です。県外では九州の施設トマトで被害が確認されています。
- ・近江八幡市のフェロモントラップに飛来しました。現在、滋賀県ではトマトなどへの被害は確認されていません。

#### ○特殊報2号 シタバニハゴロモ

- ・生産者の方が発生に気づき、JA 営農職員へ相談され、防除所へ連絡がありました。
- ・高島市のブドウに成虫が寄生していることを確認しました。さらに、卵塊も確認しています。
- ・石川県などで樹木に発生していることは確認されていますが、農作物への寄生が確認されたのは初めてです。
- ・現在、滋賀県では果樹への被害は確認されていませんが、海外では被害が確認されていますので、今後、注意が必要です。

#### ○新たな病虫害への警戒が必要です。

- ・日頃から、ほ場を見回り、見慣れない病虫害があれば、防除所までご連絡ください。

病虫害防除所 <http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/> 農技センター <http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>  
~~~ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。~~~

8 滋賀県病害虫防除所ホームページ

予察情報等を広く早く伝達し、画像によるわかりやすい情報を提供するため、平成15年度より開始したインターネットによる情報提供サービスである。

令和5年1月から12月までの利用実績の内訳は以下のとおりであった（表1）。月別では7月の閲覧回数が、ページ名別では病害虫判定シートの閲覧回数が最も多く、この傾向は昨年と同様であった。令和4年と比較すると総閲覧数は約4800回減少した（図1）。

表1 提供情報別閲覧数（回）

| ページ名 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|------------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 表紙 | 278 | 258 | 400 | 731 | 757 | 1106 | 1395 | 1087 | 1191 | 1144 | 904 | 592 | 9843 |
| 病害虫判定シート | 253 | 191 | 212 | 592 | 997 | 1461 | 2067 | 2226 | 1603 | 654 | 274 | 177 | 10707 |
| 警報・注意報・特殊報 | 53 | 56 | 55 | 297 | 141 | 87 | 491 | 231 | 188 | 296 | 249 | 191 | 2336 |
| 発生予報 | 15 | 35 | 70 | 195 | 98 | 280 | 325 | 430 | 556 | 307 | 156 | 42 | 2509 |
| 防除情報 | | | 35 | 323 | 227 | 422 | 189 | 227 | 79 | 438 | 47 | 22 | 2009 |
| 発生量データ | | | | | 44 | 43 | 103 | 114 | 69 | 136 | 81 | 31 | 620 |
| BLASTAM | | | | | 11 | 161 | 201 | 21 | | | | | 394 |
| IPM | 1 | | | 18 | | 11 | 10 | | | | | 7 | 47 |
| 診断結果 | | | | | | | | | 48 | 2 | | | 50 |
| 農薬扱い | | | | 10 | | | | | | | | 7 | 17 |
| 注目の病害虫 | | | | | | | | 13 | | | | | 13 |
| 総計 | 600 | 540 | 771 | 2167 | 2287 | 3583 | 4798 | 4349 | 3757 | 2979 | 1711 | 1079 | 28621 |

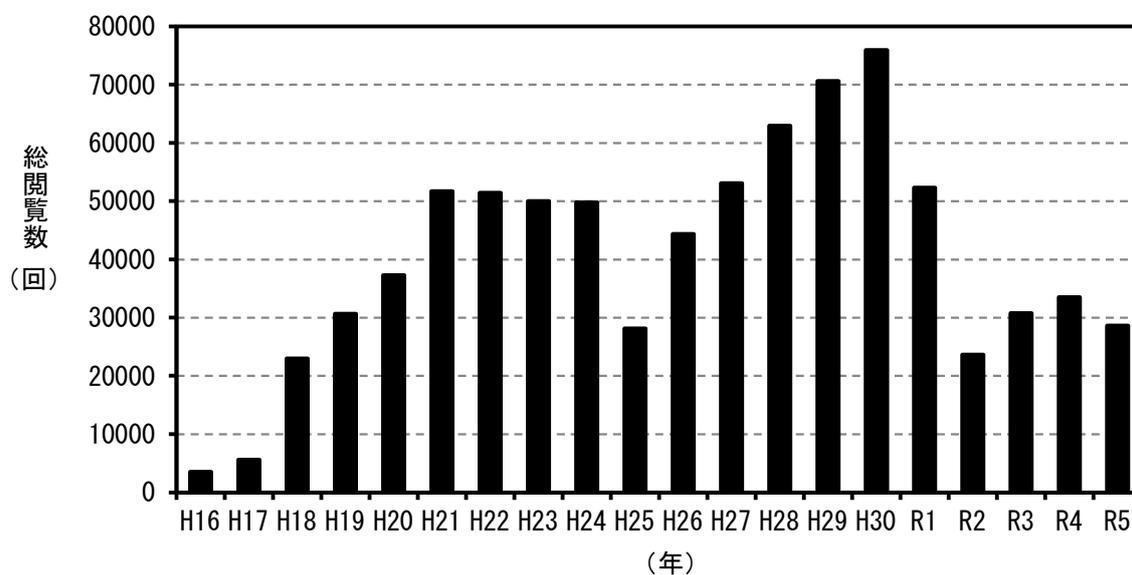


図1 滋賀県病害虫防除所のホームページ総閲覧数の年次推移

9 本年度新たに発生が確認された病害虫

病害虫名および発生経過は以下のとおりである。

(1) トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

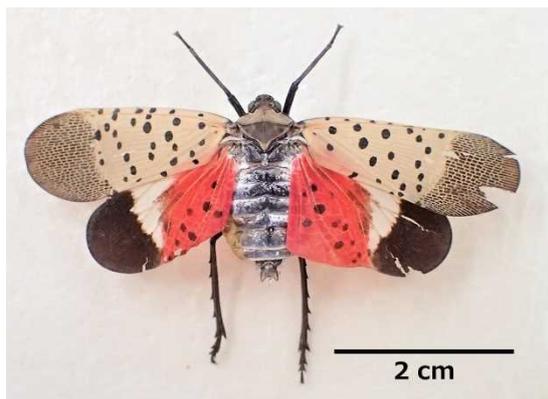
近江八幡市安土町大中に設置しているトマトキバガ侵入調査用のフェロモントラップにおいて、令和5年10月中旬に本種と疑われる雄成虫が誘殺された。滋賀県病害虫防除所において同定した結果、本県では未発生 of トマトキバガであることを確認した。なお、県内では、本種による農作物での発生および被害は認められなかった。詳細については、令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号 (p. 114) を参照。



フェロモントラップで誘殺された
トマトキバガ成虫

(2) シタバニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White)

高島市の露地栽培のブドウにおいて、令和5年10月に多数のハゴロモ類が寄生している様子が認められた。滋賀県病害虫防除所において同定した結果、本県では未発生 of シタバニハゴロモであることが確認された。なお、同ほ場以外で発生は確認されず、本種によるブドウの枯死や果実への被害も認められなかった。詳細については、令和5年度病害虫発生予察特殊報第2号 (p. 116) を参照。



シタバニハゴロモ成虫



ブドウに寄生したシタバニハゴロモ
(JAレーク滋賀提供)

10 病害虫の診断および生態調査

(1) 薬剤耐性検定（病害）

今年度は、病害に対する薬剤耐性検定を実施しなかった。

(2) 薬剤耐性検定（虫害）

今年度は、害虫に対する薬剤耐性検定を実施しなかった。

(3) 病害虫診断業務実績

令和5年1月から12月までに実施した病害虫の診断の合計件数は99件で、その内訳は普通作物が8件、野菜が77件、果樹が6件、花き（花木）が8件であった（今期、茶はなかった）。
診断結果の原因は、病害48件、虫害5件、原因不明7件および、その他39件であった。

作物別の診断件数および結果

| 作目 | | 診断件数 | | | | |
|------|--------|-------------|-----------|-----------|-------------|--------------|
| | | 病害 | 虫害 | 不明 | その他 | 計 |
| 普通作物 | イネ | 5 | | | 1 | 6 |
| | コムギ | | | | 1 | 1 |
| | オオムギ | 1 | | | | 1 |
| | ダイズ | | | | | 0 |
| | 小計 | 6 | 0 | 0 | 2 | 8 |
| 野菜 | イチゴ | 14 | 3 | | 4 | 21 |
| | カブ | | | | 1 | 1 |
| | キャベツ | 3 | | | | 3 |
| | キュウリ | 3 | | | 6 | 9 |
| | サツマイモ | 2 | | | 1 | 3 |
| | サンショ | 1 | | | | 1 |
| | スイカ | 1 | | | | 1 |
| | セルリー | | | | 1 | 1 |
| | タラノキ | | | | 1 | 1 |
| | トウモロコシ | | | | 1 | 1 |
| | トマト | 11 | | 3 | 7 | 21 |
| | ニンニク | | | | 2 | 2 |
| | ホウレンソウ | | | | 1 | 1 |
| | ミニトマト | | | 1 | 2 | 3 |
| | ミブナ | | 1 | | | 1 |
| | メロン | 1 | | | 4 | 5 |
| | モロヘイヤ | | | | 1 | 1 |
| | レタス | 1 | | | | 1 |
| 小計 | 37 | 4 | 4 | 32 | 77 | |
| 果樹 | イチジク | 1 | | | 1 | 2 |
| | ナシ | 2 | | | 2 | 4 |
| | 小計 | 3 | 0 | 0 | 3 | 6 |
| 花き | アスター | 1 | | | | 1 |
| | キク | | | 2 | 2 | 4 |
| | ニチニチソウ | 1 | | | | 1 |
| | バラ | | 1 | | | 1 |
| | ユーカリ | | | 1 | | 1 |
| | 小計 | 2 | 1 | 3 | 2 | 8 |
| 茶 | チャ | | | | | 0 |
| | 小計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | | 48
(48%) | 5
(5%) | 7
(7%) | 39
(39%) | 99
(100%) |

※（ ）内は合計診断件数に対する割合を示す。

(4) ヒメトビウンカ越冬個体のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査

ア 目的

県内でのイネ縞葉枯病の発生は、昭和 60 年代以降、ほとんど見られなかったが、平成 21 年の発生予察調査において、立毛中に本病の発生が確認された。平成 23 年には再び立毛中に一部地域で、また県全域の刈株再生芽（ひこばえ）で本病が確認された。さらに、平成 28 年の刈株再生芽での発病調査において、本病の発病株率の急激な上昇を確認した。本病の発生は、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）を保毒したヒメトビウンカに大きく影響されることから、ヒメトビウンカの RSV 保毒虫率を把握するため、平成 23 年以降、継続して調査を実施している。

イ 方法

(ア) 供試虫の採集

3 月 31 日～4 月 5 日に、前年の刈株再生芽が残る水田は場 36 地点において、1 地点当たり 50 回のすくい取りによりヒメトビウンカ越冬個体を採集した。

(イ) RSV 保毒虫検定

RSV 保毒の有無は、簡易 ELISA 法（柴ら，2013）により検定した。判定にはマイクロプレートリーダー（株式会社バイオラッド・ラボラトリーズ）を用いた。

ウ 結果の概要

調査を実施した 36 地点のうち 26 地点で越冬個体を採集した。すくい取り虫数（供試虫数）は県全域で 105 頭であった（表 1）。簡易 ELISA 法で検定した結果、RSV 保毒虫は 2 地域で計 9 頭検出され、県全域での保毒虫率は 9.5%であった。RSV 保毒虫率は過去 10 年と比較して最も高かったことから、4 月 18 日付で令和 5 年度防除情報第 2 号を発表した。

表 1. 各地域におけるヒメトビウンカ越冬個体群のすくい取り虫数と RSV 保毒虫率

| 地域 | 平成30年 (4/3~4) | | | 平成31年 (4/2~4) | | | 令和2年 (4/2~4) | | |
|-------|---------------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-----------------|-------------|-------------|
| | 供試虫数
(頭) | 保毒虫数
(頭) | 保毒虫率
(%) | 供試虫数
(頭) | 保毒虫数
(頭) | 保毒虫率
(%) | 供試虫数
(頭) | 保毒虫数
(頭) | 保毒虫率
(%) |
| 大津・南部 | 10 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| 甲賀 | 4 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 東近江 | 6 | 0 | 0 | 42 | 2 | 4.8 | 7 | 0 | 0 |
| 湖東 | 2 | 0 | 0 | 143 | 3 | 2.1 | 16 | 1 | 6.3 |
| 湖北 | 4 | 0 | 0 | 50 | 0 | 0 | 2 | 1 | 50.0 |
| 高島 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 県全域 | 27 | 0 | 0 | 265 | 5 | 1.9 | 36 | 2 | 5.6 |
| 地域 | 令和3年 (4/5~8) | | | 令和4年 (4/6) | | | 令和5年 (3/31~4/5) | | |
| | 供試虫数
(頭) | 保毒虫数
(頭) | 保毒虫率
(%) | 供試虫数
(頭) | 保毒虫数
(頭) | 保毒虫率
(%) | 供試虫数
(頭) | 保毒虫数
(頭) | 保毒虫率
(%) |
| 大津・南部 | 3 | 0 | 0 | 9 | 2 | 22.2 | 11 | 0 | 0 |
| 甲賀 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 東近江 | 15 | 0 | 0 | 122 | 4 | 3.3 | 61 | 9 | 14.8 |
| 湖東 | 3 | 0 | 0 | 19 | 1 | 5.3 | 6 | 0 | 0 |
| 湖北 | 0 | 0 | 0 | 29 | 1 | 3.4 | 5 | 1 | 20.0 |
| 高島 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 19 | 0 | 0 |
| 県全域 | 22 | 0 | 0 | 183 | 8 | 4.4 | 105 | 10 | 9.5 |

(5) 平成 21 年～令和 5 年のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 診断状況

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、平成 21 (2009) 年 10 月に守山市内の施設栽培のトマトにおいて県内で初めて発生が確認され、特殊報を発表した (平成 21 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号)。以降、これまでの持込み診断により、令和 4 年までに 81 件、同 5 年に 4 件の計 85 件の発生を確認している (下図)。

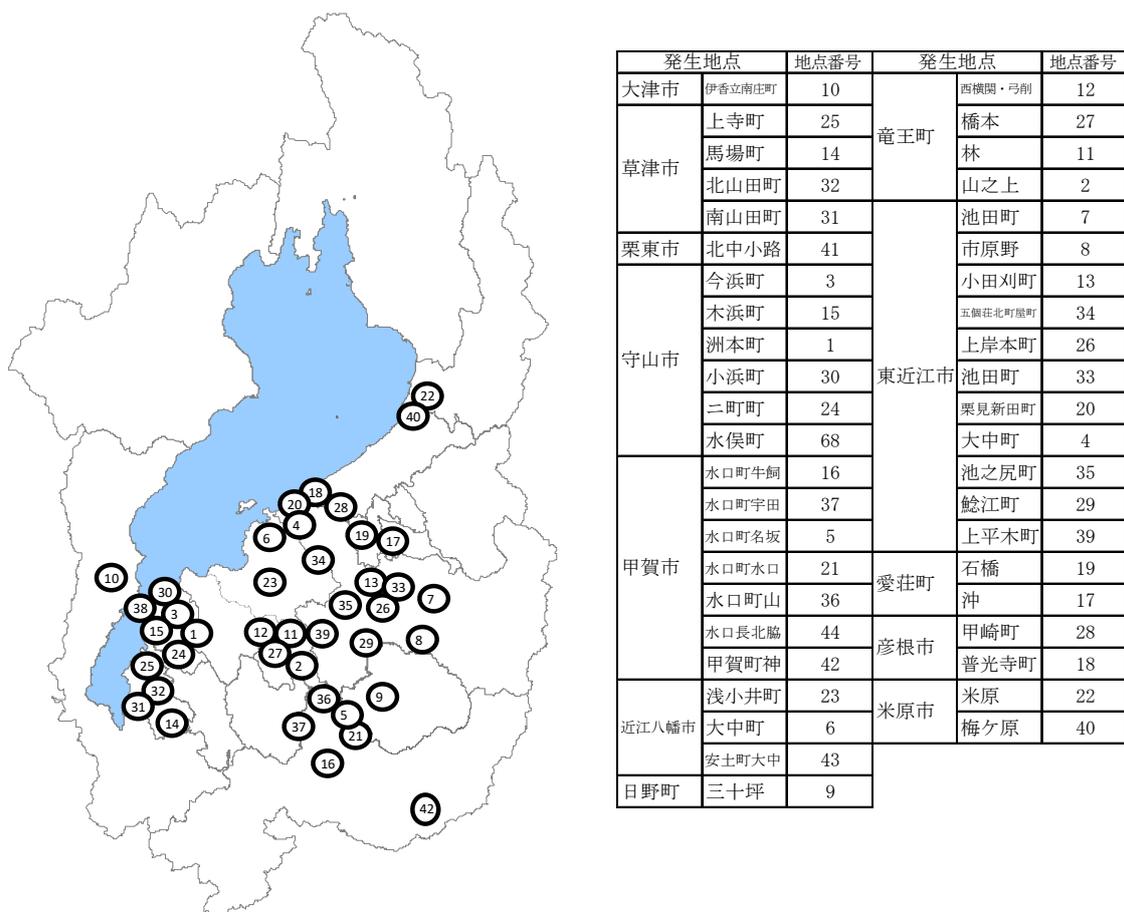


図 平成 21 年 (2009 年) ～令和 5 年 (2023 年) のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 発生地点

1 1 発生が目立った病害虫について

(1) 令和5年度(2023年度)のイネいもち病の発生状況について

ア 葉いもち(発生時期:早、発生量:やや多)

葉いもちの初発時期は6月15日と早かった。7/11 基準日調査の葉いもちの発生ほ場率が過去10年で最も高かったことから(図1)、7月12日付で注意報第2号(葉いもち、穂いもち)を発表した。その後、7/20 基準日調査の葉いもちの発生ほ場率は40%と過去10年で2番目に高かった(図1)。

発生が増加した要因として、近畿地方の梅雨入りは5月29日ごろと平年より8日早く(速報値)、感染好適条件が、6月3半旬および6月6半旬から7月1半旬にかけて県内広域で確認されたことが挙げられる(図3)。一方で、7月2半旬以降は高温が続き(図4)、その後の感染は抑制された。

イ 穂いもち(発生時期:やや遅、発生量:平年並)

水稻の出穂期は5月10日移植の「みずかがみ」で平年より1日遅く(7/23)、「コシヒカリ」で平年と同日であった(7/27)。穂いもちの初発確認は8月3日とやや遅く、成熟期調査の穂いもちの発生ほ場率は51%と平年並であった(図2)。

この要因として、伝染源となる葉いもちの発生はやや多かったが、早生品種の出穂期前後である7月下旬~8月上旬の降水量は少なく、高温で推移したため(図4)、穂いもちの発生が抑制されたと考えられる。一方で、葉いもちの発生が多かったほ場では、穂いもちが多発する場合があった。

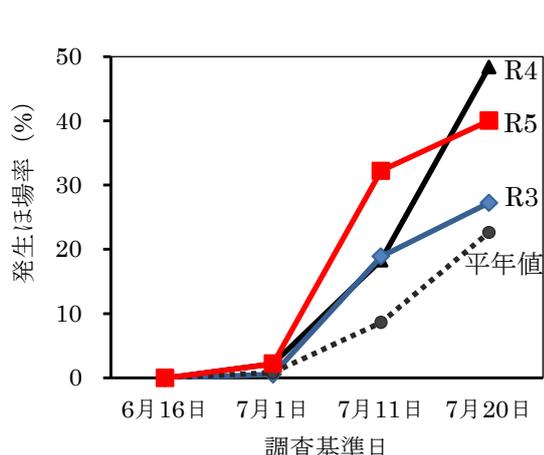


図1 葉いもちの発生ほ場率推移
H25~R4の値から平年値を算出した。
36地点180ほ場のデータからR5の値を算出した。

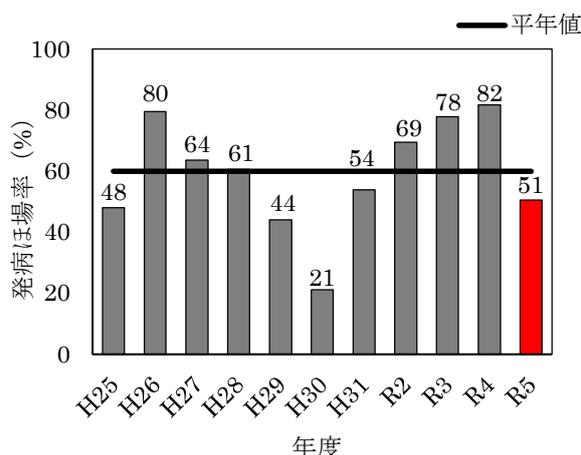


図2 穂いもちの発生データ(成熟期調査)
H25~R4の値から平年値を算出した。
36地点180ほ場のデータからR5の値を算出した。

ウ いもち病の感染好適条件および気象条件

a 葉いもち感染好適条件の出現状況

イネに対するいもち病の感染好適条件とは、①葉面湿潤時間が8時間以上、②葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃、③前5日間の平均気温が20℃～25℃であり、この3つの条件が揃うといもち病菌が感染する(感染好適日)。感染好適日の出現状況については、アメダス地点ごとに、葉いもち発生予測システム(以下BLASTAMとする)でシミュレート可能である。

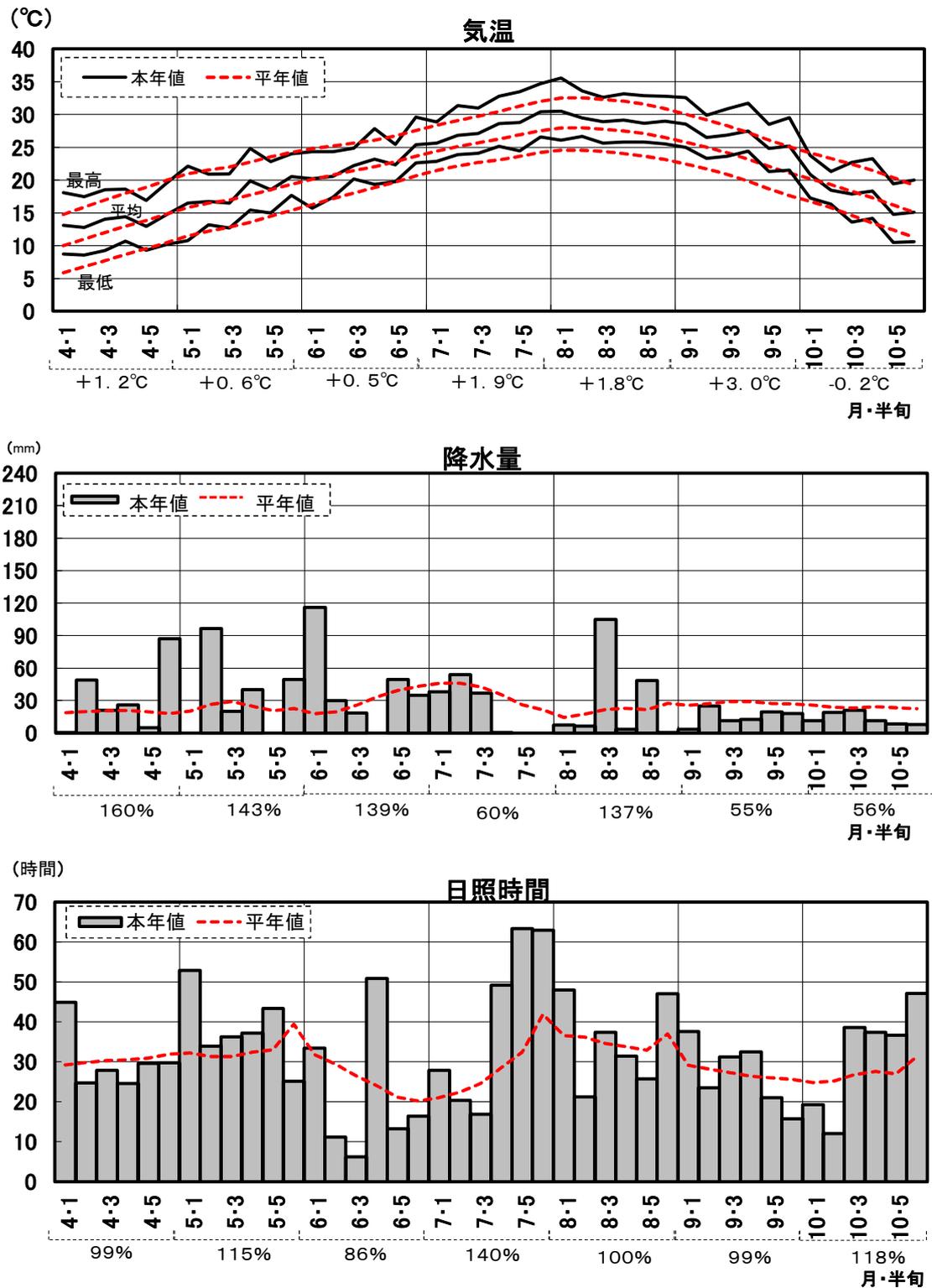
| 令和5年(2023年) BLASTAM 結果 | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|
| | | 今津 | 長浜 | 米原 | 南小松 | 彦根 | 東近江 | 大津 | 信楽 | 土山 |
| 6月6日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月7日 | 水 | ○1 | ○4 | - | ○1 | ● | - | ● | ○4 | ○4 |
| 6月8日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月9日 | 金 | - | - | - | - | - | ○1 | - | ? | - |
| 6月10日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月11日 | 日 | ● | - | - | ● | ● | ○4 | ● | ○1 | - |
| 6月12日 | 月 | - | ● | - | - | ○4 | - | - | - | - |
| 6月13日 | 火 | - | - | ● | - | - | - | - | ○4 | ● |
| 6月14日 | 水 | - | ● | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月15日 | 木 | - | - | - | - | ● | ● | - | ● | - |
| 6月16日 | 金 | - | - | ○4 | - | - | - | ● | - | - |
| 6月17日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月18日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月19日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月20日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月21日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月22日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月23日 | 金 | ● | ● | - | - | - | ○4 | - | - | - |
| 6月24日 | 土 | ● | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月25日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月26日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月27日 | 火 | ● | ● | ● | ● | ● | - | ? | - | - |
| 6月28日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月29日 | 木 | ● | ● | ● | ● | ● | - | ● | - | ● |
| 6月30日 | 金 | - | - | ● | ● | ● | ● | - | - | - |
| 7月1日 | 土 | - | ● | - | ● | - | ○2 | - | ● | - |
| 7月2日 | 日 | ● | ● | ● | - | - | ○2 | ○2 | ● | ● |
| 7月3日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月4日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月5日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月6日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | ● |
| 7月7日 | 金 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月8日 | 土 | ○3 | - | - | ○3 | - | ○3 | ○3 | - | - |
| 7月9日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月10日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月11日 | 火 | - | - | ○2 | - | - | - | - | - | - |
| 7月12日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月13日 | 木 | ○2 | - | - | ○2 | ○3 | - | - | - | ○2 |
| 7月14日 | 金 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月15日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月16日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月17日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月18日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月19日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月20日 | 木 | - | - | ○2 | ○3 | - | - | - | - | ○2 |

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]
 ●: 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある。)
 ○1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
 ○2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
 ○3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃以外)
 ○4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
 ?: 判定不能

図3 令和5年度BLASTAMによる感染好適日の出現状況

b 気象条件

6月は降水量が多く、日照時間は少なかったことから、葉いもちの感染が拡大した。7月下旬～8月上旬の降水量は少なく、高温で推移したため穂いもちの感染は抑制された。



平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

図4 令和5年度稲作期間の気象データ (彦根アメダス)

(2) 令和5年度(2023年度)のイネごま葉枯病の発生状況について

ア ごま葉枯病(発生時期:早、発生量:多)

ごま葉枯病の初発時期は7月7日と早かった。8月上旬には本病の発生はほとんど認められなかったが、成熟期における発生ほ場率および発病度は過去10年で最も高かった(表1)。特に、これまで毎年発生が見られないような地域やほ場でも発生が認められた。また、ごま葉枯病により穂枯まで至った報告もあったが、そのような発生ほ場は少なかった。

本病の発生が助長された要因として、出穂期以降の気温が高く推移し、8月以降は適度に降雨があったことが挙げられる(図1)。

イ 発生しやすい条件

出穂期以降の高温、特に夜温が高いとイネの窒素代謝による栄養凋落が急速に進んで、本病に対する抵抗力が低下する。そのため、出穂期以降登熟後期まで高温、多照で適度に降雨がある年に発生が多くなるとされる。

秋落ちしやすい条件(砂質浅耕土、老朽化水田、排水不良田等)では生育後期に栄養凋落が起こりやすくなり、本病に対する抵抗力が低下し、発生が著しく助長される。イネの初期生育が旺盛で後期に肥料切れするような場合に発病が助長される。

ウ 防除対策

中長期的対策:発生しにくい環境にするため、土づくり、施肥改善、栽培管理改善を行う。中長期的対策は、短期的対策より優先的に実施する。

短期的対策:毎年多発生するほ場では本田防除を実施する。温湯消毒のごま葉枯病に対する効果は低いことから、種子消毒する場合は殺菌剤を使用する。

表1 ごま葉枯病の発生ほ場率推移(成熟期調査)

| 地域名 | | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R02 | R03 | R04 | 平年 | R05 |
|-------|-------|------|-----|------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 大津・南部 | 発病度 | 0 | 0.1 | 0.2 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.1 | 0.9 | 0 | 0.1 | 0.7 |
| | 発生ほ場率 | 0 | 5.7 | 11.4 | 0 | 0 | 3.3 | 0 | 10.0 | 16.7 | 0 | 4.7 | 16.7 |
| 甲賀 | 発病度 | 1.2 | 0.1 | 0 | 0 | 0.1 | 0 | 0.1 | 0.7 | 0 | 1.4 | 0.3 | 1.9 |
| | 発生ほ場率 | 12.0 | 8.0 | 0 | 0 | 8.0 | 0 | 5.0 | 30.0 | 0 | 30.0 | 9.3 | 30.0 |
| 東近江 | 発病度 | 0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 3.4 | 0.5 | 5.2 |
| | 発生ほ場率 | 2.0 | 6.0 | 2.0 | 2.0 | 4.0 | 4.0 | 16.0 | 32.0 | 12.0 | 48.0 | 12.8 | 46.0 |
| 湖東 | 発病度 | 0.0 | 0.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.1 | 0.0 | 1.2 |
| | 発生ほ場率 | 4.0 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10.0 | 1.8 | 20.0 |
| 湖北 | 発病度 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 1.0 |
| | 発生ほ場率 | 0 | 2.2 | 0 | 2.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.4 | 12.5 |
| 高島 | 発病度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.7 |
| | 発生ほ場率 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5.0 |
| 全 県 | 発病度 | 0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.2 | 0.2 | 1.1 | 0.2 | 2.2 |
| | 発生ほ場率 | 2.5 | 4.5 | 2.5 | 1.0 | 2.0 | 1.7 | 5.0 | 13.9 | 6.1 | 17.8 | 5.7 | 24.4 |

調査地点数:36(大津南部6、甲賀4、東近江10、湖東4、湖北8、高島4)

H24~H29は40地点(H27は39地点)、H30~R5は36地点の調査データから算出した平年値はH25~R4の平均値を示す。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) \div (4 \times \text{調査株数}) \times 100$$

(葉身の基準)

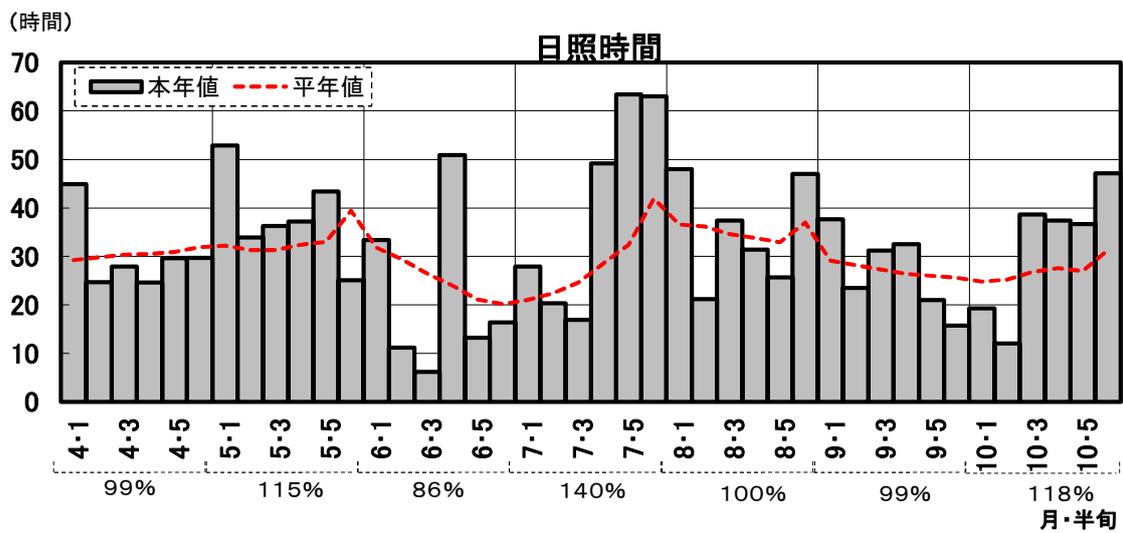
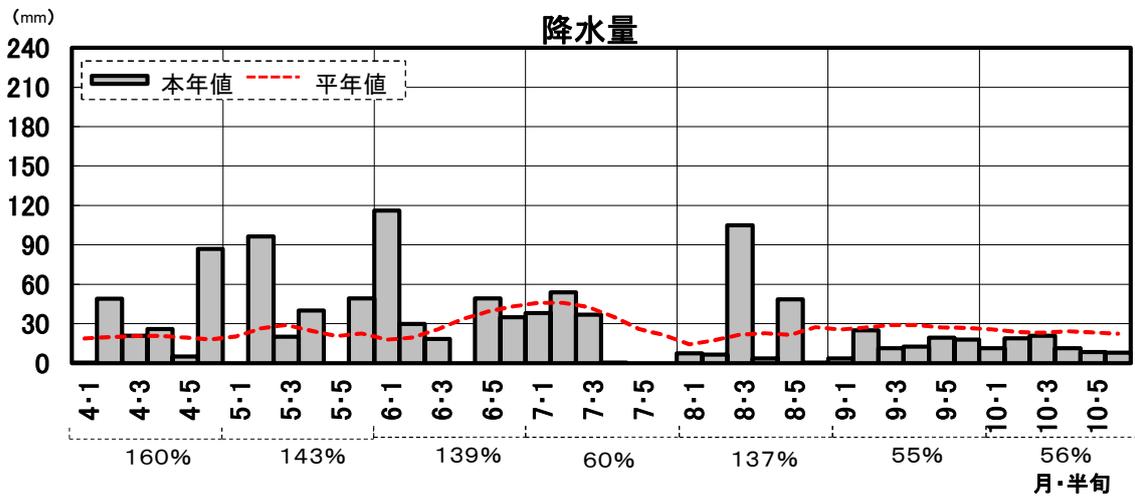
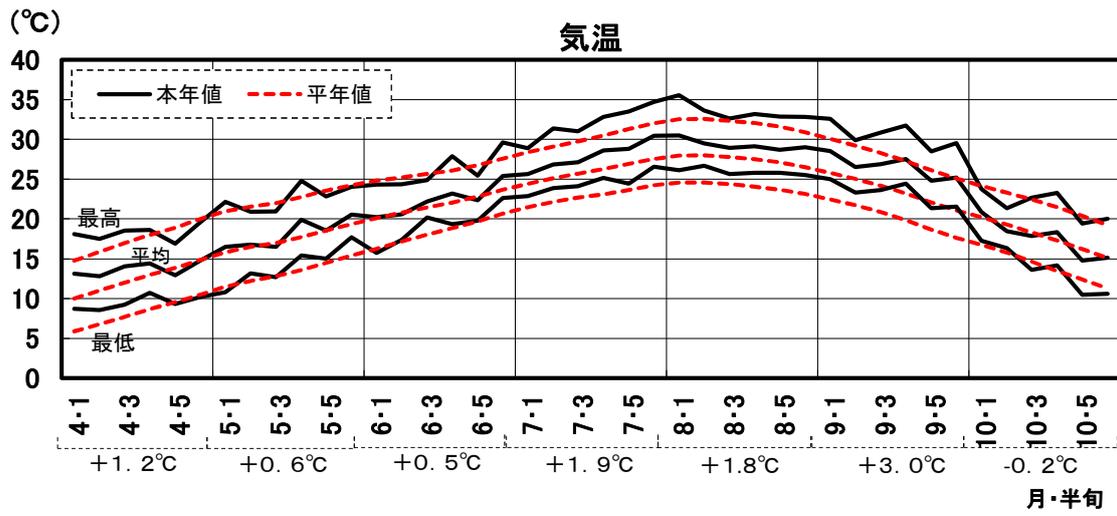
A:1株の上葉に非常に多くの病斑が認められ、上位3葉での枯死葉も認められる。

B:1株の上葉にかなり多くの病斑が認められ、上位3葉の一部に枯死葉が認められる。

C:1株の上葉に病斑がかなり認められる。

D:1株中病斑がわずかに認められる。

参考文献:新潟県農林水産部(2015)イネごま葉枯病の発生生態と防除対策



平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

図1 令和5年度稲作期間の気象データ (彦根アメダス)

(3) 令和5年度のムギ類赤かび病の発生状況

ア 発生状況について

コムギ赤かび病の発生ほ場率、発病度ともに高かった（表1A）。オオムギ赤かび病の発生ほ場率は高く、発病度はやや高かった（表1B）。赤かび病の発生は開花時期に関わらずコムギおよびオオムギで広く認められた。

発生を助長した要因として、開花期以降の定期的な降雨が挙げられる。開花期ごろから、長くても5～6日間隔で降雨があり、感染のタイミングが複数回あったと考えられる。赤かび病菌の子のう胞子飛散の好適条件も断続的に認められた。

表1. ムギ類赤かび病の発生量データ

(A) コムギ 赤かび病

| 地域名 | 産年 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R02 | R03 | R04 | 平年 | R05 |
|-------|-------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 大津・南部 | 発病度 | 0.0 | 0.1 | 0 | 0.3 | 0.0 | 0.6 | 0.2 | 0.0 | 1.5 | 1.5 | 0.4 | 2.8 |
| | 発生ほ場率 | 6.7 | 10.0 | 0 | 37.1 | 6.7 | 71.4 | 25.7 | 5.7 | 73.3 | 80.0 | 31.7 | 82.9 |
| 甲賀 | 発病度 | 0.0 | 0 | 0 | 0.2 | 0.0 | 0.7 | 0 | 0.1 | 1.3 | 2.6 | 0.5 | 1.8 |
| | 発生ほ場率 | 6.7 | 0 | 0 | 26.7 | 6.7 | 86.7 | 0 | 20.0 | 100 | 80 | 32.7 | 90.0 |
| 東近江 | 発病度 | 0.0 | 0.0 | 0 | 0.1 | 0.1 | 0.6 | 0 | 0.1 | 1.4 | 2.3 | 0.5 | 2.2 |
| | 発生ほ場率 | 6.0 | 2.0 | 0 | 12.0 | 10.0 | 76.0 | 0 | 18 | 85.0 | 80.0 | 28.9 | 93.3 |
| 湖東 | 発病度 | 0.1 | 0.0 | 0 | 0.1 | 0.1 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 0.6 | 0.3 | 0.6 |
| | 発生ほ場率 | 20.0 | 4.0 | 0 | 16.0 | 12.0 | 88.0 | 36.0 | 36.0 | 72.0 | 48.0 | 33.2 | 60.0 |
| 湖北 | 発病度 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0.2 | 0.1 | 0.5 | 0.1 | 0 | 0.6 | 0.5 | 0.2 | 1.2 |
| | 発生ほ場率 | 10.0 | 0 | 4.0 | 36.0 | 20.0 | 80.0 | 20.0 | 0 | 85.0 | 80.0 | 33.5 | 100.0 |
| 全 県 | 発病度 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.1 | 0.6 | 0.1 | 0.1 | 1.2 | 1.6 | 0.4 | 1.9 |
| | 発生ほ場率 | 8.7 | 3.3 | 0.7 | 24.0 | 9.0 | 76.1 | 16.1 | 16.7 | 82.0 | 74.7 | 31.1 | 86.0 |

多
多

大津南部7地点、甲賀2地点、東近江12地点、湖東5地点、湖北4地点で、

1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。

調査品種

「びわほなみ」：栗東市上砥山、竜王町小口、日野町猫田、近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、鳥町、

東近江市上羽田、高木町、福堂町、長町、米原市新庄、上多良

「農林61号」：草津市下笠町、守山市赤野井町、野洲市上屋、西河原、湖南市菩提寺、甲賀市水口町酒人、甲南町杉谷、

本市場、本庄町

「ふくさやか」：東近江市横山、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺、彦根市普光寺町、甘呂町

「シロガネコムギ」：守山市矢鳥町

「ミナミノカオリ」：近江八幡市野村町

(B) オオムギ 赤かび病

| 地域名 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R02 | R03 | R04 | 平年 | R05 |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 大津・南部 | 発病度 | 0 | 0.1 | 0 | 0 | 0 | 0.1 | 0 | 0.3 | 0.5 | 0.1 | 0.1 |
| | 発生ほ場率 | 0 | 20.0 | 0 | 0 | 0 | 20.0 | 0 | 40.0 | 80.0 | 20.0 | 18.0 |
| 甲賀 | 発病度 | 0.1 | 0 | 0 | 0.5 | — | — | — | — | — | — | 0.2 |
| | 発生ほ場率 | 20.0 | 0 | 0 | 80.0 | — | — | — | — | — | — | 25.0 |
| 東近江 | 発病度 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | 0.2 | 0.4 | 0.0 | 0.2 |
| | 発生ほ場率 | 10.0 | 10.0 | 20.0 | 6.7 | 40.0 | 53.3 | 13.3 | 26.7 | 53.3 | 6.7 | 24.0 |
| 湖東 | 発病度 | 0 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | — | — | — | — | — | — | 0.1 |
| | 発生ほ場率 | 0 | 10.0 | 20.0 | 20.0 | — | — | — | — | — | — | 12.5 |
| 湖北 | 発病度 | 0.1 | 0 | 0 | 0.8 | 0 | 0.2 | 0.5 | 0.1 | 0.4 | 0.8 | 0.3 |
| | 発生ほ場率 | 20.0 | 0 | 0 | 100.0 | 0 | 30.0 | 70.0 | 13.3 | 60.0 | 73.3 | 36.7 |
| 高島 | 発病度 | 0 | 0 | 0 | 0.7 | 0.3 | 0.5 | 0.4 | 0.3 | 2.5 | 0.8 | 0.6 |
| | 発生ほ場率 | 0 | 0 | 0 | 90.0 | 50.0 | 80.0 | 60.0 | 50.0 | 70.0 | 90.0 | 49.0 |
| 全 県 | 発病度 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 0.3 | 0.2 | 0.9 | 0.5 | 0.3 |
| | 発生ほ場率 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 44.4 | 21.5 | 50.0 | 31.5 | 28.9 | 62.2 | 48.9 | 32.2 |

やや多
多

甲賀地域は湖南市菩提寺の1地点、東近江地域は近江八幡市長田町、東近江市建部北町、竜王町岡屋の3地点。

湖北地域は長浜市高月町柳野中、湖北町山本、口分田町の3地点、高島地域は高島市今津町下弘部、新旭町菜園の2地点。

近江八幡市長田町はニューサチホゴールデン、それ以外はファイバースノウ。

1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。

調査日：R05年度はコムギ5/16～22、オオムギ5/2～18

イ 品種別のコムギ赤かび病の発病度について

コムギ「びわほなみ」では、発生ほ場率が98.6%とほとんどのほ場で赤かび病の発生が認められた（表2）。また、「びわほなみ」の発病度（2.9）は農林61号の発病度（1.5）の2倍程度となった。

表2.品種別コムギ赤かび病の発生量

| | 発生ほ場率 | 発病度 | 調査地点数 |
|-------------|-------|-----|-------|
| 農林61号 | 87.5 | 1.5 | 8 |
| びわほなみ | 98.6 | 2.9 | 14 |
| ふくさやか | 60.0 | 0.6 | 6 |
| R5コムギ平均値 | 86.0 | 1.9 | — |
| 平年値(H25-R4) | 31.1 | 0.4 | — |

1地点につき5ほ場調査。

(4) イネ縞葉枯病について

ア 発生状況

6月16日基準調査（立毛中）において、発病株率は0.1%で「平年並」、発生ほ場率は1.7%で「やや多」であり、甲賀地域および東近江地域のみでわずかに発病が認められた。8月16日基準調査（立毛中）では高島地域以外で発病が認められ、発病株率は1.7%（各ほ場0～12%）、発生ほ場率は31.1%と、いずれも「やや多」であった（表1）。ほとんどのほ場で発病程度は低く（1/3以下の茎でのみ発病）、発生程度がやや高いほ場（1/3以上の茎で発病）の割合は2.2%（4/180ほ場）のみであった。

表1 8/16基準調査におけるイネ縞葉枯病の発生量。県内36地点180ほ場での調査。

| (a) 発病株率 (%) | | | | | | | | | | (b) 発生ほ場率 (%) | | | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 地域名 | H28 | H29 | H30 | H31 | R02 | R03 | R04 | 平年 | R05 | 地域名 | H28 | H29 | H30 | H31 | R02 | R03 | R04 | 平年 | R05 |
| 大津南部 | 0 | 1.9 | 3.1 | 2.3 | 1.3 | 0 | 2.0 | 1.5 | 1.2 | 大津南部 | 0 | 34.3 | 66.7 | 50.0 | 30.0 | 0 | 33.3 | 30.6 | 30.0 |
| 甲賀 | 0 | 1.4 | 4.2 | 2.0 | 0.5 | 0 | 2.0 | 1.4 | 2.6 | 甲賀 | 0 | 20.0 | 75.0 | 50.0 | 10.0 | 0 | 50.0 | 29.3 | 35.0 |
| 東近江 | 0.0 | 1.9 | 5.5 | 2.2 | 0.4 | 0.4 | 2.3 | 1.8 | 2.4 | 東近江 | 2.0 | 42.0 | 96.0 | 52.0 | 10.0 | 10.0 | 42.0 | 36.3 | 44.0 |
| 湖東 | 0 | 0 | 1.4 | 1.0 | 0.6 | 0.2 | 1.0 | 0.6 | 4.8 | 湖東 | 0 | 0 | 35.0 | 25.0 | 15.0 | 5.0 | 20.0 | 14.3 | 80.0 |
| 湖北 | 0 | 0.1 | 0.3 | 0.1 | 0.9 | 0 | 0 | 0.2 | 0.2 | 湖北 | 0 | 2.2 | 7.5 | 2.5 | 22.5 | 0 | 0 | 5.0 | 5.0 |
| 高島 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 高島 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 全県 | 0.0 | 1.0 | 2.7 | 1.3 | 0.7 | 0.1 | 1.3 | 1.0 | 1.7 | 全県 | 0.5 | 19.5 | 51.7 | 31.7 | 15.6 | 3.3 | 25.0 | 21.0 | 31.1 |

平年値はH28～R4の平均値

10月1日基準調査において、刈り株再生芽での本病の発病株率は12.2%で「多」、発生ほ場率は86.1%で「やや多」であった（図1）。特に、東近江および湖東地域での発病株率が高かった（図2）。発病株率は過去10年間で最も高い値となったため、10月4日付で防除情報第11号を発表した。

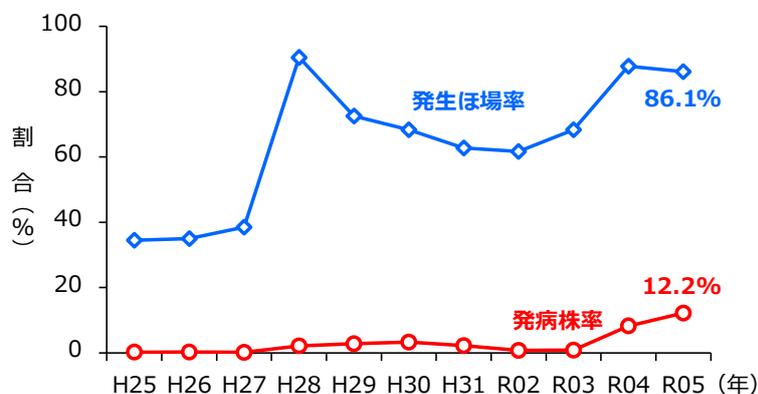


図1 刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の発生量（10月1日調査）。

イ 発生要因

本病は、ヒメトビウンカによって媒介されるイネ縞葉枯病ウイルスが原因で発病する。令和5年3月31日～4月5日にかけて県内36地点で採集した計105個体のヒメトビウンカ越冬世代成虫において、ウイルスの保毒虫率は9.5%であり、過去10年間で最も高かった。

本田でのヒメトビウンカの発生量は、7月11日基準すくい取り調査で「平年並」であったが、8月16日基準払い落とし調査では「多」であり、幼虫の発生量が多かった。これは、7月下旬～

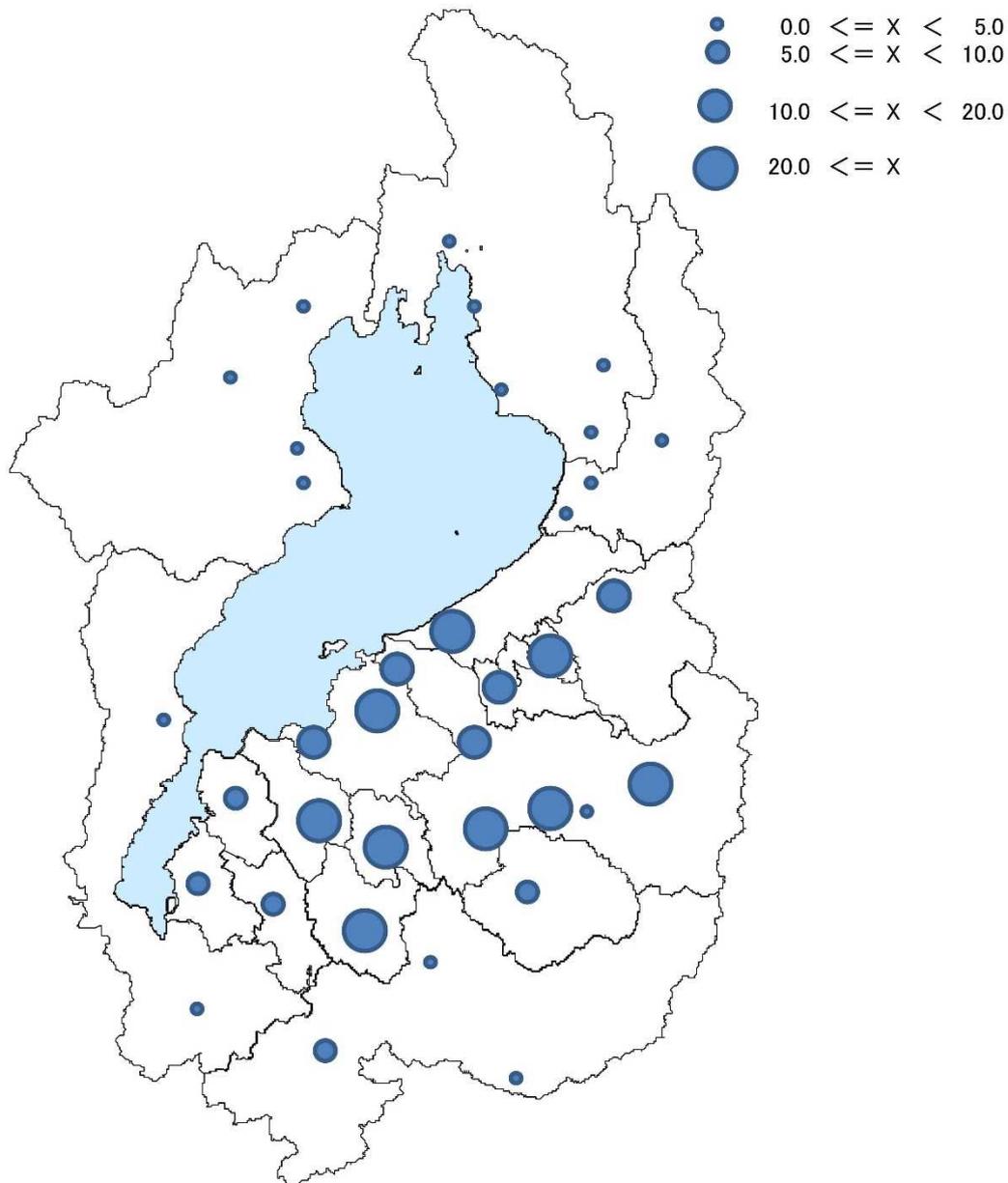


図2 刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の発病株率（10月1日調査）。

8月上旬の降水量は少なく、また高温で推移し、本虫の生育に好適であったためと考えられる。

幼穂形成期までにウイルスに感染したイネは立毛中で発病するが、それ以降の時期に感染した場合、立毛中では発病せずに刈り株再生芽で発病する。そのため、刈り株再生芽での発病株率は、立毛中の発病株率よりも高くなる傾向がある。

以上のことから、越冬世代における保毒虫率が高かったことが、立毛中の発病がやや多くなったこと、また、幼穂形成期以降に本虫の個体数が急増したことが、刈り株再生芽で本病が多発した要因であると推測される。

ウ 本病害による減収

本病による減収が見込まれ、防除が必要となる目安（要防除水準）は「6月下旬の発病株率が1%以上」である（令和5年度病害虫雑草防除基準）。また、コシヒカリにおいて、本病による減収率は穂揃期の発病株率から推定ができる（茨城県、H26年度成果情報）。発病株率が14%を超えると減収するが、発病株率が30%でも減収率は約2.6%と推定される。他の品種において、発病株率と減収率の関係についての知見は無いが、基本的に「発病株率>発病茎率」、「発病茎率=減収率」の関係性になると考えられる。

エ 防除対策

・薬剤防除

前年、縞葉枯病の発生が多かった地域では、育苗箱施用により本田に飛来するヒメトビウンカ第1世代成虫を防除する。薬剤ごとの殺虫効果は報告されていないが、複数年連続して同系統の薬剤を施用している場合、異なる系統の薬剤を組み合わせる。また、6月下旬の発病株率が高い場合には、本田散布により第2世代幼虫を防除する。

越冬後の第1世代は麦類に移動するため、麦類での防除の必要性を指摘する報告もある（H29、茨城病害虫研究会報）。本県では、50回すくい取りで10頭以下の地点がほとんどであり、麦類での本種の発生量は少ない（H29～31、滋賀県病害虫防除所年報）ため、麦類での防除の有効性は明らかでない。

・ほ場管理による越冬虫の防除

収穫後の刈り株はヒメトビウンカの越冬場所になるため、耕起してすき込む。また、ほ場周辺のイネ科雑草も本虫の越冬場所となる。ほ場に近いほど、雑草地に生息する本虫の保毒虫率が高い傾向があるため、ほ場周辺のイネ科雑草の除草を徹底する（R3、茨城県防除マニュアル）。

第3 侵入調査事業

令和5年度から、改正植物防疫法に基づき、重要病害虫の早期発見・早期防除を目的として全国で斉一的に病害虫の調査を行う「侵入調査事業」が行われることとなった。令和5年度、本県では下記の病害虫について、農林水産省作成の「侵入調査マニュアル（令和5年）」に基づき調査した。

侵入調査用のフェロモントラップで「トマトキバガ」が誘殺されたため、10月27日付で特殊報を発表した。その他の病害虫は発生が認められなかった（表1）。

表1 侵入警戒病害虫の調査結果

| 対象となる病害虫 | 調査方法 | 設置地点数 | 調査期間 | 発生 |
|--------------------|-----------|-------|-----------------|----------------|
| ミカンコミバエ種群 | フェロモントラップ | 2地点 | 4月～11月
(月2回) | なし |
| ウリミバエ | | | | |
| クインスランドミバエ | | | | |
| トマトキバガ | フェロモントラップ | 1地点 | 4月～11月
(月4回) | 10月16日に
初誘殺 |
| イネミイラ穂病菌 | 目視（イネ） | 3地点 | 7/24～8/8 | なし |
| インゲンマメ萎ちょう
細菌病菌 | 目視（ダイズ） | 23地点 | 9/19～9/21 | なし |
| ウメ輪紋ウイルス | 目視（もも、うめ） | 2地点 | 6/13 | なし |

第4 農薬安全使用等総合推進事業

農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理事務を行った。また、農薬取扱者（農薬販売者および農薬使用者）への巡回点検・指導を実施した。さらに、農薬取扱者、農業者および農業団体等に対し、研修会等を通じて農薬の安全使用について周知徹底を図った。これらのことで農薬の販売および使用の適正化と農薬による危被害防止の啓発に努めた。

1 農薬安全使用対策

農薬の安全使用は、農薬取扱者が農薬の特性を十分理解し、適正に使用することが重要である。このため、病虫害防除推進員、県、市町、農業協同組合などの関係職員や農薬取扱者を対象とした植物防疫研修会や農薬アドバイザー講習会等において、農薬の適正使用等について指導した。また、発生予察情報発信時に啓発資料を添付した。

2 農薬販売者の届出状況

(1) 令和5年度の届出件数は下表のとおりであった。

表 届出件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

| 区分 | 新規届出数 | 変更届出数 | 廃止届出数 | 計 |
|------------|-------|-------|-------|----|
| 農薬販売者（営業所） | 24 | 16 | 11 | 51 |

(2) 届出者(営業所)数

令和6年3月31日現在の届出者数は745件で、前年度より13件増であった。

3 農薬取扱者への巡回点検・指導の結果

農薬取扱者への巡回点検・指導を実施し、結果は下表のとおりであった。農薬取扱者のうち、農薬販売者の違反内容は、届出や帳簿に関する事項であった。

巡回点検・指導の結果（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

| 対象
農薬
取扱
者数 | 違反の内容 | | | | | | | | |
|----------------------|-----------|----------------------|---------------|---------------|----------|----------------------|----------------------|----------|--------------------------|
| | 農薬販売者 | | | | | 農薬使用者 | | | |
| | 届出
の不備 | 無登
録農
薬の
販売 | 虚偽
の
宣伝 | 帳簿
の
不備 | 点検
拒否 | 無登
録農
薬の
使用 | 農薬
使用
基準
違反 | 点検
拒否 | ゴルフ場農薬
使用計画に関
する変更 |
| 99 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |

第5 病害虫発生予察情報発表内容

1 予報

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|-----------------------|------|---------------------------------|------|-----|---|
| イネ | いもち病 | 5月16日
(葉いもち) | 平年並 | 平年並 | (1) 余剰苗での発生を認めていない。
(2) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 6月6日
(葉いもち) | 平年並 | 平年並 | (1) 余剰苗での発生時期は平年並。
(2) 本田での発生を認めていない。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 6月20日
(葉いもち) | 早 | やや多 | (1) 余剰苗での発病時期は平年並。
(2) 本田での初発生は平年より8日早い。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日
(葉いもち) | 早 | やや多 | (1) ほ場での発生時期は早い。
(2) ほ場での発生量はやや多い。
(3) BLASTAMによる6月の感染好適条件の出現日数はやや多い。6月3半旬および6半旬に県内各地で感染好適条件が出現している。
(4) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(5) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多く日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日
(籾いもち、
極早生・早生
品種) | 平年並 | 平年並 | (1) 葉いもちの発生時期は早い。
(2) 水稻の生育時期は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多く日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日
(籾いもち) | 平年並 | 多 | (1) 葉いもちの発生量は多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日
(籾いもち、
中生・晩生品
種) | 平年並 | 平年並 | (1) 出穂期は平年よりやや早い見込み。
(2) 籾いもちの発生を認めていない。
(3) 葉いもちの発生量はやや多い。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| 紋枯病 | | 6月20日 | やや早 | やや多 | (1) ほ場での初発生は平年より7日早い。
(2) 前年の発生量は平年並。
(3) 水稻の茎数はやや少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日 | 平年並 | やや多 | (1) ほ場での発生時期は早い。
(2) 前年の発生量は平年並。
(3) 水稻の茎数は少ない。
(4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多く日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生時期はやや早い。
(2) 水稻の茎数は少ない。
(3) ほ場での発生量はやや少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日
(中生・晩
生品種) | 平年並 | 平年並 | (1) 中生品種の茎数は少ない。
(2) ほ場での発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| 白葉枯病 | | 7月4日 | 平年並 | やや少 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 前年の発生量はやや少ない。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多く日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日 | 平年並 | やや少 | (1) 前年の発生量はやや少ない。
(2) ほ場での発生を認めていない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや少 | (1) 前年の発生量はやや少なかった。
(2) ほ場での発生を認めていない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| 黄萎病
(ツマグロヨ
コバイ) | | 4月18日 | — | 平年並 | (1) 前年の刈株再生芽の発病は認められなかった。
(2) ツマグロヨコバイの越冬量は多い。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|--------------|---------------------------------|-----------------|------|-----|--|
| イネ | イネドロオ
イムシ(イ
ネクビホソ
ハムシ) | 4月18日 | やや早 | やや多 | (1) 前年の発生量はやや多かった。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。 |
| | | 5月16日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 前年の発生量はやや多かった。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 6月6日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 前年の発生量はやや多かった。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(4) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| イネミズゾ
ウムシ | | 4月18日 | やや早 | やや少 | (1) 予察灯への飛来を認めていない。
(2) 前年の発生量はやや少なかった。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 5月17日 | 平年並 | やや少 | (1) 本田への飛び込み時期は平年並。
(2) 前年の発生量はやや少なかった。
(3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 |
| ニカメイガ | | 5月16日
(第1世代) | 平年並 | 平年並 | (1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
(3) 越冬世代成虫の発ガ最盛期は彦根アメダス付近で5月27日ごろと予想され平年並。
(4) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(5) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月7日
(第1世代) | 平年並 | 平年並 | (1) 予察灯での誘殺時期は平年並。
(2) 予察灯での誘殺数は平年並。
(3) フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。
(4) 育苗箱施薬による防除が普及している。
(5) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日
(第2世代) | 早 | 平年並 | (1) 第1世代幼虫による被害の発生時期はやや遅い。
(2) 第1世代成虫発ガ最盛期はやや早いと推定される。
(3) ほ場での発生量は平年並。
(4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日
(第2世代) | 平年並 | 平年並 | (1) 第1世代幼虫による被害の発生時期はやや遅い。
(2) 第1世代成虫の発ガ最盛期の予測日はやや早い。
(3) ほ場での発生量はやや少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| トビイロウ
ンカ | | 7月4日 | — | — | (1) 本県では、現在までに予察灯での誘殺およびほ場での発生を認めていない。 |
| | | 7月19日 | — | — | (1) 本県では、7月10日頃までに飛来が認められた場合は多発する危険性が高いが、7月10日までに予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。
(2) これまでに、九州地方の各県で予察灯への飛来が、鹿児島県と岡山県で本田での発生が確認されている。 |
| | | 8月1日 | 平年並 | 平年並 | (1) 予察灯への飛来を認めていない。
(2) ほ場での発生を認めていない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) 予察灯への飛来を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| セジロウ
ンカ | | 7月4日 | 早 | 平年並 | (1) 予察灯への飛来時期は早い。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | 早 | 平年並 | (1) 予察灯への飛来時期は早い。
(2) ほ場での発生を認めていない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| ヒメトビ
ンカ | | 7月4日 | 平年並 | 平年並 | (1) 予察灯への飛来時期は平年並。
(2) 前年の発生量は平年並、越冬量は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) 予察灯への飛来数は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|------------------|----------|-------|------|--|---|
| イネ | ツマグロヨコバイ | 7月4日 | やや遅 | やや多 | (1) 予察灯への飛来時期は遅い。
(2) 前年の発生量は平年並、越冬量は多かった。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | — | やや多 | (1) 予察灯への飛来数はやや多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや多 | (1) 予察灯への飛来量はやや多い。
(2) ほ場での発生量はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 斑点米カメムシ類 | 7月4日 | 平年並 | やや多 | (1) 水稻の生育時期は平年並。
(2) 前年の発生量はやや多かった。
(3) 畦畔での発生量は平年並。
(4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | 平年並 | 多 | (1) 畦畔での発生時期は平年並。
(2) 畦畔での発生量は平年並であるが、一部地域においてホソハリカメムシおよびカスミカメムシ類の発生が多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 一部の地域で、アカスジカスミカメの発生量がやや多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| コブノメイガ | 7月19日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 8月1日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| イチモンジセセリ(イネツトムシ) | 7月4日 | 平年並 | やや少 | (1) 第1世代幼虫の発生時期は平年並。
(2) ほ場での発生量はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 | |
| コバネイナゴ | 6月6日 | やや早 | 平年並 | (1) 幼虫の発生時期はやや早い。
(2) 前年の発生量は平年並。 | |
| | 6月20日 | やや早 | 平年並 | (1) 幼虫の発生時期はやや早い。
(2) 前年の発生量は平年並。
(3) ほ場での発生量は平年並。 | |
| フタオビコヤガ(イネアオムシ) | 7月4日 | 早 | やや少 | (1) ほ場での発生時期は早い。
(2) ほ場での発生量は少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 | |
| ムギ | 赤かび病 | 3月23日 | やや早 | 平年並 | (1) 現在のところ、ムギの生育は早く、出穂時期はやや早いと予想される。
(2) 3か月予報(3月20日発表)では、向こう3か月の気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 4月18日 | 早 | やや多 | (1) コムギの生育は8~9日早く、県内各地で既に開花が始まっている。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。 |
| ダイズ | べと病 | 8月1日 | — | やや少 | (1) ほ場での初発生はやや早い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 葉焼病 | 8月22日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量は少ない。
(2) 8月3半旬に台風7号が接近した。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | アブラムシ類 | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 吸実性カメムシ類 | 8月1日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めた。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| 8月22日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | |
|--------|-----------|--------|-------|--|--|--|
| ダイズ | ハスモンヨトウ | 8月1日 | やや早 | やや多 | (1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。
(2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。
(3) ほ場での発生時期はやや早い。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | | 8月22日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | フタスジヒメハムシ | 8月1日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | ハダニ類 | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 野菜全般 | うどんこ病 | 6月6日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生は認めていない。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | | 7月4日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 灰色かび病 | 6月6日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | アブラムシ類 | 4月18日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| 5月16日 | | | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 | |
| 6月20日 | | | — | やや少 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| 7月4日 | | | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 | |
| 8月1日 | | | — | 平年並 | (1) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(2) ほ場での発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| 8月22日 | | | — | やや多 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| 9月26日 | | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| ハダニ類 | | | 5月16日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月20日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | | 7月4日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 | |
| | | 8月1日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| アザミウマ類 | | 5月16日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 | |
| | | 6月20日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 7月4日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 | | |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|---------|---------------|-------|------|---|--|
| 野菜全般 | ヨトウガ(ヨトウムシ) | 5月16日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | ハスモンヨトウ | 8月1日 | やや早 | やや多 | (1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。
(2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。
(3) ほ場での発生時期はやや早い。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 9月26日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | タバコガ類 | 7月4日 | — | やや多 | (1) フェロモントラップでの誘殺数はタバコガが多く、オオタバコガがやや多い。
(2) ほ場での発生量はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 8月1日 | — | 多 | (1) フェロモントラップでの誘殺数は多い。
(2) ほ場での発生量はやや多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガ、タバコガとともに多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 9月26日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生を認めた。
(2) フェロモントラップでの誘殺数はオオタバコガ、タバコガともに多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | ネキリムシ類(カブラヤガ) | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | キュウリ | べと病 | 6月6日 | 平年並 | 平年並 |
| タマネギ | べと病 | 3月23日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。 |
| ナス科野菜 | 疫病 | 5月16日 | 平年並 | やや少 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 前年に発生は認められなかった。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | | 6月6日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。 |
| | ニジュウヤホシテントウ類 | 5月16日 | やや早 | 平年並 | (1) ほ場での発生時期はやや早い。
(2) ほ場での発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月6日 | やや早 | やや少 | (1) ほ場での発生時期はやや早い。
(2) ほ場での発生量はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| アブラナ科野菜 | 軟腐病 | 9月26日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 黒腐病 | 9月26日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 菌核病 | 9月26日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | モンシロチョウ(アオムシ) | 5月16日 | 平年並 | 平年並 | (1) ほ場での発生時期は平年並。
(2) ほ場での発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めた。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | コナガ | 5月16日 | やや早 | 平年並 | (1) ほ場での発生時期はやや早い。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや少 | (1) 予察灯への誘殺数は少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| 8月22日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 予察灯への飛来量はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| 9月26日 | | — | やや少 | (1) ほ場での発生を認めた。
(2) 予察灯での誘殺数は少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|---------|------------------|-------|--------|-------|---|
| アブラナ科野菜 | ヨトウムシ
(ヨトウムシ) | 8月1日 | — | 平年並 | (1) フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 9月26日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生を認めた。
(2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | ハイマダラ
ノメイガ | 8月1日 | 平年並 | 平年並 | (1) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 9月26日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生はやや多い。
(2) 指標植物であるクレオメへの寄生数は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| 果樹全般 | カメムシ類 | 4月18日 | 遅 | 少 | (1) フェロモントラップでの誘殺を認めていない。
(2) チャバネアオカメムシ越冬虫数は少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 5月16日 | 平年並 | 少 | (1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。
(2) チャバネアオカメムシ越冬虫数は少ない。
(3) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数はともに少ない。
(4) 気象予報では 気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月20日 | — | 少 | (1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。
(2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日 | — | 少 | (1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。
(2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数はともに少ない。
(3) 気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 少 | (1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は少ない。
(2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数はともに少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | 少 | (1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は少ない。
(2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数はともに少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 少 | (1) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数はともに少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | ナシ | アブラムシ類 | 5月16日 | — |
| 黒星病 | 3月23日 | | | 早 | やや多 |
| 黒星病 | 4月18日 | | 早 | やや多 | (1) ナシの生育は早い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | 8月1日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 6月20日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 7月4日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | ナシヒメシ
ンクイ | | 5月16日 | やや早 | やや少 |
| 7月4日 | | | — | 少 | (1) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。
(2) ほ場での被害果を認めていない。
(3) 気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| 8月22日 | | | — | やや少 | (1) フェロモントラップでの7月以降の累積誘殺数は少ない。
(2) ほ場での被害果数は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| ナシハダニ類 | 6月20日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 7月19日 | | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|-----|-------------|-------------------|------|-----|--|
| ブドウ | べと病 | 7月4日 | 平年並 | やや少 | (1) ほ場での発生量は少ない。
(2) 前年の発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | 晚腐病 | 7月19日 | 平年並 | 平年並 | (1) 前年の発生量は平年並。
(2) ほ場での発生を認めていない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 灰色かび病 | 5月16日 | やや早 | 平年並 | (1) ブドウの生育はやや早い。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | チャノキイロアザミウマ | 6月20日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| カキ | 炭疽病 | 6月20日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | カキノヘタムシガ | 5月16日 | 早 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) カキの生育は早い。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) 第一世代成虫のほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | カキクダアザミウマ | 5月16日 | 早 | 平年並 | (1) ほ場での発生を認めていない。
(2) カキの生育は早い。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | カイガラムシ類 | 6月20日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | カメムシ類 | 9月26日 | — | 少 | (1) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数はともに少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| チャ | 炭疽病 | 6月6日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 前年の発生量はやや多い。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | もち病 | 6月6日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 前年の発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 新梢枯死症 | 7月19日 | — | やや多 | (1) 感染源となる輪斑病葉の発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 感染源となる輪斑病葉の発生量は多い。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | 輪斑病 | 7月4日 | — | やや多 | (1) 前年の秋芽における新梢枯死症の発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | チャノコカクモンハマキ | 4月18日
(第1世代幼虫) | 早 | やや多 | (1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。
(2) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの累積誘殺数はやや多い。
(3) 前年の最終世代の発生量は多い。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 6月20日
(第2世代幼虫) | 平年並 | やや多 | (1) 第1世代成虫の予察灯での誘殺時期は平年並。
(2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯で多く、フェロモントラップでやや多い。
(3) ほ場での発生量は平年並。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日
(第3世代幼虫) | 早 | 平年並 | (1) 第2世代成虫の初飛来日は早い。
(2) 第2世代成虫の予察灯での誘殺数は平年並。
(3) ほ場での発生量はやや少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|--------------|-------|-------------------|------|-----|--|
| チャ | チャハマキ | 4月18日
(第1世代幼虫) | やや早 | 平年並 | (1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は平年並。
(2) 前年の最終世代の発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 6月20日
(第2世代幼虫) | やや早 | 平年並 | (1) 越冬世代成虫の予察灯での誘殺時期はやや早い。
(2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯で多く、フェロモントラップで平年並。
(3) ほ場での発生量は平年並。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| チャノホソガ | | 4月18日
(第1世代幼虫) | 早 | やや多 | (1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は早い。
(2) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数はやや多い。
(3) 前年の最終世代の発生量はやや多い。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 6月6日
(第2世代幼虫) | やや早 | 多 | (1) 第1世代成虫の予察灯での誘殺時期はやや早い。
(2) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は多い。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日
(第3世代幼虫) | やや早 | やや多 | (1) 第2世代成虫の予察灯での誘殺時期は平年並。
(2) ほ場での発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日
(第4世代幼虫) | やや早 | 平年並 | (1) 第3世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。
(2) 第3世代成虫の累積誘殺数は予察灯で平年並、フェロモントラップでやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| チャノミドリヒメヨコバイ | | 6月6日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| チャノキイロアザミウマ | | 6月6日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| カンザワハダニ | | 3月23日 | — | やや少 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。 |
| | | 4月18日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 5月16日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月6日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月20日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月4日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 7月19日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量はやや少ない。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量はやや多い。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 9月26日 | — | やや多 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発表月日 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 |
|-----------|------------------------|---------------------------|------|--|--|
| チャ | ツマグロアオカスミカメ | 4月18日 | やや早 | 平年並 | (1) 一番茶の生育はやや早い。
(2) 前年の発生量は平年並。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | クワシロカイガラムシ
(第1世代幼虫) | 5月16日 | 早 | やや少 | (1) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃)による予測日は早い。
(2) 越冬世代成虫の寄生株率はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 6月6日
(年2回発生地域・第1世代幼虫) | 早 | 平年並 | (1) 甲賀市水口町水口(茶業指導所)におけるふ化最盛期(50%ふ化卵塊が過半数に達した時期)は早い。
(2) 調査茶園における寄生株率は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 7月19日
(年3回発生地域・第2世代幼虫) | やや早 | 平年並 | (1) 第1世代成虫の発生時期は早い。
(2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃)による予測日はやや早い。
(3) 第1世代成虫(雄繭)の寄生株率は平年並。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月1日
(年2回発生地域・第2世代幼虫) | やや遅 | 平年並 | (1) 第1世代成虫の発生時期は早い。
(2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃、高温補正30℃)による予測日は平年並。
(3) 第1世代成虫の寄生株率(雄繭)は平年並。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| | | 8月22日
(年3回発生地域・第3世代幼虫) | やや早 | やや少 | (1) 第2世代幼虫の発生時期はやや早い。
(2) 第2世代成虫(雄繭)の寄生株率はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |
| チャトゲコナジラミ | 5月16日
(第1世代幼虫) | 早 | 平年並 | (1) 越冬世代成虫の発生時期は早い。
(2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 6月6日
(第1世代幼虫) | 平年並 | 少 | (1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。
(2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 7月19日
(第2世代幼虫) | 平年並 | やや少 | (1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は平年並。
(2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は少ない。
(3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 8月1日
(第2世代幼虫) | 平年並 | やや少 | (1) 第1世代成虫の発生ピークはやや遅い。
(2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。
(3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| | 9月26日
(第3世代幼虫) | やや早 | やや少 | (1) 第2世代成虫の発生時期は平年並。
(2) 第2世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。
(3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。
(4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 | |
| キク | アブラムシ類 | 7月4日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。 |
| | | 8月1日 | — | 平年並 | (1) ほ場での発生量は平年並。
(2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。
(3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 |

2 注意報および警報

本年度は、注意報を4回発表した。なお、警報は発表しなかった。

令和5年度病害虫発生予察注意報第1号

小麦赤かび病多発のおそれ

令和5年(2023年)4月27日
滋賀県

対象作物：小麦

病害虫名：赤かび病

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：5月上旬以降
3. 発生量：やや多

4. 注意報発表の根拠

- (1) 前年(令和4年)の小麦赤かび病の発生ほ場率は74.7%(平年25.7%)と、過去10年間で2番目に高かった。このため、一次伝染源となる病原菌の量は多いと推測される。
- (2) 農業技術振興センター(11月5日播種)における小麦の開花期から10日間の子のう胞子の飛散好適日の出現回数は、4回(平年4回)と平年並である(表)。
- (3) 向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台4月27日発表)では、気温は高く、降水量は平年並または多い見込みで、赤かび病菌の感染に適した気象条件となると予想される。
- (4) 「びわほなみ」は赤かび病に弱く、本病が多発する可能性がある。

5. 防除対策およびその他注意事項

- (1) 「びわほなみ」は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する防除体系を基本とするが、本年の気象条件では本病が多発する可能性があるため、散布2回目の7～10日後頃に3回目の防除を実施する。
- (2) その他の小麦品種は、開花始め～開花期に農薬を1回散布する。また、薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合や適期防除できなかった場合は、散布1回目の7～10日後頃に2回目の防除を実施する。
- (3) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。
- (4) 小麦については、デオキシニバレノールを1.0mg/kgを超えて含有するものであってはならない旨の成分規格が新たに設定され、令和4年4月から適用されている。基準値を超えると、流通できず、生産者が廃棄処分する必要がある。

表 小麦の開花期前後の気象条件（彦根アメダス）および子のう胞子の飛散好適日

| 月日 | 子のう胞子
飛散好適日
* 1 | 気温 (°C) * 2 | | | | | | 降水量
(mm) | 平均湿度
(%) | |
|--------|-----------------------|-------------|------|------|------|------|------|-------------|-------------|----|
| | | 平均 | | 最高 | | 最低 | | | | |
| | | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | | | |
| 開花期* 3 | 4/11 | - | 16.3 | 11.6 | 24.6 | 16.5 | 9.0 | 7.3 | 0 | 66 |
| | 4/12 | ○ | 13.4 | 11.8 | 17.3 | 16.7 | 10.6 | 7.5 | 2.5 | 73 |
| | 4/13 | - | 12.5 | 12.0 | 19.5 | 17.0 | 5.0 | 7.7 | 0 | 57 |
| | 4/14 | - | 14.6 | 12.2 | 19.8 | 17.2 | 8.4 | 7.9 | 0 | 60 |
| | 4/15 | - | 13.3 | 12.4 | 14.6 | 17.4 | 12.3 | 8.1 | 18.5 | 94 |
| | 4/16 | ○ | 14.0 | 12.6 | 18.0 | 17.6 | 11.0 | 8.3 | 9.5 | 79 |
| | 4/17 | - | 11.8 | 12.8 | 15.7 | 17.8 | 8.4 | 8.5 | 1.0 | 69 |
| | 4/18 | - | 12.1 | 13.0 | 17.5 | 18.0 | 6.9 | 8.7 | 14.0 | 79 |
| | 4/19 | ○ | 15.5 | 13.2 | 21.4 | 18.2 | 12.4 | 8.9 | 1.5 | 90 |
| | 4/20 | ○ | 18.6 | 13.3 | 25.3 | 18.4 | 14.3 | 9.0 | 0 | 81 |
| | 4/21 | - | 16.0 | 13.5 | 22.4 | 18.6 | 12.2 | 9.2 | 0 | 79 |
| | 4/22 | - | 12.5 | 13.7 | 15.9 | 18.7 | 10.0 | 9.4 | 0 | 48 |
| | 4/23 | - | 12.7 | 13.9 | 17.6 | 18.9 | 9.3 | 9.6 | 0 | 52 |
| | 4/24 | - | 12.0 | 14.0 | 15.8 | 19.1 | 8.5 | 9.7 | 0 | 46 |
| | 4/25 | - | 11.5 | 14.2 | 15.2 | 19.3 | 5.9 | 9.9 | 5.0 | 75 |
| | 4/26 | ○ | 13.1 | 14.4 | 15.9 | 19.6 | 10.8 | 10.1 | 34.5 | 87 |

* 1 : 最高気温が 15°C 以上、最低気温 10°C 以上で、平均湿度 80% 以上もしくは降雨直後の日

* 2 : 平年値は、1991～2020 年の 30 年間の平均値である。

* 3 : 農業技術振興センターのびわほなみ（11 月 5 日播種）における生育時期

令和5年度病害虫発生予察注意報第2号

いもち病の防除対策は確実に！

令和5年（2023年）7月12日
滋賀県

病害虫名：イネいもち病（葉いもち、穂いもち）

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：葉いもち 6月下旬以降、穂いもち 7月下旬以降
3. 発生量：多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月6日～11日に行った調査において、県内36地点180ほ場での葉いもちの発生ほ場率は32.2%（平年8.7%）、発病株率は4.2%（平年0.7%）と、ともに過去10年で最も高かった。
 - (2) アメダスデータを用いた葉いもち感染予測システム（BLASTAM）によると、6月以降断続的に感染好適日が出現している。特に、6月27日～7月2日に県内全域で連続して感染好適日が出現している（表）。
 - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台7月6日発表）では、降水量は平年並の見込みであるが、出穂期に曇雨天が続く場合は穂いもちが多発することが予想される。
5. 防除対策
 - (1) 葉いもちは、穂いもちの伝染源となるため、発生を認めたら直ちに薬剤を散布する。
 - (2) 穂いもちは、ほ場の状況（水稻の生育やいもち病の発生状況）をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
 - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
 - (3) 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。
 - (4) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。なお、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。
6. その他
 - (1) 薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。
 - (2) 粒剤を施用する場合、湛水状態にし、散布後1週間は、落水やかけ流しをしない。

表 BLASTAMによる感染好適日の判定結果

| | | 今津 | 長浜 | 米原 | 南小松 | 彦根 | 東近江 | 大津 | 信楽 | 土山 |
|-------|---|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|
| 6月1日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月2日 | 金 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月3日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月4日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月5日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月6日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月7日 | 水 | ○1 | ○4 | - | ○1 | ● | - | ● | ○4 | ○4 |
| 6月8日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月9日 | 金 | - | - | - | - | - | ○1 | - | ? | - |
| 6月10日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月11日 | 日 | ● | - | - | ● | ● | ○4 | ● | ○1 | - |
| 6月12日 | 月 | - | ● | - | - | ○4 | - | - | - | - |
| 6月13日 | 火 | - | - | ● | - | - | - | ○4 | ● | ● |
| 6月14日 | 水 | - | ● | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月15日 | 木 | - | - | - | - | ● | ● | ● | ● | - |
| 6月16日 | 金 | - | - | ○4 | - | - | - | ● | - | - |
| 6月17日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月18日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月19日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月20日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月21日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月22日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月23日 | 金 | ● | ● | - | - | - | ○4 | - | - | - |
| 6月24日 | 土 | ● | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月25日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月26日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月27日 | 火 | ● | ● | ● | ● | ● | - | ? | - | - |
| 6月28日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月29日 | 木 | ● | ● | ● | ● | - | - | ● | - | ● |
| 6月30日 | 金 | - | - | ● | ● | ● | ● | - | - | - |
| 7月1日 | 土 | - | ● | - | ● | - | ○2 | - | ● | - |
| 7月2日 | 日 | ● | ● | ● | - | - | ○2 | ○2 | ● | ● |
| 7月3日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月4日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月5日 | 水 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月6日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | ● |
| 7月7日 | 金 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月8日 | 土 | ○3 | - | - | ○3 | - | ○3 | ○3 | - | - |
| 7月9日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月10日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 7月11日 | 火 | - | - | ○2 | - | - | - | - | - | - |

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

令和5年度病害虫発生予察注意報第3号

タバコガ類による被害多発のおそれ

令和5年（2023年）7月27日
滋賀県

病害虫名：タバコガ類（オオタバコガ・タバコガ）
対象作物：野菜類、大豆、花き類

1. 発生地域：県内全域
2. 発生量：多

3. 注意報発表の根拠

- (1) 近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップにおいて、7月第4半旬までのオオタバコガ成虫の誘殺数は平年の約1.5倍、タバコガ成虫では約2.5倍であり、いずれも過去10年間で最も多い（図1）。
- (2) 露地ほ場のミニトマト（図2a）、ナス、および大豆で幼虫による食害が観察されている（図2b）。
- (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台7月20日発表）では、気温は高いと予想されており、今後も発生に好適な状況が続くため、被害の増加が懸念される。

4. 防除対策

- (1) 中齢以降の幼虫はトマトなどの果実、ブロッコリーや花き類の花蕾、キャベツなどの芯部や結球部（図2c）に潜って食害する。このため、薬剤がかかりにくく、防除効果も著しく低下するので、ほ場をよく見回り、幼虫の捕殺や薬剤散布などの防除を早期に実施する。
- (2) 施設栽培では、開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。
- (3) 防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯は防除効果が高い。

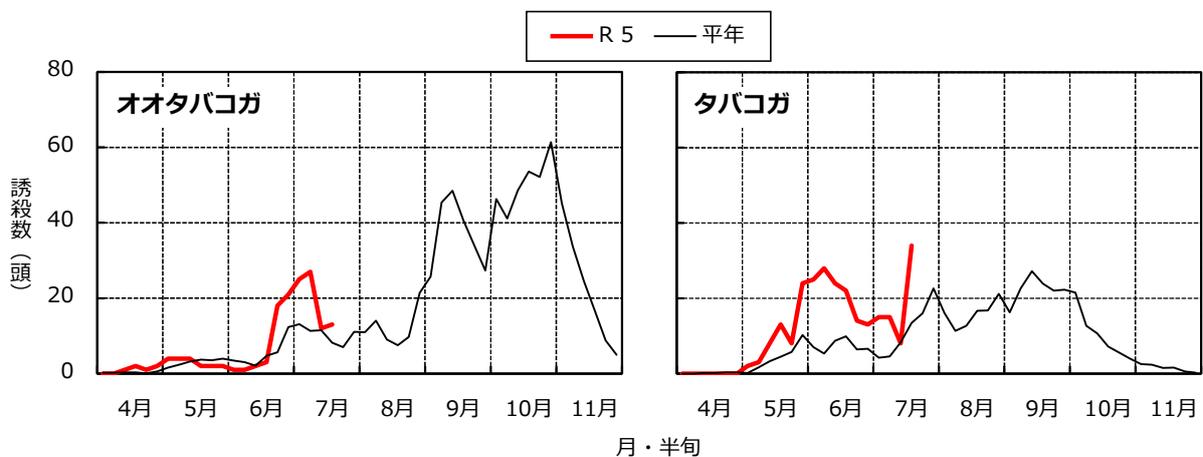


図1 フェロモントラップによるタバコガ類成虫の誘殺状況（近江八幡市安土町大中）



図2 タバコガ類幼虫による加害
(a) ミニトマト果実
(b) 大豆葉
(c) キャベツ芯部

令和5年度病害虫発生予察注意報第4号

タマネギべと病多発のおそれ

令和6年(2024年)3月26日
滋賀県

病害虫名：べと病
対象作物：タマネギ

1. 発生地域：県内全域

2. 発生量：多

3. 注意報発表の根拠

- (1) 3月中旬(3月11日～14日)に県内16地点で行った調査において、タマネギべと病(写真1および2)の発生ほ場率は62.5%(過去7年間の平年値：41.4%)、発病株率は2.8%(同平年値：1.7%)と、発生がやや多い。
- (2) 向こう1か月の気象予報(大阪管区气象台3月21日発表)では、気温は高く、降水量は多い見込みで、本病の感染に好適な条件が続き、さらに発生が多くなることが懸念される。

4. 防除対策

- (1) 前年発生があったほ場や、例年発生が認められるほ場では、特に注意して発生状況を確認する。
- (2) 越年り病株(写真1)や、症状が激しい二次感染株(写真2)の発生を認めた場合、速やかに発病株を抜き取り、ほ場外への持ち出しを徹底する。
- (3) 発病株の抜き取り後は、治療効果のある薬剤で早急に防除を実施する。
- (4) 本病の発生が認められない場合でも、孢子飛散による感染を防ぐため、感染前の予防散布を徹底する。
- (5) ほ場の排水が悪いと発病を助長するため、排水対策を徹底する。



写真1 越年り病株(えつねんりびょうかぶ)
葉が湾曲し、退色して淡黄緑色になる。



写真2 二次感染株病斑
葉に淡黄緑色の病斑を形成する。

3 特殊報

本年度は、特殊報を2回発表した。

令和5年度 病虫害発生予察特殊報第1号

令和5年(2023年)10月27日
滋賀県

1. 病虫害名 トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

2. 発生地域 近江八幡市

3. 発生経過

- (1) 近江八幡市安土町大中に設置しているトマトキバガ侵入調査用のフェロモントラップにおいて、令和5年10月中旬に本種と疑われる雄成虫が誘殺された(写真1)。滋賀県病虫害防除所において同定した結果、本県では未発生のトマトキバガであることを確認した。なお、県内では、10月23日までに、本種による農作物での発生および被害は確認されていない。
- (2) 本種は南米原産であるが、令和3年に熊本県のトマト栽培ほ場において、国内で初めて発生が確認された。その後、国内各地で誘殺が確認されており、10月24日現在、本県を含め36道府県で確認されている。

4. 形態および生態

- (1) 成虫(写真2)の体長は、翅を閉じた状態で5~7 mmである。前翅は、灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は、一様に淡黒褐色である。幼虫(写真3)の体長は、終齢で約8 mmである。体色は淡緑色~淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色の横帯がある。
- (2) 卵が成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。発生世代数は環境条件によって異なるが、1年に複数世代を繰り返す。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。雌は一生のうちに平均で約260個の卵を寄主植物の葉裏などに産み付ける。
- (3) 主な寄主植物は、トマト、なす、ピーマンおよびばれいしょ等のナス科植物である。マメ科植物のいんげんまめも、寄主植物として報告されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。また、葉の食害部分は表面を残して薄皮状になり、白変や褐変した外観となる(写真4)。さらに、幼虫は果実に潜り込んで食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに食害部が腐敗し(写真5)、果実品質が著しく低下する。

5. 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネット等を設置し、侵入を防止する。
- (3) トマトキバガと疑われる虫を見つけた場合は、速やかに最寄りの農業普及指導センターまたは病虫害防除所に連絡する。
- (4) 発生を拡大させないため、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中深くに埋却する。もしくは、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させるなどして適切に処分する。
- (5) 薬剤による防除を行う場合、発生を確認後、早期に実施する。なお、令和5年10月27日現在、本種に対する登録のある農薬の適用作物はトマトおよびミニトマトのみである。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。



写真1 フェロモントラップで誘殺された
トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ成虫 (体長5～7 mm)



写真3 トマトキバガ終齢幼虫 (体長8 mm)



写真4 幼虫の食害によるトマト葉の
被害 (飼育個体)



写真5 幼虫の食害によるトマト果実の
被害 (飼育個体)

注) 写真2～5は農林水産省植物防疫所原図

令和5年度 病害虫発生予察特殊報第2号

令和5年(2023年)12月26日
滋 賀 県

1. 病害虫名 シタバニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White)

2. 対象作物 ブドウ

3. 発生地域 高島市

4. 発生経過

- (1) 高島市の露地栽培のブドウにおいて、令和5年10月に多数のハゴロモ類が寄生している様子が認められた(写真1)。滋賀県病害虫防除所において同定した結果、本県では未発生のシタバニハゴロモであることが確認された。なお、県内では11月22日までに同ほ場以外で発生は確認されておらず、本種によるブドウの枯死や果実への被害も確認されていない。
- (2) 本種は中国本土、台湾、インドやベトナム原産の侵入害虫である。日本では、平成21年に石川県のニワウルシにおいて初めて発生が確認された。令和5年12月26日現在、滋賀県を除く9府県で庭木、街路樹および樹林地において発生が確認されている。

5. 形態および生態

- (1) 成虫(写真2および3)の体長は約2.5 cmで、翅を広げた長さは約5 cmである。前翅はクリーム色、後翅の半分は赤色で、いずれにも黒点が散在する。翅の色合いは、地域によって異なる場合がある。
- (2) 本種は年1世代のみ発生する。繁殖は9月以降に行われ、卵は寄主の根際から枝先まで、広い範囲に産み付けられる。産み付けられた卵は、ワックス状の物質で覆われていることが多い(写真4)。卵のまま越冬し、翌年5月頃から幼虫が発生する。幼虫が成虫になるまでの期間は約70日で、7月頃から成虫が発生する。
- (3) 広食性であり、70種以上の植物を寄主とすることが知られている。主な寄主植物はブドウ、ナシ、ウメやリンゴなどの果樹、ニワウルシ、センダン、アカメガシワおよびサンショウ属などの庭木・街路樹である。

成虫は主に樹幹、幼虫は新梢部の枝や葉軸から樹液を吸汁し、植物の生育不良や枯死を引き起こす。加えて、大量の甘露(糖分を多く含んだ排泄物)を分泌することで「すす症状」を引き起こし、果実の汚れの原因となる。葉に多量のすすが発生すると、光合成が阻害されることがある。



写真1 ブドウに寄生したシタバニハゴロモ成虫



写真2 成虫 (体長 約2.5cm)

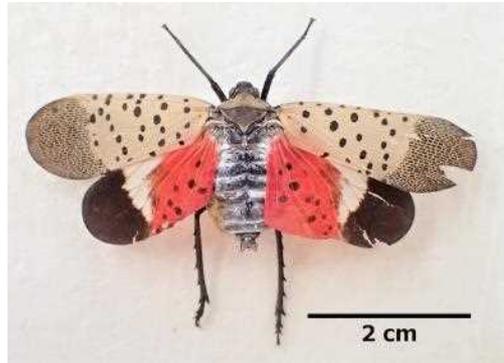


写真3 成虫 (開張時 約5 cm)



写真4 (左) ブドウの樹幹に産み付けられた卵塊
(右) ワックス状物質に覆われた卵塊

写真1 : J Aレーク滋賀提供
写真2～4 : 滋賀県病虫害防除所

4 防除情報

本年度は、15 回発表した。

令和 5 年度防除情報第 1 号

令和 5 年(2023 年) 4 月 18 日
滋 賀 県 病 害 虫 防 除 所

麦類赤かび病の多発が懸念されます

対象作物：麦類
病害虫名：赤かび病

本年の小麦の生育は平年より 8～9 日早く、県内各地で既に小麦および六条大麦の開花が始まっており、1 回目の赤かび病の防除適期となっているほ場があります。

前年（令和 4 年）の 5 月下旬の巡回調査の結果、小麦赤かび病の発生ほ場率は 74.7%（平年 25.7%）となり、過去 10 年間で 2 番目に高い状況でした。このため、一次伝染源となる病原菌の量は多いと推測されます。

また、大阪管区气象台 4 月 13 日発表の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込みで、赤かび病菌の孢子飛散および感染に好適な条件になると予想されます。赤かび病は適期防除が重要なため、以下を参考に確実に防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 小麦（「びわほなみ」を除く）は、開花始め～開花期に農薬を散布する。
- (2) 小麦（「びわほなみ」）および六条大麦は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその 7～10 日後頃に農薬を計 2 回散布する。
- (3) 薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、防除効果を高めるため、直前の散布の 7～10 日後頃に追加防除を行う。特に、「びわほなみ」では 3 回目の防除の実施に向けて準備する。



写真 麦類赤かび病の発病穂

イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの防除をいましょう

対象作物：イネ

病害虫名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

3月31日～4月5日に県内36地点の本田の刈り株再生芽（ひこばえ）で採集したヒメトビウンカ越冬虫において、イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は9.5%でした。平年（3.0%）のおよそ3倍と高く、平成25年から令和4年までの過去10年と比較して最も高くなりました（図）。

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。イネの生育初期にウイルスに感染すると、生育不良や出穂の異常（穂の奇形や不稔）が起こります（写真）。本病のまん延を防止するため、以下を参考に防除を実施しましょう。広域に防除を行うことで、防除効果が高まります。

防除上注意すべき事項

- (1) 畦畔や雑草地の除草を行う。
- (2) 例年発生が多いほ場では、育苗箱施薬を行う。
- (3) 発病株は早期に抜き取る。
- (4) 窒素質肥料の多施用を避ける。
- (5) 6月下旬に発病株率が高い場合は、6月下旬～7月上旬に薬剤散布を行う。

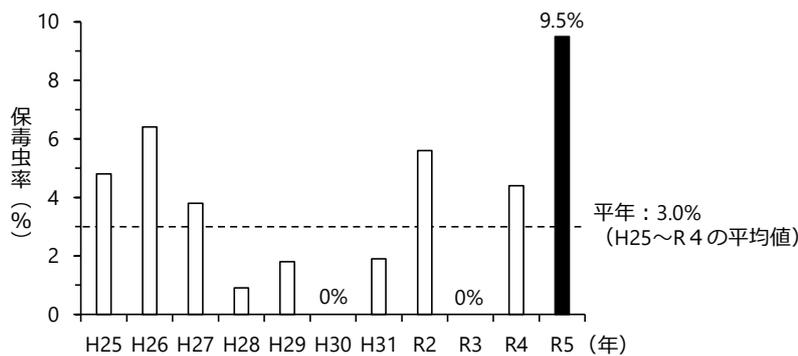


写真 イネ縞葉枯病の発病株

図 ヒメトビウンカ越冬虫におけるイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率（平成26年まではラテックス法、平成27年以降は簡易ELISA法により検定）

茶園におけるチャノコカクモンハマキの被害に注意しましょう

対象作物：チャ

病虫害名：チャノコカクモンハマキ

滋賀県農業技術振興センター茶業指導所（甲賀市水口町）内に設置しているフェロモントラップにおいて、4月第3半旬までのチャノコカクモンハマキ第1世代成虫の累積誘殺数が平年の約3.5倍になりました（図、写真）。

本種の前年最終世代の発生量は多く、茶園における被害が平年より多くなる可能性が高まっています。このため、一番茶の摘採が遅い茶園では一番茶芽への被害が予想されますので、注意して下さい。

なお、第1世代幼虫を対象に防除を実施する場合は、一番茶摘採前の防除となりますので、薬剤の摘採前日数の遵守や隣接茶園への飛散には十分注意して下さい。

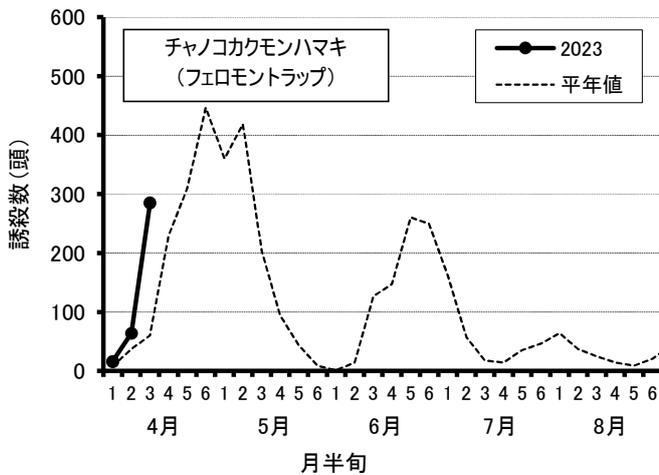


図 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ成虫誘殺数の推移（甲賀市水口町）



写真 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ成虫の誘殺状況（2023/4/17撮影）

カブラヤガ(ネキリムシ)による被害に注意しましょう

対象作物：野菜類

病虫害名：カブラヤガ

カブラヤガ(ネキリムシ)の発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップでは、4月第5半旬までのカブラヤガの累積誘殺数は平年の1.6倍であり(図)、過去10年で最も多かった平成28年に次いで2番目に多くなっています。

本種はアブラナ科、ナス科、ウリ科、マメ科野菜およびスイートコーンなどを広く加害します。中齢以降の幼虫(写真)による株元の茎および葉の切断が発生する恐れがあるので、注意して下さい。粒剤施用や幼虫の捕殺などにより防除しましょう。

なお、薬剤の使用にあたっては、県農作物病虫害雑草防除基準を参照してください。

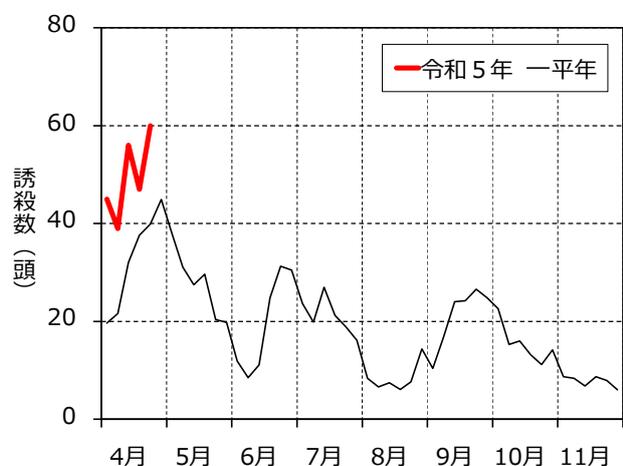


図 フェロモントラップによるカブラヤガ成虫の誘殺状況(近江八幡市安土町大中)



写真 フェロモントラップに誘殺された成虫と老齢幼虫(左下)

令和5年度防除情報第5号

令和5年(2023年)6月9日
滋賀県病虫害防除所

茶園におけるチャノホソガの多発に注意！

対象作物名：チャ

対象病虫害：チャノホソガ（第2世代幼虫）

滋賀県農業技術振興センター茶業指導所（甲賀市水口町）内に設置しているフェロモントラップにおけるチャノホソガ第1世代成虫の誘殺数が急増しており（図、写真）、今後、多発が懸念されます。

多発した場合、第2世代幼虫による巻葉や虫フンによる被害の増加が予想されます。二番茶新芽への産卵状況を確認し、防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- （1）新葉の裏側をよく観察し、水滴状の卵等を確認してから、三角巻葉前の卵～幼虫潜葉初期に防除を行う。
- （2）昆虫成長制御剤（IGR）は卵の時期に、他の薬剤は幼虫潜葉初期に散布する。
- （3）二番茶の収穫を予定している園では、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。

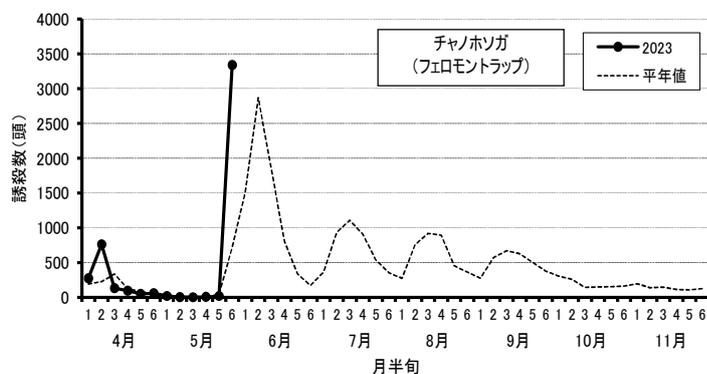


図 フェロモントラップによる成虫誘殺数の推移
（甲賀市水口町）



写真 フェロモントラップによる
成虫誘殺の状況（2023/5/29撮影）

令和5年度防除情報第6号

令和5年(2023年)6月9日
滋賀県病虫害防除所

茶園におけるカンザワハダニの多発に注意！

対象作物名：チャ

対象病虫害：カンザワハダニ

茶園において、カンザワハダニ（写真）の発生量が、やや多く推移しています。6月上旬の巡回調査では、寄生葉率が12.7%（平年6.8%）、寄生数（成虫＋幼虫＋卵）も1.98頭/葉（平年0.88頭/葉）と多く、今後、被害の増加が見込まれます。ほ場を確認し、多発園では薬剤による防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- （1）葉裏に生息しているので、薬剤が十分にかかるように散布する。
- （2）薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同系統の薬剤の連用は避ける。
- （3）二番茶の収穫を予定している園では、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。



写真 葉裏に寄生するカンザワハダニ

令和5年度防除情報第7号

令和5年(2023年)6月20日
滋賀県病虫害防除所

本田での葉いもちの発生が平年より早く確認されています。
早期の葉いもち対策に努めましょう！

対象作物：イネ
病虫害名：葉いもち

葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するイネいもち病発生予測システム (BLASTAM) によると、6月上旬以降、いもち病の感染好適日が県内各地で断続的に出現しています(表)。また、本田での葉いもちの発生が、平年(6/23)と比較して8日早く(6/15)確認されました。

葉いもちは穂いもちの伝染源となるため、いもち病が発生しやすいほ場(育苗箱施薬剤を施用していないほ場、日当たりや風通しの悪いほ場等)を中心に見回り、必要に応じて防除しましょう。

なお、薬剤の使用にあたっては、県農作物病虫害雑草防除基準を参照してください。

防除上注意すべき事項

- (1) 余剰苗周辺から発生しやすいので、余剰苗を早急に処分する。
- (2) ほ場をよく見回り、発生を認めたら薬剤を散布する。なお、例年いもち病の発生が多いほ場では、発生前に粒剤を散布する。
- (3) 育苗箱施薬または移植時の側条施用により薬剤を施用した場合、葉いもち防除の必要性は低い。この場合でも発生を認めたら薬剤を散布する。
- (4) 耐性菌を生じやすいので、穂いもちの防除も考慮して同一グループ薬剤の連用を避ける。

表 BLASTAMによる葉いもち感染好適日の判定結果

| | | 今津 | 長浜 | 米原 | 南小松 | 彦根 | 東近江 | 大津 | 信楽 | 土山 |
|-------|---|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|
| 6月6日 | 火 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月7日 | 水 | ○1 | ○4 | - | ○1 | ● | - | ● | ○4 | ○4 |
| 6月8日 | 木 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月9日 | 金 | - | - | - | - | - | ○1 | - | ? | - |
| 6月10日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月11日 | 日 | ● | - | - | ● | ● | ○4 | ● | ○1 | - |
| 6月12日 | 月 | - | ● | - | - | ○4 | - | - | - | - |
| 6月13日 | 火 | - | - | ● | - | - | - | - | ○4 | ● |
| 6月14日 | 水 | - | ● | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月15日 | 木 | - | - | - | - | ● | ● | - | ● | - |
| 6月16日 | 金 | - | - | ○4 | - | - | - | ● | - | - |
| 6月17日 | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月18日 | 日 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 6月19日 | 月 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

BLASTAMとは、気象庁のアメダスデータを用いてイネの葉面湿潤時間を算出し、葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

茶園におけるチャノコカクモンハマキの被害に注意しましょう

対象作物：チャ

病虫害名：チャノコカクモンハマキ

滋賀県農業技術振興センター茶業指導所（甲賀市水口町）内に設置しているフェロモントラップにおいて、6月第4半旬までのチャノコカクモンハマキ第1世代成虫の累積誘殺数が平年の約6.4倍になりました（図）。今後、第2世代幼虫の発生量が多くなり、被害の発生が予想されます。

このため、二番茶摘採後、第2世代幼虫を対象に発生状況に応じて防除を実施してください。本年の本種の発生時期は平年並で、第1世代成虫が最も多く発生する時期は6月第5～6半旬（6月21日～30日）頃と予測されます。

そのため、第2世代幼虫の防除適期は6月27日～7月10日頃となります。なお、成長制御剤（IGR剤）を使用する場合の防除適期は、第1世代成虫が多く発生する時期と同じ（6月21日～30日）ですので、注意してください。

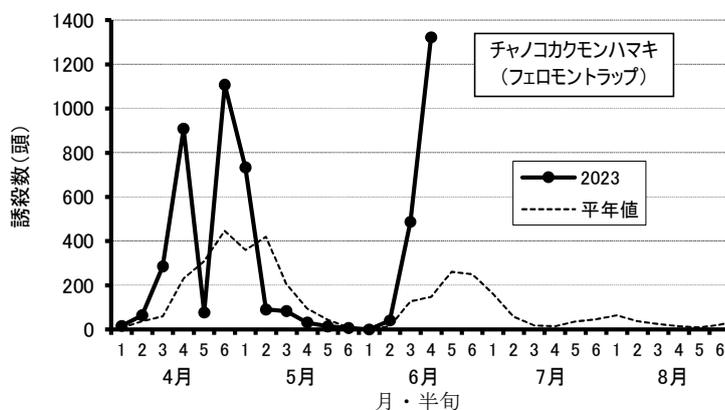


図 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ成虫誘殺数の推移（甲賀市水口町）

タバコガによる被害に注意しましょう！

対象作物：野菜類、花き類
病虫害名：タバコガ

タバコガの発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップでは、6月第5半旬までのタバコガ成虫の累積誘殺数は平年の約2.7倍であり(図)、過去10年で最も多くなっています。

本種はナス科野菜や花き類を加害します(写真)。今後、幼虫による葉や果実表皮の食害、果実への食入などの被害の発生が懸念されますので、注意してください。中齢以降の幼虫は茎、結球部、花蕾や果実などに潜って食害するため薬剤がかかりにくくなります。また、中齢以降は薬剤が効きにくくなります。ほ場をよく見まわり、幼虫の捕殺や薬剤散布などの防除を早めに行いましょう。

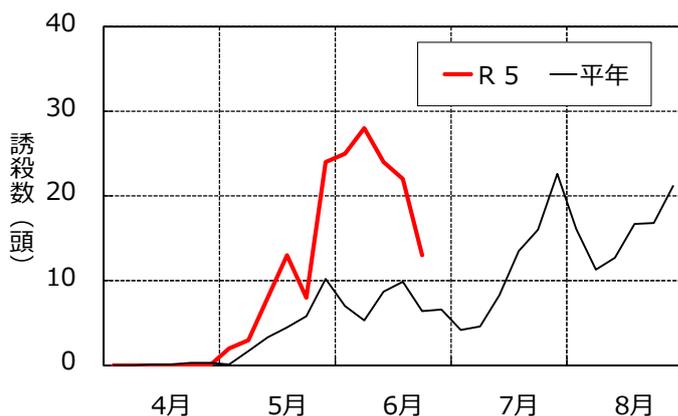


図 フェロモントラップによるタバコガ成虫の誘殺状況 (近江八幡市安土町大中)



写真 ミニトマトの果実に食入し加害するタバコガ幼虫

令和5年(2023年)8月9日
滋賀県病虫害防除所

ハスモンヨトウの多発に注意しましょう！

対象作物：ダイズ、野菜類

病虫害名：ハスモンヨトウ

県内3地点に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップ（図）のうち、7月末までの近江八幡市での累積誘殺数は平年と同程度ですが、長浜市では平年の約2.5倍であり、過去10年で最も多くなっています。また、高島市でも平年の約1.6倍と多くなっています。さらに、ダイズ（写真）やサトイモにおいて幼虫による食害が確認されています。

向こう1か月の気象予報（大阪管区気象台8月3日発表）では、気温は高いと予想されています。今後も発生に好適な状況が続き、次世代成虫の発生量の増加、および幼虫による食害が懸念されます。ほ場をよく見回って、若齢幼虫が群生している被害葉を除去しましょう。

また、幼虫が老齢になると薬剤の効果が低下するので、薬剤散布は若齢期に実施しましょう。

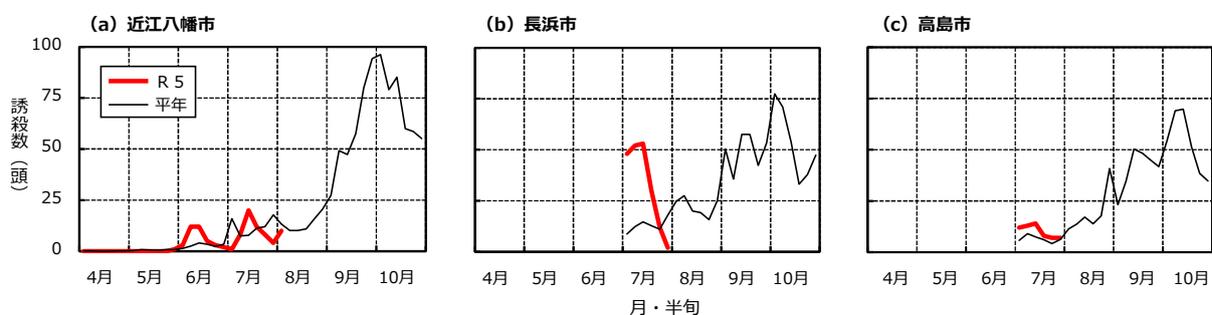


図 フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫の誘殺状況



写真 若齢幼虫によるダイズの食害

刈り株再生芽でイネ縞葉枯病が多発しています
刈り株の早期すき込みを行きましょう

対象作物：水稲

病虫害名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

刈り株再生芽（ひこばえ）でのイネ縞葉枯病（写真1）の発生量が多くなっています。イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。イネの生育初期にウイルスに感染すると、生育不良や出穂の異常（穂の奇形や不稔）が起こります（写真2）。

9月28日～10月3日に県内36地点180ほ場で行った調査において、刈り株再生芽での発病株率は12.2%となり過去10年で最も高く、発生ほ場率も86.1%と過去10年で3番目に高くなっています（図1）。

刈り株再生芽は、イネ縞葉枯病の病原ウイルスを保毒したヒメトビウンカの越冬場所になり、次作での病原ウイルスの伝染源になります。ヒメトビウンカの越冬数を減らし、翌年の本病の蔓延を防止するため、刈り株再生芽で本病の発生が目立つほ場では、速やかに刈り株のすき込みを実施しましょう。また、イネ科雑草もヒメトビウンカの越冬場所になるため、ほ場周辺のイネ科雑草を除草しましょう。

加えて、刈り株再生芽で本病の発生が目立つほ場がある地域では、次作でのヒメトビウンカの防除を検討しましょう。



写真1 イネ縞葉枯病が発病した
刈り株再生芽

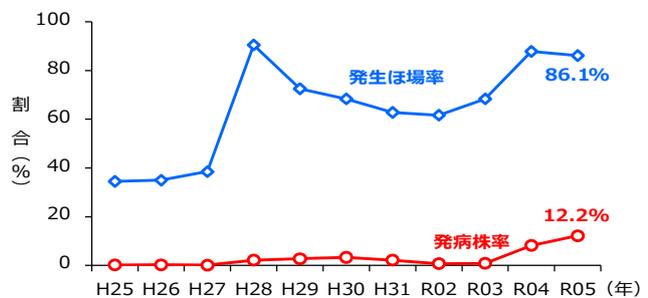


図1 刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の発生状況



写真2 立毛中のイネ縞葉
枯病の発病株
(左) 分けつ期の病徴
(右) 穂の出すくみ

オオタバコガ・ハスモンヨトウの被害に注意しましょう！

対象作物：野菜類、花き類

病害虫名：オオタバコガ、ハスモンヨトウ

オオタバコガとハスモンヨトウの発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップでは、10月第2半旬までのオオタバコガ成虫の累積誘殺数は平年の約2.4倍であり（図左）、過去10年で最も多くなっています。

また、同地でのハスモンヨトウ成虫の累積誘殺数は平年並ですが、9月第6半旬から10月第2半旬の短期間で誘殺数が急増しています（図右）。

今後、幼虫による葉の食害、ならびにキャベツ等の茎や結球部への潜りこみ等による被害の発生が懸念されますので、注意してください。潜りこんで加害する中齢以降の幼虫は、薬剤がかかりにくく、防除効果も著しく低下します。ほ場をよく見回り、早期に幼虫の捕殺や薬剤散布等の防除を実施しましょう。

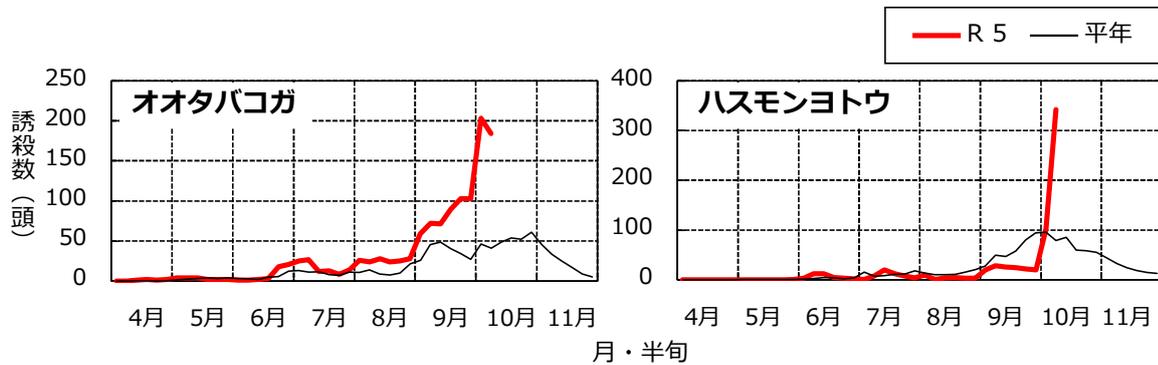


図 フェロモントラップによるオオタバコガ・ハスモンヨトウ成虫の誘殺状況
(近江八幡市安土町大中)

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による被害の防止に努めましょう

対象作物：イネ

病虫害名：スクミリンゴガイ

積雪の少ない暖冬年には、スクミリンゴガイの越冬量が多くなります。本貝は移植直後のイネ稚苗を食害するため、暖冬年の次作では、本貝による食害が多く発生しています（図）。向こう3か月の気象予報（大阪管区気象台2023年12月19日発表）では、2024年1～3月の気温は高いと予報されており、本貝の越冬量が多くなり、発生地域では次作での被害の増加が懸念されます。次作での被害を防止するため、地域の実情に応じて取り組める防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- （1）本貝は収穫後のほ場や用排水路の土中に潜って越冬する。ほ場を耕うんすると、越冬貝の貝殻を壊す（割る）とともに、土壌表面に掘り起こし寒風にさらすことで越冬量を減らすことができる。収穫後に耕うんを実施していないほ場では、厳寒期前の1月中に高回転のロータリーではほ場を丁寧に耕うんする。
- （2）作業後の農業機械に付着した泥に本貝が混ざり、未発生地域へ持ち込まれる可能性があるため、作業を行うほ場の順番を考慮する。また、作業後は農業機械に付いた泥をよく洗浄する。
- （3）稲作期間の防除は、スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（滋賀県 2022）を参考に検討する。マニュアルは[当所HP](#)で確認できる。

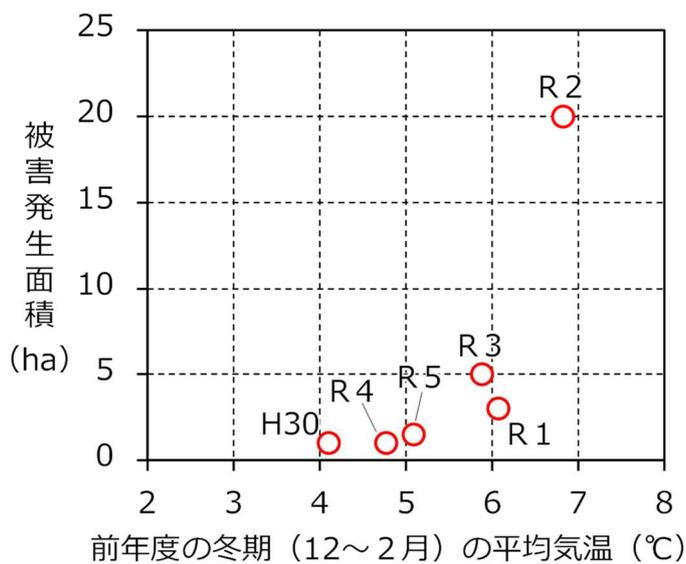


図 冬期の気温とスクミリンゴガイによる被害発生面積の関係（病害虫防除所調べ）。前年度の冬期が温暖であった令和2年には、本貝による被害が多く発生しました。

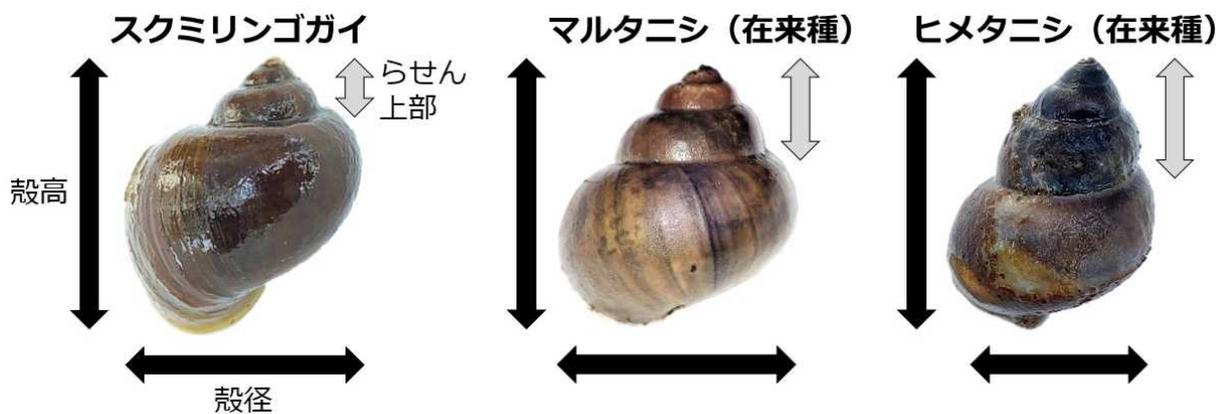


写真1 スクミリンゴガイと在来タニシ類の貝殻。スクミリンゴガイの貝殻は丸く（殻高と殻径の長さがほぼ同じ）、加えて、らせん上部が短いことも特徴です。



写真2 スクミリンゴガイの卵塊。稲株や畦畔など、水のない陸上に産み付けられます。

令和5年度防除情報第14号

令和6年(2024年)2月22日
滋賀県病虫害防除所

タマネギべと病の多発に注意

対象作物：タマネギ
病虫害名：べと病

2月中旬にタマネギべと病(写真1、2)の調査を行ったところ、県内複数地点で一次伝染株(越年り病株)の発生が認められました。

大阪管区気象台発表の近畿地方の1か月予報(2月15日発表)によると、気温は高く、降水量は多いと予想されており、本病の発生を助長する気象条件が続くと予想されます。以下を参考に防除対策を徹底して、被害の拡大を防止しましょう。



写真1 越年り病株(えつねんりびょうかぶ)
葉が湾曲し、退色して淡黄緑色になる。



写真2 二次伝染病斑
葉に淡黄緑色の病斑を形成する。

防除上の注意事項

- (1) 前年発生があったほ場や、例年発生が認められるほ場では、特に注意して発生状況を確認する。
- (2) 越年り病株や、症状が激しい二次感染株の発生を認めた場合、速やかに発病株を抜き取り、ほ場外への持ち出しを徹底する。
- (3) 発病株の抜き取り後は、治療効果のある薬剤で早急に防除を実施する。
- (4) 本病の発生が認められない場合でも、孢子飛散による感染を防ぐため、感染前の予防散布を徹底する。
- (5) ほ場に水がたまると、発病を助長するため、排水対策を徹底する。

麦類赤かび病の適期防除に努めましょう！

対象作物：小麦、大麦
病害虫名：赤かび病

農業技術振興センター（近江八幡市）における11月8日播種の小麦の生育は、3月中旬時点で平年より5～7日程度早まっています。また、大阪管区気象台3月21日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い見込みで、出穂期も早まると予想されます。

このため、開花期は平年より早くなると予想されますが、必ずしも出穂に連動して開花が早まるとは限りません。そのため、早くから防除の準備を行い、出穂後の気温と開花状況をよく確認し、適期防除に努めましょう。

防除上の注意事項

- (1) 小麦は、開花始め～開花期に農薬を散布する。特に、「びわほなみ」は、赤かび病に弱いことから、1回目の散布から7～10日後頃に2回目を散布する。
- (2) 二条大麦は、穂揃い10日後頃に農薬を散布する。
- (3) 六条大麦は、赤かび病にやや弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃の2回農薬を散布する。
- (4) 薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、防除効果を高めるため、直前の散布の7～10日後頃に追加で農薬を散布する。特に、「びわほなみ」では3回目の農薬散布に向けて準備する。

5 その他情報・発表・広報・研修会等

本年度、学会や広報、研修会などで発表した事例は5件あった。

- (1) 令和5年度普及指導員専門養成研修における集合研修
令和5年6月16日(金) 農業技術振興センター
農薬の適正使用と危被害防止、主要農作物病害虫について
・・・・・・・・金子誠、近藤篤
- (2) 滋賀県農薬安全指導者協議会「農薬の安全使用」研修会
令和5年7月13日(木) 滋賀県男女共同参画センター
2023年の水稲病害虫の発生状況と近年発生が増加しているスクミリンゴガイの
対策について
・・・・・・・・北野大輔
- (3) 令和5年度近畿中国四国試験研究推進部会問題別研究会(病害虫)
令和6年3月5日(火)～6日(水) 広島県福山市
コムギ「びわほなみ」での赤かび病罹病試料におけるコムギ粒厚と赤かび粒率
およびDON産出量の関係について
・・・・・・・・金子誠
- (4) 令和6年度日本植物病理学会大会
令和6年3月13日(水)～15日(金) 宮城県仙台市
*Pectobacterium Brasiliense*によるメロン軟腐病(病原追加)
・・・・・・・・小幡善也
- (5) 令和5年度カメムシ類等難防除害虫の発生状況と防除対策に関する検討会
令和6年3月13日(水)～3月14日(木) 東京都中央区
滋賀県におけるミナミアオカメムシの分布拡大と今後の分布予測
・・・・・・・・増田倫士郎
作期が異なる3品種の水稲におけるイネカメムシの発生消長と不稔被害の差異
・・・・・・・・北野大輔

第6 試験成績

1 IPM推進に関する技術の検討

(1) イネ紋枯病の要防除水準の設定

ア 目的

イネ紋枯病の防除の目安として、極早生～早生品種は発病確認後即時、中生～晩生品種は出穂 20 日前の発病株率が 15～20%以上と示されている。この基準は減収率 5%を被害許容水準として設定しているが、品質面は考慮されておらず、平成 6 年に設定されて以降、見直しが行われていない。近年、気候変動や紋枯病の防除圧低下より発生程度が高止まりしていることから、特に問題となっている「みずかがみ」において、イネ紋枯病が収量、品質に与える影響及び要防除水準を検証する。

イ 方法

ア) 供試ほ場：センター内 140 号田（新農薬委託試験および資材試験ほ場） 土性：壤土

イ) 試験区：1 区を連続した 20 株とし、任意に 27 区設置した。多段階の発病株率を得るため、紋枯病菌（滋賀農技セ保存菌株）を株元施用した区（27 区のうち 12 区のみ、7 月 12 日に 2.5 倍量の乾燥もみ殻と混和し、約 20 L/10a を株元散布により接種）を設置した。

ウ) 供試品種：「みずかがみ」、栽培管理は慣行、出穂期は 7 月 29 日、成熟期は 8 月 29 日
なお、減収要因を排除するため、7 月 14 日にフェリダグ・フライド水和剤を、7 月 21 日にジネフラン粒剤を散布した。

エ) 調査方法・項目

(1) 紋枯病の発病調査：発病株率（7 月 18 日、7 月 25 日、8 月 1 日、28 日）および発病程度を調査し、発病度を算出した（8 月 28 日）。発病度の算出方法と調査基準は下記により算出した。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / 4N (\text{調査株数}) \times 100$$

A：止葉枯死、穂首に病斑、B：止葉葉鞘に病斑

C：第 2 葉鞘までに病斑、D：第 3 葉鞘までに病斑

(2) 収量調査：8 月 29 日に 1 区当たり 20 株を刈り取り、自然乾燥後、脱穀、籾摺を行い、精玄米重、千粒重および玄米外観品質を調査した。

ウ 結果の概要

ア) 接種を行った無処理区の発病株率は 76.0%、発病度は 32.9 となり、中発生条件下での試験となった（データ略）。

イ) 7 月 25 日（出穂期 4 日前）の発病株率と発病度（8 月 28 日調査）には有意な正の相関が認められたことから、出穂 4 日前の発病株率と成熟期の発病度が概ね推定することが可能であると考えられた（図 1）。

ウ) 発病度（8 月 28 日）と収量については、関連性は認められなかった。これは、病害虫防除を行ったものの、調査ほ場内の水稻の生育のばらつきが大きく、発病による収量への影響が出にくい状況になったためと考えられた（図 2、表 1、2）。

エ) 品質（外観品質）は、表 1 の発病程度別区分での差は認められなかった。なお、参考として、成熟期に発病株率 100%で発病度がすべて B 程度以上の試料では、発病程度別区分 0%区と比べ、収量で約 26%低下し、屑米重と、白未熟粒が多くなる傾向にあった（表 1、表 2）。

以上のことから、「みずかがみ」では、出穂期4日前の発病程度から最終的な発病度を推定することが可能であると示唆されたが、要防除水準の設定には他の減収要因を考慮した上での検討が必要であると考えられた。

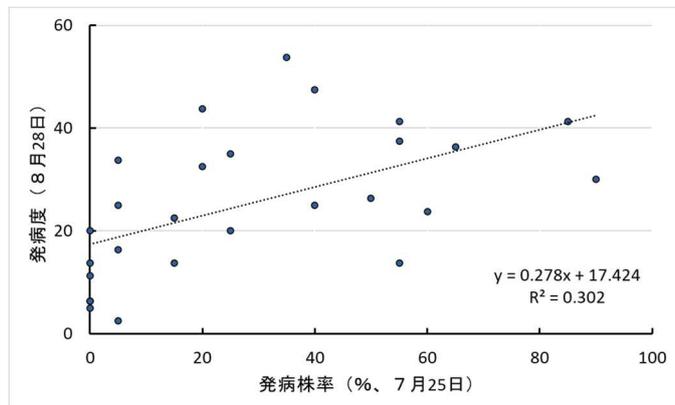


図1、7月25日（出穂期4日前）の発病株率と発病度（8月28日）の関係
 (n=27、相関係数 0.647、p 値<0.001 (Spearman の順位相関係数))

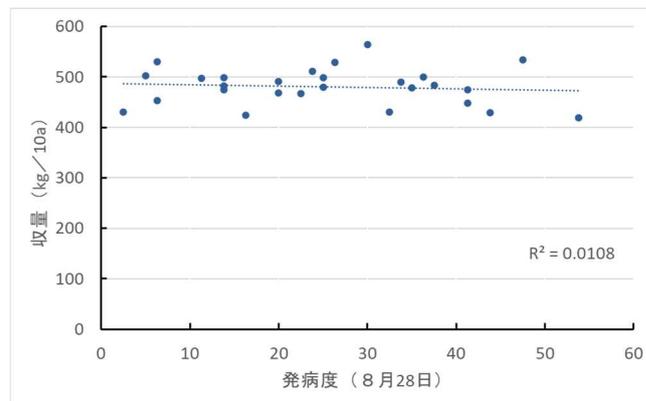


図2、発病度（8月28日）と収量の関係
 (n=27、相関係数-0.117、p 値= 0.56 (Spearman の順位相関係数))

表1. 紋枯病の発病株率の推移と全体の被害度および収量調査結果 (R5)

| 発病程度別
区分 | 調査
区数 | 発病株率 (%) | | | | 発病度 | 精玄米重
(kg/a) | 減収率
(%) | 屑米重
(kg/a) | 千粒重
(g) | 整粒歩合
(%) |
|-------------------|----------|----------|------|------|------|------|----------------|------------|---------------|------------|-------------|
| | | 7/18 | 7/25 | 8/1 | 8/28 | | | | | | |
| 0% | 6 | 0.0 | 0.0 | 8.3 | 23.3 | 10.5 | 492 | 0 | 9.5 | 20.0 | 54.1 |
| 5% | 4 | 2.5 | 5.0 | 17.5 | 40.0 | 19.4 | 456 | 7.3 | 9.4 | 20.4 | 59.5 |
| 10~20% | 4 | 5.0 | 17.5 | 27.5 | 51.3 | 28.2 | 450 | 8.4 | 12.5 | 20.2 | 59.5 |
| 20~40% | 5 | 21.0 | 33.0 | 59.0 | 68.0 | 36.3 | 484 | 1.5 | 13.6 | 20.2 | 60.6 |
| 40~60% | 5 | 28.0 | 55.0 | 73.0 | 72.0 | 28.5 | 496 | -0.9 | 13.8 | 20.1 | 60.1 |
| 60%~ | 3 | 35.0 | 80.0 | 78.3 | 85.0 | 35.9 | 504 | -2.5 | 13.5 | 20.1 | 61.9 |
| 参考) 成熟期
100%発病 | 2 | - | - | - | 100 | 77.0 | 362 | 26.3 | 22.7 | 19.5 | 56.5 |

注1) 7月25日の各区の発病株率をもとに程度別に分類した、なお、参考は成熟期に発病程度A,Bの株を20株任意に採取した区

注2) 発病度は8月28日に調査した。

注3) 精玄米重および千粒重は、粒厚1.8mm以上、水分14.5%相当とした。減収率は発病株率0%区の精玄米重に対する減収割合

表2. 紋枯病の発病程度別玄米外観品質

| 発病程度別
区分 | 外観品質 (%) | | | | | | | |
|-------------------|----------|------|------|-----|------|------|------------|-----|
| | 整粒 | 白未熟粒 | | | | 青未熟粒 | その他
未熟粒 | 胴割粒 |
| | | 乳白 | 基部 | 腹白 | 合計 | | | |
| 0% | 54.1 | 4.3 | 9.2 | 2.0 | 15.6 | 0.5 | 28.5 | 0.3 |
| 5% | 59.5 | 3.8 | 7.9 | 1.6 | 13.3 | 0.3 | 25.6 | 0.1 |
| 10~20% | 59.5 | 4.0 | 8.9 | 1.6 | 14.4 | 0.3 | 24.0 | 0.3 |
| 20~40% | 60.6 | 3.7 | 9.2 | 1.6 | 14.5 | 0.5 | 23.0 | 0.3 |
| 40~60% | 60.1 | 3.8 | 8.4 | 1.4 | 13.6 | 0.7 | 23.8 | 0.3 |
| 60%~ | 61.9 | 3.4 | 7.2 | 1.4 | 12.0 | 0.7 | 23.9 | 0.2 |
| 参考) 成熟期
100%発病 | 56.5 | 5.7 | 11.8 | 2.2 | 19.7 | 0.1 | 21.0 | 0.6 |

注1) 玄米外観品質はS社製穀粒判別器 (RGQ110B) による粒数比。

(2) 新型害虫モニタリングシステムによる害虫誘殺数の調査

ア 目的

本県の発生予察事業では、60 w 白熱球もしくは 100 w 高圧水銀灯を光源とした乾式予察灯 (MT-7-N、株式会社池田理科。以下、従来予察灯とする) を使用して害虫の発生量を調査している。近年、LED を光源とし、記録写真を撮影して AI による害虫の診断と計数を自動で行う機能を備えた害虫モニタリングシステム (M30A2SA、RYNAN TECHNOLOGIES。以下、新型予察灯とする) が開発された。そこで本試験では、新型予察灯による害虫発生量調査の基礎的な知見を得るために、新型予察灯の自動計数機能の精度について調査した。加えて、新型予察灯と従来予察灯の害虫誘殺数を比較し、新型予察灯の利用方法を検討した。

イ 方法

(ア) 新型予察灯による害虫誘殺数の調査

新型予察灯の設置場所は滋賀県農業技術振興センター内のほ場であり、同センター内に設置されている従来予察灯からおおよそ 350 m 離れた位置であった。害虫発生量の調査は 2023 年 9 月 15 日から 10 月 30 日まで実施し、18 時～翌日 6 時まで LED ライト (青色、緑色、UV) を点灯した。この間、誘引された昆虫の記録写真の撮影と AI による計数が適宜行われ、撮影後、撮影装置内の昆虫は排出される。記録写真を目視で確認して害虫の個体数を計数し (以下、写真計数とする)、AI による自動計数の結果と比較した。

なお、新型予察灯には殺虫剤を設置しておらず生体の写真を撮影しているが、便宜上、記録された害虫の個体数は「誘殺数」と表記した。加えて、ウンカ類は自動計数においてトビイロウンカのみが記録されたが、全個体が別種の誤同定であり、記録写真からの同定も困難であったため、調査対象から除いた。

(イ) 従来予察灯との誘殺数の比較

新型予察灯と従来予察灯の害虫誘殺傾向の差異を評価するため、同センター内に設置している従来予察灯での害虫誘殺数の調査結果を、新型予察灯の結果と比較した。従来予察灯の光源には 60 w 白熱球を使用し、点灯時間は新型予察灯と同じ 18 時～翌日 6 時までとした。

ウ 結果の概要

(ア) ヨコバイ類 (図 1 a、b および付表 1 a)

ツマグロヨコバイの従来予察灯での誘殺数は計 8 個体であったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 154 個体であった。また、自動計数に対して、写真計数の誘殺数が 1.8 倍多かった。これは、他種の上に本種が重なり虫体にピン트가合わなかった場合の欠測が主な原因であり、水生甲虫類が多く入る日に頻繁に発生した。小型のミドリヒメヨコバイ類を本種と誤同定することがあった。

イナズマヨコバイの従来予察灯での誘殺数は計 35 個体であったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 309 個体であった。9 月 26 日には新型予察灯で 100 個体以上が誘殺されているが、従来予察灯では誘殺されなかった。また、自動計数に対して、写真計数の誘殺数が多かったが、ツマグロヨコバイほどの差はみられず、写真計数の誘殺数は 1.1 倍多かった。他種を本種と誤同定することはなかったが、茶色い水滴を本種と誤同定することがあり、自動計数での誘殺数が写真計数を上回る日があった。

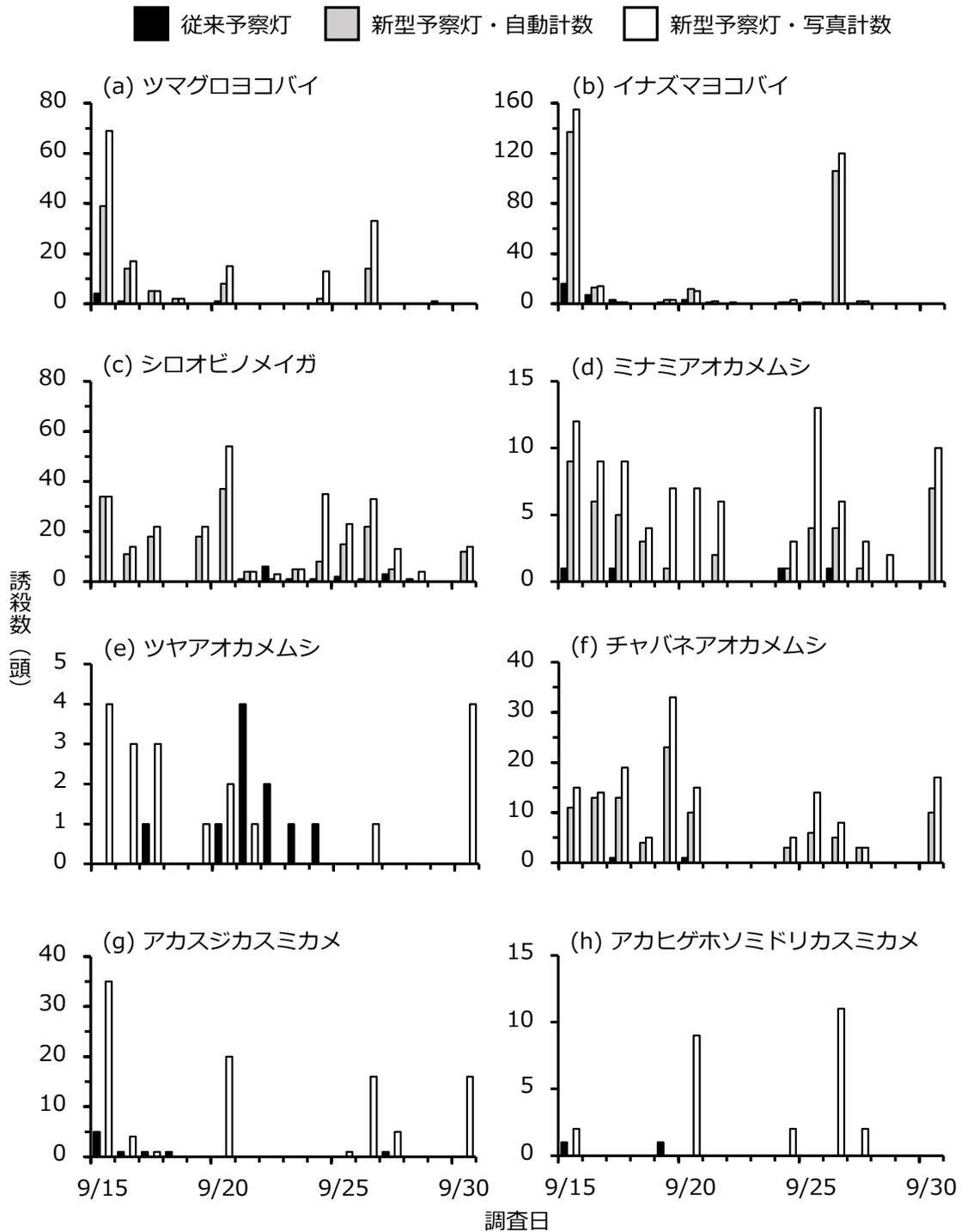


図1. 従来予察灯と新型予察灯での8種害虫の誘殺数
誘殺数が多かった9月の結果のみ示した。

(イ) シロオビノメイガ (図1c および付表1b)

従来予察灯での誘殺数は計 29 個体であったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 319 個体であった。自動計数に対して、写真計数の誘殺数が 1.4 倍多かった。別種を本種と誤同定することはまれであったが、壁にとまった個体や翅を動かしピン트가合わなかった個体を欠測していることがあった。

(ウ) アオカメムシ類 (図 1 d、e、f および付表 1 c)

ミナミアオカメムシは従来予察灯ではほぼ誘殺されず、誘殺数は計 4 個体のみであったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 99 個体であった。自動計数に対して、写真計数の誘殺数が 1.3 倍多かった。ツヤアオカメムシは全て本種である誤同定されており、アマガエルを本種と誤同定する場合もあったが、本種を別種と誤同定することはなかった。壁にとまり自動計数では欠測となった個体も多かったことから、写真計数の誘殺数が多くなった。また、10 月 1 半月は自動計数が写真計数の誘殺数を大きく上回った。これは、壁にとまった個体を計数できたものの、撮影後に排出されず同じ場所にとまり続け、同一個体を複数回計数したことが要因であった。

ツヤアオカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 10 個体であったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 19 個体であった。誘殺のピークは、予察灯ごとに異なり、従来予察灯では 9 月 21 日、新型予察灯では 9 月 15～17 日および 30 日の誘殺数が多かった。自動計数では、本種は全てミナミアオカメムシと誤同定されていたため、誘殺数が記録されなかった。ミナミアオカメムシと同様、壁にとまり欠測となった個体も多かった。

チャバネアオカメムシは従来予察灯ではほぼ誘殺されず、誘殺数は計 2 個体のみであったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 148 個体であった。自動計数に対して、写真計数の誘殺数が 1.5 倍多かった。他種を本種と誤同定する、もしくは本種を他種と誤同定することはなかったが、前述したカメムシ類 2 種と同様に、壁にとまり欠測となった個体が多かったため、写真計数が自動計数の誘殺数を上回った。

(エ) カスミカメムシ類 (図 1 g、h および付表 1 d)

アカスジカスミカメの従来予察灯での誘殺数は計 9 個体であったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 98 個体であった。自動計数では、半数程度がユスリカ類と誤同定されており、また残る半数は写真に鮮明に写っているものの欠測であり、誘殺数は記録されなかった。

アカヒゲホソミドリカスミカメは従来予察灯ではほぼ誘殺されず、誘殺数は計 2 個体のみであったのに対して、新型予察灯での誘殺数は写真計数で計 26 個体であった。本種は 1 個体のみユスリカ類と誤同定された以外、ほぼすべての個体が写真に写っていても欠測であり、誘殺数は記録されなかった。

(オ) その他 (付表 e)

新型予察灯の写真計数において、ホソハリカメムシ 6 個体、クモヘリカメムシ 4 個体、ならびにイネカメムシ 3 個体の誘殺が記録されたが、いずれも自動計数では欠測であり、誘殺数が記録されなかった。壁にとまる個体が多かったものの、写真に鮮明に写っている個体でも計数されなかった。いずれの種も、従来予察灯よりも新型予察灯の誘殺数が多かった。

ニカメイガについても、前述した大型カメムシ類 3 種と同様に、記録写真に鮮明に写っている個体でも、自動計数では誘殺数が記録されなかった。本種については、写真計数での誘殺数は記録していない。

(カ) まとめ

計数の対象とした全ての害虫種で、従来予察灯よりも新型予察灯の誘殺数が多かった。また、明確ではなかったものの誘殺のピークが従来予察灯と新型予察灯で異なる場合があった。この差は、光源が異なることに起因すると考えられるが、誘殺傾向の比較のための調査データは短期間しか得られていないため、引き続き調査を行い、データを蓄積する必要がある。

また、全ての調査対象種で、自動計数よりも写真計数の誘殺数が多かった。これは、大型の

カメムシ類などは壁にとまる、小型のヨコバイ類などは他種の上に重なりといった場合に写真に鮮明に写らず、計数の対象とならなかったことが要因であった。前者については、プラスチック製の板やビニールで写真撮影装置の壁を覆うなど、害虫が壁にとまりにくい対策が必要と考えられた。ツヤアオカメムシやカスミカメムシ類などは、自動計数で全く計数されなかったことから、計数の対象となっていない可能性がある。

以上のことから、調査時の精度では新型予察灯の自動計数のみで害虫の誘殺数を把握することは困難であり、現段階では写真計数による誘殺数をデータとして用いることが妥当であると考えられた。また、新型予察灯では自動計数、写真計数ともにウンカ類を計数できず、本機器を水稻害虫の発生量調査の主体とすることは困難であると考えられた。しかし、60w白熱球を光源とした従来予察灯よりも新型予察灯の誘殺数が多く、より正確な発生量データを得られる可能性がある。加えて、ツマグロヨコバイ以上の大きさの害虫であれば写真計数が行えたことから、大型の害虫種のみを対象とした調査において新型予察灯を利用することで、予察精度の向上や作業時間削減といった省力化が可能となるかもしれない。

付表1 従来予察灯と新型予察灯での11種害虫の誘殺数

10月に誘殺がなかった種については、9月の誘殺数のみ示した。

(a) ヨコバイ類2種の誘殺数(頭)

| 月 | 日もしくは
半旬 | ツマグロヨコバイ | | | イナズマヨコバイ | | |
|-----|-------------|----------|-------|------|----------|-------|------|
| | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | |
| | | | 自動計数 | 写真計数 | | 自動計数 | 写真計数 |
| 9月 | 15日 | 4 | 39 | 69 | 16 | 137 | 155 |
| | 16日 | 1 | 14 | 17 | 7 | 13 | 14 |
| | 17日 | 0 | 5 | 5 | 3 | 1 | 1 |
| | 18日 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 19日 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 3 |
| | 20日 | 1 | 8 | 15 | 3 | 12 | 10 |
| | 21日 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| | 22日 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 23日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 24日 | 0 | 2 | 13 | 1 | 1 | 3 |
| | 25日 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| | 26日 | 0 | 14 | 33 | 0 | 106 | 120 |
| | 27日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | 28日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 29日 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 30日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 10月 | 第1半旬 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 第2半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第3半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第4半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第5半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第6半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 8 | 84 | 154 | 35 | 278 | 309 |

(b) シロオビノメイガの誘殺数 (頭)

| 月 | 日もしくは
半旬 | 従来予察灯 | 新型予察灯 | |
|-----|-------------|-------|-------|------|
| | | | 自動計数 | 写真計数 |
| 9月 | 15日 | 0 | 34 | 34 |
| | 16日 | 0 | 11 | 14 |
| | 17日 | 0 | 18 | 22 |
| | 18日 | 0 | 0 | 0 |
| | 19日 | 0 | 18 | 22 |
| | 20日 | 0 | 37 | 54 |
| | 21日 | 1 | 4 | 4 |
| | 22日 | 6 | 1 | 3 |
| | 23日 | 1 | 5 | 5 |
| | 24日 | 1 | 8 | 35 |
| | 25日 | 2 | 15 | 23 |
| | 26日 | 1 | 22 | 33 |
| | 27日 | 3 | 5 | 13 |
| | 28日 | 1 | 0 | 4 |
| | 29日 | 0 | 0 | 0 |
| 30日 | 0 | 12 | 14 | |
| 10月 | 第1半旬 | 6 | 3 | 8 |
| | 第2半旬 | 6 | 13 | 20 |
| | 第3半旬 | 1 | 18 | 8 |
| | 第4半旬 | 0 | 1 | 2 |
| | 第5半旬 | 0 | 0 | 0 |
| | 第6半旬 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | | 29 | 225 | 319 |

(c) アオカメムシ類3種の誘殺数(頭)

| 月 | 日もしくは
半旬 | ミナミアオカメムシ | | | ツヤアオカメムシ | | | チャバネアオカメムシ | | |
|-----|-------------|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|------------|----------|----------|
| | | 従来
予察灯 | 新型予察灯 | | 従来
予察灯 | 新型予察灯 | | 従来
予察灯 | 新型予察灯 | |
| | | | 自動
計数 | 写真
計数 | | 自動
計数 | 写真
計数 | | 自動
計数 | 写真
計数 |
| 9月 | 15日 | 1 | 9 | 12 | 0 | 0 | 4 | 0 | 11 | 15 |
| | 16日 | 0 | 6 | 9 | 0 | 0 | 3 | 0 | 13 | 14 |
| | 17日 | 1 | 5 | 9 | 1 | 0 | 3 | 1 | 13 | 19 |
| | 18日 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 5 |
| | 19日 | 0 | 1 | 7 | 0 | 0 | 1 | 0 | 23 | 33 |
| | 20日 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 | 2 | 1 | 10 | 15 |
| | 21日 | 0 | 2 | 6 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 22日 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 23日 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 24日 | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 5 |
| | 25日 | 0 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 14 |
| | 26日 | 1 | 4 | 6 | 0 | 0 | 1 | 0 | 5 | 8 |
| | 27日 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| | 28日 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 29日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 30日 | 0 | 7 | 10 | 0 | 0 | 4 | 0 | 10 | 17 |
| 10月 | 第1半旬 | 0 | 35 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第2半旬 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第3半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第4半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第5半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 第6半旬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 4 | 79 | 99 | 10 | 0 | 19 | 2 | 101 | 148 |

(d) カスミカメムシ類 2 種の誘殺数 (頭)

| 月 | 日 | アカスジカスミカメ | | | アカヒゲホソミドリカスミカメ | | |
|----|-----|-----------|-------|------|----------------|-------|------|
| | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | |
| | | | 自動計数 | 写真計数 | | 自動計数 | 写真計数 |
| 9月 | 15日 | 5 | 0 | 35 | 1 | 0 | 2 |
| | 16日 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| | 17日 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 18日 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 19日 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 20日 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 9 |
| | 21日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 22日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 23日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 24日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 25日 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 26日 | 0 | 0 | 16 | 0 | 0 | 11 |
| | 27日 | 1 | 0 | 5 | 0 | 0 | 2 |
| | 28日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 29日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 30日 | 0 | 0 | 16 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 9 | 0 | 98 | 2 | 0 | 26 |

(e) 斑点米カメムシ類大型種 3 種の誘殺数 (頭)

| 月 | 日 | ホソハリカメムシ | | | クモヘリカメムシ | | | イネカメムシ | | |
|----|-----|----------|-------|------|----------|-------|------|--------|-------|------|
| | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | | 従来予察灯 | 新型予察灯 | |
| | | | 自動計数 | 写真計数 | | 自動計数 | 写真計数 | | 自動計数 | 写真計数 |
| 9月 | 15日 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | 16日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| | 17日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 18日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 19日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 20日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 21日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 22日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 23日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 24日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 25日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 26日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 27日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 28日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 29日 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 30日 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 1 | 0 | 6 | 0 | 0 | 4 | 2 | 0 | 3 |

(3) 粘着板トラップを用いたイネカメムシの発生予察手法の検証

ア 目的

1970年代には本県の斑点米カメムシの主要種であったイネカメムシ(小島・内田 1974)は、1980年代から発生が減少し、水田での発生は2000年頃まで確認されていなかった(田中 2000)。2007年以降、局所的ではあるが県内で毎年発生が確認されており、特に山間地に近いほ場での発生が目立っている(北野・増田, 2022)。本種は籾の基部を吸汁加害し、斑点米を生じさせるだけでなく、不稔を引き起こし減収させる(平江 2022)ため、その発生の予測と防除方法の検討が必要となる。そこで、本種の予察方法として報告されている粘着板トラップ(石島ら 2020)の、本県での有用性を検証するため、出穂時期が異なる複数のほ場に粘着板トラップを設置し、同時にすくい取り調査も実施した。加えて、不稔被害発生量も調査し、本種による被害の把握を試みた。

イ 方法

(ア) 粘着板トラップを用いた調査

調査地は甲賀市信楽町黄瀬とし、石島ら(2020)の白色粘着板トラップを用いた。設置場所は水稻‘みずかがみ’、‘キヌヒカリ’および‘きぬむすめ’の各2ほ場とした。トラップを設置したほ場は、全て500mの範囲内に位置していた。

各ほ場にトラップを4基設置した。粘着板の高さは、イネの草丈が低い期間は地上40cmとし、草丈が40cmを超えてからはイネ群落の直上とした。トラップは6月28日に設置し、8月14日の回収まで、捕獲個体数を週1回程度記録した。

(イ) すくい取り調査

トラップの実用性を比較するため、各品種の乳熟期まで、トラップ設置場所の周辺ですくい取り調査を実施した。口径36cmの捕虫網を用いてトラップ設置場所(調査区)あたり20回振りで行った。成虫の捕獲個体数を記録した。

(ウ) 不稔被害量の調査

不稔被害の簡易的な指標として、トラップ設置場所周辺の10株で不稔穂(半数以上の籾が不稔の穂)の数を調査した。

ウ 結果の概要

(ア) トラップおよびすくい取りでの捕獲個体数

トラップでは成虫のみが捕獲され、‘キヌヒカリ’と‘きぬむすめ’では出穂期の前に捕獲された(図1)。捕獲数は‘みずかがみ’で最も多かった。

すくい取りにおいて、‘みずかがみ’では出穂はじめてから成虫が捕獲され、他の2品種では出穂期から捕獲された(図1)。捕獲個体数は‘みずかがみ’で最も多かった。

以上の結果から、粘着板トラップはすくい取り調査よりも早い時期にイネカメムシ成虫を捕獲できることが改めて示されたが、昨年までの結果とは異なり、出穂期が最も早い品種での捕獲は、すくい取りでの捕獲と同時期であった。作期と粘着板トラップの有用性の関係について、より詳細に検討する必要がある。

(イ) 品種による不稔被害量の差異

品種あたり80株で不稔被害の発生の有無を調査した結果、不稔穂の割合(不稔穂数/全穂数)は、‘みずかがみ’で5.9%、‘キヌヒカリ’で0.6%、‘きぬむすめ’で4.0%であった。すべての品種において、成虫数が0の調査区で不稔穂が発生することがあった。

調査した3品種が栽培される場合、本種が原因とみられる不稔穂は‘みずかがみ’で5%以

上発生したため、本品種では不稔抑制のための出穂期防除が必要となる可能性がある。‘きぬむすめ’の被害程度は、‘みずかがみ’での出穂期防除の有無で変わる可能性があり、今後詳細に調査する必要がある。作期が中間的な‘キヌヒカリ’では被害が少なく、防除の必要性は低いと考えられた。

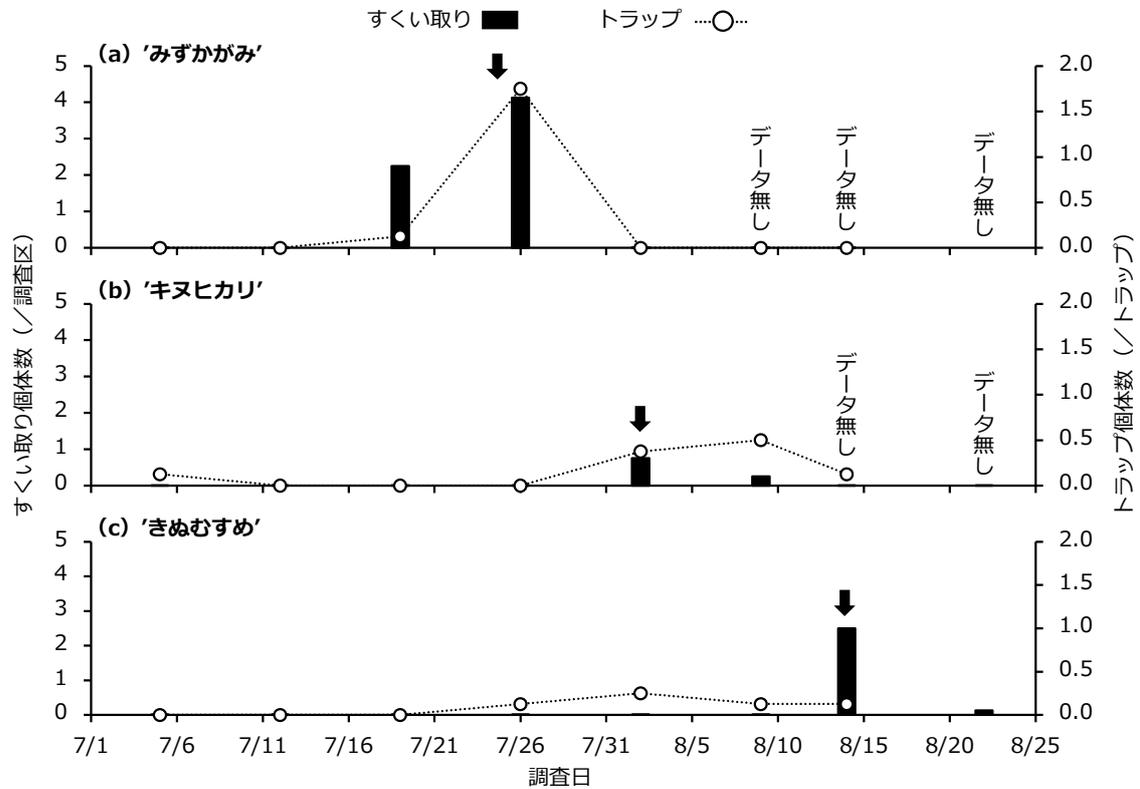


図1. 3品種の水稲におけるすくい取り調査（8カ所×20回振り）およびトラップ（8基）でのイネカメムシ成虫捕獲数
 図中の矢印は、各品種の出穂期を表す。

(4) 野菜幼苗を用いたハイマダラノメイガトラップの検証

ア 目的

発生予察事業において、ハイマダラノメイガの発生量を調査するためにクレオメを用いたトラップ調査を実施している。近江八幡市安土町大中でのハイマダラノメイガ誘殺状況を見てみると、平年並みの発生前次では初発の確認が8月下旬となり(表1)、滋賀県で一般的に播種される秋冬期のアブラナ科野菜の防除に十分に活用できない問題がある。より早い時期に発生量の多少を判断の資料とするため、クレオメよりも誘引性が高い野菜幼苗での調査方法を検討する。

野菜幼苗を用いた調査方法については、他県ではほ場に定期的に野菜をは種する方法や栽培用コンテナには種する方法が報告されている。滋賀県でも令和3年度にセルトレイ育苗したダイコンとキャベツをほ場に移植する方法を検討している。しかし、雑草管理や灌水に人手が必要となるため、より簡易な調査方法が望まれることから新たな調査方法を検討した。

表1 クレオメを用いたハイマダラノメイガ発生量調査の結果(近江八幡市安土町大中)

| 月・半旬 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | 平年 | R5 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|
| 7.1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.00 | 0.000 |
| 7.2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.00 | 0.000 |
| 7.3 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.00 | 0.000 |
| 7.4 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.00 | 0.000 |
| 7.5 | 0.00 | 0.48 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.05 | 0.000 |
| 7.6 | 0.00 | 0.75 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.08 | 0.000 |
| 8.1 | 0.03 | 0.04 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.105 | 0.000 | 0.000 | 0.01 | 0.000 |
| 8.2 | 0.00 | 0.03 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.175 | 0.000 | 0.333 | 0.05 | 0.000 |
| 8.3 | 0.00 | 0.03 | 0.05 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.000 | 0.000 | 0.128 | 0.02 | 0.000 |
| 8.4 | 0.00 | 0.03 | 0.05 | 0.00 | 0.04 | 0.32 | 0.06 | 0.00 | 0.009 | 0.000 | 0.128 | 0.06 | 0.000 |
| 8.5 | 0.00 | 0.03 | 0.12 | 0.00 | 0.01 | 0.47 | 0.29 | 0.00 | 0.025 | 0.000 | 0.561 | 0.15 | 0.000 |
| 8.6 | 0.05 | 0.40 | 0.23 | 0.00 | 0.09 | 0.25 | 1.36 | 0.14 | 0.605 | 0.000 | 0.536 | 0.36 | 0.100 |
| 9.1 | 0.15 | 0.71 | 0.00 | 0.03 | 0.13 | 0.51 | 1.26 | 0.50 | 0.120 | 0.000 | 0.268 | 0.35 | 0.000 |
| 9.2 | 0.00 | 0.29 | 0.00 | 0.07 | 0.61 | 1.28 | 0.29 | 0.19 | 0.015 | 0.000 | 0.146 | 0.29 | 0.200 |
| 9.3 | 0.35 | 0.17 | 0.00 | 0.03 | 0.23 | 1.67 | 0.21 | 0.00 | 0.025 | 0.050 | 0.067 | 0.25 | 0.000 |
| 9.4 | 0.43 | 0.03 | 0.00 | 0.02 | 0.05 | 1.75 | 0.22 | 0.00 | 0.018 | 0.000 | 0.076 | 0.22 | 0.300 |
| 9.5 | 0.13 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.05 | 0.08 | 0.20 | 0.01 | 0.018 | 0.000 | 0.067 | 0.04 | 0.000 |
| 9.6 | 0.10 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.07 | 0.03 | 0.050 | 0.000 | 0.067 | 0.02 | 0.300 |
| 年間合計 | 1.24 | 2.99 | 0.46 | 0.15 | 1.21 | 6.33 | 3.96 | 0.87 | 1.17 | 0.05 | 2.38 | 1.96 | 0.90 |

イ 方法および結果

(ア) セルトレイを用いた底面給水装置

128穴セルトレイを5×7穴にカットし、3.6リットルタッパー上部に設置する底面給水装置を作成した。タッパー上部(蓋)には5個の穴をあけ、そこからキムワイプをタッパー内に垂らし、さらにその上にキムワイプが2重になるよう敷き詰めた。タッパー内部には水を入れ、用土にはタキイの野菜育苗培土を用いた(図1、2)。

4月28日にコカブ(品種:耐病性ひかり、日野菜)を2粒/穴ずつは種し、温室内で出芽後、農業技術振興センター内のほ場へ設置した。12日後、温室内へ移動し、10日間栽培した。その結果、植物体は正常に生育し、ハイマダラノメイガなどの害虫の発生はなく、水の補充も1週間に1回程度であった。

6月1日に同じ装置にダイコン(品種:耐病総太り)およびハクサイ(品種:無双)をは種し、温室内で出芽後、ほ場へ設置した。

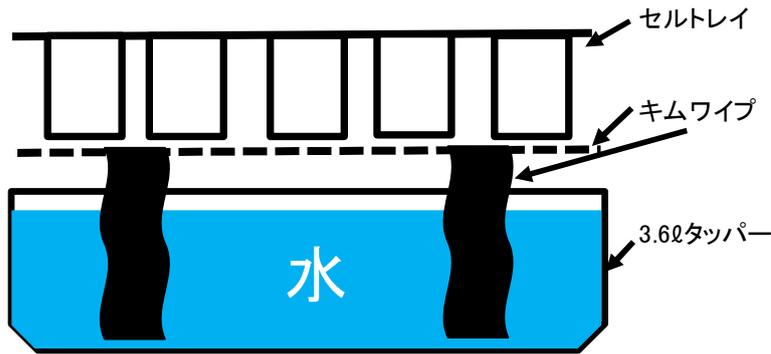


図1 装置の概略



図2 設置状況

その結果、設置 13 日後では植物体の生育とともに水分不足でしおれ、枯れた。これは、底面給水の給水量が野菜の生育に追いつけないためと考えられた。

給水量を上げるため、培養用土に野菜育苗培土と等量の水稲育苗培土を加えた。6月23日にハクサイ（品種：無双）を2粒/穴をは種し、出芽後ほ場へ設置した。設置22日後（7月20日）には1株にハイマダラノメイガ3令幼虫を確認できた。この時期には同じほ場のクレオメではハイマダラノメイガは確認できなかったことから、より高い誘引性があると考えられた。この時期は降雨にも恵まれたため乾燥による枯死は無かった。

7月31日に、底面給水装置を2台作成し、コカブ（品種：耐病ひかりかぶ）とハクサイ（品種：無双）をは種し、出芽後ほ場に設置した。設置15日後に観察したところ、双方とも約2/3の野菜苗が水分不足のため枯死していたことから、盛夏では給水が不足していることが確認できた。

給水量をあげるため、3.6リットルタッパー上部の穴を5穴から9穴に増やした。8月18日にダイコン（品種：三太郎）とハクサイ（品種：無双）を2粒/穴は種し、出芽後ほ場へ設置した。設置9日後にはダイコン、ハクサイとも約2/3の株が乾燥のため枯死していた。生存していた約1/3の株を確認したところ、ハクサイではハイマダラノメイガは確認できなかったが、ダイコンでは3株にハイマダラノメイガが確認できたことから、ハクサイよりもダイコンの誘引性が高いと考えられた。

(イ) プラスチック枠を用いた底面給水装置（改良型）

セルトレイを用いると野菜苗の生育に伴い、給水量が不足するため、底面給水装置を改良し、上部（タッパーの蓋）に直接、培土を設置することとした。3.6リットルタッパー上部に9個の穴をあけ、そこからタッパー内部に給水できるようにキムワイブを垂らし、その上にさらにキムワイブが2重になるよう敷き詰め、用土が側面へ落ちないように高さ5cmのプラスチック製の囲いを設置し、厚さ約2cmになるよう、培土（野菜育苗培土：水稲育苗培土=1:1）を充填した。改良型装置の概略は図3に示した。

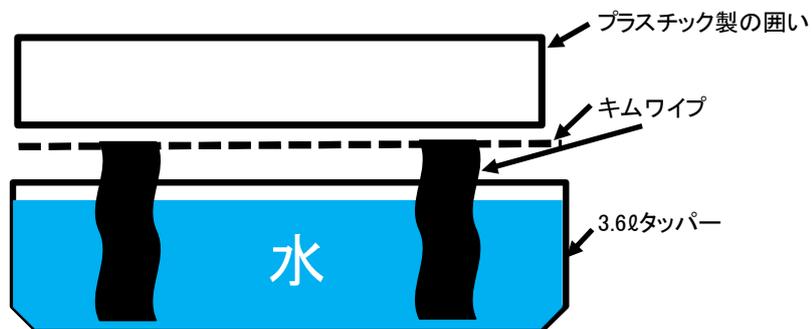


図3 改良型装置の概略

9月11日に改良型装置2台を作成し、ダイコン（品種：三太郎）（図4）およびハクサイ（品種：無双）（図5）をそれぞれ120粒/装置は種し、出芽後ほ場へ設置した。設置8日後の生育は良好であった。設置14日後の生育も順調で、ハスモンヨトウの発生を確認したが、ハイマダラノメイガの発生は確認できなかった。これは、は種時期が遅かったためと考えられた。水の補充は1週間に1度程度で管理できた。



図4 改良型での種10日後のダイコン



図5 改良型での種10日後のハクサイ

（ウ）今後のハイマダラノメイガの調査方法

野菜苗を用いた調査方法は、クレオメでは発生量が調査できない時期でも、ハイマダラノメイガの発生量を把握できる可能性が示されたことから、今後、クレオメによる調査結果と比較検討する必要がある。

2 気候変動に伴う病害虫の防除技術の開発

(1) 「びわほなみ」赤かび病の DON 濃度軽減対策の検証

1) 防除薬剤および回数、防除体系の検証

令和3年産コムギ「びわほなみ」で赤かび病が多発生し、本病に起因するかび毒、デオキシニバレノール（以下 DON とする）が高い濃度で検出された。赤かび病に適した気象になると、「びわほなみ」は他品種よりもかび毒によるリスクが著しく増大するため、「びわほなみ」のかび毒濃度低減に向けた防除体系の検証を行う。

ア かび毒濃度低減に有効な防除体系の検討

(ア) 方法

a) 耕種概要および散布体系

供試ほ場：145号ほ場（野菜ほ場）の一部

供試品種：「びわほなみ」、栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥は施用せず。

散布薬剤：メトコナゾール水和剤 2000 倍、150 L/10 a 散布、散布時期と回数：表 1 のとおり

出穂期：4月3日、開花始め：4月11日、開花期：4月14日、成熟期：5月26日

表 1. 各処理区における薬剤散布時期および散布回数

| 試験区名 | 散布回数 | 散布時期（開花期を 0 とした場合の日数） | | | | | |
|------------|------|-----------------------|---------------|--------------|---------------|--------------|---------------|
| | | 4/10
(-4) | 4/14
(開花期) | 4/20
(+6) | 4/24
(+10) | 5/4
(+20) | 5/12
(+28) |
| 開花前+開花6日後 | 2 | ○ | | ○ | | | |
| 開花期+開花10日後 | 2 | | ○ | | ○ | | |
| 開花期+開花20日後 | 2 | | ○ | | | ○ | |
| 開花期+開花30日後 | 2 | | ○ | | | | ○ |
| 3回防除 | 3 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 無処理 | 0 | | | | | | |

注) 表中の「○」は薬剤散布日を意味する

注) 赤かび病菌の接種を 4/17と4/28の2回実施した

b) 調査方法

発病調査：5月18日に1区当たり200穂以上を任意に抽出し、発病程度別穂数を調査し、発病穂率および発病度を算出した。発病度の算出方法と調査基準は以下の通り。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / 4N \times 100$$

A：1穂当たりの発病小穂が 3/4 以上の穂数、B：1/2～3/4 未満の穂数

C：1/4～1/2 未満の穂数、D：1/4 未満の穂数、N：調査穂数

DON 濃度調査：各試験区約 1 m²を収穫、乾燥、脱穀後、2.0mm の篩で調製し、任意に 200 g 抽出し、全粒数および赤かび粒数を調査した。調査後、全粒を粉碎し、ELISA 法 (r-Biopharm 社製 RIDA スクリーン FAST DON) により DON 濃度を分析した。なお、このキットの DON 検出感度は 0.2ppm から 6.0ppm である。

接種：コムギ赤かび病菌（滋賀農技セ保存菌株）をマングビーン培地で振とう培養し、孢子懸濁液（1×10⁵個/mL）を 2023 年 4 月 17 日と 4 月 28 日に 80 L/10 a となるよう噴霧接種した。また、発病を促進するため、4 月 20 日～5 月 18 日の間、朝と夕方各 1 回づつ散水ノズルで頭上散水した。散水量は穂が濡れる程度に適宜調節した。

(イ) 結果の概要

- a) 無処理区の発病株率は77.3%、発病度は54.5となり、多発生条件下での試験となった(表2)。
- b) 発病抑制効果について、防除価(発病度)がもっとも高いのは3回防除区で、次いで開花前+開花6日後区となった。2回防除を実施した区で、1回目から2回目の間隔が10日と比べると、20日、30日では、発病抑制効果が劣る結果となった(表2)。
- c) 赤かび粒およびDON濃度は、開花前+開花6日後区と3回防除区で高い抑制効果が認められた。一方、開花期+10日後区と比べると、開花期+20日後区、開花期+30日後区は、赤かび粒率、DON濃度ともに抑制効果が低い結果となった(表2)。
- d) 開花前+開花6日後区の発病抑制効果およびDON抑制効果が高い結果となったが、1回目の防除時期が他区よりも早く、開花始めから開花期の間に有効に作用したことによるものと思われるが、更なる検討が必要と考えられた。

以上のことから、「びわほなみ」では、多発生条件下では、防除回数を3回にするか、防除時期を開花始め～開花期より間隔を開けずに実施することで、より高いDON抑制効果がえられることが示唆された。

表2. 防除時期と散布回数の違いによる発病およびDON濃度に与える影響

| 試験区名 | 散布回数 | 調査穂数 | 発病率
(%) | 発病度 | 防除価
(発病度) | 赤かび粒率
(%) | DON濃度
(ppm) | 防除価
(DON濃度) |
|------------|------|------|------------|------|--------------|--------------|----------------|----------------|
| 開花前+開花6日後 | 2 | 208 | 28.0 | 10.9 | 80.0 | 2.1 | 1.1 | 78.5 |
| 開花期+開花10日後 | 2 | 219 | 37.5 | 17.9 | 67.2 | 3.8 | 2.5 | 50.7 |
| 開花期+開花20日後 | 2 | 227 | 37.3 | 20.1 | 63.1 | 4.3 | 2.7 | 48.3 |
| 開花期+開花30日後 | 2 | 219 | 43.5 | 23.5 | 56.9 | 6.0 | 3.0 | 41.5 |
| 3回防除 | 3 | 216 | 17.8 | 6.9 | 87.3 | 2.1 | 1.3 | 74.6 |
| 無処理 | 0 | 225 | 77.3 | 54.5 | - | 8.1 | 5.1 | - |

注) 防除価は無処理区における発病(発病度、DON濃度)を100とした場合の処理区の効果を示す指数

イ かび毒濃度低減に有効な防除薬剤の検証

(ア) 方法

a) 耕種概要および散布体系

供試ほ場：農業技術振興センターほ場(431および432西側ほ場)

供試品種：「びわほなみ」。栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥は施用せず。

播種日：2022年11月10日、出穂期2023年4月7日、開花期4月17日、

成熟期：6月1日

供試散布薬剤：・ピジフルメトフェン水和剤(商品名：ミラピスフロアブル 1500倍)

・メトコナゾール水和剤(商品名：ラクアップフロアブル 2000倍)

散布回数および散布量：2023年4月19日と4月28日(1回目散布9日後)の2回散布
150L/10a 散布(ステージは開花期)

b) 調査方法

「かび毒濃度低減に有効な防除体系の検討」と同様の調査方法とした。

発病調査を5月23日（2回目散布後25日後）に実施した。

接種：コムギ赤かび病菌（滋賀農技セ保存菌株）をマングビーン培地で振とう培養し、胞子懸濁液（ 1×10^5 個/mL）を2023年4月21日（1回目薬剤散布2日後）と5月2日（2回目薬剤散布4日後）に80L/10aとなるよう噴霧接種した。

(イ) 結果の概要

- a) 無処理区の発病株率は59.9%、発病度は45.1となり、多発生条件下での試験となった（表1）。
- b) 薬剤間で比較すると、メトコナゾール水和剤の防除価（発病度）が高く、赤かび粒率およびDON濃度も抑制されたが、ピジフルメトフェン水和剤は劣る結果となった（表1）。

以上のことから、多発生条件下において、「びわほなみ」での散布回数を2回とした場合、メトコナゾール水和剤の効果が高いと考えられた。

表1. 薬剤の違いによる発病およびDON濃度に与える影響

| 試験区名 | 希釈倍率 | 調査穂数 | 発病穂率 (%) | 発病度 | 防除価 (発病度) | 赤かび粒率 (%) | DON濃度 (ppm) | 防除価 (DON濃度) |
|--------------|-------|------|----------|------|-----------|-----------|-------------|-------------|
| ピジフルメトフェン水和剤 | 1500倍 | 214 | 22.1 | 11.1 | 75.4 | 3.6 | 1.8 | 59.8 |
| メトコナゾール水和剤 | 2000倍 | 210 | 14.3 | 8.1 | 82.0 | 1.6 | 0.7 | 83.6 |
| 無処理 | - | 220 | 59.9 | 45.1 | - | 9.2 | 4.4 | - |

注) 防除価は無処理区における発病（発病度、DON濃度）を100とした場合の処理区の効果の程度を示す指数

ウ 感染時期の違いによるかび毒（DON）産生量の変動

(ア) 方法

a) 耕種概要

プランター（長75cm×幅25cm×高14cm）で栽培した「びわほなみ」を用いた。栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥は施用しない。プランターごとに穂数を調整し、生育に大きな差が無いように管理した。穂ばらみ期より雨水が穂にかからないようハウス内で隔離して栽培した。

b) 試験区

感染時期の違いによる差を確認するため、表1により順次、接種を行った。各区への接種は1回のみとし、コムギ赤かび病菌胞子懸濁液（ 1×10^5 個/ml）を1プランターあたり100ml、止葉から穂に噴霧接種した（表1）。発病促進のため、接種直後から24時間ビニル袋で穂を被覆し、ビニル除去後1週間、1日2回の間隔で立毛上から灌水した。なお、対照として、無接種・無灌水の無処理区を設けた。

表1. 接種時期と生育ステージ

| 試験区名 | 接種日時 | 灌水期間 | 備考 |
|--------|-------|---------------|-----------|
| 出穂始め | 3月30日 | 3月31日 ~ 4月6日 | 出穂期 4月3日 |
| 出穂期 | 4月3日 | 4月4日 ~ 4月10日 | 開花確認 4月7日 |
| 出穂7日後 | 4月10日 | 4月11日 ~ 4月17日 | 開花期 4月12日 |
| 出穂14日後 | 4月17日 | 4月18日 ~ 4月24日 | |
| 出穂21日後 | 4月24日 | 4月25日 ~ 5月1日 | |
| 出穂28日後 | 5月1日 | 5月2日 ~ 5月8日 | |
| 出穂35日後 | 5月8日 | 5月9日 ~ 5月15日 | |
| 出穂42日後 | 5月15日 | 5月16日 ~ 5月22日 | |
| 出穂49日後 | 5月22日 | 5月23日 ~ 5月29日 | 成熟期 5月30日 |
| 無処理 | - | - | - |

注) 生育状況を合わせるために適宜遅れ穂等を切除した

注) 無処理区は出穂後一度も穂に灌水しなかった

c) 調査方法

発病調査：発病程度別穂数を調査し、発病穂率および発病度を算出した。発病度の算出方法および調査基準は以下の通り。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / 4N \times 100$$

A：1穂当たりの発病小穂が3/4以上の穂数、B：1/2～3/4未満の穂数

C：1/4～1/2未満の穂数、D：1/4未満の穂数、N：調査穂数

かび毒濃度調査：全穂を収穫、乾燥、脱穀後、2.0 mmの篩で調製し、粒数および赤かび粒数を調査した。調査後、全粒を粉碎し、ELISA法(r-Biopharm社製RIDAスクリーンFAST DON)によりDON濃度を分析した。なお、このキットのDON検出感度は0.2ppmから6.0ppmであり、6.0ppm以上は希釈し、検出可能な範囲で分析後、値を算出した。

(イ) 結果の概要

- 赤かび病の発病は、出穂期区から出穂35日後区まで認められ、出穂7日後区から出穂21日後区で発病穂率および発病度が高い傾向となった(表2)。
- 赤かび粒は出穂期区から出穂35日後まで確認され、出穂14日後区が最も高かった。DON濃度は出穂始め区から出穂42日後区まで検出され、出穂14日後が最も高くなった(表3)。
- 出穂始め区や出穂42日後区でDON産生が確認されたことから、開花していなくても、穂に赤かび病菌が存在するとDON汚染リスクがあることが示唆された。なお、「農林61号」と「ふくさやか」で同様の試験を実施したが(2006年)、出穂始めでの接種でDON産生は確認されなかった(表3)。

以上のことから、「びわほなみ」は、開花期の赤かび病菌の感染により赤かび粒率とDON濃度が高まるとともに、開花前の段階でもDON汚染リスクがあることが示唆された。

表2. 接種時期別の発病程度

| 試験区名
(接種時期) | R5年度 | | | | R4年度 (参考) | | | |
|----------------|------|------|-------------|------|-----------|------|-------------|------|
| | 開花 | 調査穂数 | 発病穂率
(%) | 発病度 | 開花 | 調査穂数 | 発病穂率
(%) | 発病度 |
| 出穂始め | 無 | 56.3 | 0.0 | 0.0 | ND | ND | ND | ND |
| 出穂期 | 極少 | 54.3 | 0.6 | 0.3 | あり | 43.7 | 72.9 | 38.3 |
| 出穂7日後 | 開花 | 61.3 | 50.7 | 25.0 | 開花 | 44.7 | 80.0 | 32.4 |
| 出穂14日後 | 開花 | 70.3 | 52.2 | 27.0 | 開花 | 37.7 | 13.5 | 3.4 |
| 出穂21日後 | 葯あり | 74.3 | 53.4 | 21.3 | 葯あり | 48.0 | 4.5 | 1.1 |
| 出穂28日後 | 葯あり | 60.0 | 37.9 | 12.4 | 葯あり | 35.0 | 0.0 | 0.0 |
| 出穂35日後 | 葯あり | 70.0 | 13.2 | 4.2 | 葯あり | 27.3 | 0.0 | 0.0 |
| 出穂42日後 | 葯なし | 40.3 | 0.0 | 0.0 | ND | ND | ND | ND |
| 出穂49日後 | 葯なし | 43.3 | 0.0 | 0.0 | ND | ND | ND | ND |
| 無処理 | - | 55.0 | 0.0 | 0.0 | - | 46.7 | 0.0 | 0.0 |

注) R5年度：出穂始めは3/30、出穂期は4/3、開花始めは4/10、開花期は4/12、成熟期は5/30

注) R4年度：出穂期は4/17、開花始めは4/22、開花期は4/25、成熟期は6/3

注) 表中の「開花」は接種時の状況、NDは調査データがない（試験区未設定）ことを示す

表3. 接種時期別の赤かび粒率およびDON濃度

| 試験区名
(接種時期) | R5年度 | | | | R4年度 (参考) | | | |
|----------------|------|--------|---------------|----------------|-----------|--------|---------------|----------------|
| | 開花 | 調査粒数 | 赤かび粒
率 (%) | DON濃度
(ppm) | 開花 | 調査粒数 | 赤かび粒
率 (%) | DON濃度
(ppm) |
| 出穂始め | 無 | 2027.3 | 0.0 | 0.7 | ND | ND | ND | ND |
| 出穂期 | 極少 | 1953.7 | 0.4 | 1.8 | あり | 854.7 | 14.5 | 11.8 |
| 出穂7日後 | 開花 | 1309.7 | 4.9 | 8.2 | 開花 | 1220.0 | 16.1 | 22.1 |
| 出穂14日後 | 開花 | 2076.3 | 7.5 | 10.5 | 開花 | 1289.7 | 5.6 | 5.9 |
| 出穂21日後 | 葯あり | 2344.0 | 5.1 | 7.4 | 葯あり | 1459.7 | 0.7 | 3.9 |
| 出穂28日後 | 葯あり | 2356.7 | 3.1 | 4.3 | 葯あり | 1190.3 | 0.2 | 4.0 |
| 出穂35日後 | 葯あり | 2483.0 | 1.1 | 2.8 | 葯あり | 609.0 | 0.0 | <0.5 |
| 出穂42日後 | 葯なし | 1218.3 | 0.0 | 0.2 | ND | ND | ND | ND |
| 出穂49日後 | 葯なし | 1430.7 | 0.0 | <0.2 | ND | ND | ND | ND |
| 無処理 | - | 1887.5 | 0.1 | <0.2 | - | 1557.3 | 0.0 | <0.5 |

注) R5年度：出穂始めは3/30、出穂期は4/3、開花始めは4/10、開花期は4/12、成熟期は5/30

注) R4年度：出穂期は4/17、開花始めは4/22、開花期は4/25、成熟期は6/3

注) 表中の「開花」は接種時の状況、NDは調査データがない（試験区未設定）ことを示す

2) 粒厚別のかび毒 (DON) 濃度の状況把握

ア 目的

令和3年産コムギ「びわほなみ」で赤かび病が多発生し、本病に起因するかび毒、デオキシニバレノール（以下 DON とする）が高い濃度で検出された。気候変動により赤かび病の発生に適した気候になると、「びわほなみ」は他品種よりもかび毒によるリスクが著しく増大するため、「びわほなみ」のかび毒濃度低減に向けた収穫調整の有効性について検証を行う。

イ 方法

供試品種：「びわほなみ」

供試サンプル：2.0mm 調製で DON 濃度が 1.0ppm 程度の小麦（0.60 ppm～1.13ppm の3試料）を用い、任意に 200 g 程度抽出し、1.8mm から 2.8mm まで 0.2mm 単位に6段階、7区分に篩い分けし、段階ごとに総粒数、赤かび粒率、DON 濃度を調査した。

調査方法：赤かび粒率調査：全粒数および赤かび粒数を調査した。その際、“脱色して白くなるか、表面にしわがある粒”（中島ら, 2004 に準拠）を赤かび粒とした。

：DON 濃度調査：全粒を粉碎後、ELISA 法 (r-Biopharm 社製 RIDA スクリーン・FAST DON) により DON 濃度を分析した。なお、このキットの DON 検出感度は 0.2ppm から 6.0ppm であり、6.0ppm 以上は希釈し、検出可能な範囲で分析後、値を算出した。

ウ 結果の概要

- (ア) 粒厚別の赤かび粒率は、粒厚が薄くなるほど高くなる傾向となった（表1）。
- (イ) 粒厚別の DON 濃度は、粒厚が薄くなるほど高くなる傾向となった。また、0.60 ppm 区は、2.4 mm 以上で、0.97 ppm 区は 2.6 mm 以上で、1.13 ppm 区は 2.8 mm 以上の粒厚で 1.0 ppm 以下となった（図1）。
- (ウ) 粒厚別の重量と DON 濃度は、0.97 ppm 区では 2.2 mm 以上の粒厚で DON 濃度が 1.0 ppm 以下となり、1.13 ppm 区では、2.4 mm 以上の粒厚で DON 濃度が 1.0 ppm となった（表2）。
- (エ) 分析値の変動を考慮し、0.8 ppm 程度を目標に調整した場合、重量比は 0.97 ppm 区では 80 %、1.13 ppm 区では 81.2 % 程度となったが、参考の 2.4 ppm (R4 年度試験) では 2.8 mm で調整しても DON 濃度が 1.0 ppm 以下とはならなかった（表2）。

以上のことから、2.0 mm 調製で DON 濃度が 1 ppm 程度であれば、調製時に粒厚を広げることで、基準値 (1.0 mg/kg) 以下に調整することが可能であると考えられた。但し、粒厚ごとの重量比によっては粒厚での調製だけでは不十分な可能性もあることから、さらなるデータの収集が必要である。

表1. 粒厚別の赤かび粒率

| 試験区名 | 立毛中の
発病穂率(%) | 発病程度 | 調査項目 | 粒厚(mm) | | | | | | |
|---------|-----------------|------|----------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| | | | | <1.8 | 1.8~2.0 | 2.0~2.2 | 2.2~2.4 | 2.4~2.6 | 2.6~2.8 | 2.8≦ |
| 0.60ppm | 16.3% | 7.5 | 調査粒数 | 65 | 116 | 354 | 482 | 1243 | 1768 | 1266 |
| | | | 赤かび粒率(%) | 52.3 | 27.6 | 7.9 | 3.3 | 1.9 | 0.7 | 0.0 |
| | | | 重量(g) | 0.6 | 1.7 | 7.5 | 13.5 | 45.2 | 77.3 | 60.7 |
| 0.97ppm | 33.7% | 13.8 | 調査粒数 | 45 | 148 | 555 | 940 | 2025 | 1833 | 384 |
| | | | 赤かび粒率(%) | 44.4 | 35.1 | 11.2 | 5.0 | 1.4 | 0.4 | 0.3 |
| | | | 重量(g) | 0.6 | 2.4 | 12.4 | 27.3 | 74.3 | 78.1 | 17.7 |
| 1.13ppm | 14.0% | 11.2 | 調査粒数 | 31 | 42 | 124 | 267 | 839 | 1633 | 2122 |
| | | | 赤かび粒率(%) | 38.7 | 38.1 | 13.7 | 7.5 | 3.3 | 2.0 | 0.3 |
| | | | 重量(g) | 0.3 | 0.7 | 2.7 | 7.3 | 30.6 | 73.2 | 106.3 |

注)試験区名は2.0mmで調製後に分析したDON濃度を示す、各試験区ともメコゾール水和剤を2回散布

注)発病穂率、発病程度は立毛段階での調査結果(0.6ppm区、1.13ppm区は2023年5月23日、0.97ppm区は5月18日調査)

注)粒厚の"<1.8"は1.8mm以下、"2.8<"は2.8mm以上を示す

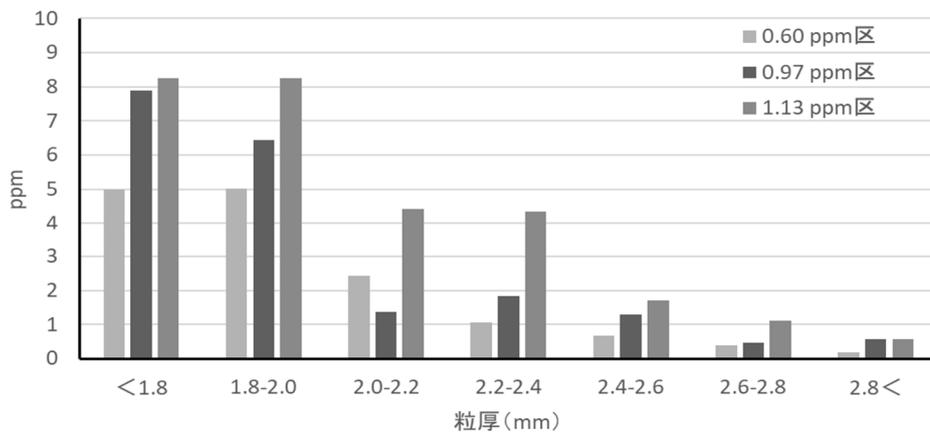


図1. 粒厚別でのDON濃度

表2. 粒厚別の重量とDON濃度

| 試験区名 | 調査項目 | 粒厚 | | | | | | |
|------------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 調製前 | 1.8≦ | 2.0≦ | 2.2≦ | 2.4≦ | 2.6≦ | 2.8≦ |
| 0.60ppm | 重量(g) | 206.5 | 205.8 | 204.1 | 196.6 | 183.2 | 138.0 | 60.7 |
| | 推定DON濃度(mg/kg) | 0.56 | 0.54 | 0.51 | 0.43 | 0.39 | 0.29 | 0.18 |
| | 重量比率(%) | 100 | 99.7 | 98.9 | 95.2 | 88.7 | 66.8 | 29.4 |
| 0.97ppm | 重量(g) | 212.7 | 212.2 | 209.7 | 197.3 | 170.1 | 95.7 | 17.7 |
| | 推定DON濃度(mg/kg) | 1.09 | 1.07 | 1.01 | 0.98 | 0.84 | 0.49 | 0.57 |
| | 重量比率(%) | 100 | 99.7 | 98.6 | 92.8 | 80.0 | 45.0 | 8.3 |
| 1.13ppm | 重量(g) | 221.1 | 220.8 | 220.2 | 217.4 | 210.1 | 179.5 | 106.3 |
| | 推定DON濃度(mg/kg) | 1.11 | 1.10 | 1.08 | 1.04 | 0.93 | 0.79 | 0.57 |
| | 重量比率(%) | 100 | 99.9 | 99.6 | 98.3 | 95.0 | 81.2 | 48.1 |
| 参考(R4)
2.4ppm | 重量(g) | 391.5 | 391.2 | 390.4 | 387.5 | 374.5 | 339.4 | 221.7 |
| | 推定DON濃度(mg/kg) | 2.25 | 2.23 | 2.20 | 2.14 | 1.91 | 1.62 | 1.27 |
| | 重量比率(%) | 100 | 99.9 | 99.7 | 99.0 | 95.7 | 86.7 | 56.6 |
| 参考(R4)
3.8ppm | 重量(g) | 379.7 | 379.0 | 376.1 | 358.2 | 306.8 | 213.1 | 88.7 |
| | 推定DON濃度(mg/kg) | 4.62 | 4.61 | 4.56 | 4.30 | 3.58 | 2.66 | 1.79 |
| | 重量比率(%) | 100 | 99.8 | 99.0 | 94.3 | 80.8 | 56.1 | 23.4 |

注)試験区名は2.0mmで調製後に分析したDON濃度を示す、参考3.8ppm区を除き各試験区ともメコゾール水和剤を2回散布

注)粒厚の"1.8≦"は1.8mm以上のサンプル合計を示す、他の粒厚も同様にそれぞれの合計を示す

注)推定DON濃度は、各粒厚ごとのDON濃度を重量で割り戻し、DONの量を算出し、各粒厚区分ごとに再度算出したものであり、推定値であるため、あらかじめ2.0mmで調整したDON濃度(試験区名)とは一致しない

注)重量比率は調整前の重量に対しての各粒厚区分ごとの重量割合を示す

(2) トマト黄化葉巻病の管理手法の検証

ア 目的

トマト黄化葉巻病による被害の低減を目指し、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミの化学合成農薬の使用量を減少させたIPM防除体系について検証する。

イ 方法

- ア) 供試ほ場
 耐候性ハウス (8m×13m) 2棟 (1棟内に
 畝間: 180cm、ベッド長: 7m、ベッド数: 4)
- イ) 試験区
 表1のとおり。同様のハウスをもう1棟
 設置し反復とみなした。
- ウ) 耕種概要

表1. 試験区の概要

| 区名 | 定植時
粒剤 | 忌避剤 | 気門封鎖剤 |
|--------------|-----------|-----|-------|
| 粒剤のみ | + | - | - |
| 粒剤+忌避剤 | + | + | - |
| 粒剤+気門封鎖剤 | + | - | + |
| 粒剤+気門封鎖剤+忌避剤 | + | + | + |
| 無処理 | - | - | - |
| 忌避剤 | - | + | - |
| 気門封鎖剤 | - | - | + |
| 気門封鎖剤+忌避剤 | - | + | + |

注) 表中の“+”は施用、“-”は無施用とする
 注) 各区とも15株、2連制とした

- (1) 播種: 7/6、定植: 8/3、肥培管理、栽培管理
 は慣行に準じた。
- (2) 供試品種: トマト CF 桃太郎ファイト (黄化葉巻病罹病性品種)
- (3) 薬剤散布: 育苗期は8/2にピリフルキナゾン水和剤(コナジラミ類農薬登録有)を散布
 本圃期は8/3の定植時に粒剤施用区のみクロチアジニン粒剤1g/株を植穴処理
 薬剤散布は8/10、21、8/31、9/11、21、10/2、11、20、30、11/10、22に忌避剤(グリセ
 リン酢酸脂肪酸エステル: ベミデタッチ乳剤)および気門封鎖剤(調合油: サフオイル乳
 剤)を対象の処理区に散布。
 ※10/3 サビダニ多発生によりピフェナゼート乳剤(コナジラミ類に農薬登録無)散布。
- エ) 調査項目
- ・各区ベット上1か所に設置した黄色粘着板上のコナジラミ類虫数
 - ・黄化葉巻病の発病調査(各区15株、肉眼で発病の有無を調査)

ウ 結果の概要

- ア) コナジラミ類の虫数は、定植直後より増加し、10月2日が発生量のピークとなった。その後、施設内の気温低下に伴い発生量は低下した。期間を通じて、気門封鎖剤+忌避剤区が他の区よりも抑制される傾向にあった(図1、2)。
- イ) トマト黄化葉巻病の発生は、定植19日後(8月22日)には全区で確認され、無処理区や粒剤施用区では最終的に全株発病した。処理区間を比較すると、粒剤+気門封鎖剤+忌避剤区は他区よりも発病株率が低く、発病抑制効果が高い結果となった(図3)。
- ウ) 粒剤施用によるコナジラミ類虫数および黄化葉巻病発病抑制効果は判然としなかった。(図1、2)。

以上のことから、忌避剤と気門封鎖剤の組み合わせは、それぞれを単独で用いた場合よりコナジラミ虫数を抑制でき、黄化葉巻病の発病数を抑制することが可能であると考えられたが、化学合成農薬の定植時の植穴混和の組み合わせによる更なる発病抑制効果については判然としなかった。

【具体的
データ】

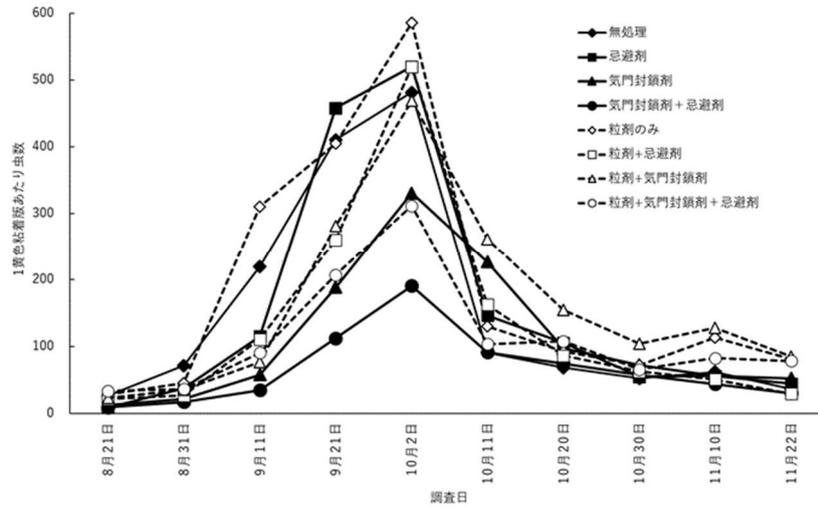


図1. 黄色粘着板に付着したコナジラミ類虫数の推移



図2. 試験期間中の施設内平均気温の推移

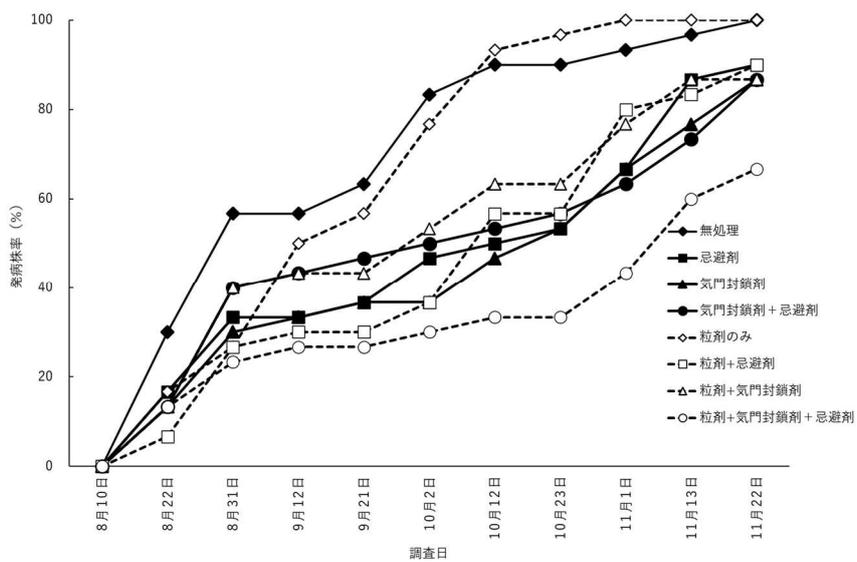


図3. 黄化葉巻病発生株率の推移

3 発生予察データの分析

(1) 予察調査データの解析（いもち病などの発生量の検証）

ア 目的

例年、発生予察事業ではいもち病などの発生状況を調査しており、このデータを解析することで、いもち病などの発生に関係する要因を解明できる可能性がある。これらの要因が明らかになれば、より詳細な発生予察に寄与すると考えられる。

イ 方法

いもち病および稲こうじ病の発生量、発生ほ場率は、発生予察事業で設置している精密調査ほ場県内 36 地点の 2012～2022 年（平成 24～令和 4 年）の 10 年間のデータを用いた。穂いもちの発病度は 2014 年から調査しているため、8 年間のデータを用いた。

調査は農林水産省が通知している「病害虫発生予察事業の実施について」平成 27 年 3 月 31 日 26 消安第 6626 号最終改定に基づいて実施した。調査時期は葉いもち 7 月 1 日、11 日、20 日基準、穂いもちの発病穂率、発病度および稲こうじ病は 8 月 21 日基準のデータを用いた。それぞれのデータ間の相関を計算ソフト（エクセル）にて算出した。得られた相関係数は、0.7 以上を相関が高い、0.7 未満を相関が低いと評価した。

また、前年の穂いもちの調査データは、いもち病の重要な発生要因である種もみの保菌状態を反映できると考えられたため、当年の調査データとの相関を検討した。

ウ 結果および考察

(ア) いもち病、稲こうじ病の発生量と各種発生量データの関係

当年のいもち病および稲こうじ病の発生量（発生程度を示す）と調査によって得られた発生量、前年の穂いもちの発生量との相関関係を見てみると、同じ穂に発病する穂いもち発病穂率と発病度は当然ながら 0.84 と高い相関が見られた。一方で、穂いもち発病度と 7 月 20 日の葉いもちでは相関係数は 0.77 と高かったが、穂いもち発病穂率と 7 月 20 日の葉いもちの相関係数は 0.49 と低かった。（表 1）

さらに、7 月 20 日の葉いもちと 7 月 11 日の葉いもちでは累積的な発生量データとなるが、それらの相関係数は 0.69 であった。また、前年の穂いもち発病穂率について見ると 7 月 20 日の葉いもちとの相関係数が 0.72 であり、7 月 11 日の葉いもちよりも相関関係が高かった。一方で前年の穂いもちの発病度と 7 月 20 日の葉いもちでは相関係数は 0.51 と相対的に低かった。

稲こうじ病については葉いもちの発生量とは相関係数が 0.08～0.31 となり、相関は小さかったが、穂いもち発病穂率とは相関係数が 0.65 と葉いもちと比べて高かった（表 1）。これは穂いもちと稲こうじ病の発病が出穂期の降雨に強く影響されていることが要因と考えられた。

(イ) いもち病、稲こうじ病の発生量と各種発生ほ場率データの関係

いもち病および稲こうじ病の発生量とこれらの発生ほ場率（発生のひろがりを示す）との相関関係については多くのデータが重複するので後述する。

いもち病および稲こうじ病の発生量と前年の穂いもちの発病穂率、発病度との相関関係を見てみると、前年の穂いもちの発病穂率、発病度の発生ほ場率と 7 月 20 日の葉いもちには 0.81、0.78 と高い相関が見られた。また、穂いもちの発病穂率、発病度の発生量と前年の穂いもちの発病穂

率、発病度の発生ほ場率にも 0.54~0.77 の相関が見られた。これらのことは前年の穂いもちの発病穂率、発病度が次作の穂いもちの発生に影響することを示しており、いもち病の抑制には種子消毒の励行が重要であることが示された。(表 1)

一方、稲こうじ病の発生量と前年の穂いもちの発病穂率、発病度の発生ほ場率では 0.28、0.46 と相関関係は低かった。(表 1)

表 1. いもち病、稲こうじ病の発生量と各種データの関係

| | | 発生量 | | | | | |
|------------|------------|--------|---------|-----------|-----------|----------|------|
| | | 穂いもち穂率 | 穂いもち発病度 | 葉いもち7月20日 | 葉いもち7月11日 | 葉いもち7月1日 | 稲こうじ |
| 発生量 | 穂いもち穂率 | 1.00 | 0.84 | 0.49 | 0.40 | 0.13 | 0.65 |
| | 穂いもち発病度 | | 1.00 | 0.77 | 0.44 | 0.15 | 0.35 |
| | 葉いもち7月20日 | | | 1.00 | 0.69 | 0.59 | 0.31 |
| | 葉いもち7月11日 | | | | 1.00 | 0.51 | 0.08 |
| | 葉いもち7月1日 | | | | | 1.00 | 0.30 |
| | 稲こうじ | | | | | | 1.00 |
| | 前年の穂いもち穂率 | 0.44 | 0.68 | 0.72 | 0.41 | 0.07 | 0.12 |
| | 前年の穂いもち発病度 | 0.47 | 0.35 | 0.51 | 0.45 | 0.00 | 0.26 |
| | 発生ほ場率 | 穂いもち穂率 | | | | | |
| 穂いもち発病度 | | | | | | | |
| 葉いもち7月20日 | | | | | | | |
| 葉いもち7月11日 | | | | | | | |
| 葉いもち7月1日 | | | | | | | |
| 稲こうじ | | | | | | | |
| 前年の穂いもち穂率 | | 0.54 | 0.68 | 0.81 | 0.65 | 0.33 | 0.28 |
| 前年の穂いもち発病度 | | 0.77 | 0.71 | 0.78 | 0.62 | 0.28 | 0.46 |

※相関係数が 0.7 以上の部分に色掛け

※次表とも併せて重複する場合空欄とした。

※前年の穂いもち発病度は過去 8 年のデータを使用した。

(ウ) いもち病、稲こうじ病の発生ほ場率と各種発生量データの関係

いもち病および稲こうじ病の発生ほ場率と調査によって得られた発生量、前年の穂いもちの発生量との相関関係を見てみると、7月20日の葉いもちと7月11日の葉いもちには 0.74~0.75 の高い相関関係が見られた。また、前年の穂いもちの発病穂率、発病度の発生量と7月20日の葉いもちの発生ほ場率には 0.69、0.73 の相関関係が見られた(表 2)。

また、稲こうじ病の発生ほ場率と穂いもちの発病穂率の発生量には 0.63 の相関関係が見られた(表 2)。

(エ) いもち病、稲こうじ病の発生ほ場率と各種発生ほ場率データの関係

いもち病および稲こうじ病の発生ほ場率と調査によって得られた発生ほ場率、前年の穂いもちの発生ほ場率との相関関係を見てみると、7月1日、7月11日の葉いもちと7月20日の葉いもちでは相関係数が 0.85 と高かったが、穂いもちの発病穂率、発病度と7月20日の葉いもちでは 0.51、0.59 とあまり高くなかった。これは穂いもちの発生が葉いもちの発病状況よりも、気象などの影響を強く受けるためではないかと考えられた(表 2)。

前年の穂いもちの発病穂率、発病度と7月20日、7月11日の葉いもちでは 0.66~0.73 の相関関係が見られた(表 2)。

稲こうじ病と穂いもちの発病穂率、発病度の発生ほ場率では 0.86、0.87 と高い相関関係が見られ、穂いもちの発病穂率、発病度の発生量との関係よりも高い関係であった(表 2)。

(オ) いもち病、稲こうじ病の発生予察への活用(考察)

7月20日基準で調査する葉いもちの発生量と相関が高かったのは、前年の穂いもちの発病穂率

の発生ほ場率で相関関係は 0.81 であった。この要因としては前年の穂いもちの発生ほ場率が高い場合、種子の保菌状態が高いレベルにあり、次年度の葉いもちの発生に強く影響していることが推測された。このデータを図示し、近似解析すると線形近似の場合、 $y=0.0376x-1.1469$ の式が得られた。指数近似の場合、 $y=0.0323e^{0.0501x}$ の式が得られた。令和 4 年度の 7 月 20 日基準の穂いもちの発生ほ場率は 81.67 で、この式に当てはめると線形近似では 1.924 の値、指数近似では 1.933 の値となった。令和 5 年度の 7 月 20 日基準の葉いもちの発病度は、2.2 であったことから、概ね適合した値であったことが確認できた。さらに、図 1 のプロットのうち最もはずれていたのは平成 29 年の値であり、前年穂いもちの発生ほ場率 60.5、当年葉いもちの発生量 0.05 であった。平成 29 年は 6 月の気温が低く推移し、7 月には急激に高温になった気象であり、これが強く影響していたと推測され、同様の気象条件では葉いもちの増殖は抑制されると考えられた。

7 月 20 日基準の葉いもちの発生量は 7 月 11 日基準の葉いもちの発生ほ場率との相関係数は 0.74 であった。このデータを図 3 に示した。すると、 $y=0.0942x+0.2218$ の式が得られた。データの分散状況を見てみると、葉いもちの発生ほ場率が比較的低い場合には相関関係が高いように見えるが、発生ほ場率が高い場合には振れが大きかった。この要因は不明であった。

当年の穂いもちの発生量と相関が高かったのは、前年の穂いもちの発病度の発生ほ場率であり、その相関係数は 0.77 と高かった。一方、これまで穂いもちの発生予測に葉いもちの発生量を重要視してきたが、相関係数は 0.49、0.52 でありあまり高くなかった。これまで、葉いもちの発生量と穂いもちの発生が合わない原因として、気象条件によるものと考えられてきたが、前年の穂いもちの発病度も考慮する必要があると考えられた。

表 2. いもち病、稲こうじ病の発生ほ場率と各種データの関係

| | | 発生ほ場率 | | | | | |
|-------|------------|--------|---------|-----------|-----------|----------|------|
| | | 穂いもち穂率 | 穂いもち発病度 | 葉いもち7月20日 | 葉いもち7月11日 | 葉いもち7月1日 | 稲こうじ |
| 発生量 | 穂いもち穂率 | 0.81 | 0.80 | 0.52 | 0.40 | 0.25 | 0.63 |
| | 穂いもち発病度 | 0.61 | 0.62 | 0.58 | 0.43 | 0.36 | 0.45 |
| | 葉いもち7月20日 | 0.41 | 0.60 | 0.89 | 0.74 | 0.69 | 0.34 |
| | 葉いもち7月11日 | 0.57 | 0.62 | 0.75 | 0.95 | 0.58 | 0.54 |
| | 葉いもち7月1日 | 0.38 | 0.39 | 0.51 | 0.49 | 0.97 | 0.41 |
| | 稲こうじ | 0.65 | 0.62 | 0.44 | 0.26 | 0.27 | 0.74 |
| | 前年の穂いもち穂率 | 0.28 | 0.28 | 0.69 | 0.48 | 0.22 | 0.05 |
| | 前年の穂いもち発病度 | 0.34 | 0.34 | 0.73 | 0.58 | 0.58 | 0.15 |
| 発生ほ場率 | 穂いもち穂率 | 1.00 | 1.00 | 0.51 | 0.58 | 0.44 | 0.86 |
| | 穂いもち発病度 | | 1.00 | 0.59 | 0.65 | 0.65 | 0.87 |
| | 葉いもち7月20日 | | | 1.00 | 0.85 | 0.85 | 0.47 |
| | 葉いもち7月11日 | | | | 1.00 | 0.53 | 0.61 |
| | 葉いもち7月1日 | | | | | 1.00 | 0.42 |
| | 稲こうじ | | | | | | 1.00 |
| | 前年の穂いもち穂率 | 0.46 | 0.41 | 0.73 | 0.67 | 0.47 | 0.34 |
| | 前年の穂いもち発病度 | 0.52 | 0.51 | 0.70 | 0.66 | 0.41 | 0.47 |

※相関係数が 0.7 以上の部分に色掛け

※前表とも併せて重複する場合空欄とした。

一方で、7 月 1 日基準の葉いもち調査は、その後の葉いもちおよび穂いもちの発生との相関はあまり高くなかった。7 月 1 日基準、7 月 11 日基準の葉いもちの発生量が 7 月 20 日基準の葉いもちの発生量などと比較相関関係が低かったことから、現状の 7 月 1 日、7 月 11 日基準の葉いもち発生量調査では面的な発生量を把握できていない可能性がうかがえ、調査方法の見直しなどの検討を行う余地があると推測された。

稲こうじ病は穂いもちの発生量との相関関係が見られたことから、穂いもちが多く発生すると

予測される場合、稲こうじ病の常発地では本病への対策を併せて考えておくと効果的であると考えられた。

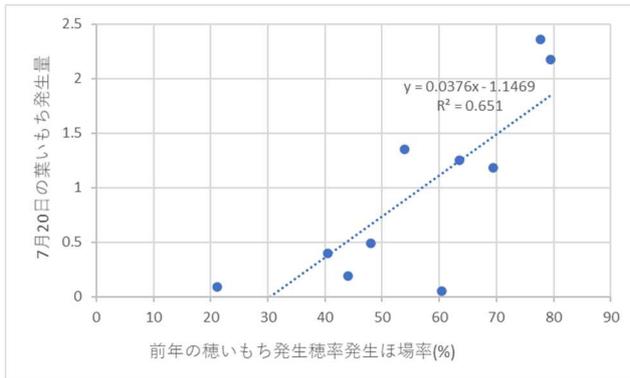


図1. 前年の穂いもちと当年の葉いもちの関係（線形近似）

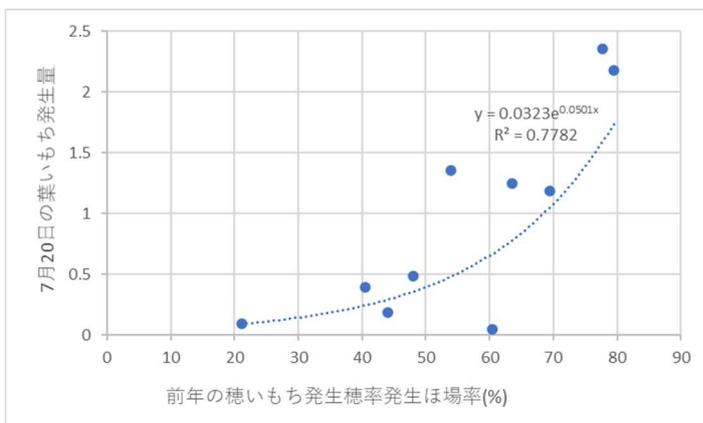


図2. 前年の穂いもちと当年の葉いもちの関係（指数近似）

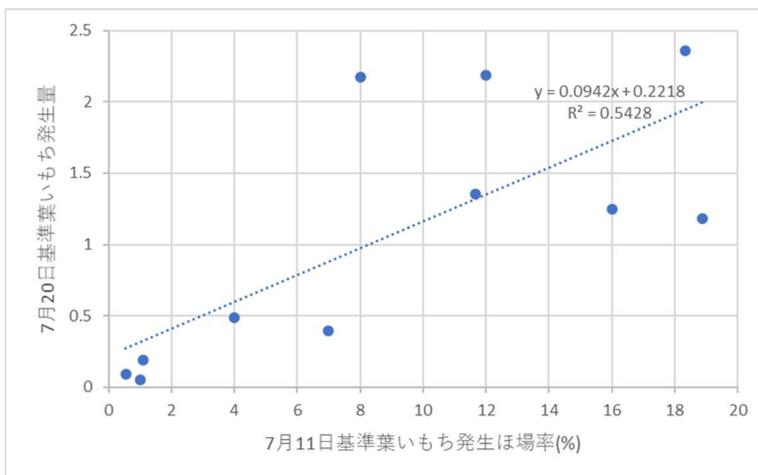


図3. 7月11日基準と7月21日基準の葉いもちの関係

(2) 予察調査データと BLASTAM の関係の解析

ア 目的

発生予察事業で得られたいもち病の発生状況と BLASTAM の判定結果の関係を解析することで、いもち病などの発生に関係する要因を解明できる可能性がある。これらの要因が明らかになればより詳細な発生予察に寄与すると考えられる。

イ 方法

いもち病の発生量、発生ほ場率は、発生予察事業で設置している精密調査ほ場内 36 地点の 2012～2023 年（平成 24～令和 5 年）の 11 年間のデータを用いた。

調査時期は葉いもちが 7 月 1 日、11 日、20 日基準、穂いもちの発病穂率は 8 月 21 日基準のデータを用いた。BLASTAM は、JPP-NET にて県内のアメダスポイントのある 9 地点について判定し、感染好適日、準感染好適日を計数した。

各葉いもちの発生量の増加率は、7 月 20 日基準の葉いもち発生量を 7 月 11 日基準の葉いもち発生量で除した値、7 月 20 日基準の葉いもち発生量を 7 月 1 日基準の葉いもち発生量で除した値、7 月 11 日基準の葉いもち発生量を 7 月 1 日基準の葉いもち発生量で除した値を年次ごとに算出した。ただし、7 月 1 日基準の葉いもち発生量は年次によっては“0”の場合、増加率を算出できなくなることから、11 年間の平均値の 1/10 の値を用いた。

それぞれのデータ間の相関を計算ソフト（エクセル）にて算出した。得られた相関係数は、0.7 以上を相関が高い、0.7 未満を低いと評価した。

ウ 結果および考察

(ア) 期間別 BLASTAM の感染好適日日数と葉いもち病の発生量、発生の増加率との関係

期間別に BLASTAM の感染好適日日数と葉いもちの発生量との相関を見てみると、-0.21～0.49 でいずれも相関は低かった。

感染好適日日数と増加率では 7 月 11 日を 7 月 1 日で除した値と 6 月 15 日～6 月 30 日に出現した感染好適日日数の間に 0.69 の相関が見られた。葉いもちの感染から発病までに 7～10 日かかることを考え合わせると整合性が取れていると思われた。また、7 月 20 日を 7 月 1 日で除した値と 6 月 15 日～6 月 30 日の BLASTAM の日数との間に 0.52 の相関が見られた。その他の組み合わせ

表 1 BLASTAM の感染好適日日数と葉いもち発生量、葉いもち増加率との関係

| 判定期間 | 増加率 | | | 発生量 | | |
|-----------|-------------|------------|------------|-----------|-----------|----------|
| | 7月20日/7月11日 | 7月11日/7月1日 | 7月20日/7月1日 | 7月20日葉いもち | 7月11日葉いもち | 7月1日葉いもち |
| 6/1～14 | 0.35 | -0.27 | -0.04 | -0.21 | -0.03 | 0.13 |
| 6/15～6/30 | -0.53 | 0.69 | 0.52 | -0.05 | 0.44 | -0.18 |
| 7/1～7/14 | -0.15 | -0.05 | -0.14 | -0.06 | 0.00 | — |
| 7/15～7/31 | 0.21 | -0.32 | -0.45 | -0.13 | — | — |
| 6/1～30 | -0.12 | -0.12 | 0.40 | -0.24 | 0.34 | -0.03 |
| 7/1～31 | 0.03 | 0.03 | -0.32 | -0.10 | -0.07 | — |
| 6/1～7/31 | -0.04 | -0.04 | -0.09 | -0.21 | 0.10 | 0.42 |

※表中の“—”は調査以降に判定するなど相関上、意味のない部分を示す。
では-0.53～0.40 となり相関は低かった。

(イ) 期間別 BLASTAM の感染好適日+準感染好適日日数と葉いもち病の発生量、発生の増加率との関係

期間別に BLASTAM の感染好適日と準感染好適日を合わせた日数と葉いもちの発生量との相関を見てみると、7月1～14日の日数と7月1日基準の発生量との間で0.60の相関が見られた。しかし、葉いもちの発生生態から考えると、7月1日の調査結果には BLASTAM の感染好適日は影響を与えないことから、偶然の値であると考えられた。さらに、6月1～30日の BLASTAM の日数と7月11日基準の葉いもちの発生量との間に0.54の値であった。その他の組み合わせでは-0.30～0.53の値で相関は低かった。

感染好適日と準感染好適日を合わせた日数と葉いもちの増加率との関係を見てみると、7月11日を7月1日で除した値と6月15日～6月30日に出現した感染好適日日数の間に0.73と高い相関が見られた。この結果は前述の感染好適日との関係よりも値は高かった。また、7月20日を7月1日で除した値と6月15日～6月30日の BLASTAM の日数との間に0.57の相関が見られた。その他の組み合わせでは-0.48～0.25の値で相関は低かった。

表2 BLASTAM の感染好適日、準感染好適日日数と葉いもち発生量、葉いもち増加率との関係

| 判定期間 | 増加率 | | | 発生量 | | |
|-----------|-------------|------------|------------|-----------|-----------|----------|
| | 7月20日/7月11日 | 7月11日/7月1日 | 7月20日/7月1日 | 7月20日葉いもち | 7月11日葉いもち | 7月1日葉いもち |
| 6/1～14 | 0.15 | -0.41 | -0.23 | 0.11 | 0.22 | 0.26 |
| 6/15～6/30 | -0.48 | 0.73 | 0.57 | -0.07 | 0.41 | -0.20 |
| 7/1～7/14 | -0.44 | 0.24 | 0.00 | 0.19 | 0.39 | — |
| 7/15～7/31 | 0.20 | -0.39 | -0.41 | -0.21 | — | — |
| 6/1～30 | -0.25 | 0.21 | 0.25 | 0.05 | 0.54 | 0.09 |
| 7/1～31 | -0.10 | -0.13 | -0.26 | -0.04 | 0.02 | — |
| 6/1～7/31 | -0.23 | 0.00 | -0.10 | -0.01 | 0.31 | 0.53 |

※表中の“—”は調査以降に判定するなど相関上、意味のない部分を示す。

(ウ) 期間別 BLASTAM の感染好適日、準感染好適日日数と穂いもち病の発病穂率、穂いもち発病穂率を葉いもち発病度で除した値との関係

穂いもちの発生と7月20日基準の葉いもちの発生量との関係を検討するために、穂いもちの発病穂率を葉いもちの発生量で除した値を利用した。

期間別に BLASTAM の感染好適日と準感染好適日を合わせた日数と穂いもちの発生量との相関を見てみると、相関係数は-0.18～0.42と低い相関であった。また、BLASTAM の日数と穂いもちの発生量を葉いもちの発生量で除した値との関係は、-0.09～0.22と相関は低かった。

表3 BLASTAM の感染好適日、準感染好適日日数と穂いもち発病穂率、穂いもち発病穂率を7月20日基準調査の葉いもち発生量で除した値との関係

| 判定期間 | 穂いもち発病穂率 | 穂いもち/葉いもち |
|-----------|----------|-----------|
| 6/1～14 | 0.25 | -0.05 |
| 6/15～6/30 | 0.21 | -0.06 |
| 7/1～7/14 | 0.35 | 0.05 |
| 7/15～7/31 | -0.18 | 0.22 |
| 6/1～30 | 0.42 | -0.09 |
| 7/1～31 | 0.07 | 0.17 |
| 6/1～7/31 | 0.29 | 0.11 |

(エ) 発生予察への活用（考察）

BLASTAM の判定から 7 月上旬の葉いもちの増加については相関が認められ、そのデータを図 1 に示した。すると、 $y=4.4708e^{0.1197x}$ の式が得られた。このことから、7 月 11 日の葉いもちの発生は 7 月 1 日の葉いもち発生量と 6/15~30 の BLASTAM の結果から推測できると考えられ、今後の発生予察の参考になるものと考えられた。

一方で、その後の葉いもちの発生量や穂いもちの発病穂率は BLASTAM の判定だけでは予測は難しいことが明らかとなった。さらに、稲の生育状況や新たな気象条件についても検討する必要があると考えられる。

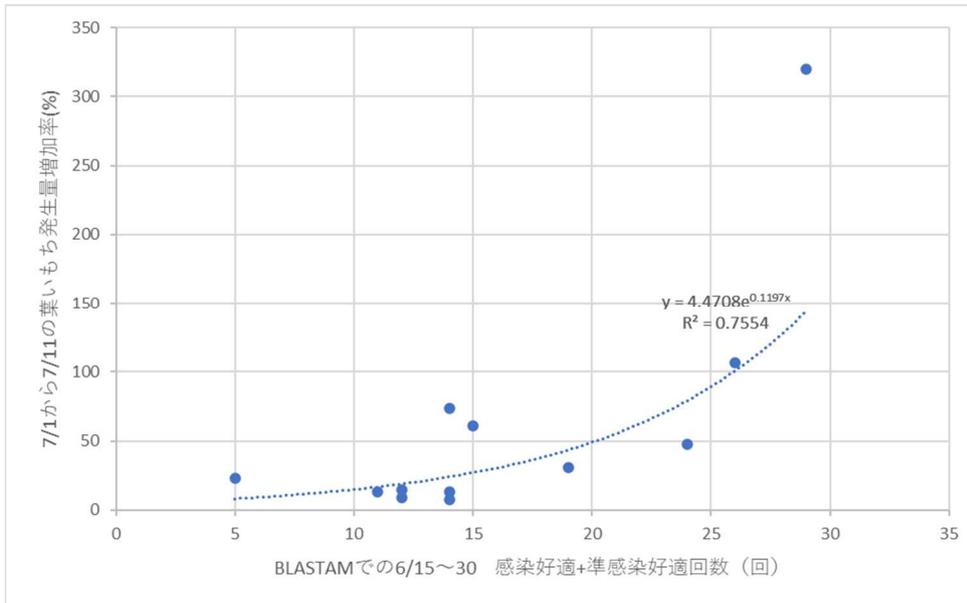


図 1. BLASTAM 判定と葉いもちの増加率との関係

令和5年度植物防疫事業年報
発行 令和6年(2024年)3月
滋賀県病害虫防除所

〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL : 0748-46-4926、6160
FAX : 0748-46-5559
Email : gc70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>